保坂潤治君

直江津商業銀行頭取

君は新潟縣の人保坂貞吉君の長男にして明治八年六月を以つて生る。夙に父祖の遺業を繼ぎて銀行業を營み、現に直江津商業銀行頭取として活躍し、今や北越地方金融界の重鎮として令名あり。

夫人をツマ子と稱し、君との間に三男三女あり、現に新潟縣中頸城郡津有村に住す。

×

堀越安太郎君

實業家

當家は先代勘治君より顯はる、先代勘治君は夙に實業界に志し、明治七年堀越角次郎商店に入り後ち獨立して店舖を開設し、日清戰役後時勢の變轉するを洞察し、同志と相謀り東京モスリン株式會社の創立を企畫し、其の創立成るや推されて同社取締役に擧げらる。

斯くて在職十年、其の間財界不振の爲め或は外來品との競爭の爲め事業上の大打撃を受け一時逆境にありしが一意專心其の挽回を計り、機敏にして熟練せる技能と堅忍不拔の意志とは遂いに其の効を奏せしめ、同社の基礎漸く堅く社運亦隆盛に赴き令名を謳はるるに至れり。

然るに幾許もなくして病の胃すところとなり、明治三十八年同社を辭し全快するや翌年キヤリコ業の有望なるに着眼し東京製繊株式會社を創立して同社專務取締役に任じ、爾來鋭意同社の發展を計り其の傍ら堀越商店と稱し和洋織物商を營み、大正八年七月其の組織を合名會社に改め君は其の代表社員となり、製繊界に灼々たる聲名を博したりしも不幸再び病の胃す所となり大正十四年秋卒す。

君は即ち其の長男にして明治二十七日を以つて生れ、後ち堀越角次郎君の養嗣子となり大正二年分家して一家を創立す。

明治四十三年七月東京帝國大學理科大學數學科を卒業し、更に大正二年七月に

星川兼次郎君

新城銀行頭取

君は愛知縣の人山本平次郎君の二男にして、安政四年九月を以つて生れ後ち先代重藏君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ現に新城銀行頭取を初めとして豐川貯水株式會社の取締役として當地方に令名高し。

夫人ぎん子は愛知縣の人伊藤角造君の令妹にして君との間に四男あり、現に愛知縣南設樂郡新城町に住し電話長三九番なり。

×

堀越三郎君

正六位　理學士　工學士

堀越建築事務所長

君は富山縣の人上野清君の三男にして明治十九年三月二十七日を以つて生れ、後ち堀越角次郎君の養嗣子となり大正二年分家して一家を創立す。

明治四十三年七月東京帝國大學理科大學數學科を卒業し、更に大正二年七月に電話四谷五五二二番たり。

は同工科大學建築學科を卒業し、後ち合資會社清水組に勤務せしが、同六年七月東京帝國大學工學部大學院に入り、同八年九月同大學助教授に任ぜられ同十四年辭して獨力堀越建築事務所を開設し、今や復興途上にある東都建築界に貢献すること甚大、現に事務所を東京市麹町區丸ノ内ビルディング内に有す。

夫人を福子と呼び堀越角次郎君の令妹にして、東京女學館及び東京女子高等師範學校附屬高等女學校專攻科の卒業なり東京市小石川區駕籠町一九四番地に現住し電話小石川一六五番なり。

星　廉平君

實業家

衆議院議員

君は宮城縣の人星廉平君の長男にして明治十九年一月を以つて生る。夙に宮城縣立第二中學校を卒業するや、鄉里に在りて專ら地方開發に盡し、宮城縣會議員に當選し、尋いで大正十三年衆議院議員總選擧に際し立候補を宣するや大多數の得票を以つて當選し、現に其の職にあり尚ほ東北電燈、粟駒水力電氣各株式會社の取締役として知らる。

夫人うめ子は宮城縣の人阿部龍吉君の二女にして其の間にたけ子、つる子、かめ子等あり、現に宮城縣登木郡佐沼に住居を有す。

×

堀内秀太郎君

從三位勳二等

九州送電株式會社專務取締役

君は石川縣士族堀内茂成君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業するや職を官界に奉じ内務屬、臨時檢疫局事務官、警察監獄學校教授、内務省參事官神奈川縣參事官、同事務官、同第三部長德島縣事務官、第一部長、兼第三部長同内務部長、大阪府内務部長、北海道廳内務部長、宮崎、埼玉、長崎各縣知事を歷任し大正十三年官を辭す。

然して實業界に投じ現に九州送電株式會社專務取締役として財界に知らる。

夫人滋代子は福岡縣士族山本德太郎君の二女にして石川縣立金澤高等女學校を卒業し、其の間に恭二君、明君、正道君敏君及び貞子等あり、現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ八番地に住し電話青山一八五〇番たり。

西尾勘兵衞君

實業家

君は鳥取縣士族西尾勘嵐君の二男にして明治二年二月を以つて生れ前名益藏を改稱す。現に鳥取農工銀行、大正鳥取銀行、將惠銀行各取締役たり。

夫人こと子との間に善孝君、孝敏君、敏博君及び喜久子、育子、慰子等あり、現に鳥取縣岩美郡倉田村に住す。

細谷智之介君

安田銀行本所支店長

君は埼玉縣の人細谷米十郎君の三男に

して、明治十二年十月十三日を以つて生る。夙に中央大學法科を卒業するや直ちに實業界に投じ、第三銀行に入りて預金課長、受託課長、證券課長等を歷任し、大正十二年十一月安田銀行に入りて小舟町支店副長に任ぜられ、次いで同行本所支店長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

曩に日本擬革株式會社取締役たりしことあり、社交に厚く銀行俱樂部、永樂俱樂部各會員にして趣味に圍碁、將棋等あり、又堪能なり。

夫人はま子は埼玉縣の人小林孝作君の令妹にして共立女子職業學校を卒業し其の間に一夫君、廣介君、達雄君、道一君及び絢子、富美子等あり、現に東京市本鄉區駒込東片町一三七番地に住し電話小石川四八八番なり。

堀内謙吉君

ドクトル、メヂチーネ
堀内醫院長

君は大阪府の人堀内利國君の長男にして明治三年十月を以つて生る。其の初め慶應義塾大學に學びしも後ち轉じて第三高等學校醫學部に入り、同校を卒業するや直ちに外國に航し、明治二十六年獨逸バーデン大公國フライブルヒ醫科大學を卒へ、後ち墺國ウインナ大學に於て專ら耳鼻咽喉科學を研究して遂にドクトル、メヂチーネの學位を得て歸朝す。

現に大阪に廣大なる病院を有して一般醫療に從事し、君が多年の蘊蓄と經驗とに依りて我が刀圭界に雌雄を競ひ、今や最新の醫療器と完全なる施設とは大阪刀圭界に令名高し。

夫人を猶重子と稱し君との間に子なき事は惜むべき一事なりとす。現に大阪市東區東船越町一ノ一番地に住し電話九六〇番なり。

西村四郎君

中澤銀行常務取締役

君は舊姫路藩士西村久次平君の三男にして、明治四年六月を以つて生る。夙に實業界に投じ、帝國海上火災運送保險株式會社に入りて着實事務に當りしかば、上長の認むるところとなり、其の信任を得て同社火災部長に擧げらる。

然るにたま〳〵相模水力電氣株式會社の設立せらるゝや、入りて其の支配人となり、爾來極東製藥、東洋化學工業、日本炭酸瓦斯各株式會社の重役を歷勤し、後ち中澤銀行に入り現に同行の柱石を以つて目せらる。

夫人なを子は兵庫縣士族菊澤勇三郎君の二女にして君との間に行一君、治雄君義三君、久彥君及び芳子、壽子等あり、現に東京市本鄉區駒込千駄木町五二番地に住し電話小石川一六三六番たり。

西ケ谷可吉君

江尻貯蓄銀行專務取締役

君は靜岡縣の人西ケ谷喜之衞門君の長男にして安政五年十一月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に前記江尻貯蓄銀行專務取締役たり。

夫人きよ子との間に潔君、正巳君、一助君、自助君、信吾君及びみよ子、きし子、かよ子等あり、現に靜岡縣庵原郡庵原村に住す。

西岡英吉君

三井物產株式會社橫濱副支店長

君は三重縣の人西岡七平君の三男にして、明治十七年九月二十三日を以つて生る。君の實家は有名なる資產家なれども明治三十四年青雲の志を抱き苦學力行の目的を以つて東上し、時機を得て成瀨隆藏君の紹介に依り明治三十七年三井物產合名會社に入り香港支店南淸方面支店を轉勤すること十五年の久しきに亘りぬ。

斯くて內地に歸り、擧げられて名古屋支店長代理となり、同支店にある事六年にして更に三井物產橫濱支店長代理として同地に赴任し以つて現在に及ぶ。趣味に庭球、水泳、玉突、圍碁、將棋、文學等其の至らざるはなし。

夫人たつ子は三重縣士族駒田元藏君の長女にして三重縣立高等女學校を卒業し君との間に敏君、憲治君及び順子、妙子信子等あり、現に橫濱市靑木上友五〇二番地に住す。

新野榮太郎君

今出銀行專務取締役
南海新聞社監査役

君は愛媛縣の人新野源次郎君の長男にして、明治六年三月を以つて生る。夙に二十六年早稻田大學を卒業し、明治二年垣生村長に擧げられ地方自治制に盡瘁して功あり。

現時は株式會社今出銀行專務取締役たる外伊豫勝山銀行取締役、松山軌道、伊豫製氷各株式會社取締役にして且つ南海新聞社監査役たり。

夫人リン子との間に一君、源孝君、源進郎君及び貴美枝子、三千代子、壽賀子正子等あり、現に愛媛縣溫泉郡垣生村に住す。

西野惠之助君

白木屋呉服店社長
東洋製鐵株式會社常務取締役

君は京都府の人藤田茂三郎君の二男にして、元治元年八月を以つて生れ、後ち先代りう子の養嗣子となる。明治二十年慶應義塾を卒業するや、直ちに創立途上にある山陽鐵道株式會社に入り、爾來同社が鐵道國有法に依り政府に買收せらるゝまで引續き勤務したりしが、後ち帝國劇場株式會社の創立と共に同劇場に入り其の專務取締役に擧げられ明治四十五年即ち同劇場開業一ヶ年後迄在職の後ち歐米各國を巡遊す。

爾來東京海上火災保險、明治火災保險及び東洋製鐵各株式會社を始め實業界各方面に關係を有し、大正十年八月白木屋呉服店に入りて其の社長に任じ、君が才幹を振つて常に嶄新獨特なる營業方針を以つて同業者の間に伍し老舖白木屋の名を恥しめず、今や復興途上の帝都にある同店の隆盛又目醒ましきものあり。

夫人キヨ子は愛媛縣士族高橋正次郎君の二女にして、松山高等女學校を卒業しピアノに堪能なりといふ、現に東京市芝區白金三光町四六四番地に住し電話高輪五五四六番なり。

×

新田定五郎君

今町銀行株式會社頭取
中野興業株式會社監査役

君は新潟縣の人新田健治君の長男にして、明治五年二月十六日を以つて生る。幼にして嚴父を喪ひ賢母キセ子の掬育の下に成長し、明治十四年十一月家督を相續せるも、未だ幼少なれば君の母堂キセ子は婦人の身を以つて家政を整理し、家産の膨脹を圖り愛兒の掬育に務むること十年一日の如く、眞に世の龜鑑となすべき慈母賢母として知らる。

斯くて明治二十六年目出度く慶應義塾經濟科を卒業するや、一旦歸郷して家事に當り、同二十九年五月今町銀行を興して其の專務取締役に擧げられ後ち頭取となり、大正三年四月中野興業株式會社を創立して監査役となり、更に同十一年三月中野殖産興業株式會社を興して其の取締役に任じ、今や我が財界に令名あり、趣味として書畫、骨董あり。

夫人タケ子は新潟縣の人中野貫一君の六女にして東京女學館を卒業し其の間にフサ子、フタバ子、ヨシエ子等あり、現に東京市牛込區納戸町一九番地に住し電話牛込四八五番なり。

西川巖君

第五高等學校教授

君は石川縣の人西川邊君の長男にして明治十一年十一月五日を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學文科大學英文科を卒業するや直ちに教育界に身を投じ香川縣立高松中學校教諭、大阪市立ブール女學校教諭、第四高等學校教授等を歷任し、又曾つては清國廣東省仙頭に於て姚門子弟の教育に從事せしことあり、現に第五高等學校教授として令名あり。

夫人つる子との間に一男ありて光君と稱す、現に熊本縣飽託郡大江村に住す。

西山龜太郎君

鄙山電燈工業株式會社取締役

君は福島縣の人西山岩太郎君の長男にして明治二年七月十五日を以つて生る。夙に學業を卒ふるや直ちに實業界に投じ現に前記會社の取締役たる外郡山電氣、大日本紡績、川藤電氣、只見川水力電氣雙桑電力各株式會社の取締役にして、且つ郡山製紙、相馬電氣、郡山土地建物各會社監査役として地方財界に知らる。

夫人をもと子と呼び、君との間に六男一女あり、現に福島縣安積郡小野新町に住す。

×

錦戸右門君

橫濱火災海上保險會社專務取締役
大成株式會社常務取締役

君は宮城縣士族錦戸景訓君の長男にして、慶應二年十月を以つて生る。夙に鄉

校を卒ふるや笈を負ふて上京し、明治廿一年東京高等商業學校を卒業し直ちに實業界に投ず。

斯くて君が敏腕を振つて斯界に活躍せしかば、着々健實なる地歩を占め、其の間橫濱生命保險株式會社總支配人、會津興業株式會社取締役等を歷任し、現時は橫濱火災海上保險株式會社專務取締役、大成株式會社常務取締役たる外常磐火災海上保險、日本香料、朝日スレート、日本工事各株式會社の重役として名聲を擅にす。

趣味廣く圍碁、和歌、三味線等に堪能なるが如し、夫人ヤス子は宮城縣の人樋口光明君の長女たり、現に神奈川縣橘樹郡保土ヶ谷帷子一二一二番地に住し電話一五一一番なり。

×

西村伊作君

北山銀行專務取締役
私立文化學院長

君は和歌山縣の人大石金平君の二男にして、明治十七年九月を以つて生れ、後ち先代モン子の養嗣子となる。

夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し研鑽を積むこと久しく、後ち實業界に投じ、現に北山銀行專務取締役として我が財界に重きをなす。

君は尙ほ深く我が國教育事業の發展に心を碎き、曩に獨力以つて文化學院を創設し自ら同院長として經營の衝に當るのみならず、教壇に立ちて其の蘊奧なる學理を以つて學徒の薰陶に精勵し、君が斯界に貢獻すること甚大なり、尙ほ文筆を能くし「田園小住家」「樂しき我が家」「ピノチヨ」等の名著あり。

夫人光惠子は和歌山縣の人津越萬佐男君の令姪にして君との間に久二君、永吾君及びアヤ子、百合子、ヨネ子、ソノ子ナナ子等あり、現に東京市神田區駿河臺袋町十二番地に住し電話大手六九二一番たり。

西内貞吉君

理學博士

君は高知縣士族西內英君の四男にして明治十四年十二月十六日を以つて生る。夙に學を好み才幹群を拔き明治三十九年京都帝國大學理工科大學を卒業するや、更に大學院に學び尙ほ數學研究の爲め米國に留學し、造詣を深くして歸朝す。

斯くて直ちに教育界に投じ、京都帝國大學理工科大學講師、京都高等工藝學校教授、京都帝國大學理科大學助教授、同教授等を歷任し曾つて米國に出張せしことあり。

現に京都府上京區上堺元に住す。

本鄉房太郎君

陸軍大將　從二位勳一等功三級
久邇宮宮務監督

君は丹波國篠山の藩士本鄉貫之助君の長男にして、萬延元年正月を以つて生る明治十二年藩の選拔生として陸軍士官學校を卒業し、累進して大正七年陸軍大將

に陞進す。

其の間士官學校教官、同生徒隊長、軍務局課員、歩兵第四十二聯隊長、陸軍省高級副官、俘虜情報局長官、人事局長、教育總監部本部長、陸軍次官、第七第十各師團長、青島守備司令官、軍事參議官等を歴任し、曩に日清の役には第四師團參謀、日露の役の前半は聯隊長として後半は陸軍省の三要職として殊勳を奏し、戰後歐洲各國の軍事を視察し軍制竝に軍事教育に盡瘁し、尚ほ鄉友會々長として鄉黨の後進を誘掖する甚大、現に久邇宮宮務監督の顯職にあり。

夫人きみ子は兵庫縣士族山内喜國君の長女にして君との間に義夫君、忠夫君及び虎千子、多喜子、周子等あり、現に東京市赤坂區青山北町一ノ八番地に住し電話青山七〇二番なり。

×

西洞院信意君

子爵

當家は桓武天皇の末葉大納言高棟の後なり、後ち十七世にして行事に至り西洞院と稱す。夫より十二世を經て時名卿に至る、時名卿勤王の志厚く同志の諸公卿と謀り幕府を倒さんとせしも事遂に破れて落飾し、其の嗣子信愛卿後を受け明治十七年子爵を授けらる。

君は信愛卿の長男にして、明治七年八月を以つて生れ、明治三十七年襲爵仰せ付けらる、現に京都府葛野郡朱雀野村聚樂廻豐樂西町に住す。

丹羽藤吉郎君

藥學博士　正四位勳二等

東京帝國大學名譽教授

君は佐賀縣士族丹羽與左衞門君の二男にして、安政三年二月を以つて生る。明治十一年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し、同三十六年藥學博士の學位を授けらる。

現に東京帝國大學名譽教授にして、本藥局方調査會委員たり、夫人をたけ子と稱し工學博士松尾鶴太郎君の令妹たり現に東京市外西巢鴨町宮仲二七二七番地に住し電話小石川一二二番たり。

坊城俊良君

伯爵　從四位勳六等

宮内省式部職主獵官

當家は内大臣藤原鎌足の裔正二位權中納言俊實の後なり、其の子俊冬より坊城を姓となす、夫より數世を經て俊名に至り中絶せしかば贈内大臣晴豐の三子參議俊昌其の後を嗣ぎて再興し、更に數世を經て俊逸に至る。

俊逸寶歴年間王政復古に畫策する處ありしも中途にして敗れ、後ち落飾して常徹と稱し正二位を追贈せらる。夫より五代を經て先代俊德君に至る。君は其の令弟にして明治二十六年八月を以つて生れ同四十四年家督を相續し襲爵仰せ付けらる。夙に宮中に出仕し侍從職に勤めたりしが現時は式部職主獵官として知らる。

夫人朔子は子爵入江爲守君の長女にして君との間に俊民君、俊孝君、俊久君、

等あり、東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇番地に現住し電話青山一二三六番たり。

西崎傳一郎君

住友電線製造所常務取締役

君は舊金澤藩士西崎兼勝君の長男にして、明治六年二月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學工科大學機械科を卒業するや直ちに芝浦製作所に入り、同四十四年住友電線製造所に轉じ、爾來累進して同支配人となり、尋いで常務取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人清子は東京府士族南部つる子の養女にして其の間に鎭夫君、知伸君及び正子、春子等あり、現に大阪市天王寺町勝山通一四五〇番地に住し電話長南一三三番なり。

×

星野正三郎君

株式會社星野商店社長

日米生糸株式會社專務取締役

我が財界の重鎭星野正三郎君は長野縣の人星野嘉助君の三男にして、明治十一年一月三日を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや青雲の志を抱いて上京し、研鑽琢磨、明治二十九年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、日米生糸株式會社に入社して格勤精勵せしかば、漸次社の内外に重きをなし、後ち淺田社長辭任の後を享けて同社專務取締役に擧げられ今や同社の社務を掣掌して稀代の敏腕を振ひ我が生糸業界に令名あり。

尚ほ株式會社星野商店社長を初めとして星野商事、辛酉銀行各株式會社の重役にして、且つ大森化學研究所々主として知らる。

夫人よねじ子は長野縣の人佐々木常助君の長女にして君との間に正三君及び英子、三重子、安子、米子等あり、現に東京府荏原郡入新井不入斗一四七三番地に住し電話大森五五一番たり。

西脇濟三郎君

西脇銀行頭取

太陽生命保險會社長

當家は數百年以來代々越後國に住したる由緒ある舊家として知られ、君は先代西脇國三郎君の長男にして、明治十三年十二月二十三日を以つて生る。夙に學習院に學びしも中途にして退學し、直ちに英國に航しケンブリッヂ大學に入りて研鑽すること久しく、學理の蘊奥を極めて明治四十一年歸朝す。

斯くて直ちに實業界に投じ獨力以つて西脇銀行を開設して其の頭取となり、今や其の外太陽生命保險、銀山拓殖、生氣嶺粘石炭各株式會社々長にして且つ新潟農工銀行、小千谷銀行、日本水力電氣、日本電氣工業、日本製煉、日本機器製作所各株式會社の重役として本邦財界に聲名あり。

夫人春子は男爵上田宗雄君の令妹にして君との間に孝三郎君、敬之助君及び、菊子等あり、東京市小石川區關口臺町一

番地に現住し電話小石川二〇四〇番たり

堀越角次郎君

勳五等　大地主
東京府多額納稅者

君は東京府の人堀越角次郎君の令弟にして、明治十八年一月二十二日を以つて生れ、明治二十九年家督を相續して前名善七を改稱す。

祖父角次郎君は本姓を田島と稱せしもたま〳〵當時江戸に出でて太物商を營みし上州の豪商堀越文右衛門君の支店を主宰し、其の知遇を得て爾來堀越と改稱し後ち二代を經て君に至れるものなり。

然して君の時代に至り資產益々增大し明治四十年日露戰役の功により勳五等に敘し瑞寶章を授けらる、現に東都有數の大地主にして且つ東京府多額納稅者として直稅四萬五千二百九十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人梅子は公爵松方正義君の五女にして華族女學校を卒業し、君との間に善雄君あり、現に東京市芝區伊皿子町三十三

二階堂三郎左衛門君

貴族院議員

君は廣島縣の人望月清四郎君の長男にして、慶應二年十二月を以つて生れ後ち先代壽光君の養嗣子となり前名熊七郎を改稱す。

現に廣島縣多額納稅者にして且つ多額納稅議員に當選すること前後二回現に其の任にあり。

廣島縣佐伯郡大竹町に現住す。

西尾豐君

日本興業銀行文書部長

君は東京府士族先代爲忠君の二男にして、明治五年十月を以つて生る。明治二十四年京都同志社大學を出づるや、直ちに實業界に投じ、君が敏腕を振つて名聲を博し、曩に住友銀行にあり同行發展に盡瘁すること甚大、大正二年日本興業銀行に轉じ、現に同行文書部長として知らる。

夫人を孝子と呼び、木下產科病院長と

本多光太郎君

理學博士

君は愛知縣の人本多兵三郎君の二男にして、明治三年二月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學理科大學物理科を卒業し、次いで大學院に入り間もなく物理學研究の爲め英佛獨各國に留學すること數年にして歸朝す。

然して東京帝國大學講師となり轉じて東北帝國大學教授に任じ、尙ほ大正五年磁性の方面より見たる物理の研究を發表して遂に學士院賞を受領し、君が我が學界に貢獻すること甚大にして特に從五位勳四等に敘せらる。

現に東北帝國大學教授兼同大學附屬金屬材料研究所々長として研究に余念なし

夫人かね子は東京府の人柴垣鎭郎君の長女たり、現に仙臺市米ヶ袋に住す。

して東都刀圭界に名聲嘖々たる醫學博士木下正中君の令妹に當り、君との間に秀彥君、康三君及び美津子、登茂子等あり現に東京市小石川區駕籠町一一一番地に住し電話小石川五一六〇番たり。

本多忠昭君

子爵　正五位

當家は藤原鎌足十一代の孫堀川關白兼通の末葉なり。中興の祖本多忠勝は家康股肱の重臣たり、夫より十一世忠粛に至り三州岡崎に居城せり。

然して先代忠敬君は忠粛君の長男忠直君の養嗣子にして、同二十六年八月二十四日を以つて生れ、大正九年襲爵仰せ付けらる。夙に學習院中等科を卒業す、趣味として繪畫を能くし其の技頗る妙なりといふ。

夫人慶子は子爵鍋島直虎君の二女にして學習院女學部を卒業す、現に東京府北豐島郡巢鴨駒込妙義坂下三番地に住し電話小石川一四六四番たり。

西川幸兵衞君

豐田貿易株式會社取締役

君は京都府の人西川幸兵衞君の長男にして、明治十四年八月九日を以つて生れ前名幸三郎を改稱して幸兵衛を襲名す。

夙に實業界に身を投じ、曾つては西川合名會社代表社員たりしことありしが、現時は豐田貿易株式會社取締役として知らる。

夫人美和子は侯爵佐々木行忠君の令妹にして學習院女學部を卒業し、君との間に忠義君、忠智君及び禮子等あり、現に東京市麹町區富士見町二ノ三七番地に住し電話四谷二四二番たり。

西畠順榮君

上毛撚糸株式會社取締役

君は福井縣の人西畠信君の三男にして明治十二年十一月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に上毛撚糸會社取締役たる外越前石、福井撚糸染色各株式會社重役として地方財界に重きをなす。

夫人じう子は福井縣の人野村村蒼壽君の三女にして其の間に一男三女あり、現に福井縣坂井郡春江村に住す。

君實は子爵加藤泰秋君の四男にして、加藤泰治君の令弟に當り明治十七年五月を以つて生れ後ち忠篤君の養嗣子となり襲爵す、大正二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、同七年貴族院議員に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人美和子は侯爵佐々木行忠君の令妹にして學習院女學部を卒業し、君との間に忠義君、忠智君及び禮子等あり、現に東京市麹町區富士見町二ノ三七番地に住し電話四谷二四二番たり。

西尾忠方君

子爵　正五位
貴族院議員

當家は源經基八代義康の後裔義氏の二男にして、長氏の末葉なり、夫より十一世を經て吉次に至り姓を西尾と改稱し、更に六世を經て忠篤君に至る。

堀越壽助君

王子製紙株式會社取締役
日本加工製紙株式會社取締役

君は長野縣の人堀越元三君の令弟にして、山口英九郎君の實兄君に當り、明治二年一月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、研鑽琢磨明治二十三年東京高等工業學校窯業科を卒業し、更に同二十六年東京帝國大學工科大學應用化學科選科に學び其の薀蓄を極めたり。

斯くて職を官界に奉じ、農商務省特許局に入り、審査官補たりしが明治三十二年官を辭して實業界に投じ、王子製紙株式會社に入社して恪勤精勵、累進して現に同社取締役として內外に重きをなし、尙ほ傍ら日本加工製紙株式會社の重役として知らる。

夫人との間に壽郎君、英二君、龍三郎君及び富貴子、みよ子等あり、現に東京市四谷區左門町五十九番地に住し電話四谷六五〇三番たり。

西野市兵衞君

西野製紙株式會社長

君は福井縣の人西野源助君の長男にして、慶應二年三月を以つて生る。早くより實業界に志し曾つて合名會社西野商會代表社員たりしが現に西野製紙株式會社々長たる外大和田銀行監査役たり。

夫人いの子は石川縣の人倉元常松君の令妹にして、君との間に一男一女あり、現に福井縣今立郡岡本村に住す。

西脇　晋君

従六位　辯護士　辨理士
法政大學講師

君は愛知縣の人高岡應次君の三男にして、明治十五年一月を以つて生れ同三十八年先代長太郎君の養嗣子となる。

明治四十年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに大藏省に入り稅務監督官として官界を游泳すること久しく、而して大正五年官を辭して獨力辯護士事務所を開設して一般法律事務に從事し、今や東都法曹界に於ける重鎭として知られ、尙ほ傍ら法政大學講師たり。

夫人富江子は養父長太郎君の長女にして、君との間に淳君及び俊子、信子、仁子、義子等あり、現に東京市外大井町瀧王子四五九〇番地に住し電話高輪四一七一番たり。

保坂京三郎君

凸版印刷株式會社取締役

君は東京府の人保坂盛和君の二男にして、明治元年二月を以つて生れ後ち先代生衞君の養嗣子となる。明治二十五年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ君が稀代の敏腕を振つて我が國財界に盡瘁すること甚大、現時は凸版印刷株式會社取締役として知らる。

夫人テル子は東京府の人伊藤重兵衞君の長女にして君との間に均一君あり、現に東京市外巢鴨上駒込三六五番地に住し電話小石川一五七七番たり。

二宮傳右衞門君

柏崎銀行專務取締役

君は新潟縣の人二宮傳右衞門君の長男にして、明治四年十一月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し現に柏崎銀行專務取締役たる外柏崎米穀取引所、越後鐵道各株式會社の重役たり。

夫人フネ子は新潟縣の人牧口義矩君の令姉にして君との間に四男三女あり現に新潟縣刈羽郡柏崎町に住す。

西久保弘道君

従四位勳二等　東京市長
貴族院議員

君は佐賀縣士族西久保紀林君の長男にして、文久三年五月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に投じ、內務省屬に任じ爾來愛知縣事務官、石川縣警察部長、山梨、靜岡、茨城各縣書記官、滋賀、愛媛各縣事務官、福島縣知事、北海道廳長官警視總監等を歷任す。

然して後ち貴族院議員に勅選せられ、大正十五年十月東京市長に推され以つて現在に及ぶ。夫人をミサ子と稱し三重縣の人今井彌平君の二女たり、現に千葉縣東葛飾郡八幡に住す。

細山太七君

千代田石油株式會社取締役
東京揮發油株式會社監査役

君は新潟縣の人細山淸七君の長男にして、明治八年九月三十日を以つて生る。夙に日本中學校に入りて杉浦重剛先生の薰陶を受け、優秀の成績を以つて同校を卒業するや、直ちに實業界に投じ淺野石油部に入りて恪勤精勵することゝ十余年、其の貢獻すること尠少ならず。

然して後ち寺田洪一君の後援の下に獨力以つて石油商を營み、君が機署縱橫の敏腕を振つて斯界に活躍せしかば、業勢漸次加はり、現に傍ら前記諸會社の重役たる外千代田生命保險株式會社取締役として東都財界に令名あり。

仁科梅太郎君

木谷川絹糸工業會社長
共盛銀行常務取締役

君は靜岡縣の人仁科重吉君の長男にして慶應元年四月を以つて生る。現に共盛銀行常務取締役たる外木谷川絹糸工業株式會社々長にして、且つ岡部銀行取締役たり。

夫人いせ子は靜岡縣の人大塚小七君の長女にして君との間に一男二女あり敏郎君及びれい子、ゑか子と呼ぶ現に靜岡縣志太郡岡部町に住す。

本田恒之君

正五位勳三等　辯護士
衆議院議員

君は長崎縣の人下田寬平君の三男にし

夫人みつ子は東京府の人黑沼勘之助君の養妹にして君との間に一女ありて眞希子と呼ぶ、現に東京市京橋區四日市町十八番地に住し電話銀座四八八八番たり。

西堀清兵衞君

東洋紡績株式會社監査役

君は滋賀縣の人西堀清兵衛君の養嗣子にして、明治二年十二月を以つて生れ前名龜吉を改稱す。現に前記の外關西倉庫株式會社の重役として京都財界に重きをなす。

夫人テツ子との間に清一郎君、榮君及びたつ子、かよ子等あり、現に京都市下京區烏丸通り四條北入ルに住し電話中一〇二番たり。

丹羽鋤彦君

工學博士　從三位勳二等　攻玉社高等工業學校長

君は後備海軍少將丹羽教忠君の令弟にして、明治元年六月十九日を以つて生る。明治二十三年東京帝國大學工科大學土木科を卒業す。

然して大藏省に入りて大藏技師に任じ大藏省臨時建築部第二課長、横濱支部長同臨時建築課長等を歷任し、大正四年二月工學博士の學位を受け後ち久しく東京市道路局長たりしが大正十三年十月辭し現に財團法人攻玉社高等工業學校長にして且つ營繕管財局顧問たり。

夫人貴子は兵庫縣士族櫻井恒次郎君の令妹にして君との間に貞忠君、良彥君及び滿津子等あり、現に東京府豐多摩郡中澁谷七一四番地に住し電話青山一九五八番たり。

堀啓次郎君

大阪商船株式會社長　日清汽船株式會社取締役

君は石川縣士族堀五平君の長男にして慶應三年一月を以つて生れ、明治七年先代堀霞君の養嗣子となる。明治二十六年東京帝國大學英法科を卒業するや直ちに實業界に投じ、大阪商船株式會社に入社して恪勤精勵、累進して同社運輸課長、副社長等を歷勤せり。

然して現時は同社々長たる傍ら日清汽船、日本窒素肥料各株式會社の重役として關西財界に重きをなす。

夫人ツネ子は東京府士族一野貞良君の長女にして君との間に武雄君、邦雄君及びフミ子等あり、現に東京市芝區高輪南町五十三番地に別宅を有し電話高輪七三三一番たり。

西田英太郎君

新十津川陶器合資會社社長

君は奈良縣の人西田信貴君の長男にして慶應三年十月を以つて生る。現に新十津川陶器合資會社代表社員たり。

夫人をカメ子と稱し君との間に一男三女ありて信春君及びあい子、春子と稱す現に北海道樺戸郡新十津川村に住す。

堀江半兵衞君

東京府多額納稅者

當家は累代江戸に住して質商を營みし舊家として知られ、君は先代堀江半兵衞君の二男にして、明治二十七年四月を以つて生れ前名常太郎を改めて襲名す。

夙に京華商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、祖業たる質商の君に適せざるを痛感して之を廢し、爾來專ら廣大なる土地を有して之を貸付し、今や東都に於ける萬屋の名は普ねく知れ亘り、尚ほ東京府多額納稅者として直稅四千二百七十余圓を納むるを以つて名あり。

現に東京市本鄉區眞砂町二十八番地に住し電話小石川三八三二番たり。

西脇健治君

生氣嶺粘石炭會社專務取締役　西脇銀行取締役

君は新潟縣の人西脇濟三郎君の令弟にして、明治十五年八月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に前記の外太陽生命保險、明治電氣、日本耐火窯業、三光紡績、日本硫黃、三韓運輸、日英釀造、杉浦鐵工場各株式會社の重役にして且つ西脇合名會社々員たり。

夫人淑子は伯爵酒井忠亘君の再從妹君にして君との間に昌治君、敎二郎君、圭三郎君及び嘉代子、澄子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷仲町八番地に住し電話牛込三〇〇二番たり。

西尾勘兵衞君

鳥取縣農工銀行取締役

君は鳥取縣の人西尾勘胤君の二男にして、明治二年二月を以つて生れ前名益藏を改稱す。

夙に實業界に志し奮闘大いに努めしかば漸次發展して斯界に重きをなし、現に前記銀行取締役たる外大正鳥取銀行、將惠銀行各株式會社取締役として地方財界に重きをなす。

夫人をこと子と稱し君との間に三男三女ありて善孝君、孝敏君、敏博君及び喜久子、育子、慰子と呼ぶ、現に鳥取縣岩美郡倉田村に住す。

堀田金四郎君

小池銀行取締役　ボルネオ殖產株式會社監査役

君は山梨縣の人堀田靜太郎君の令弟にして、慶應元年六月を以つて生る。夙に

我が國實業界に身を投じ、現に前記の外山梨田中銀行、東京土地住宅、常盤生命保險、相模鐵道各株式會社の重役として知らる。

夫人いわ代子は山梨縣の人清水彦左衞門君の二女にして君との間に金彌君及び眞子あり、東京市麻布區一本松二十五番地に現住し電話高輪七五二七番たり。

堀内三郎君

從三位勳二等功四級
海軍中將

君は兵庫縣士族吉原樂齋君の三男にして、明治二年十二月を以つて生れ同十二年三月先代令順君の養嗣子となる。

夙に丹羽篠山鳳鳴義塾を卒業するや明治十九年海軍兵學校に入學し、後ち海軍大學校甲種を出で、累進して海軍中將に陞進す。其の間第一艦隊參謀長、聯合艦隊參謀長、教育本部第一部長兼第二部長横須賀鎭守府參謀長、海軍省軍務局長、砲術學校長兼水雷學校長、練習艦隊司令官、海軍大學校長等を歷任し、後ち横須賀鎭守府司令長官たりしが大正十四年三月豫備役に編入せられ、目下閑地にありて悠々たり。

夫人ちよ子は兵庫縣士族赤見昌德君の二女にして君との間に康雄君、正彥君及び靜江子等あり現に東京市外和田堀内村字和泉一九三番地に住す。

西田爲次郎君

實業家

君は富山縣の人西田吉四郎君の二男にして、明治九年十一月を以つて生る。明に富山魚市株式會社取締役たり。現ヤ子との間に一女ありてヒロ子と呼ぶ、現に富山市室屋町に住す。

西岡竹藏君

繁盛銀行取締役

君は兵庫縣の人西岡安左衞門君の長男にして、明治六年五月を以つて生る。夙に普通教育を卒ふるや直ちに實業界に身を投じ、現に繁盛銀行取締役たる外丸西株式會社取締役たり。

夫人をやな子と稱し其の間に二男一女ありて安憲君、新君及びトク子と稱す、現に兵庫縣宍粟郡繁盛村に住す。

堀田貢君

從四位勳三等
前内務次官

君は福島縣の人堀田喜左衞門君の三男にして、明治九年一月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に職を奉じ、明治三十八年千葉縣事務官に任じ、後ち神奈川縣事務官を經て同四十三年内務書記官に任じ、同參事官、同大臣祕書官、同大臣官房文書課長等を歷勤す。

斯くて大正四年京都府内務部長に擧げられ、同六年歐米各國へ出張を命ぜられ歸朝するや内務省土木局長に任じ、大正十一年警視總監に陞り次いで内務次官に擧げられ後ち官を辭して野に下る。

夫人タマ子は神奈川縣の人岡野欣之助君の長女にして君との間に光君、英君、眞君、圭君及びみや子、きよ子等あり、現に東京市芝區三田町一ノ四十一番地に住し電話高輪四三七一番たり。

堀貞君

共保生命保險會社副社長
日立製作所取締役

從五位勳五等堀貞君は福岡縣士族堀亨君の二男にして、明治五年九月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて住友銀行に入りて恪勤精勵、同三十三年住友家理事田邊貞吉君に隨行して歐米に航し、彼の地の商工業を具さに視察見學して歸朝す、而して明治三十九年住友銀行を辭して遞信大臣祕書官に任じ、同四十一年農商務省祕書官に轉任し後ち官を辭して再び實業界に入り、現時は前記の諸職にあり。

夫人綾子は和歌山縣の人林和太郎君の長女にして君との間に太郎君、次郎君及び佐代子、和子等あり、現に東京市麴町區一番町七番地に住し電話九段三〇二四番たり。

本多靜六君

林學博士　從三位勳二等
東京帝國大學農學部教授

當家は代々舊一橋德川家の家臣にして勘定方を勤めたる家柄なり。君實は埼玉縣人折原金吾君の令弟にして、慶應二年七月を以つて生れ後ち彼の彰義隊頭取として知られし本多晉君の養嗣子となる。

明治十七年東京山林學校に學び、尋いで東京農林學校に轉じ同二十三年林學士の稱號を受け、更に獨逸に航してタラント山林專門學校に入り、後ちミユンヘン大學に轉じ國家經濟學を修めドクトルの學位を得て歸朝す。

斯くて後ち東京帝國大學農科大學助敎授に任じ、陞進して同學敎授に擧げられ以つて現在に及ぶ、曩に明治三十三年三月林學博士の學位を授與せられ、今や本邦林學界の泰斗として令名あり。

夫人との間に博君及びてる子、いさ子安子等あり、現に東京市外中澁谷四〇三番地に住し電話青山四七三番たり。

保科正昭君

子爵　正四位
貴族院議員

當家は保科彈正忠正直の二男彈正忠正貞の後なり、正貞上州飯野に居城し封邑二萬石を領す。夫より七代を經て正五位正益君に至る。

君は正益君の三男にして明治十七年十月一日を以つて生れ、同二十一年三月家督を相續し襲爵仰せ付けらる。夙に學習院に學び後ち明治四十二年東京帝國大學理科大學鑛物學科を卒業す。

然して宮内省に出仕して主獵官に任じ明治四十四年帝室林野管理局御用掛となり、大正四年朝鮮總督府囑託、同六年同府技師等を歷任し同九年農商務省技師を

拜命せしが大正十三年十二月官を辭し、現に貴族院議員たり。

夫人武子は北白川宮能久親王姫に遊ばし女子學習院を卒業し、君との間に正虎君あり、現に東京市牛込區市ヶ谷仲之七番地に住し電話牛込一八一二番たり。

西脇吉右衛門君

西脇商店代表者

君は愛知縣の人西脇吉右衛門君の長男にして、明治二十一年十一月を以つて生る。夙に身を實業界に投じ現に西脇商店代表者たり。夫人しげ子との間に秀夫君一雄君及び千代子等あり、現に名古屋市西區上園町三ノ二〇番地に住す。

堀内貞造君

從五位　工學士

帝國製鋲株式會社取締役

君は廣島縣の人堀内太橘君の長男にして、明治十一年八月十四日を以つて生る夙に學に厚く鄉校を卒ふるや大志を抱いて學事に精勵、明治三十八年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業す。

斯くて官界に職を奉じて鐵道省作業局に入り、同四十年帝國鐵道廳技師に任じ後ち官界を辭して實業界に投じ爾來茂木合名會社參事、同東京支店副支配人等を歷任し、後ち獨力開業して專ら鐵道用品の製造販賣に努め傍ら帝國製鋲、サッシユ製造各株式會社の重役として知らる。

夫人シマ子は東京府の人須崎萬右衛門君の長女にして君との間に俊夫君、恒夫君、正夫君、文夫君及び愛子、信子等あり、現に東京府荏原郡北品川宿三一九番地に住し電話高輪三七五九番たり。

本多忠鋒君

子爵　正四位勳三等

貴族院議員

當家は藤原鎌足の裔伊豫守忠恒の後なり、夫より八世を經て舊伊豫國神戸藩主忠實君に至る。君は忠實君の養嗣子忠恕君の長男にして、明治十二年八月を以つて生れ同三十一年襲爵仰せ付けらる。

夙に慶應義塾を卒業して更に學習院大學科を卒業し、現に貴族院議員たり。夫人を多幾子と稱し君との間に忠照君あり東京市麻布區東鳥居坂二番地に現住し電話青山六五八〇番たり。

新實新十郎君

三陽農林株式會社取締役

田崎銀行監査役

君は愛知縣の人先代新實新十郎君の三男にして明治十年八月を以つて生れ、同三十六年家督を相續すると共に前名政吉を改めて襲名す。

夙に地方實業界に投じて君が敏腕を振ひ現に前記の外燧洋電氣、東海製菓各株式會社取締役にして且つ額田銀行、大八運輸倉庫、岡崎商事信託、三州貯蓄銀行各株式會社監査役たり。

夫人やす子は愛知縣の人永田藤四郎君の三女にして君との間に四男二女あり、現に岡崎市連尺町一番地に住す。

星野太郎君

正五位勳四等

東京商科大學商學專門部教授

君は靜岡縣士族星野鐵太郎君の長男にして、明治三年十月を以つて生る。明治二十六年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業す。

然して明治三十七年同校教授に任じ、且つ同校附屬教員養成所主事に補せられ現に同校附屬商學專門部教授たり。

夫人ひで子は靜岡縣の人永井嘉六郎君の二女にして君との間に臺二君、三郎君及びはつえ子等あり、東京市小石川區大塚仲町四一番地に現住す。

星野鏡三郎君

明星實務學校長

君は東京府士族星野錫君の令弟にして安政六年十二月を以つて生る。曩に星野合資會社々長たりし外東京文具株式會社監査役たりしことあり。

然して志を教育界に立て獨力明星實務學校を創設して、專心實業教育に盡瘁し斯界に令名あり。

夫人花子は和歌山縣士族後藤廣貞君の長女にして、跡見高等女學校を卒業し君との間に一男ありて正一君と稱す。現に橫濱市青木町三三九番地に住す。

西畠順榮君

實業家

君は福井縣の人西畠信君の三男にして明治十二年十一月を以つて生る。現に上毛撚糸、越前石油、福井撚糸染色各株式會社の重役として知らる。

夫人じう子は福井縣の人野村蒼生壽君の三女にして、其の間に一男三女あり、現に福井縣坂井郡春江村に住す。

星野準一郎君

東京莫大小株式會社長

博文館取締役兼支配人

君は新潟縣の人星野芳次郎君の長男にして、明治十四年七月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、明治三十七年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業し後ち實業界に投ず斯くて東都に於ける幾多事業會社に關係し、現に東京莫大小株式會社々長たる外博文館、博文館印刷所、太陽木材、大橋本店各株式會社の重役として我が財界に令名あり。

夫人滋子は山形縣士族小倉信近君の四女たり、東京府北豐島郡巢鴨宮仲一六九六番地に住し電話小石川三八七番たり。

西高辻信雅君

男爵　正四位勳六等

太宰府神社宮司

當家は土師氏にして遠江介菅原古人の裔高辻信嚴より出ず、信嚴太宰府信全の弟子となり、其の後を享け姓を西高辻と改む。君は信嚴君の三男にして明治十年六月を以つて生れ、現に官幣中社太宰府神社宮司たり。現に福岡縣筑紫郡太宰府町に住す。

東鄉平八郎君

伯爵　正二位大勳位功一級

元帥　海軍大將

君は舊鹿兒島藩士東鄉吉左衞門君の三男にして、弘化四年二月を以つて生る。少壯にして藩の選に依り航海操艦術を學び、戊辰の際北越奥羽に轉戰して功あり明治四年英國に留學して專ら海事を研究し、歸朝後海軍中尉に任せられ爾來累進して同十八年海軍大佐となり、日清の役にては大佐を以つて浪速艦長に補せられ第一遊擊艦隊の先鋒として豐島に黄海に或は旅順威海衞の攻擊に絕えず勳功を奏し威名頓に擧がる。

斯くて戰役中海軍少將に進み平和克復の後ち功を以つて功四級金鵄勳章を賜はり、幾許もなく海軍中將に陞り、常備艦隊司令長官となり後ち舞鶴鎭守府司令長官に任じ、日露の役には聯合艦隊司令長官として旅順港外に露國東洋艦隊司令長官スタルク中將を破り、尋いでマカロフ中將の率ゐる露國第一東洋艦隊を全滅せしめ、尚ほ露國第二第三派遣艦隊を對馬水道に迎へ激戰二日此處に全艦隊を全滅し、司令長官以下を虜にし以つて露國を して再び起つ能はざるに至らしむ。斯くて完全に東洋の制海權を握り赫々たる功名は歐洲列强國をして東洋のネルソンを以つて賞揚するに至らしむ。

戰役中海軍大將に陞進し、後ち偉勳に依り大勳位功一級に陞叙し一躍伯爵を授けられ元帥府に列せらる。曩に佐世保鎭守府司令長官、海軍軍令部長、軍事參議官たりしが後ち東宮御學問所總裁の大任を仰せ付けられ現に議定官たり。

夫人をテツ子と呼び子爵海江田幸吉君の令姉たり、東京市麹町區上六番町三七番地に現住し電話四谷二二〇八番たり。

德島清松君

東京海運株式會社長

東京製酢株式會社取締役

君は千葉縣の人遠藤長三郎君の令孫にして、明治十五年一月を以つて生れ後ち先代豐太郎君の養嗣子となる。幼にして俊才夙に鄉校を出でて上京し早稻田大學に學び、明治四十年同校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して三井物産會社船舶部に入りて奮闘大いに努め、大正四年辭して自ら海運業を創始し、畫策縱橫以つて遠大の鵬翼を張り、而も其の濬測たる英氣を以つて鋭意斯業の發展に盡瘁せしかば、社運隆々の盛況を見るに至る、これ即ち今日の東京海運株式會社なり。

今や同社の社長として縱橫の敏腕を振展してよく內外の社務を執掌する傍ら東京製酢、小川商事、德島商店各株式會社の重役として知らる。謠曲を好くし又水泳に長ずといふ。

夫人きぬ子との間に長女千代子、次女八重子あり、現に東京市赤坂區臺町二一番地に住し電話青山五三五〇番たり。

朝永三十郎君

文學博士　從四位勳三等
京都帝國大學教授

君は長崎縣の人朝永甚次郎君の三男にして、工學博士朝永正三君の令弟に當り明治四年二月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同四十二年西洋哲學史研究の爲め獨佛英の諸國に留學す。

然して歸朝後は京都帝國大學講師、同助教授を經て、現に同大學文學部教授として我が學界に貢獻する所尠なからず。

夫人秀子は埼玉縣の人大枝美福君の長女にして其の間に振一郎君、陽二郎君及び靜子、綏子等あり、現に京都市上京區聖護院御殿町に住す。

千浦友七郎君

日本海事工業株式會社長

君は長崎縣の人千浦ハル子の叔父君にして、慶應三年二月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ曩に大阪商船株式會社監督課長たりしが、現時は日本海事工業株式會社々長たる外互光商會、大東塗料東印拓殖、共同商事各株式會社取締役及び日清汽船株式會社監査役にして阪神實業界に重きをなす。

夫人喜代子は神奈川縣の人森喜兵衞君の長女にして君との間にマス子、シナ子シズ子等あり、兵庫縣武庫郡住吉村に住す。

友枝高彦君

東京高等師範學校教授

君は福岡縣の人友枝速水君の長男にして、明治九年十一月を以つて生る。明治三十四年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、更に大學院に學び後ち倫理學研究の爲め英米獨の諸國に留學すること二回、歸朝後第五高等學校教授同生徒監たりしが、現時は東京高等師範學校教授兼東京帝國大學助教授として知らる。

夫人とみ子は宮崎縣の人日高榮三郎君の令妹にして其の間に宗達君、宗和君、宗正君、宗直君、宗則君等あり、現に東京市小石川區大塚町六九番地に住し電話小石川二二三五番なり。

千葉三郎君

衆議院議員

君は千葉縣の人千葉彌次馬君の令弟にして、明治十七年一月を以つて生る。大正八年東京帝國大學佛法科を卒業するや北米プリンストン大學に學び薀蓄を極めて歸朝す。

斯くて大正十四年一月二十八日、千葉縣第六區より故關和知君の補缺選擧に立候補するや、君は憲政會の援助により驚く勿れ九千百六十七票の大多數を以つて當選の榮を擔ひ、今や中央政界の少壯議員として前途を嘱望せらる。

趣味に劍道、長唄あり、就中劍道は一高時代より斯界の猛者として鳴らせりといふ、現に千葉縣長生鶴枝に住す。

×

近重眞澄君

理學博士　從四位勳三等

君は高知縣士族近重八潮彦君の二男にして、明治三年五月を以つて生る。明治二十七年東京帝國大學理科大學を卒業するや、更に無機化學研究の爲め獨逸及び英國に留學し、研鑽琢磨、造詣を深くして歸朝するや第五高等學校教授に任じ後ち京都帝國大學理工科大學助教授、同教授、同理科大學教授等を歷任す。

夫人スエ子は東京府の人三宅師律君の令妹にして其の間に久麿君、眞民君及び常子等あり、現に京都市上京區中立賣室町西入に住し電話上二五七七番なり。

戸澤芳樹君

安田保善社參事
安田信託株式會社常務取締役

君は山形縣士族戸澤重見君の三男にして明治十三年二月十四日を以つて山口に生る。夙に青雲の志を抱いて上京し早稻田中學校を卒ふるや、山口高等學校を經て東京帝國大學に進み、研鑽琢磨、明治四十年同學法科大學政治經濟科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して聘に應じて帝國海上保險株式會社に入社し、同社副部長を經て同部長に陞進し、後ち安田保善社に轉じて會社部長、秘書部長等を歷任し、且つ同社を代表して興亞起業、平沼製材、横濱棧橋倉庫、富士製鋼各株式會社の重役たりしが現時は安田信託株式會社常務取締役の要職にある外沖電氣株式會社監査役として令名あり。

曩に大正六年帝國海上保險株式會社支店設置の要務を帶びて米國紐育に航し、傍ら彼の地の經濟界を視察見學することし年余、斯くて君が多年の蘊蓄と外來の新しき識見とを傾注して我が國實業界に貢献すること甚大、今や新興大日本財界の第一線に立ちて雄雄を競ふ、君の前途や盖し多望なりと謂ふべし。

夫人毬子は東京府の人小林公松君の長女にして虎ノ門女學院を卒業し、君との間に三男四女ありて芳郎君、券二君、三樹君及び滯子、民子、斐子、延子と呼ぶ現に東京市麻布區森元町一ノ二七番地に住し電話青山三八七一番たり。

富井政章君

法學博士　正三位勳一等
樞密顧問官

君は京都府士族舊聖護院宮侍富井政恒君の長男にして、安政五年九月を以つて生る。明治十年東京外國語學校を卒業するや佛國に留學し、同十六年同國法學博士の學位を得て歸朝す。

斯くて身を官界に投じ、文部省御用掛東京大學教授、法科大學教授、同教頭、同大學長、法政大學長等を歷任し、曩に貴族院議員、法典調査會起草委員、帝室制度審議會委員、常設仲裁所判官、臨時法制審議會委員等に擧げらる。

現時は前記の外東京帝國大學名譽教授內大臣府御用掛、宮內省御用掛、帝國學士院會員等の顯職にあり、我が國民法の

起草者にして法學界の耆宿たり、尚ほ曩に佛國政府より勳三等を授けらる。

夫人萬壽代子は高知縣士族澁谷寛君の長女にして君との間に周君、雄吉君、恒雄君及びみつ子、澄子、淑子等あり、現に東京市牛込區藥王子町七一番地に住し電話牛込二一一二番たり。

血脇守之助君

東京齒科醫學專門學校長
日本聯合齒科醫師會長

君は千葉縣の人加藤誠之助君の長男にして、明治三年三月一日を以つて生れ、同二十年十月先代勝藏君の跡を相續す。

明治二十二年四月慶應義塾を卒業し東京新報記者、中等教員等を歷勤し後ち志を轉じて齒科醫學を修め、同三十三年二月東京齒科醫學專門學校の前身たる東京齒科醫學院を創立し、爾來二十五年間同校々長として盡瘁し以つて現在に至る、大正十一年歐米を漫遊して歸朝し同十三年二月勳五等に叙せらる。

戸澤民十郎君

南滿洲太興合名會社理事
辯護士　衆議院議員

君は香川縣の人戸澤忠七君の二男にして、明治四十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに鄉里高松市に歸り辯護士を開業して一般法律事務に從事せり。

斯くて傍ら高松市會議員、香川縣會議員等に擧げられ市政縣政に盡瘁することと甚大、後ち東京に移住し東都法曹界に活躍して令名を馳せ、大正十三年の總選擧に際し香川縣第三區より立候補して衆議院議員に當選し、又實業界に其の驥足を伸ばし、現に前記の外日支合辨天圖輕便鐵道公司統辨たり。

趣味として音樂、文學等あり、夫人を春香子と稱し東京府の人山路商之進君の長女にして君との間に明君、力君及び妙子、うつみ子、浩子、彌生子等あり、現に東京府北豐島郡西巢鴨新田一〇八五番地に住し電話小石川五四一七番たり。

鳥海孝太郎君

安房銀行取締役
千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人先代清治君の長男にして、明治十三年八月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して斯界に重きをなし現に安房銀行取締役にして且つ千葉縣多額納稅者として現に直稅九百余圓を納む

夫人豐子は長野縣の人橋本平二君の二女にして、君との間に直吉君、信二君、義三君、正吉君及び喜代子、富美子、愛子等あり、現に千葉縣安房郡東條村に住す。

鳥潟隆三君

醫學博士

君は秋田縣の人鳥潟精一君の長男にして、明治十一年八月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや大志を抱き笈を負ふて鄉關を出で、學事に精進すること久しく、明治三十七年京都帝國大學醫科大學を卒業す。

斯くて京都帝國大學醫科大學助手、同助教授、日本赤十字社大阪支部病院外科醫長、大阪府立高等醫學校教諭等を歷任し又歐洲に出張せしことあり。

夫人エイ子は和歌山縣の人松本甚之助君の二女にして君との間に高城君及びフミ子、靜子等あり、大阪市東區味原町一〇二番地に住し電話南四六六八番なり。

床次竹二郎君

從三位勳一等　衆議院議員
政友本黨總裁

君は舊鹿兒島藩士床次正精君の長男にして、慶應二年十二月一日を以つて生る明治二十三年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに大藏省書記官、愛媛縣收稅長、宮城縣參事官、岡山縣警察部長、山形縣書記官、新潟、兵庫、東京府各府縣書記官、德島秋田各縣知事、內務省地方局長、樺太廳長官、內務次官等を歷任す。

斯くて明治四十二年山本內閣成立するや、鐵道院總裁に親任し大正三年內閣更迭と共に野に下り、同年鄉里より推されて衆議院議員となり籍を政友會に置き、爾來中央政界に活躍し大正七年原內閣成立するや臺閣に列して其の內務大臣に親任し鐵道院總裁を兼任す。

然して大正十年高橋內閣の出現と共に內務大臣に親任し、更に大正十二年政友會分裂して政友本黨成るや同黨總裁に推戴せられ以つて現在に及ぶ。曩に自治制度調査の爲め歐米視察の途に上りし事あり。

夫人恭子は男爵水谷川良起君の長女たり、現に東京市赤坂區三河臺町十四番地に住し電話青山四九四〇番なり。

富田八郎君

江北銀行頭取

君は滋賀縣の人松島眞敎君の二男にして、明治九年十月を以つて生れ、後ち先代忠利君の養嗣子となり前名八治郎を改稱す。

夙に實業界に身を投じ、現に株式會社江北銀行頭取たる外株式會社滋賀縣農工銀行取締役たり。

夫人をしづ子と呼び同縣の人山岡桃庵君の令妹にして其の間に國士君、忠之君憲之亮君、武士君及び翠子、愛子、馨子等あり、現に滋賀縣伊香郡木之本村に住す。

戸水寛人君

法學博士　從四位勳三等

君は舊金澤藩士戸水信義君の長男にして、松寺竹雄君の令兄に當り、文久元年六月を以つて生る。幼名を辛太郎と呼び

番地に住し電話高輪九三番なり。

富田重助君

名古屋電氣鐵道株式會社副社長
神富殖産株式會社副社長

君は愛知縣の人富田重助君の長男にして、明治五年三月を以つて生る。曾つて名古屋市會副議長として盛名を馳せ、今又名古屋商業會議所議員として知らる。

現に名古屋電氣鐵道株式會社專務取締役にして且つ萬歳釀造株式會社取締役たり。神富殖産株式會社の副社長たる外福壽生命保險株式會社專務取締役にして且つ朝鮮起業、福壽火災保險、東洋電機工業、東洋化學冶金、愛知時計電機、木曾電機興業、名古屋住宅、名古屋倉庫、名古屋製陶所、野工機械工業、東郊住宅各株式會社の重役として地方財界に令名高し。

夫人をあさ子と呼び、同縣の人神野金之助君の四女にして其の間に重郎君及び㐂子、まゆ子等あり、現に名古屋市東區葵町に住し電話長東三〇三番なり。

梅野明二郎君

日本釀造工業會社專務取締役
萬歳釀造株式會社取締役

君は新潟縣士族梅野好藏君の令弟にして、明治五年十二月六日を以つて生る。

明治四十二年東京帝國大學農科大學を卒業するや、直ちに實業界に投じ內外石油販賣業に從事して斯界に頭角を現はし、傍ら日本釀造工業株式會社專務取締役にして且つ萬歳釀造株式會社取締役たり。

夫人をはつ子と稱し君との間に豐明君及び富美子、榮子等あり、現に東京府北豐島郡巢鴨一六八六番地に住し電話小石川一七八八番なり。

德久次郎君

星野合資會社長

其の昔長崎刀圭界の權威として名聲斯界に高かりし故德久次郎君は實に君の岳父にして、君は同君の長男として明治六年九月を以つて生る。夙に學德高き兩親の愛撫の許に暖き薰陶を受けし君は、常

明治十五年東京帝國大學法學部の選科生となり、同十八年本科に轉じ同十九年英法科を卒業し、判事に任ぜられ東京始審裁判所に職を奉ず。

然して明治二十二年英國に遊學しミツドル、テンプル大學に於てバリストル、アト、ローの學位を受け、更に佛獨に轉じて法律及び政治學を研修し、同二十七年歸朝するや東京帝國大學法科大學教授に任ぜられ、羅馬法、法理學及び民法講座を擔任し、同三十二年法學博士の學位を授けらる。

曩に日露兩國間の國交圓滑ならざりし際、君は主戰論を高調して世人の注意を喚惹し、且つ同四十一年以降衆議院議員に當選すること五回、中央政界に活躍して我が國政に參與して貢獻するところ甚大、後ち辯護士事務所を開設し傍ら一時實業界に關係し尙ほ早稻田大學教授として學徒の薰陶に盡瘁せしことあり。

夫人わき子は石川縣士族山本直一君の二女たり、現に東京市芝區三田四國町二

に才幹群を拔き、而して優秀の成績を以つて鄕里の中學校を卒業す。

斯くて更に高等の教育を受けんとの念禁ずる能はざりしが、不幸にして嚴父の逝去に際會し、遂に其の意を果さず、然りと雖も固より大志ある君殊に竹馬の友「某」の最高學府に學び、やがては學界に顯はれんとするを見ては君の向上心は愈々燃えて熱火の如く、譬ひ我れ學界に名をなさずとも、必ずや他に何物かを爲し得て邦家の爲め貢獻せん……と深く決する處あり奮然起つて實業界に投ず。

偶々日淸兩國の開戰となるや、君また從軍し諸所に轉戰して功を立て、戰終熄して平和の光東天に射すや即ち明治二十九年九州鐵道株式會社に入りて精勵すること數年、然れども蛟龍永く池中に潛在するを欲せず、茲に於て哉、明治三十三年決然上京し、星野合資會社に入りて專心建築界に盡瘁せしかば社長の信任年と共に加はり斯界の信用頓に擧り、社運益々盛大に趣き遂に推されて同社々長に就任し以つて現在に及ぶ。

君は資性實直にして又强固なる意志の所有者たり、其の一度決するや萬難を排して成就するといふ終始一貫の士、又一面溫情豐かなり、其の事を處するに極めて秩序整然、今や我が國土木建築界の重鎭として斯界に重きをなす、蓋し故なきにあらざるべし。

然も尙ほ特筆すべきは其の久しき年月の奮鬪史にして、正に我が立志傳中の人たるべく、其の人格と其の德望とは愈々高められ其の風貌の溫容なる、君が過去の體驗より得たる尊き表現にして、而も有爲の青年學徒を誘掖する切なり、學資に窮してあたら靑年の志を途中に放棄せんとするを見ては、進んで其の後援者として學資を支給する等實に當代稀に見る仁俠の士と云ふべく、又以つて龜鑑とすべきにあらざる哉

君又社交廣く明治十七年より今日迄引き續き盛大にして、集まるもの凡て當代各界知名の士なりと云ふ「二十三夜會」の會員にして趣味に美術骨董を愛好す。

夫人やす子との間に二男一女あり、現に東京市牛込區市ヶ谷甲良町十八番地に住し電話牛込二〇三一番なり。

千葉眞一君

醫學博士
千葉病院長

君は東京府の人千葉立造君の三男にして、明治十三年二月七日を以つて生る。

明治三十九年東京帝國大學醫科大學耳鼻科を卒業するや、選ばれて同校附屬病院耳鼻科助手となり、同四十一年辭して獨逸に遊び、斯學の研鑽を積みて歸朝す。

斯くて聘に應じて順天堂病院に入り、其の耳鼻科長として盡瘁し、大正二年醫學博士の學位を授けらる。

然して大正九年同院を辭して獨立千葉病院を開きしかば社會の信用頓に擧り、今や本邦耳鼻科の權威者として令名高し趣味に運動、音樂等あり。

夫人くに子は東京府の人渡邊寬五郎君

の令妹にして日本女子商業學校を卒業し君との間に幹一君、泰君、久君、實君及び初枝子、禪子、三枝子等あり、現に東京市日本橋區濱町二ノ十二番地に住し電話浪花三四〇九番たり。

藤堂高寛君

子爵　正五位

當家は一品舍人親王の後藤堂和泉守高虎の孫佐渡高通の裔なり、高通勢州久居五萬石に封ぜられ、後ち十七代高義に至り明治十七年七月子爵を授けらる。

君は其の長男にして同二十七年七月を以つて生れ、後ち襲爵仰せ付けらる。趣味多樣にして運動、音樂、寫眞等あり。

夫人を武子と稱し子爵小笠原長生君の長女にして學習院女學部の出身たり、現に東京市本鄉區駒込林町一五三番地に住す。

徳川頼貞君

侯爵　從四位

貴族院議員

當家は德川御三家の一たる紀州家の後にして、德川家康の第十子頼宣の後裔たり。頼宣和歌山に居城し五十五萬五千石を祿し、夫より十二世茂承卿に至り勳功に依り侯爵を授けらる。

先代頼倫卿は田安家より入り、茂承卿の封を繼ぎて益々家名を擧げ、學識德望二つながら群を拔き我が國華胄界の名流として深く世の尊敬を享け貴顯紳士の典型たりき。夙に海外に遊び政治經濟學を研究し蘊蓄を究めて歸朝す。

然して心を國事に祕めさせられ社會風敎の改善發達に盡瘁すること甚大、或は貴族院議員として議政府に列し、國政に參與して永く上院の重鎭として等しく衆人の知るところたり。

尙ほ至誠國家國民を憂ふの情厚く特に育英の道に日夜心血を注がれ、彼の有名なる南葵文庫の創設等は其の一例にして即ち其の藏する幾多の古書を私するに忍びず、巨費を投じて圖書館を建設し之を南葵文庫と稱し、更に內外の書籍を蒐集して一般民衆に公開し、或は內外の貴賓學者を迎へて講演會を開き、更に育英會を設けて舊藩領出身の學徒を養成する等國家の文運を善導する幾許なるを知らず且つ音樂に造詣深く、自ら音樂堂を建てゝ內外に著名なる斯界の泰斗を招き廣く江湖に公開し、斯くて伸展途上にある我が國音樂界に貢獻すること甚大なりき

然りと雖も怨むべきは天の配劑哉　明治大正の元勳贈正二位勳二等德川頼倫卿は遂に大正十四年五月二十日病を以つて黃泉の客となる。

現侯爵德川頼貞卿は其の嗣子にして、明治二十五年八月を以つて生れ、先代頼倫卿の逝去により其の家督を相續し襲爵仰せ付けらる。君は天資英明にして嚴父頼倫卿の顯血を豊かに汲み、長ずるに及んで益々聰明、性闊達加ふるに頭腦明晰を以つて已に將來を囑望せらる。

夙に學習院高等科を卒ふるや、歐米に航して廣く彼の地の文物に通じ、蘊奧を極めて歸朝し、現に貴族院議員として上院に列し國政に參與するのみならず、常に帝國の將來を憂ひて各種社會公共の爲めに盡瘁し、新興日本の國威發揚に貢獻することと甚大、今や華胄界に重きをなし其の令名嘖々たり。

其の識見博大なる中にも音樂の研究に對しては造詣淺からず、今や斯界の泰斗と並び稱せらるゝ程にて、其の一事を見ても如何に嚴父に似て秀なるかを察知するに難からざるべく、又其の音樂藝術に堪能なるより其の風格の欽すべきものあるを推知せらるべし。

夫人爲子は公爵島津忠重卿の令姉たり現に東京府荏原郡上大崎三三一番地に住し電話高輪二四二二番たり。

徳川達孝君

伯爵　從二位勳二等

當家は源經基の裔德川家康八世の孫吉宗の二男宗武の後なり、宗武幼名を小次郎と云ひ田安館に居りしを以つて田安殿と稱す、宗武より三代を經て贈正二位慶頼卿に至る。

君は其の第四子にして侯爵德川頼貞卿の伯父君に當り、慶應元年五月二十五日を以つて生る。明治元年家兄德川家達宗家たる慶喜公の後嗣となりしを以つて君其の後を享け同九年九月家督を相續し、同十七年伯爵を授けらる。

明治二十二年歐米を巡遊して歸朝し、翌二十三年貴族院議員に當選し爾來當選すること三回、且つ華族會館理事、日本弘道會々長、芝區敎育會々長等の公職を歷任し、大正三年侍從職幹事に任じ尋で侍從次長、侍從長の顯職を歷任せり。

雅號を網陸對翠と稱し漢詩、和歌、謠曲等に趣味深く煙草を愛好すといふ。

夫人和子は公爵島津忠重卿の令姉にして其の間に達成君及び須美子、毅子、艷子、繡子、惠子等あり、現に東京市芝區三田綱町一番地に住し電話高輪二〇七五番たり。

土肥脩策君

東京帽子株式會社專務取締役

君は新潟縣の人篠田脩亮君の二男にして、明治元年二月を以つて生れ、先代ヤス子の養嗣子となる。明治十九年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に東京帽子株式會社專務取締役として知らる。

夫人テキ子は東京府の人飯島サダ子の二女にして君との間に登君及び滿壽子、ナツ子、敏子等あり、現に東京市小石川區竹早町九十八番地に住し電話小石川一六七番たり。

富田貞男君

辯護士　特許辨理士

君は奈良縣の人富田保次郎君の二男にして、明治二十一年四月を以つて生る。夙に關西大學法律科を卒へて後ち上京して更に明治大學高等研究科に學び、斯く

て其の蘊蓄を傾注して日比谷登龍門に幾多英才と成敗を決戰し、首尾よく勝利の榮冠を擔ひ辯護士となる。

爾來辯護士並に特許辨理士の業務に從事し、民事商事を專門となし、就中、取引所法、會社法に至りては君の最も得意とするところにして頗る精通すといふ。

夫人を豐子と呼び橫澤熊吉君の五女にして其の間に二男一女ありて正敏君、秀治君及び美代子と呼ぶ。現に大阪市東區今橋三ノ二一番地に住し電話本局七九五番、六六七番なり。

飛島文吉君

土木建築請負業

飛島組株式會社長

今や本社を福井縣福井市に置き、東京出張所を東京市麹町區飯田町に有し、帝都復興土木建築界に飛躍して聲名あるを我が飛島組株式會社となす。而して同社取締役社長飛島文吉君は福井縣の人飛島文次郎君の長男にして、明治九年十一月を以つて生る。

夙に學業を修むるや岳父の經營する飛島組の事業に從事して恪勤精勵。斯くて大正九年三月、資本金壹百萬圓を以つて株式合資組織に改め、更に大正十五年四月事業の大擴張を期して資本金の全額拂込を斷行すると共に、從來の組織を變更して茲に飛島組株式會社設立せらるゝやいなや君は推されて同社取締役社長に就任し、愈々驥足を東西斯界に振展するに至る。

然して曩に復興局架橋工事中最も難工事と目され、神田橋架設工事を一手に引き受け、採算を度外視せる君の獻身的努力と、優秀なる技術に加ふるに部下の統率其の宜しきを得て、着々該工事の完全なる遂行を見、遂に僅かに一年有余ケ月を以つて其の完璧を期し、大正十四年十一月十四日、愈々盛大なる開橋式を擧行し一躍斯界に令名を謳はれたるはこれ全く君の義俠にして、且つ終始一貫せる奮鬪努力の賜と謂ふべし。

斯くて福井縣下を中心として關西に於ける同組の名聲嘖々たるは勿論、今や東都を中心に廣く關東全土に亘りて其の勢力を波及し、其の間大小幾多の復興事業は君の手によつて完成せられ、錚々たる我が飛島組の聲價と共に君の令名や高く其の前途益々多事にして且つ多端たらずんばあるべからず。

夫人より子は福井縣の人大橋辰次郎君の長女にして君との間に繁君、義雄君、齊君、亮君及び小久子、コヨキ子、文子等あり、因に長女小久子の夫君を稻澤清起知君と稱し現に東京出張所を總裁し、新進實業家として前途を嘱望せらる。

德大寺則麿君

男爵

君は故從一位大勳位公爵德大寺實則君の令息にして公爵德大寺公弘君、男爵高千穗宣麿君等の令弟に當り、明治十一年十二月を以つて生る。

明治三十六年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業し、大正二年男爵を授けら

る。現に三菱造船株式會社技師たり。

夫人亮子は子爵毛利元雄君の令妹にして其の間に長麿君、元麿君、三郎君及び鶴子等あり、現に神戸市笠松通七ノ六番地に住す。

戸倉惣太郎君

帝國海上火災運送保險會社火災部長

君は山口縣の人戸倉五郎君の長男にして、明治十九年十一月五日を以つて山口縣厚狹郡藤山村に生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治三十九年中央大學法科を卒業す。

斯くて直ちに實業界に雄飛せんとの大志を抱き、明治四十年帝國海上火災運送保險株式會社に入りて恪勤精勵、同社の發展に盡瘁すること甚大、累進して同社海上部長に擧げられ、後ち火災部長に轉じ以つて現在に及ぶ。

夫人富子は千葉縣の人常世田庄太郎君の長女にして東京家政女學校を卒業し、君との間に嘉明君、節夫君、實君及びマツヨ子、伸子、和子等あり、現に東京府北豐島郡西巢鴨宮仲二五二九番地に住し電話小石川二七一〇番たり。

栃内曾次郎君

從三位勳一等功四級

海軍大將

君は岩手縣士族栃内元吉君の令弟にして、慶應二年六月を以つて生る。明治二十一年海軍少尉に任じ、大正九年海軍大將に陞進す。

其の間扶桑水雷長、海軍省副官兼海軍大臣祕書官、宮古、武藏、八雲、吾妻各艦長、英國大使館附、海軍省軍務局長、海軍技術本部長、橫須賀海軍工廠長、第一艦隊司令官、海軍次官、臨時海軍建築部長兼海軍將官會議々員、第一艦隊司令長官兼聯合艦隊司令長官、軍事參議官等を歷任し、現に閑地にありて風月を友となし悠々たり。

夫人シゲ子は栃木縣の人阿部久次郎君の二女にして其の間に吉彥君及び京子、富士子、サメ子等あり、現に東京市芝區三田綱町一番地に住し電話高輪二四七四番たり。

時任一彥君

農學博士　正四位勳三等

北海道帝國大學教授

君は舊鹿兒島藩士時任義當君の長男にして、明治四年五月を以つて生る。明治三十年札幌農學校を卒業するや同三十四年農藝物理學研究の爲め獨米兩國に留學し、造詣を深くして歸朝す。

斯くて直ちに教育界に投じ札幌農學校教授、同生徒監。東北帝國大學農科大學教授等を歷任し現に北海道帝國大學教授たり。

夫人ワカ子は鹿兒島縣の人邊見勇彥君の令姉にして其の間に義昌君、正夫君、達彥君及び美和子。富士子、京子等あり現に札幌市北六條西二丁目に住す。

近山雄尾君

海外貿易業
近東商會代表者

今や國産の振興と共に我が海外貿易振興の急務なるは論を待たずして明なり、而して夙に貿易事業の帝國發展に重大なることを洞察して、專心斯業の發展に盡瘁して偉功あるを我が近東商會代表社員近山雄尾君となす。

君は舊飯山藩士近山武久君の四男にして、明治十年五月十七日を以つて長野縣下水内郡飯山町に生る。夙に漢書、英書等の學を修め後ち上京して東京府立中學校に入り、明治二十七年同校を卒業するや直ちに實業界に志し北米合衆國に向つて日本製産品輸出事業に從事す。

斯くて斯業に專念すること數年、明治二十九年白耳義領事官祕書役となり、當時ブラッセル市に開設の萬國大博覽會に出品の日本物産を悉く蒐集して發送するの事務を擔當して之を完成し、明治三十二年獨逸商館茂須禮商會に聘せられて其の事務長となり、次いで支配人に擧げられ特命に依り兵器の輸入事務を取扱ひ、彼の明治三十七八年日露戰役に際し顯著なる功を奏しぬ。

尋いで明治四十三年英國商館ドッドウエル商會東京支店長に任じ、同時に東京貿易株式會社の囑託を受け其の業務を取扱ふこと數年、大正三年東京商業與信所に入りて高級顧問となり、海外關係の事務を擔當せしが後ち辭して合資會社江副商店に入り、支配人として輸出入貿易振興に盡瘁し其の取扱高年額金壹千萬圓の多に到らしめ、同社の發展に貢獻すること甚大なりき。

然して大正十年支那に渡り南北各地に馳驅して我が邦對支貿易の爲めに畫策する處尠からず、後ち同社の專務取締役として其の敏腕を振ひしが大正十一年歐洲に航し印度、埃及、佛蘭西、獨逸、瑞西、墺太利、伊太利、白耳義、英吉利等を視察し、更に北米合衆國に渡り貿易の途を開拓し、大正十二年歸朝するやたまたま彼の大震火災に遭遇し、後ち專ら本業の復興に努力する處ありしが大正十三年二月同社代表取締役を辭し、同年五月獨力近東商會を創立し其代表社員となり、煙草及び之に附帶する業務を取扱ひ以つて現在に及ぶ。

君は天資英明にして頭腦明晰、而も識博大にして機を見るに敏なり、眞に我が國貿易界の功勞者と謂ふべし、趣味に讀書、園藝、音樂等あり。

夫人てる子は舊金澤藩士岩田弟龜君の長女にして其の間に四男四女あり、現に東京市芝區高輪南町三〇番地に住し電話高輪一六〇八番たり。

豐田亮太郎君

玉川水道株式會社副支配人

君は三重縣の人伊藤健次郎君の長男にして、明治二十七年四月十七日を以つて生れ後ち先代寅之助君の養嗣子となる。

夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し切磋琢磨、大正五年東京商科大學の前身

たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに實業界に投じ、三菱合資會社に入社して同社銀行部本鄉支店神戸支店等を歷勤す。

然して大正八年同社を辭して玉川水道株式會社に入社し、爾來恪勤精勵、同社の發展に盡瘁せしかば累進して同社製氷課長、總務課長等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人を稻子と稱す、現に東京市麻布區飯倉町六ノ十一番地に住し電話青山二九一七番たり。

×

戶田利兵衛君

戶田組經營者
東京遊園地株式會社監査役

君は茨城縣の人富田寅吉君の令弟にして、明治十九年一月を以つて同縣西茨城郡に生れ、後ち先代戶田利兵衛君の養嗣子となる。

先代利兵衛君は夙に建築界に志し、笈を負ふて上京し專心斯業に就いて研鑽を積み、明治二十六年獨立の基礎成るや京橋區南傳馬町に事務所を置き戶田組と稱して土木建築請負業を開始す、是れ實に今日の戶田組の開祖たり。

君夙に學に厚く、大正二年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、大正九年先代利兵衛君逝くや其の家督を相續し先代を襲名す。斯くて復興途上にある帝都斯界に直面して事業益々多望を極むるに際し、君の蘊蓄と經驗並に穩健精緻業務に關して熱烈眞摯なる機才と、加ふるに先代の聲望とは相俟つて業運年と共に隆盛を加へ、今や啻に帝都に限らず本邦の戶田組として盛名斯界に高く、前途益々多望なるものあり。

尙ほ東京府多額納稅者にして現に直接國稅一萬七千四百八十余圓を納むるを以つて令名あり、夫人千勢子は長野縣の人熊谷修一郎君の三女たり、東京市本鄉區駒込神明町五番地に現住し電話小石川一四六番たり。

德川義恕君

男爵　正四位勳四等
侍從

當家は德川侯爵家の支流にして、君は故德川慶勝君の十一男にして、明治十一年十一月を以つて生れ同二十一年六月分家し特旨を以つて男爵を授けらる。

明治三十五年學習院中等科を卒業し、後ち一年志願兵となり、陸軍步兵少尉に任じ日露の役に功あり勳六等に叙し現に正四位勳四等にして侍從たり。

夫人寬子は伯爵津輕義孝君の養叔母君にして、君との間に義寬君、義孝君、義忠君、義恭君及び祥子等あり、現に東京市牛込區市ケ谷河田町七番地に住し電話牛込五五九番たり。

戶田甫君

戶田商會主

曾つては官界にありて隨所に才幹を發揮して名聲を馳せ、今や新日本財界の第一線に立ちて一大飛躍を試みんとする我

が戸田商會主戸田甫君は滋賀縣士族戸田環君の長男にして、明治十三年一月十日を以つて生る。

夙に日本中學校に學び故杉浦重剛翁の薫陶を受け、後ち東京郵便電信學校に入りて同校を卒業するや、直ちに東京遞信局に職を奉じ恪勤すること實に二十有余年、累進して遞信局技師、市外設計係長等を歴任し、大正十三年十月辭して實業界に投ず。

斯くて來るべき時機に一大飛躍を試みんと、敢然起つて獨力戸田商會を興し、君が多年の經驗と其の蘊蓄とを傾注して電氣事業に從事し、現に電信電話用器具機械材料、電燈電力用器具機械材料等の製作販賣を初めとして電線路建築及びケーブルカー工事、私設增設及び專用電信電話工事の出願代理より尚ほ土木建築請負業をも兼營し、復興途上にある君の事業や多事、其の前途や多端なり。

趣味多様なる中にも競馬、長唄、尺八等に堪能なるが如し、夫人ます子は神奈川縣の人塩崎熊吉君の長女にして其の間に力夫君及び和子等あり、現に東京市麹町區山元町二ノ三番地に住し電話九段二四八一番二一四五番たり。

徳川誠君

男爵　正五位

當家は清和源氏の嫡流征夷大將徳川家康より十五代徳川慶喜君の第九子にして、慶應二年十二月十三日を以つて生る。明治二十六年東京英和學校に學び、同十九年米國に航してイリノイ州立大學に入りて農學を研鑽し造詣を深くして明治二十四年九月歸朝す。

斯くて明治三十一年新潟地方森林會議員に推され、同三十二年同縣中頸城郡農會長に選ばれ、爾來同縣農會長、有限責任頸城信用組合長、産業組合中央會新潟支部副長、同會長、美守村長、第百三十銀行監査役、同行取締役、有限責任上越信用組合聯合會々長、新潟縣農友會副會長、中頸城郡農友會長等を歴任す。

然して大正九年衆議院解散するや同年五月の總選擧に際し、同縣第十二區より立候補し、爾來當選すること前後二回に及び以つて現在に及ぶ、當地の豪農として令名あり。

富永孝太郎君

衆議院議員
百三十銀行取締役

君は新潟縣の人富永仙人君の長男にして、慶應二年十二月十三日を以つて生る。明治十六年東京英和學校に學び、同十九年米國に航してイリノイ州立大學に入りて農學を研鑽し造詣を深くして明治二十四年九月歸朝す。

斯くて明治三十一年新潟地方森林會議員に推され、同三十二年同縣中頸城郡農會長に選ばれ、爾來同縣農會長、有限責任頸城信用組合長、産業組合中央會新潟支部副長、同會長、美守村長、第百三十銀行監査役、同行取締役、有限責任上越信用組合聯合會々長、新潟縣農友會副會長、中頸城郡農友會長等を歴任す。

然して大正九年衆議院解散するや同年五月の總選擧に際し、同縣第十二區より立候補し、爾來當選すること前後二回に及び以つて現在に及ぶ、當地の豪農として令名あり。

夫人いと子は新潟縣の人川上善兵衛君の令妹たり、現に新潟縣中頸城郡美守村に住す。

利光鶴松君

鬼怒川水力電氣株式會社長
小田原急行鐵道株式會社長

君は大分縣の人利光一松君の長男にして、文久三年十二月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切磋琢磨、明治法律學校を卒業し辯護士登用試驗に登第して法律事務所を開設す。

然して後ち自由黨に入り、故星亨君の知遇を得て東京市會議員、衆議院議員等に當選し、一時政界に活躍して令名を馳せしも後ち政界を退きて實業界に投じ、東京市街鐵道、千代田瓦斯各株式會社の重役に擧げられ次いで鬼怒川水力電氣株式會社の創立を計り、同社の成立を見るや推されて同社々長に就任し、且つ更に小田原急行鐵道株式會社の創立と共に同社長をも兼ね以つて現在に及ぶ。

夫人をとよ子と呼び東京府の人若林源兵衛君の令從姉たり、現に東京府荏原郡上大崎中丸四四四番地に住し電話高輪八七七番たり。

利根川守三郎君

工學博士　正五位勲四等
古河電氣工業株式會社取締役

君は廣島縣士族岡本量藏君の三男にして、明治六年三月を以つて生れ同二十五年利根川浩君の養嗣子となる。

明治三十年東京帝國大學工科大學を卒業するや直ちに職を官界に奉じ、遞信技師、電氣試驗所長、遞信局技師等を歴任し、後ち官を辭して實業界に投じ現に古河電氣工業株式會社取締役に就任し、且つ更に大正四年工學博士の學位を授與せらる。

夫人春子は東京府士族上野朔郎君の令妹にして、君との間に武君、勉君、篤君、守君及び靜子、光子等あり、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川一八〇〇番たり。

千葉ケ崎俊治郎君

東京大角力協會西方大關

君は千葉縣の人宍倉小一郎君の長男にして、明治二十六年十月を以つて千葉縣印幡郡富里村に生る。幼にして已に軀幹衆に擢んじ夙に角力道に志し年齒十八才にして上京して二十刀山部屋に入りて斯道に精勵せり。

當時體重二十餘貫、身長五尺八寸に及び堂々たる巨軀は將來横綱を以つて嘱目せられ、斯くて明治四十四年一月始めて土俵に上り、殆んど連戰連勝の好成績を示し、大正六年一月幕内に入り、翌七年一月小結となり、同年五月遂に大關に昇進し、爾來一方の覇者として我が力士界に譁はるゝに至れり。

今や童兒走卒と雖も能く其の名を知り本邦力士界の大立物にして、君が斯の如く進級の速なりしは生來の力量遠く他に秀で、夙に角界の覇者たる資格素質を具備せる結果なりと雖も、二十刀山部屋に入りて以來斯道の研究に熱心にして、一

日も其の技の鍛練に怠る所なかりし結果なりといふべく、如何なる剛勇の猛者なりとも稽古鍛練を積むにあらざれば、決して大關の地歩を占むる能はず、眞に一方の雄として恥ぢざる人物なり。

嘗つて新十兩の當時即ち大正四年九月出羽の海、梅ヶ谷、西の海の一行に加はりて米國に渡航し、斯道を世界に紹介したることあり、現に東京市本所區綠町二ノ二三番地に住す。

×

遠山郁三君

醫學博士　從四位勳三等

東京帝國大學醫學部教授

君は岐阜縣の人遠山道榮君の二男にして、明治十年三月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや東都に遊び、明治三十五年東京帝國大學醫科大學を卒業し、更に大學院に入り業成るや大正六年皮膚病學研究の爲め米、瑞兩國に留學し、蘊蓄を積みて歸朝す。

然して教育界に投じ仙臺醫學專門學校教授、東北帝國大學醫學專門部附屬醫院皮膚醫長、同醫科大學教授等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人を千代子と呼び其の間に郁雄君及び節子、操子等あり、現に東京市本鄕區駒込千駄木町五十九番地に住す。

德永榮吉君

推命學應用易學者

君は福岡縣の人德永次吉君の二男にして號を榮山と稱す。幼にして顯悟長ずるに及んで學識衆に秀で、其の非凡なる俊才は鄕黨の間に嘱望せらる。

然して學業の研鑽を積む傍ら劍道に精勵し、遂に其の奥義を極め免許皆傳を授けられ、源正一と號して斯界に知らるゝに至る。

斯くて年齒僅かに十七才にして知友月成光君と袂を連ねて東學黨に參じて朝鮮に赴き、たま〳〵彼の有名なる朝鮮王妃事件に連座して彼の地の官憲に捕はれて釜山に護送さるゝや、一夜其隙を窺いて繩を咬み切つて逃走す。現に君の擬齒なるは當時に於ける記念なりといふ。

抑々君の生家は世々棒術の指南として令名あり、君又幼少の頃より武術百般を修め、柔道の如きも劍道と同じく免許狀を受け、二十歲の頃には其の技既に堂に入り、而して朝鮮より歸來後暫時筑後小竹にありて棒術の指南場を開き、明治三十八年福岡師範學校に聘せられて柔道の教師となり、同四十年期するありて斷然教職を擲ちて滿洲に渡り奉天に住す。

偶々明治四十二年伊藤公の來滿あるや豫感に依りて易を立て、伊藤公の身に必ず災厄在ることを豫言して的中せしめ、後ち知人某君の易學に多大の信を置き、頻りに易學を開業せんことを慫慂して止まざりしかば、明治四十二年十月大連に移りて愈々推命學應用易學者として開業し、彼の歐洲大戰の勃發するや君は大連に在りて中外の諸新聞の請ひに依り、大戰に關する諸種の占ひを行ひ、何れも君の言の的確なるに驚嘆措かざりしといふ

後ち大戰の終了期は大正七年十一月なりと豫言して、其の言の的中するや內外人は等しく君の非凡なるに再び驚嘆せしめられたるとは當時の大連諸新聞の報導するところにして、如何に君が斯學の蘊奥を極めしかを察知するに難からず。

大正十二年の初め頃東京の人縣氏「大連より東京に來り住せよ」との勸めありしが、君固く辭して曰く「本年夏到らば東京は修羅場と化さん、而も自ら飛び込むの愚は暫く猶豫せん」とて其の勸めを拒めり、何ぞ計らん、彼の大震火災起りて東京の大半を烏有に歸す、茲に於て哉縣氏今更の如く君の豫言の的確にして神祕なるに愈々愛惜し、已れの所有家屋に君を招き東京に於て推命學應用易學の業を開かしむ。時に大正十二年十二月一日にして今や天候、株式、運命、國政時事等の豫言等を卜ひて君の聲價は東都に高く來り乞ふ者群集するの盛況なり。

戸田虎雄君

米澤商榮貯蓄銀行頭取

君は山形縣の人小林朝之助君の二男にして、明治十一年八月を以つて生れ後ち虎之助君の養嗣子となる。

夙に鄕校に普通教育を修むるや直ちに財界に投じ、現に米澤商榮貯蓄銀行頭取たる外兩羽銀行監査役にして、且つ高津螺旋鋲製作所、米澤魚市場、日本絹撚商會各株式會社の重役として令名あり。

夫人まる子は同縣の人寒河江佐右衞門君の養妹にして其の間に誠一君、茂雄君敏雄君等あり、現に秋田縣米澤市信夫町に住す。

×

德川家達君

公爵　正二位勳一等

貴族院議員

當家は清和天皇の末孫鎭守府將軍源經基の裔贈太政大臣德川家康の後なり、家康天下を一統して爾來三百年の大業を開き、夫より十五代將軍德川慶喜卿に至り大政を奉還す。

君實は贈正二位田安慶賴卿の第三子にして文久三年七月を以つて生る。幼名を龜之助と稱し入りて宗家を繼承するに及びて名を家達と改む。故侯爵德川賴倫卿伯爵德川達孝君は其の實弟君たり。

明治元年駿遠三の地七十萬石を賜はり後ち藩籍を奉還して靜岡藩知事となり、尋いで華族に列せらる。明治十年英國に遊び在留五ヶ年歸朝するや直ちに麝香間祗候となり、同十七年七月公爵を授けられ同二十三年貴族院議員となり後ち同議長に推さる。

明治四十三年歐米を視察し、大正十一年日本全權委員として華府會議に參列す現に華族會館長、學習院評議會議長、恩賜財團濟生會長、東京慈惠會長、明治神宮奉贊會會長等の公職にあり。尙ほ東京府多額納稅者にして直稅九千六百余圓を納む。

夫人泰子は公爵近衞文麿君の叔母君にして曩に勳四等に叙せらる。現に東京市

外千駄ヶ谷町五六二番地に住し電話青山一〇〇二番たり。

×

外山捨藏君

工業之日本社長
大阪貯蓄銀行取締役

君は大阪府の人外山脩造君の三男にして、明治十六年三月を以つて生る。明治四十一年京都帝國大學法科大學を卒業す。然して工業の日本社を設立して自ら同社々長に就任し、圖書出版業を營み「日本工業名鑑」を發行し、尚ほ大阪貯蓄銀行、大阪舍蜜、濱寺土地、商業興信所各株式會社の重役として大阪財界に名あり。

夫人ハル子は大阪府の人外山一二君の二女にして東京音樂學校を卒業し君との間に修君、勉君及び道子等あり、現に大阪府東成郡天寺村に住す。

德永保君

醫學博士　德永醫院長

君は先代周貞君の長男にして、明治十六年二月二十五日を以つて生る。大正元年九州帝國大學醫科大學を卒業するや直ちに同大學附屬病院皮膚科泌尿科に勤務し、同四年十月横濱市眞砂町に醫院を開き診療に從事す。同九年再び東京帝國大學醫學部研究室に入り後ち醫學博士の學位を授けらる。

大正十三年東京市數寄屋橋畔に醫院を開業し以つて現在に及ぶ。趣味に謠曲、讀書あり、夫人をもと子と呼ぶ、東京市小石川區白山御殿一〇九番地に現住す。

千野米作君

富士護謨工業株式會社長
帝國自動車株式會社取締役

君は山梨縣の人千野廣章君の長男にして、明治十三年三月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや東都に上り研鑽大いに勉め、明治三十八年慶應義塾大學理財科を卒業し、直ちに北海道炭礦鐵道株式會社に入り、在勤數年にして輸出入業を開始し、大いに斯業の爲めに盡瘁せり。

偶々彼の歐洲の天地戰戈を交ふるや好機來れりとなし、即ち山本粂太郎君、窪田四郎君等と相謀り南洋經營組合を組織して其の開拓に努め、尚ほ大正七年帝國自動車株式會社を創立し、更に富士護謨工業株式會社を創立して兩社に社長又は專務取締役として經營の衝に當り以つて現在に及ぶ。

斯くて大正十三年社團法人東京放送局を創立し、以つて我が國ラヂオ界の嚆矢者として貢獻する所甚大、現に社團法人日本放送局理事、東京無線電話機商組合長、日本ラヂオ協會幹事たり。

東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町原宿一七〇番地に現住し電話青山一一五四番なり。

戸村理順君

東京製綱株式會社常務取締役
東京針金工業會社取締役

君は福井縣士族戸村甚九郎君の長男にして、明治二年七月を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業するや直ちに實業界に投じ、東京製綱株式會社に入社し、爾來各種の要職を經て現に同社常務取締役として內外の社務を執掌し、傍ら東京針金工業株式會社取締役たり。

曩に日本特産鐵、臺灣纖維各株式會社取締役及び帝國特殊煉瓦、日本製綱各株式會社監査役たりしことあり。

夫人をみつ子と呼び東京府士族中尾信次君の三女にして君との間に理明君及び愛子、輝子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山一五四一番たり。

×

德川義親君

侯爵　從三位勳三等
貴族院議員

當家は德川家康の第九子大納言義直の後なり、義直四歲にして甲斐の國守となり、後ち尾張國に移り、封邑尾張美濃信濃に跨り六十一萬九千五百餘石を領す。

義直聖廟を建て堯舜禹陽文武周公孔子の像を安置し、禮樂諸器を備へ釋奠の儀を行ひ經籍一千部を置く等聖教を尊崇すること切、是より十一世を經て從一位勳二等慶勝君に至る、先代義禮君其の後を嗣ぎ明治十七年侯爵を授けらる。

君は松平慶永君の五男にして同康莊君の叔父君に當り、明治十九年十月を以つて生れ先代義禮君の養嗣子となり、同四十一年襲爵仰せ付けらる。

明治四十四年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し同年歐米各國を視察し、大正三年同理科大學植物科を卒業し同九年學習院講師を囑託せらる。現に貴族院議員にして且つ東京府多額納稅者として直稅八千二百三十余圓を納む。雅號を尚軒と稱す。

夫人を米子と呼び養父義禮君の長女にして御茶の水高等女學校の卒業たり。現に東京市麻布區富士見町三三番地に住し電話高輪四八三四番たり。

戸尾善右衞門君

六十八銀行取締役
產業銀行取締役

君は奈良縣の人戸尾善太郎君の二男にして、明治二年六月を以つて生れ前名安治郎を改稱す。夙に地方財界に投じ現に前記の外產業貯蓄銀行監査役にして且つ天野輕便鐵道、山城水力電氣各株式會社の重役たり。

夫人すゑ子は奈良縣の人松田與志美君の令妹にして君との間に善一郎君、善雄君、駿三君、眞三四君等あり、現に奈良縣生駒郡郡跡村に住す。

所喜之助君

應用電氣株式會社長
上山電氣株式會社監査役

君は岐阜縣の人所勝右衞門君の三男にして、明治八年九月を以つて生る。夙に軍籍に身を投じ、陸軍士官として日露戰役に出征し功により勳五等に叙せらる。

然して後ち實業界に身を投じ、初め東

京中央電氣會社理事たりしが現時は應用電氣株式會社々長たる外上山電氣、廣尾電氣各株式會社の重役として知らる。

夫人知世子は福井縣士族歌原銀平君の四女にして君との間に養一君及び秀子、高子、益代子等あり、現に東京府豊多摩郡下澁谷常盤松二八〇番地に住し電話青山九十一番なり。

土肥章司君

醫學博士　正五位

金澤醫科大學院教授

君は岐阜縣の人栗田昇君の令弟にして明治九年六月を以つて生る。夙に濟生學舍に學び明治三十一年東京帝國大學醫科大學選科を修業し、後ち獨逸に留學しプレスラウ大學皮膚病徹毒科教室に入りて研究し、更に蘭領バタビヤ在ナイセル動物徹毒實驗所に入り研鑽を積みて歸朝す然して教育界に投じ現に金澤醫科大學院教授にして且つ學生監たり、夫人孝子との間に二男一女あり、金澤市里見町に現住す。

德田昺平君

株式會社德田商會社長

顧みるに波瀾重疊の裡に身を處して投機の渦中に投ぜず、よく大勢の趨向を察して徐に強弱の態度を決し、我が投資界の進歩發展に貢獻する株式界の重鎭德田昺平君は、山梨縣の人加賀美角三郎君の二男にして、明治十一年を以つて生れ先代孝平君の養嗣子となる。

夙に山梨縣立中學校に入りて普通學を修め、後ち獨學大いに努めて先代沒後業務を繼承し大正三年株式仲買人として斯界に活躍し、大正七年五月現收部を擴張する爲め別に資本金百萬圓拂込濟の株式組織の德田商會を創立し、公債社債の引受及び信託業をも營み、爾來堅實なる方針の許に着々發展し來り、才器非凡加ふるに拮据奮勵能く商機を把捉して業運を開拓し、玆々として倦まざりしかば遂に今日の盛大を見るに至れり。

現に東京株式取引所一般取引員にして株式會社德田商會社長たる外中央證券、東京德田銀行各株式會社の重役、山梨證券株式會社專務取締役にして尙ほ東京株式取引所一般取引員組合委員長、日本橋區所得稅調査委員等の諸要職にありて斯界に令名あり。

然して君が天與の俊敏と豊富なる識見とを以つて一度輸贏界に立つや、其の非凡の快腕は斯界の驚嘆する處なりといふ現に東京市外下澁谷二八〇番地に住し電話青山二三一八番なり。

土岐市太郎君

岩橋製作所代表社員

關西土地信託會社取締役

君は兵庫縣の人土岐善次郎君の長男にして、明治十年九月を以つて生る。夙に關西財界に活躍し、現に岩橋製作所、高尾鐵工所、仲組、關西土地信託、吉中炭礦、九州汽船、帝國鐵工各株式會社の重役たり。

現に神戸市葺合町磯上通八ノ九番地に住し電話御影三六一番たり。

伴野乙彌君

西脇銀行取締役

太陽生命保險株式會社取締役

君は東京府の人伴野三司君の二男にして、慶應三年四月を以つて生る。明治二十三年帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに實業界に身を投ず。

爾來日本銀行小樽出張所長、同行營業局第二課長、十五銀行支配人、水戸鐵道會社々長、日本興業銀行理事、同行營業部長等を歷任し、現に株式會社西脇銀行太陽生命保險、生氣嶺粘土石炭各株式會社の取締役として令名あり。

夫人ミサ子は東京府の人八代則彦君の令妹にして內助の聞え高く、其の間に一男一女ありて淸君及び初子と呼ぶ、現に東京市牛込區市ケ谷加賀町二ノ三番地に住し電話牛込二五八番なり。

土井重吉君

實業家

君は山口縣の人土井重吉君の長男にして、明治十年九月を以つて生れ前名彌三郎を改稱す。明治三十年下關商業學校を卒業し、曩に下關商業會議所常議員、馬關商業銀行常務取締役たりき。

現時は下關倉庫、下關商事、關門汽船長州鐵道各株式會社取締役にして且つ下關米穀取引所監査役、下關自動車商會相談役、下關市會議員たり。現に下關市觀音崎町に住す。

德大寺實厚君

正五位勳六等　騎兵少佐

陸軍大學校教官

當家は藤原鎌足第十世の孫師輔の十男閑院太政大臣公季五世の孫公實五男大炊御門左大臣實能の後なり。世々德大寺と稱し其の子右大臣公能より十五代を經て右大臣公信に至り更に七世を經て公純に至る。

先代實則君は其の長子にして明治元年參與職權大納言內廷知事、大納言辭香間祇候、宮內卿兼侍從長、華族局長官爵位局長官、侍從長兼內大臣等を歷任し同十七年侯爵を授けられ同四十年勳功に依り大勳位に叙し、尋で公爵に陞せられ明治四十五年明治天皇崩御と共に閑地に就き大正八年病を以つて薨ず。

君は實則君の令孫公弘君の嗣子にして明治二十年十二月十日を以つて生れ、同四十四年十二月英麿を實厚と改名す。同四十二年陸軍騎兵少尉に任ぜられ、爾來累進して大正十四年八月陸軍騎兵少佐に陞り現に陸軍大學校馬術敎官たり。

夫人米子は松平直之君の二女たり、現に東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町四九八番地に住す。

外村宇兵衞君

御幸毛織株式會社長

近江商業銀行取締役

君は滋賀縣の人外村宇兵衞君の長男に

して、明治八年一月を以つて生れ前名謙藏を改稱す。

現に御幸毛織株式會社々長たる外近江商業銀行、日本ピロード、大阪製麻、帝國紙絲各株式會社の重役として知らる。滋賀縣神崎郡五個莊村に現住す。

富永茂吉君

實業家

寺田合名會社長

君は靜岡縣の人富永さと子の長男にして、明治二十三年六月を以つて生る。夙に學業を卒ふるや直ちに實業界に投じ、東奔西走大いに財界の表裏に活躍して異數の敏腕を振ひ、以つて斯界に名聲を博するに至る。

現時は前記會社の代表社員たるのみならず、鬼足袋工業、帝國足袋、大日本コール天紡織各株式會社の重役として知られ、曾つては遠州紡織株式會社取締役たりしことあり。

君未だ春秋に富み其の前途や益し遼遠にして多望なりと云ふべく、而も其の溫容なる資性と卓越せる經濟眼とはやがて復興大日本の財界に雄飛する……又遠からざるべし、自重して可ならん哉

夫人をたゑ子と呼び東京府の人寺田惇平君の令妹にして貞淑の聞え高し、現に東京府荏原郡大森町谷島八〇五番地に住し電話高輪一七三番なり。

×

土井八郎兵衞君

尾鷲銀行頭取

尾鷲索道株式會社長

君は三重縣の人土井嘉八郎君の長男にして、明治五年十月を以つて生る。夙に三重縣下實業界の重鎭を以つて目せられ現に尾鷲銀行頭取及び尾鷲索道株式會社々長たる外百五銀行、北山索道各株式會社の重役たり。

夫人ふさ子は三重縣の人味岡又八郎君の二女にして君との間に靖夫君、茂夫君久夫君、匡夫君、立君及び利子等あり、現に三重縣北山牟婁郡尾鷲村に住す。

德見常雄君

東京灣土地株式會社取締役

守國製作所株式會社代表取締役

君は長崎縣士族德見常人君の長男にして、明治六年六月六日を以つて生る。第三高等學校を經て同二十九年東京帝國大學工科大學土木科を卒業す。

然して京都鐵道株式會社技師となり、傍ら京都帝國大學工科大學講師を兼ね同三十二年臺灣總督府に轉じ、後ち土木課長に累進し大正元年職を辭し大倉組に入り其の常務取締役に擧げられ、傍ら守隨製作所取締役たりしが後ち代表取締役に推され以つて現在に及ぶ。

尚ほ其の傍ら東京灣土地株式會社取締役にして、曩に明治四十一年より四十三年迄歐米各國を巡遊して歸朝す、日本工業俱樂部、臺灣俱樂部、學士會、土木學會等の會員たり。趣味に將棋、圍碁、撞球、音樂、旅行、讀書等あり。

夫人ヒデ子は隈本榮一郎君の養女にして東京女學館を卒業し君との間に建雄君正雄君、卯三郎君、左馬太君、泰君及び惠美子、巳代子、喜美子、國代子等あり現に東京市麻布區材木町一一番地に住し電話青山二一〇八番なり。

外山勘一君

西尾鐵道株式會社專務取締役

君は愛知縣の人外山常太郎君の二男にして、明治十九年二月を以つて生る。夙に地方財界にありて活躍大いに努め、現に西尾鐵道株式會社々長として內外の社務を執掌する外合名會社油勘商店代表社員たり。

夫人なを子は愛知縣の人吉見善太郎君の二女にして、君との間に芳郎君、千鶴子、雪枝子、春子等あり、現に愛知縣幡豆郡西尾町に住し電話長一三番たり。

遠山市郎兵衞君

豐國銀行取締役兼支配人

君は和歌山縣の人濱口熊岳君の五男にして、明治八年二月を以つて生れ、後ち先代サダ子の入夫となる。夙に第二高等學校を經て、明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直ちに實業界に投ず。

偶々帝國鑛泉株式會社の創立せらるゝや其の取締役兼社長に擧げられ、大正二年九月轉じて豐國銀行に入りて同行取締役兼支配人に任じ、又東京護謨工業株式會社の創立を謀り其の成立を見るや、推されて同社取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。

尚ほ其の他銚子醬油、第一製菓、木村屋と稱し醬油、味噌問屋を營む、曾つて東京市會議員、日本橋區會議員たりしことあり。

現に東京市日本橋區北新堀町三番地に住し電話浪花二一五〇番たり。

戶田實君

實業家

君は和歌山縣士族戶田彌三郎君の長男にして、明治八年二月十六日を以つて生る。夙に第三高等學校を經て明治三十年東京帝國大學法科大學政治學科に入學し、同三十一年同校在學中判檢事登用試驗及び辯護士試驗に登第す。

斯くて同年司法官試補に任ぜられ同三十二年官を辭して辯護士を開業し、更に

土岐嘉平君

正四位勳三等

前北海道廳長官

君は和歌山縣の人士岐綱右衞門君の二男にして、明治八年二月十六日を以つて生る。夙に第三高等學校を經て明治三十年東京帝國大學法科大學政治學科に入學し、同三十一年同校在學中判檢事登用試驗及び辯護士試驗に登第す。

斯くて同年司法官試補に任ぜられ同三十二年官を辭して辯護士を開業し、更に夙に關西實業界に投じて其の非凡の腕前を發揮して一躍斯界に名聲を博し、現に攝津硝子、日本海運信託、菊池鑛業、日本海上火災保險、戶田商會各株式會社取締役にして且つ大連東和汽船、南洋木材各株式會社の監査役たり。

夫人をスエ子と稱し君との間に美代子あり、現に兵庫縣明石郡鹽屋村に住し電話舞子四七番なり。

×

同三十四年七月東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し、同年十一月文官高等試驗に合格し、明治三十六年六月山梨縣參事官に翌年十二月內務書記官に任ず。

然して明治四十年より四十一年に亘り歐米各國視察の途に上り、歸朝後內務省參事官、大阪府內務部長、高知縣知事、石川縣知事、關東廳事務總長、大阪府知事、北海道廳長官等を歷任し、大正十四年九月之を辭して野に下る。

夫人清子は和歌山縣の人吉村茂八郎君の三女にして和歌山高等女學校の卒業なり、現に東京府豐多摩郡中澁谷七一六番地に住し電話青山三七五番たり。

戶田榮藏君

戶田榮商店代表者
天滿織物株式會社取締役

君は大阪府の人戶田猶七君の三男にして、明治十二年四月を以つて生る。明治二十九年大阪高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に戶田商店代表者たる外硫酸肥料、日華紡織、天滿織物、湖南鐵道、京都土地建物、攝津紡績、日本紡織用品各株式會社の重役として知らる。

夫人を八重子と稱し、君との間に長女美代子、二女とく子等あり、現に大阪市東區安土町三ノ二番地に住し電話本局一〇五六番たり。

×

飛田周山君

畫家
帝展審査委員

君の本名は正雄といひ、茨城縣の人飛田正君の長男にして、明治十年一月を以つて生る。幼時より繪畫を愛好し、鄕校を卒ふるや京都に出で、久保田米僊師の門下に入りて繪畫を學び、更に竹內栖鳳師について研鑽すること數年、明治三十四年東上して橋本雅邦師の門に學び、其の傍ら雅邦師の經營にかゝる美術院を卒業す。

斯くて文部省に出仕して教科書插畫を擔任す。花鳥、山水を能くし、就中人物は其の最も長所とする所にして文展特選一回、褒狀二回、入選三回、帝展に於て特選すること一回推薦二回入選一回「天女の花」「幽居の秋」「神泉殘燈」等を製作して一躍斯界に名聲を馳せ、大正十三年帝展審査員となり現在に及ぶ。

夫人つる子との間に喜美子、佳代子等あり、東京市小石川區水道端町一ノ四番地に現住し電話小石川五一四〇番なり、

戶羽要人君

氣仙銀行專務取締役

君は巖手縣の人佐藤豐浦君の長男にして、慶應三年十二月を以つて生れ後ち戶羽家の養嗣子となる。夙に地方實業界に活躍して功勞尠からず、現に氣仙銀行專務取締役たる外三陸汽船株式會社取締役たり。

夫人タケ子は巖手縣の人新沼庄助君の長女にして君との間に三男一女あり、現に巖手縣氣仙郡小友村に住す。

德川圀順君

侯爵　從三位勳三等
貴族院議員

當家は德川家康公の子賴房卿に出でゝ代々三十五萬石を食み水戶藩主たり、賴房卿の子光圀卿は大日本史の編纂を以つて本邦史上不朽の名を止め、後ち水戶烈公に至つて赫々たる家名又一世に響き亘り、童兒走卒と雖も能く知れる所なり。

現圀順侯は實に十三代目に相當し、先考篤敬卿の長男にして、明治十九年十二月十三日を以つて生る。夙に學習院に學び業成るに及んで陸軍士官學校に入り同校を卒ふるや、陸軍步兵少尉に任官したるも間もなく病の故を以つて豫備役に編入せらる。

爾來家門の榮冠を擔つて專ら祖德の祭祀に努め、後ち衆望の蒐まる處となり、日本赤十字社副社長に擧げられ、且つ大正九年一月萬國赤十字社聯盟總會開催せらるゝや、君は我が帝國を代表して渡歐し、大命を完ふして歸途各國を巡歷し其の文物制度を視察見學して歸朝す。

今や貴族院議員として議政府に列し、我が國政に參與して盡瘁すること甚大、加ふるに其の威嚴溫厚の質、その穆々たる風圭、而も能く內外の識に通じ華胄界の第一人者を以つて目せらる。

夫人英子は德川慶久公の令妹にして君との間に圀齊君、圀禎君、圀秀君、圀弘君及び典子等あり、現に東京府豐多摩郡下澁谷七四五番地に住し電話青山六五九〇番たり。

×

戶川益男君

關門窯業株式會社專務取締役

君は佐賀縣の人戶川善作君の令孫にして、明治十八年五月を以つて生る。早くより財界に活躍して令名を博し、現に關門窯業株式會社專務取締役たる外九州耐火煉瓦、九州麻糸紡績各株式會社の重役として當地財界に令名あり。

夫人をイノ子と稱す、現に福岡縣八幡市中央區通町に住す。

鳥居邦康君

明治病院長

君は東京府の人白井新五郎君の六男にして、明治十六年十月二十日を以つて生れ、後ち山形縣士族鳥居熊彌君の養嗣子となる。

夙に開成中學第二高等學校等を經て明治三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業し、更に大學院に入り內科學を專攻し傍ら帝國大學附屬病院青山內科敎室助手となり、同四十一年明治病院に入り內科部長となり次いで同病院副院長となり現に同病院々長たり。

趣味に繪畫、音樂等あり、傍ら淺草區醫師會副會長、日本醫師會理事たり。

夫人むめ子は養父鳥居熊彌君の長女にして東京女子高等師範學校附屬高等女學校の卒業たり、現に東京市淺草區須賀町二番地に住し電話淺草一一三七番たり。

鳥居忠一君

子爵　從四位

三井合名會社戸越農園主

當家は藤原鎌足の裔鳥居彦右衛門元忠の後主膳正忠春より出づ、世々壬生城主として十一代忠文君に至る。忠文君は先々々代忠擧の四子なり、明治三年壬生藩知事に任じ司法中祿外務省御用掛、領事公使館書記官、外務省書記官等を歷任し明治二十三年貴族院議員として國政に參與し、其の功勞尠少ならず。

君は忠文君の長男にして、明治十四年七月を以つて生れ大正三年十月襲爵仰せ付けらる。明治四十四年東京帝國大學農科大學を卒業し、現に三井合名會社戸越農園主たり。夫人を寬子と稱す、現に東京市外平塚下蛇窪三〇三番地に住し電話高輪二三六四番たり。

豐泉政吉君

實業家

君は神奈川縣の人豐泉德治郎君の令弟にして、明治十七年四月を以つて生る。夙に大阪に出で、實業界に活躍し、現に東洋貿易拓殖、大阪車輪、東洋貿易各株式會社の重役として知らる。

夫人テイ子は東京府の人高橋銀之助君の三女にして君との間に二男一女あり、大阪市東成郡住吉村に現住す。

戸田康保君

子爵　從四位

東京府多額納稅者

當家は藤原鎌足十一代公季六世實行の裔正親町三條大納言實興の嫡子宗光故ありて、三河國上野城主戸田彈正宗恒の後を繼ぎ戸田氏を稱す。後代に至り代々信州松本の城主として六萬三千石を領し丹波守と稱す。代々相承けて祖父光則君に至る、光則君は勤王の志士にして功に依り永世祿三千石を賜はる、其の子康泰に至り祖先の功に依り明治十七年七月華族に列し子爵を授けらる。

君は即ち康泰君の長男にして子爵戸田氏次君の從兄君に當り、明治二十二年十一月を以つて生れ同三十六年家督を相續し襲爵仰せ付けらる。大正四年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業す、同家は東京府多額納稅者として現に直接國稅五千二百六十余圓を納む。

夫人昭子は侯爵松平康莊君の令妹にして學習院女學部を卒業し、君との間に康英君、康明君、光孝君、光敬君、光發君輝光君及び和子、順子、華子等あり、因に三男輝光君は男爵淺野鐵馬君の家督を繼ぎ忠充と改稱す。

現に東京市外高田雜司ヶ谷旭出四一番地に住し電話牛込二八〇一番たり。

德本良一君

興業金融株式會社長

君は愛媛縣の人河內喜三郎君の長男にして、明治三年一月を以つて生れ後ち先代廣誠君の養嗣子となる。

夙に地方實業界に投じ活躍すること久しく現に興業金融株式會社長たる外愛媛

新報株式會社、伊豫製糸、松山信託、南海酒類製造各株式會社の取締役にして且つ伊豫農業銀行、愛媛貯蓄銀行、伊豫電氣鐵道各株式會社監査役として知らる。

現に愛媛縣北宇和郡雄群村に住す。

殿岡幸治郎君

正八位勳六等　在鄉陸軍少尉

丸之內仲通郵便局長

君は靜岡縣の人殿岡啾石君の長男にして、明治十三年三月一日を以つて靜岡縣榛原郡に生る。明治三十六年應義塾大學を卒業するや歸鄉して村長の任にある事四年、後ち在鄉軍人分會長、赤十字社愛國婦人會各支部長に就任し公共の爲めに盡瘁すること甚大なりき。

現時は丸の內郵便局長たる外帝國林政研究會常務幹事として知らる、書畫を愛好す。

夫人トシ子は靜岡縣の人小野田五郎兵衛君の令嬢にして靜岡縣立高等女學校の卒業なり、東京府豐多摩郡上戸塚九六七番地に現住し電話牛込二一四一番なり。

富田慶之助君

日本冶金工業所主

君は島根縣の人にして明治四十四年を以つて生る。明治四十四年京都帝國大學機械科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に投じ上京して東京米井商店に入り恪勤精勵せしかば、店主の信任特に厚く、大正元年歐米に出張を命ぜられ同三年歸朝し引き續き店務に精勵すること四年、其の貢獻すること甚大なりき。

然して大正七年獨立以つて富田工業所を設立し、後ち更に日本冶金工業所を設立し以つて現在に及べり。

現に大阪市北區堂島船大工町十八番地に住し電話一一四六、一九七七、一三九八番たり。

豐田彦吉君

東海養魚株式會社專務取締役

君は愛知縣の人富田福翁君の三男にして、明治十年一月を以つて生る。夙に學業を修むるや直ちに當地實業界に活躍し現に東海養魚株式會社專務取締役たる外名港土地、大正石炭各株式會社の重役として知らる。

現に名古屋市南區千年町一六三番地に住し電話本局九一一番たり。

飛島駒吉君

廣島炭加製造會社取締役

品川白煉瓦株式會社取締役

君は東京府士族豐島德太郎君の令弟にして、明治八年四月を以つて生る。明治三十四年東京帝國大學工科大學電氣科を卒業するや、陸軍技師として東京砲兵工廠に職を奉ず。

然して明治三十六年辭して實業界に投じ、品川白煉瓦株式會社に入りて同社大阪支店長に擧げられ、精勵以つて同社の

發展に盡瘁せしかば、累進して同社取締役に推され現に其の任にある外廣島炭加製造株式會社取締役として知らる。

夫人はな子は東京府士族山内政良君の二女にして君との間に吉篤君、龍也君、濤夫君、滋君及び雅子、弘子等あり、現に東京府荏原郡大崎町居木橋五三二番地に住し電話高輪一一九四番たり。

土井清次郎君

株式會社土井商店專務取締役
千代田毛織株式會社取締役

君は東京府の人建部庄八君の二男にして明治十九年十一月を以つて生れ、大正二年土井猶楠君の養嗣子となる。夙に學を修むるや直ちに實業界に身を投じ至誠至純以つて業務に精勵し、現に株式會社土井商店專務取締役たる外千代田毛織株式會社取締役として東都財界に知らる。

君は資性溫厚篤實にして其の貴公子然たる風姿は君と接するに又自ら畏敬の念を抱かしめ、加ふるに其の商才豐かにして今や新進實業家として新日本財界の一異彩たるを失はず。

夫人みつ子は養父土井猶楠君の長女にして君との間に純一君、美代子、喜美子等あり、現に東京市日本橋區田所町六番地に住し電話浪花五五八番なり。

×

戸羽一君

氣仙水力電氣會社專務取締役

君は巖手縣の人戸羽安五郎君の長男にして、明治七年九月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して君が敏腕を振ひ、現に氣仙水力電氣株式會社專務取締役として當地財界に重きをなす。

巖手縣氣仙郡小友村に現住す。

遠山元一君

株式會社川島屋商店社長
中央證券株式會社取締役

東京株式取引界に新進の名あるを我が株式會社川島屋商店社長遠山元一君となす。君は埼玉縣の人遠山義三君の長男にして、明治二十三年七月二十一日を以つて埼玉縣比企郡三保谷村に生る。

夙に東京株式界に身を投じ活躍大いに努めしかば漸次斯界に名聲を博し、今や川島屋商店社長として內外の社務を執掌する傍ら、中央證券株式會社取締役として兜町堺隈に錚々の名あり。

夫人愛子は東京府の人原一郎君の令姉にして、東京女子大學を卒業し君との間に一行君、信二君及び貞子等あり、現に東京市麻布區笄町一七一番地に住し電話青山二八五九番たり。

×

十時允君

柳河銀行頭取

君は福岡縣士族十時一郎君の長男にして、明治四年十二月を以つて生る。現に柳河銀行頭取たる外松岡紡織株式會社取締役たり。

現に福岡縣山門城內村に住す。

帝都復興之現勢

土木建築請負

荻野組

本店　甲府市百石町三百四番地
電話　九〇六番
出張所　東京市麹町區富士見町四ノ十一番地
電話　九段四六一番

荻野豐平

株式會社安田銀行……**設立**大正十三年五月**沿革**元保全銀行ニ、大正十二年十一月安田銀行第三銀行明治商業銀行信濃銀行京都銀行百三銀行日本商業銀行二十二銀行肥後銀行根室銀行神奈川銀行等十一行ガ大合同ニ依リ現安田銀行ト改稱セリ　**資本金**一億五千萬圓　**拂込金額**九千二百七十五萬圓　**支店出張所**全國百十四個所　**頭取**安田善次郎　**副結城豐太郎**　**常務**兵須久　菅原大太郎　丸山繼男　園部潛　**締役**安田善五郎　安田善四郎　竹內悌三郎　村田房之助　杉原惟敬　齋藤順三　濱田勇三　**常監**佐藤小一郎　**監査役**安田善助　川西清兵衞　小坂順造　前田利定　**貸借對照表**昭和二年上半期　**負債**資本金一億、〇〇〇、〇〇〇諸積立金五六、六五〇、〇〇〇行員恩給基金一、二〇一、九三五諸預リ金六八六、五四四、八〇九賓渡外國爲替七二五、六〇一他店ヨリ借一三、三四五、二一四仕拂送金手形二、三一二、七〇五仕拂承諾八、一一九、七六〇借入金一八、五〇〇、〇〇〇未拂配當金三、四一八未拂利息及未經過割引料九、七五五、八四四假受金一、八五四、三六七前期繰越金三、九一〇、二六五當期純益金六、一〇五、七六五合計九六九、〇五七、六七七　**資産**拂込未濟資本金五七、二五〇、〇〇〇諸貸出金六二七、七九〇、六〇六買入外國爲替利付爲替手形及外國貨幣一、七八〇、二八〇他店ヘ貸五、〇〇二、〇二三仕拂承諾見返八、一一九、七六〇預ケ金七、一六〇、六八九假拂金二、一五七、七七九所有有價證券一九二、六八八、九四八營業用土地建物什器八、七五七、一七八所有動產不動產三、二一二、〇〇四現金有

期繰越金七、〇三二。

京成電氣軌道株式會社……貸借對照表昭和二年五月

資産未拂込資本金二〇、〇〇〇、〇〇〇電車建設費一七、八四三、九九一電燈建設費三、六三〇、七三五谷津海岸遊園地費二五三、四六八谷津海岸遊園地設備費一三〇、五〇五電車改良工事費五六七、七〇八土地二三二、二〇三建物一九八、二二八什器一八、四八六貯藏物品六九、三三九有價證券九二四、五七三契約保證金代用有價證券五九、一二三銀行勘定一、〇九七、九九一振替貯金六、〇一七未收入金二〇三、二八一假拂金四二〇、〇五三金銀在高一、三七〇合計三五、六五六、一一六　**負債**資本金二〇、〇〇〇、〇〇〇法定積立金一、〇一八、二四〇別途積立金二三六、八五七準備積立金八六、五四四使用人退職手當積立金三〇、〇〇〇減損基金二六、〇〇〇救濟基金五、〇〇〇社債一〇、〇〇〇、〇〇〇借入金二、七〇〇、〇〇〇未拂

合資會社　粟田組

粟田繁次郎

東京市小石川區關口町六十八番地
電話小石川七二八六番

富田勇太郎君

正五位勲三等
大藏省理財局長　同預金部長

君は福岡縣士族富田一郎君の三男にして、明治十六年八月を以つて生る。明治四十一年東京帝國大學法科大學を卒業し同年十一月文官高等試驗に登第す。

斯くて翌年大藏省屬兼專賣局書記に任じ、爾來累進して稅務監督局監督官補、專賣局主事補兼大藏書記官兼外務書記官理財局國債課長、大藏省臨時調査局事務官、理財局國庫課長等を歷任し以つて現在に及ぶ。尙ほ日本銀行監理官にして曩にワシントン會議に參列の全權委員として渡米せしことあり。

夫人幸子は東京府の人三宅甲造君の二女にして君との間に朔子、照子、邦子、華子、良子等あり、現に東京市麻布區本村町三十九番地に住し電話高輪六〇四七番なり。

梅井唯三郎君

東亞製鋼株式會社長

君は大阪府の人梅井與三郎君の三男にして、明治元年八月を以つて生る。夙に關西實業界に投じ、現に東亞製鋼株式會社々長たる外東京鋼機、釜六鑄鐵各株式會社の重役として知らる。

夫人つじ子は大阪府の人朝田金三郎君の三女にして其の間に二男あり、大阪市南區天王寺勝山通二ノ二番地に住す。

土井猶楠君

株式會社土井商店社長
山保毛織株式會社取締役

君は和歌山縣の人土井安吉君の令弟にして明治元年十一月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや東都實業界に活躍せんと志し、單身上京して大いに君が才幹を發揮して其の敏腕を振ひ、現に土井商店社長たる外山保毛織、千代田毛織各株式會社の重役として知らる。

夫人うた子は東京府の人天野市兵衞君の長女にして、君との間に四男一女ありて彥治郎君、要之輔君、藤吉君、德藏君及びまさ子等なり、東京市日本橋區田所町六番地に現住す。

豐島半七君

株式會社山一商店社長

君は愛知縣の人豐島半七君の長男にして、明治三年三月を以つて生る。夙に地方財界にありて名聲を馳せ、現に山一商店社長たる外協同土地、豐島商店各株式會社の取締役にして且つ中原貿易株式會社監査役として知らる。

夫人ちか子は岐阜縣の人篠田祐助君の四女たり、愛知縣中島郡一宮町に住す。

東胤祿君

子爵

當家は葛原親王の裔平忠賴の後なり、忠賴より二十代盛數に至る。世々美濃國に住ひ土岐氏に仕へ、夫より二十一代慶隆織田氏に仕へ濃州山田の城主となる。

然るに豐臣秀吉關白となるや終に領を失ひて濃州小田原に在り、後ち德川氏に仕へて功あり、再び舊領の主となれり、夫より十代式部少輔胤昌を經て胤城に至れり。

君は實に胤城卿の三男にして、明治八年七月を以つて生れ、明治元年一月遠藤姓を改めて東と稱せるなり、而して明治四十二年襲爵す。現に東京府下大久保町東大久保四八〇番地に住す。

長義三郎君

橋本組工業合資會社長

今や帝都復興建築工業界に盡瘁して斯界に錚々の名あるを我が橋本組工業合資會社々長　長義三郎君となす、君は栃木縣の人長宣八君の三男にして、慶應二年十一月五日を以つて同縣足利郡梁田村に生れ、後ち長貞興君の養嗣子となる。

夙に鄉校を卒ふるや青雲の志を抱いて上京し、明治二十三年優秀の成績を以つて築地工手學校を卒業し、直ちに實業界に投じ、足尾銅山土木課に入り漸次昇進して同土木課長たりしが、幾何もなく辭して足尾鐵道株式會社工務課長に任ず。

然して、大正八年橋本組工業合資會社の代表社員として敏腕を縱橫に振ひ、今や土木建築界に於ける同社の聲價と共に君の偉績や嘖々たり。

極めて園藝に趣味を有し又社交に厚く鐵道協會、土木業協會各會員たり、夫人をちか子と稱し栃木縣の人片柳清平君の長女たり、現に東京市外巢鴨一一四八番地に住し電話小石川七九八三番なり。

豐田佐吉君

豐田紡織株式會社長

君は靜岡縣の人豐田伊吉君の長男にして、慶應三年二月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍すること久しく、現に豐田紡織株式會社々長たる外豐田式織機株式會社取締役として知らる。

現に愛知縣愛知郡中村に住し電話五三五番たり。

中馬輿丸君

尼ヶ崎市醫師會長
醫學士　中馬病院長
衆議院議員

君は兵庫縣士族天崎紹印君の三男にして、明治四年二月十二日を以つて生れ、後ち同縣の名望家にして曾つては尼ヶ崎藩主の御典醫を勤め、二百年以來の醫家として令名あり、中馬家を繼ぎ先代中馬讓吉君の養嗣子となる。

夙に鄉校を卒ふるや祖業を繼ぎて醫師たらんと志し、笈を負ふて東上し研鑽大いに努め、明治三十年東京帝國大學醫科大學を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに兵庫縣立姬路病院に聘せられて同院副院長たりしが、後ち一年志願兵として兵役に服し、退營するや間もなく日露兩國戰戈を交ふるに及び、君即ち從軍して滿洲の野に轉戰して功を立て功五級金鵄勳章を賜ひ現に陸軍一等軍醫正七位勳四等功五級たり。

然して平和克復するや、尼ヶ崎市に獨力中馬病院を開設して我が刀圭界に盡瘁し、爾來、今日まで同病院々長として令名高く、尙ほ傍ら常に社會民衆の爲めに心を碎き、曾つては私費を以つて琴浦育兒院を興して路頭に迷ふ多くの孤兒の爲めに其の保護敎養に努むる等君が社會に貢獻すること枚擧に遑あらざるべし。

現に中馬病院長たる外尼ヶ崎市醫師會長を勤め、且つ大正九年の總選擧に際し多數縣民の輿望を擔つて馬を陣頭に進むるや大多數の得票を以つて當選の榮を擔ひ、今や中央政界に重きをなす。

夫人靜子は養父讓吉君の長女にして、大阪堂島高等女學校を卒業し君との間に英二君及び英子等あり、因に長女英子の入夫醫學博士中馬優君は大阪醫科大學の出身にして、曾つては獨逸に留學して斯學の造詣を積みて歸朝し現に養父君を援けて中馬病院醫長として知らる、兵庫縣尼ヶ崎市別所村に現住す。

豐岡圭資君

子爵

當家は藤原鎌足六代眞夏の裔弘資有尙の後なり、有尙岐れて一家を創立し姓を豐岡と稱す。後ち八代を經て先代子爵健資君に至る。

君は健資君の四男にして、明治十三年二月を以つて生れ、幼名を道雄と稱す、明治二十五年襲爵す。明治四十三年東京帝國大學文科大學を卒業し大正三年には御大喪使祭官仰せ付けられ又貴族院議員たること二回に及べり。

夫人をスヘ子と呼び君との間に四男三女あり、京都市上京區西加茂に現住す。

長延連君

正五位勳四等
兵庫縣知事

君は靜岡縣士族長義連君の令弟にして明治十四年八月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに文官高等試驗に登第す。

然して職を官途に奉じ爾來、文部省普通學務局第三課長、香川縣事務官、高知山梨、福岡各縣警察部長、大分、山口、京都各府縣內務部長、岡山、島根、石川各縣知事等を歷任し、昭和二年四月立憲政友會內閣成るや兵庫縣知事に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人とよ子は靜岡縣の人中村忠七君の長女にして、君との間に忠連君、文連君武連君、素連君、正連君、秀連君及び福子等あり、現に同縣知事官舍に住す。

頓宮雄藏君

辯護士　特許辨理士

君は大分縣の人頓宮百右衞門君の二男にして、明治九年四月十五日を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切瑳琢磨、明治三十四年明治大學法科を卒業し、後ち辯護士試驗に應じて首尾よく登第し、而して辯護士及び特許辨理士を開業して以つて現在に及ぶ。東京市日本橋區本石町一ノ三番地に住す。

尾崎行雄君

正三位勳一等

政治家

君は三重縣士族尾崎行正君の長男にして、安政六年十一月二十日を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業するや直ちに操觚界に投じ甲府峽中新報記者、郵便報知新聞記者等を歷任し、年齒僅かに二十二才にして已に新潟新聞に主筆として其の健筆を揮ふに至る。

斯くて其の侃諤の讜論は時の大藏卿侯爵大隈重信君の認むるところとなり、犬養毅君等と共に統計院權少書記官に任ぜられ、後ち官を辭して再び報知新聞、朝野新聞等に筆を執り、明治二十三年推されて衆議院議員に當選し、永く中央政界にありて我が國政に參與し、其の貢獻すること尠少ならず。

爾來外務省參事官、文部大臣、司法大臣、東京市長等を歷任し曩に歐洲を漫遊し且つ列國議會同盟會に參列し、而して山本內閣時代犬養翁と共に海軍廓清問題を提げて之れが彈劾に努め、遂に初期の目的を達成して一般國民より憲政の神と尊崇せらる。

君は常に議會政治革正に盡瘁し、或は朝にありて、或時は野にありて終始我が國政に一身を捧げ、然も議會開設以來の衆議院議員にして三重縣郡部より推されて當選すること實に十五回、今や中央政界にありて其の高見を吐く、眞に我が國憲政史上の一異彩と謂ふべきなり。

現に東京府住原郡北品川宿二二五番地に住し電話高輪三九五番たり。

奧村鹿太郎君

勳八等

株式會社奧村商會社長

君は兵庫縣の人奧村直藏君の長男にして、明治四年十二月十三日を以つて生る。夙に姬路中學校を卒業するや神戶に出で神榮株式會社に入り、累進して同社支配人に擧げられ、更に明治四十一年同社を辭し同六年獨力以つて生糸貿易商を創始し、後ち同店を株式組織に變更すると共に君は同社々長に就任して活躍大いに努め、曩に日淸日露の兩役に出征して勳八等に叙せらる。趣味に謠曲、書畫、園藝等あり、夫人梅子は前貴族院書記官長中根重一君の三女たり、現に橫濱市月岡町一ノ八番地に住し電話二五九六番なり。

小笠原長生君

子爵　正三位勳二等功四級

在鄉海軍中將　宮中顧問官

當家は鎭守府將軍源經基の裔信濃守秀政の三男忠知の後なり、忠知德川氏に仕へ豐後國杵築四萬石を食む、後ち三州吉田に移封せられ封邑四萬五千石に增加し夫より數世を經て佐渡守長國君に至り、明治維新の際肥前唐津の城主として封邑六萬石を領す。

君は其の令孫にして慶應三年十二月を以つて生れ、明治六年先代長國君の家督

を相續し、同十七年子爵を授けらる。明治二十年海軍少尉候補生となり、大正七年海軍中將に陞進す。

其の間海軍々令部出仕、東宮御學問所幹部等を歴任し、現に宮中顧問官たり、鳳翼又は金波樓主人と號し著書多し、夫人秀子は伯爵松平直之君の令姪たり、現に東京府豐多摩郡代々幡町幡ヶ谷九番地に住し電話四谷二五七番たり。

大里廣次郎君

衆議院議員　醫師
福岡縣醫師會長

君は福岡縣の人福間嘉七郎君の四男にして、明治八年十月を以つて生れ、同二十六年三月先代文龍君の養嗣子となる。

明治三十一年長崎醫學專門學校を卒業するや直ちに地方刀圭界に活躍し、現に福岡縣醫師會々長にして、曩に鄉黨の輿望を擔つて馬を陣頭に進め、幾多闘士と奮戰して見事當選の榮譽を擔ひ、今や中央政界に其の令名を鳴らす。

大山斐瑳麿君

勳六等　煙草元賣捌所長
東京商業會議所副會頭

曾つては官界にありて隨所に俊腕を振ひ、今や新日本財界の曉星を以つて目せられ、令名嘖々たるを我が大山斐瑳麿君となす。君は岡山縣の人大山達聞君の二男にして、明治十年九月一日を以つて同縣苫田郡津山町に生る。

君や天資英明、才幹早くも群童を拔き夙に鄉里の中學を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、日本大學に入りて法律學を修め、明治三十六年同大學在學中既に文官高等試驗に登第して名聲頓に擧る。

然して明治三十七年優秀の成績を以つて同學を卒業するや職を官界に奉じ、大藏省に入りて臨時煙草製造準備局に勤務せり、これ即ち君が煙草に交涉を有する第一歩にして、翌年二月專賣局事務官補となり函館煙草販賣所長に任ぜらる、而して君の俊才は早くも此の間煙草に關する一切の智識を修得し、遂に同年十月官を辭して實業界に投ず。

斯くて東京煙草元賣捌株式會社の創立を計り、其の設立を見るや推されて同社專務取締役兼支配人に就任し、尙ほ日本煙草輸出株式會社の專務取締役に擧げられ、同四十一年同社解散するや翌年二月更に日本模造皮製造株式會社を創立して同社々長に任じ、同四十四年十一月同社を辭し翌年二月下谷煙草合名會社の代表社員となり、更に同社解散後即ち大正三年二月煙草元賣捌所を開設して多年の蘊蓄を傾倒し、業務の發展隆昌に盡瘁せしかば業運愈々隆盛に赴き、今や帝都樞要の地に支店數ヶ所を有し其の勢力や比肩するものなし。

現に前記の諸職にある外尙ほ全國煙草

夫人ツル子は福岡縣の人古藤榮吉君の令妹にして其の間に武廣君及びアキ子、治子、美代子、正子等あり、現に福岡縣嘉穗郡二瀨に住す。

元賣捌人協會副會長として斯界に貢獻すること甚大、君又篤學にして文筆を能くし、明治三十七年家事經濟書を著はし、女子高等師範學校の教科書として採用せられ世を稗益すること尠少ならず。

現に東京市下谷區上野櫻木町二三番地に住し電話下谷五〇四四番たり。

大藤高彦君

工學博士　從三位勳二等
京都帝國大學教授

君は京都府の人高田彌二郎君の二男にして、慶應三年十一月を以つて生れ、明治二十一年十一月先代高敏君の養嗣子となり前名宇之助を改稱す。

明治二十七年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し、更に大學院に入りて同院を卒業す。爾來第三高等學校教授、京都帝國大學工科大學助教授、同教授等を歴任し同三十六年八月工學博士の學位を授けられ、大正三年七月同大學工科大學長に任じ現に同大學教授たり。

明治三十二年五月土木學研究の爲め獨逸に留學し、且つ大正五年四月歐米各國に出張を命ぜらる。夫人を禮子と呼ぶ、現に京都市上京大將軍坂田二一番地に住し電話西陣一二一〇番なり。

大倉喜七郎君

合名會社大倉組頭取
大倉商事株式會社社長

君は男爵大倉喜八郎君の長男にして、明治十五年六月を以つて生る。夙に學習院普通部の課程を修むるや大志を抱いて英國に航し、ケンブリッヂ大學に入りて研鑽すること數年、優秀の成績を以つて同大學を卒業し、造詣を深くして歸朝す。

歸朝後は專心嚴父を援けて諸事業に從事し、直接經營の衝に立ちて君が多年の蘊蓄と稀代の敏腕とを以つてせしかば業績愈々擧り、現に大倉組頭取たる外大倉商事、大倉鑛業、帝國ホテル各株式會社々長にして且つ大日本麥酒、帝國製麻、汽車製造、日本電氣、日本皮革、秋田木材、日本自動車、大倉ビルディング、宇治川電氣、日本化學工業、日本ローデ、溜川炭礦、日本製靴各株式會社の重役として我が財界に令名あり。

君は永く英國にありし關係上其の氣品英國流の所多く、且つ俠氣に富み、學博大に加ふるに音樂に趣味深く、斯界に關する造詣淺からずといふ。現に東京市麹町區下二番町三十番地に住し電話四谷三七四七番たり。

大平睦四郎君

實業家

君は福島縣の人鷲又市君の二男にして明治八年二月を以つて生れ先代兵助君の養嗣子となる。夙に實業界に志し現に磐城實業銀行取締役たる外常磐工業株式會社取締役として知らる。

君は財界に重きをなすのみならず尙ほ地方自治制に盡瘁すること甚大、現に窪田村長として令名あり。

夫人マチイ子は養父兵助君の二女にし

夫人鶴子は岡山縣士族稅所信篤君の長女にして君との間に後一君、英輔君、康平君、英作君及び米子、壽滿子等あり、東京市小石川區小日向臺町一ノ十番地に現住し電話小石川九九七番たり。

大和田金之助君

大和田貯蓄銀行取締役
大和田銀行監査役

君は滋賀縣の人大橋嘉平君の二男にして、大和田莊七君の義弟に當り、慶應二年八月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し現に大和田貯蓄銀行、大和田銀行各株式會社重役として當地方實業界に重きをなす。

現に福井縣敦賀に住し電話四一番なり

大原萬壽雄君

東洋生命保險會社常務取締役

本邦保險界に於ける奇才として令名ある大原萬壽雄君は、東京府士族大原直鑑君の二男にして、明治八年十一月を以つて生る。

夙に實業界に身を投じ、曾つて群馬硫黄株式會社取締役たりしが、明治三十三年東洋生命保險株式會社の創立に參畫して、其の成立を見るや同社經理部長兼統計課長に任じ、爾來同社の發展擴張に全力を傾注し、後ち同社常務取締役に擧げられ、經營の樞機に參與して君の俊腕を振ひ同社をして今日の大を成さしむ、蓋し君の力與つて偉大なりと謂ふべし。

君人と爲り英明にして、其の絕倫の精力に加ふるに博大なる識見は能く內外の事務を鞅掌して遺憾なし、又當代稀に見る一異彩たるを失はざるべし。

夫人萬壽子との間に壽人君、稔君、宏君、直行君、貞行君及び美智子、喜代子等あり、現に東京市外淀橋町柏木一三一番地に住し電話四谷一三一三番たり。

大塚總一郎君

筑波電氣株式會社長
筑波鐵道株式會社取締役

君は茨城縣の人大塚大平次君の長男にして、明治十八年一月を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業するや直ちに實業界に投じて肥料商を營み、岩崎屋と稱して斯界に令名あり。

曩に筑波電氣會社を興して其の社長となり、專ら經營の衝に當り現に其の要職にある外筑波鐵道、千住屠場、眞壁花崗石各株式會社の重役にして、財力才幹二つながらに備はり同地財界の重鎭たり。

君尙ほ公共事業に貢獻すること甚大、現に消防組頭にして且つ茨城縣多額納稅者として直稅千七百八十余圓を納む。

夫人喜名子は茨城縣の人宮本清二郎君の令妹にして君との間に陽一郎君、昇君及びとみ子等あり、現に茨城縣筑波郡北條に住し電話二番なり。

大谷竹次郎君

松竹キネマ株式會社長
歌舞伎座株式會社長

東西劇界に其の名聲高き我が大谷竹次郎君は京都府の人大谷榮吉君の二男にして、白井松次郎君の令弟に當り、明治十年十二月十三日を以つて生る。

夙に劇界に入り株式會社歌舞伎座相談役兼營業部長を經て現に同社長たる外松竹合名會社々長及び松竹キネマ、明治座各株式會社々長にして、且つルナーパーク株式會社相談役たり。

夫人さわ子は養父久助君の三女にして其の間に邦平君、彥二君、賢治君、昭太郎君及び登久子等あり、現に埼玉縣入間郡所澤二〇五番地に住し電話所澤二五番なり。

小澤久助君

所澤銀行頭取
所澤町會議員

君は埼玉縣の人大西三千兒君の長男にして、明治二十年六月十二日を以つて同縣香川郡川東村に生る。夙に鄕里高松中千代藏を改稱す。

曩に永く所澤町會議員に選出せられ、尙ほ所得稅調査委員に選出せらるゝ事前後三回、更に所澤信用組合の創立以來幹事に擧げられ、且つ所澤銀行に入りて監査役、取締役等を經て大正六年十一月以來同行頭取に推され、傍ら砂糖商を營み當地財界に重きをなす。曾つて武藏製粉株式會社及び所澤貯蓄銀行各重役たりしことあり。

夫人さわ子は養父久助君の三女にして其の間に邦平君、彥二君、賢治君、昭太郎君及び登久子等あり、現に埼玉縣入間郡所澤二〇五番地に住し電話所澤二五番なり。

大西一郎君

從五位勳六等
東京市助役

君は香川縣の人大西三千兒君の長男にして、明治二十年六月十二日を以つて同縣香川郡川東村に生る。夙に鄕里高松中

し、四十一年七月に至る迄同大學講師として學徒の薫陶に力を致し、傍ら京都日出新聞主筆たりしが、同年職を辭して松坂銀行、參宮自動車各株式會社の重役となり同四十二年十月伊勢殖産會社を創立し爾來同社々長として今日に至る。

君又地方自治制に盡瘁すること甚大、現に松坂町農會長たり、現に三重縣飯南郡松坂町に住し電話四一三番たり。

大橋新太郎君

從五位勳四等
實業家

君は越後長岡の人大橋佐平君の長男にして、文久三年七月を以つて生る。嚴父佐平君は夙に出版業によりて博文館の基礎を致し、我が國出版界に貢獻すること尠少ならず。

君は曾つて同人社に學び、明治十四年父君を援けて北越新報の前身たる越佐毎日新聞を創刊し、後ち明治二十年東京に出でて博文館を創立し、今や我が博文館の名は内外に普ねし、曩に父君の遺志にして大橋圖書館を設立し以つて知識の源泉たらしめ我が國啓蒙開發に盡瘁せり、是れ即ち本邦私立圖書館の創始たり。

尚ほ大橋育英舍を起して多數の貸費生を養成し、且つ明治三十五年東京市より推されて衆議院議員に選出せられ、又東京市會議員、日本橋區會議員として東京市政に參與し尚ほ日本工業倶樂部、濟生會、理化學研究所、協調會、報功會、明治神宮奉賛會等の發起創設に關與し、且つ東洋協會日露協會等多數の公益法人理事等を勤め、現に十數會社に社長又は重役として聲名あり。

現に東京市本鄉區弓町十六番地に住し電話小石川七四六番たり。

×

小川琢五郎君

醫學博士　正五位
京都府立醫科大學長

君は大阪府の人先代光齋君の二男にして、明治九年三月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し、更に同四十三年内科學研究の爲め英獨に留學し、造詣を深くして歸朝す。

爾來京都府立醫學專門學校敎諭、長崎醫學專門學校敎授等を歷任し、現時は京都府立醫科大學々長たり。

夫人久野子は大阪府の人島好節君の三女にして其の間に捨雄君及び道子、文子泰子、英子等あり、現に京都市下京八坂塔南通東に住し電話中二四〇八番なり。

小笠原菊次郎君

共同パルプ株式會社取締役
王子製紙株式會社常務取締役

我が製紙界は勿論一般財界に令名ある小笠原菊次郎君となす、君は愛媛縣士族小笠原次郎君の長男にして、明治八年七月八日を以つて生る。

明治二十九年大阪商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じて日本綿花株式會社に入社し、同四十年三井物産株式會社北海道支店に轉勤し、更に三井合名會社本社及び樺太支店等を歷勤す。

斯くて大正五年王子製紙株式會社に入りて同社取締役に任じ、同六年同社常務取締役に推され現に其の傍ら共同パルプ日本フエルト、北海工業、樺太鐵道各株式會社重役として知らる。社交に厚く日本倶樂部、工業倶樂部の各會員にして、趣味に讀書あり。

夫人光子は大阪府の人武田貞次郎君の長女にして大阪梅花高等女學校を卒業し君との間に英男君、武夫君及び久仁子等あり、東京府豐多摩郡中野町中野六一九番地に現住し電話四谷一四二五番たり。

小野喜代吉君

北海道多額納稅者

君は北海道の人村田和吉君の長男にして、明治十二年四月を以つて生れ先代辰五郎君の養嗣子となる。現に北海道多額納稅者として國家に直稅を納むるを以つて即ち名士となす。

夫人ナミ子は青森縣の人葛西定四郎君の二女にして君との間に實君、辰雄君、勉君及び操子、とし子、りつ子等あり、現に札幌市南一條西五ノ五番地に住し電話三〇七番たり。

×

大泉哲君

九十八銀行取締役支配人
安田貯蓄銀行取締役

君は宮城縣の人大泉正名君の四男にして、明治十二年四月七日を以つて生る。明治三十九年京都帝國大學法科大學經濟科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて株式會社安田銀行に入り同行盛岡支店長を經て、大垣共立銀行に轉勤し同行取締役兼營業部長、支配人等を歷任し、後ち再び安田銀行に入りて仙臺支店長に任じ更に安田貯蓄銀行取締役兼支配人に擧げられ、現に九十八銀行取締役兼支配人たる外安田貯蓄銀行取締役として知らる。

夫人はつ子は宮城縣士族關與平君の長女にして、東京女子高等師範學校を卒業

大場多市君

日本興業銀行監査役
共立鐵業株式會社取締役

君は東京府士族大場十左衛門君の四男にして、文久元年八月を以つて生る。夙に實業界に投じ日本興業銀行に入りて恪勤精勵、累進して同行支配人兼營業部副部長等を經て現に同行監査役たる外共立鐵業株式會社取締役として令名あり。

夫人きよ子は神奈川縣の人岡本喜太郎君の令妹にして君との間に義人君、不二君、春夫君、士朗君及び千代子、いさ子等あり、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川七七〇番なり。

小野喜一郎君

實業家
大分縣多額納稅者

君は大分縣の人小野藤治郎君の長男にして、明治二年二月を以つて生れ前名喜市を改稱す。夙に地方實業界にありて令名を馳せ、現に大分縣多額納稅者として直稅三千五百九十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をハル子と稱し、大分縣の人帶力寅吉君の令妹にして君との間に悅治郎君三郎君、昇君、藤四郎君、快五郎君及び須磨子、ユフ子、エイ子、須惠子等あり現に大分縣連見郡中山香村に住す。

大倉恒吉君

伏見銀行取締役
帝國酒造株式會社取締役

當家は山城國笠置郡より出づ、今を去る三百年以前に現在の地に移住し、爾來今日まで同所に居を定めて酒類の製造販賣業を營み、先代治右衞門君又祖業を繼承し益々盛大ならしめしも、不幸早世せしかば夫人其の後を享けたり。

君は即ち先代治右衞門君の二男にして明治七年一月を以つて生れ、同十九年家督を相續し母堂を援けて家業に精勵し、新に銘酒月桂冠の釀造販賣を開始せしかば世評頓に擧り、逐年其の釀造高を增加し以つて今日の盛大を致せり。

尙ほ京都府多額納稅者として知られ現に直稅三千七百八十余圓を納め、且つ前記會社の重役として令名あり。

夫人ミエ子は京都府の人齋藤伊兵衞君の長女にして君との間に五男二女あり、現に京都府紀伊伏見に住す。

小野田益三君

文士
文藝雜誌「眞砂」主幹

君は愛知縣渥美郡高豐村高塚の出身にして、明治二十七年四月三日を以つて生る。夙に文學に志し鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、早稻田大學英文科に學び優秀の成績を以つて同科を卒業す。

然して暫らく鄕里にありて當地の郵便局長を始め其他各種公共事業に貢獻し後ち再び上京して、專ら文筆に親しみ小說戲曲等の名著尠からず、尙ほ文藝雜誌「眞砂」の主幹として今や新興日本文壇に令名あり。

現に東京市本鄕區春木町三ノ六番地に住し電話小石川四一五八番たり。

小曾根貞松君

株式會社阪神鐵工所專務取締役
明石瓦斯株式會社取締役

君は兵庫縣の人小曾根喜一郎君の長男にして、明治十二年四月を以つて生る。

夙に實業界に投じ現に株式會社阪神鐵工所專務取締役たる外濟生信託、明石瓦斯山陽皮革、日本製鐵、神戸電機製作所、朝日海上火災保險、神戸瓦斯、伊丹製絨所各株式會社の重役にして且つ本小曾根合資會社代表社員たり。

曩に財界に活躍する傍ら神戸市政に盡瘁することと甚大、神戸市參事會員たりしことあり、夫人をきよ子と稱す、神戸市湊町一ノ二八四番地に現住す。

大隅行一君

實業家

君は山口縣士族大隅復三君の長男にして、明治六年十二月二十七日を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學英法科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて住友銀行に入り同行横濱、博多各支店支配人を歷任し、大正六年本店外國課長に擧げられ曩に同行より歐米各國に派遣せられ、留まりて銀行學を研鑽すること二ケ年、其の造詣を深くして歸朝し、爾來同行内外に重きをなし、同行の爲め貢獻すること甚大なりき。

然して後ち同行を辭して日米板硝子株式會社を創立し、君推されて同社常務取締役たりしが更に共立企業株式會社常務取締役及び戸畑鑄物、木津川製作所各株式會社重役を歷勤せり。

夫人をキク子と稱し君との間に改介君及びキミ子等あり、現に其の住宅を東京市麻布區谷町四八番地に有し電話青山六六四三番たり。

小野美太郎君

興商銀行取締役
山梨貯蓄銀行取締役

君は山梨縣の人小野彥右衞門君の長男にして、明治二年十月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して君が敏腕を縱橫に振ひ現に興商銀行、山梨貯蓄銀行各株式會社の重役として知らる。

夫人いの子は山梨縣の人河野悅太郎君の令妹にして君との間に正賢君、美雄君有文君等あり、現に山梨縣日川に住す。

小野塚喜平次君

法學博士　從三位勳三等
東京帝國大學法學部教授
貴族院議員

君は新潟縣の人小野塚平吉君の長男に

して、明治三年十二月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業す。

斯くて教育界に投じ其の博大なる蘊蓄を傾注して學徒の薫陶に盡瘁し、而して明治三十年より三十二年に至る二ケ年間及び大正八年の兩度歐米各國を歴遊して斯學の見學をなし、曩に東京帝國大學助教授、同教授、同學長等を歴任す。

然して現時は東京帝國大學法學部教授たる外大正十四年十月學士院より選ばれて貴族院議員に任せらる。夫人を孝子と稱し子爵石黒忠直君の長女たり、東京市小石川區小日向臺町二ノ三六番地に現住し電話小石川二一番たり。

×

小能五郎君

飯野銀行取締役
武藏野鐵道株式會社取締役

君は埼玉縣の人增田忠次君の令弟にして、明治二年七月を以つて生れ、同二十七年五月先代正三君の養嗣子となる。夙に地方財界にありて君が敏腕を鳴らし、一躍斯界に重きをなし、現に前記諸會社の取締役たる外埼玉絹綿工業株式會社監査役として知らる。現に埼玉縣入間郡飯能村に住す。

大隅清吉君

電氣機械器具製造販賣
大電舍々主

曾つては教育界にありて國民教育の大任を完うし、感ずるありて身を實業界に投じ電氣事業に活躍するや嶄然頭角を現はし、當代立志傳中の人として聲名ある我が大隅清吉君となす。

君は埼玉縣の人大隅正次郎君の二男にして、明治二十六年一月十五日を以つて同縣北葛飾郡松伏領村田島に生る。

夙に穎才群童の比にあらず、大正元年埼玉縣立中學校在學中已に小學校教員檢定試驗に合格し、育英の道に專念たりしが大正四年感ずるところありて實業界に轉じ、敢然上京してユニオン電氣合資會社に入りて恪勤精勵すること六ケ年、其の間具さに斯業の技術に熟達し、且つ經營の表裏に精通せしかば、辭して獨力電氣器具の製造販賣業を開始せり。

時に大正九年十月の交にして、社名を大電舍と稱し事務所並に調整工場を芝區本芝二丁目に、機械工場を同區新堀町に設置し、電氣諸機械器具の製造販賣を始めとして電氣用絶緣諸材料、電信、電話配電盤及び開閉器類等に至るまで各種製造販賣並に修理設計を營み、鋭意事業の發展に努めしかば幾許もなく業況隆昌に赴き、同工場のみにては到底一般華客の需要に應じ兼ぬるまでの繁忙を來し、更に事業の大擴張を決行して事務所を麻布區飯倉町に移すに至れり。

斯くて益々飛躍奮闘、日夜精勵せしかば愈々繁榮し、華客亦激增せしかば大正十三年九月京橋區木挽町の現事務所を建設して更に大飛躍を試み、遂に今日の盛況を呈し今や其の取引先は陸軍省、海軍省、鐵道省、東京市役所、東京市電氣局

等の諸官廳を始めとして三菱各社、日立製作所其他一流大會社等に信用絶大、斯くて斯界に嘖々たる高評を博し、東都業界の白眉を以つて目さるゝに至れり。

顧みるに君が經歴の跡たる、固より其の天稟秀逸事業的才能豊かなる結果なりと雖も、又一面其の不撓不屈の強き精神と至誠至純以つて事業に衝りし賜と謂ふべく、今や新興日本財界に起つて其の大成を俟つ盖し疑ひなかるべし、東京市京橋區木挽町一〇ノ三番地に現住す。

小野彦左衞門君

鹽釜倉庫株式會社取締役

君は宮城縣の人小野眞治君の長男にして、明治九年二月を以つて生る。夙に當地方にありて運送業を經營して斯界に令名を馳せ、現に其の傍ら鹽釜倉庫株式會社取締役たり。

夫人をたけよ子と稱し宮城縣の人鈴木慶吉君の長女にして君との間に彦八君、彦雄君、彦作君、彦行君、彦直君及びはつよ子、みね子、智惠子等あり、宮城縣宮城郡鹽釜に住す。

×

大貫公光君

安全土地株式會社長
帝國商事株式會社長

君は神奈川縣の人大貫高次郎君の長男にして、明治二十二年三月一日を以つて同縣高座郡に生る。夙に鄕校を卒ふるや大志を抱いて上京し、切磋琢磨、明治四十三年日本醫學校を優秀の成績を以つて卒業し、直ちに醫術開業試驗に登第して東都刀圭界に活躍すること數年、尋いで東京帝國大學醫科大學に入りて專ら傳染病學及び細菌學を研究せり。

斯くて明治四十四年シャム國立傳染病研究所の聘に應じて渡航し、同所技師に任じ後ちシンガポールに於て獨力私立傳染病研究所兼養生院を創立經營し、斯界に貢獻するところ甚大なりき。

偶々南洋の天地を望み、此處に世界的大事業を興して大いに活躍せんとの大望を抱き、遂に聽診器を捨てゝ敢然事業界に雄飛し、大正二年馬來半島に移りスレンバー市を中心として、トレンガヌ王國蘭領印度に於て護謨及び椰子の栽培事業並に鑛山業を經營し、且つ土地開拓事業に着手して益々發展擴張し、其の開拓經營面積實に二千有餘萬坪に達し、名聲南洋の天地に響き渡り、斯くて留ること十余年、豫定年限到來したるを以つて同地を引上げて歸朝す。

然して機を見るに敏なる君は都市發展に伴つて土地經營事業の將來有望なるを看破し、直ちに安全土地株式會社及び帝國商事株式會社を創立して爰に數萬坪の鹿島文化村を創設し、諸名士の別莊又は住宅壹千余軒を建築し、今や本邦第一の一大文化村として識者間に喧傳せらるゝに至れり。

然も尚ほ君の事業的敏腕は更に進展し現に東京市郊外の諸方面に其の所有又は經營土地頗る多く、已に今日までに君の取扱へる土地の總面積たる實に六千餘萬

坪に達し、斯界の第一人者を以つて目せらる。

尙ほ大正十五年安全住宅株式會社を創立して自ら其の社長に就任し、而して君の絶倫なる勢力は是を以つて足れりとせず、尙ほ各方面に其の渾腕を振ひ、今や一大理想の實現に對つて奮進する、豈、偉ならざらん哉　東京市本郷區駒込富士前町一九番地に現住す。

小野三雄君

小野製糸株式會社常務取締役

君は長野縣の人丸山平八郎君の令弟にして、明治十二年十二月十日を以つて生れ、同三十八年先代その子の入夫養子となる。

夙に實業界に雄飛せんとの大志を抱き學業を卒ふるや、直ちに地方財界に投じて君が天稟の才幹を事業の上に遺憾なく發揮し、今や小野製糸株式會社常務取締役として斯界に令名あり。

夫人その子は神奈川縣の人來栖壯兵衛君の長女にして君との間に達雄君及び五女あり、長野縣上伊那郡小野に現住す。

大林義雄君

株式會社大林組社長
ブランチヤード製作所代表取締役

今や東西土木建築界に異常の名聲を馳せつゝあるを我が大林義雄君となす。君は大阪府の人大林芳五郎君の長男にして明治二十七年九月を以つて生る。

夙に早稻田大學に學び後ち歐米に遊び造詣を深くして歸朝するや、父業を繼ぎて土木建築請負業を營み同社によりて完成せられし著名なるものに東京驛、日本興業銀行、歌舞伎座、大阪ビルデイング住友本店、桃山御陵、灘波橋、生駒隧道等ありて我國斯業界の最大權威として目せられ令名東西に嘖々たり。君今や前記諸會社の重役にして曩に大阪商業會議所議員たりしことあり。君未だ年齒春秋に富めり其の前途を囑望せらるゝ蓋し故なきにあらざるなり。

夫人を尙子と呼び子爵上原勇作君の二女にして貞淑の聞え高し、現に大阪市東區今橋町五ノ一六番地に住し電話本局五〇二番たり。

×

岡田信一郎君

從五位　工學士
東京美術學校敎授

君は東京府の人岡田謙吉君の二男にして、明治十六年十一月二十日を以つて生る。明治三十九年東京帝國大學工科大學建築科を優秀の成績を以つて卒業し、後ち東京美術學校講師に任じ、現に同校敎授たる外早稻田大學理工科等に於て講座を擔當し、我が國建築界に令名あり。

夫人靜子は岩村直三郎君の養女にして君との間に一男二女あり、東京市牛込區神樂坂町二ノ二三番地に住し電話牛込三五九二番たり。

小瀧無事郎君

日本玩具株式會社監査役
日本陶器株式會社監査役

君は愛媛縣士族坂本總護君の二男にして、明治二年十一月を以つて生れ同十六年十二月先代清音君の養嗣子となる。

明治二十六年京都同志社普通部を卒業するや直ちに實業界に投じ、曩に森村組に入りて精勵すること數年現時は日本玩具、日本陶器各株式會社の重役として同地財界に令名あり。

現に愛知縣名古屋市東區撞木町一ノ三番地に住す。

×

小川邦孝君

東京製本合資會社長
東京印刷工組合組長

君は兵庫縣の人故小川利貞君の三男にして、慶應元年二月十一日を以つて生る夙に大志を抱き、明治十二年の交東都に上り國文社に入りて活字の鑄造、植字、製版等實地に就きて苦心精勵すること數年尋いで大阪、靜岡、名古屋等に於て印刷製本業を研究して造詣を深くす。

斯くて明治三十二年十一月東京製本合資會社を創立して活版石版諸印刷より各種製本業を開始し、爾來年と共に業勢加はり、主として各官廳會社銀行等を華客となし、今や我が東京製本合資會社の聲價東都に遍ねく、其の信望絶大なるは一つに以つて君の奮闘の賜と謂ふべし。

君又余暇を以つて文筆に親しみ、且つ宗敎哲學の研究に熱心にして社會百般の事に精通し加ふるに我が國勞働問題に關する研究家として知らる。東京市芝區神谷町十八番地に現住す。

×

小野鑑正君

工學博士
九州帝國大學工學部敎授　從四位勳三等

君は東京府の人小野正作君の長男にして、明治十五年十月を以つて生る。明治三十九年京都帝國大學理工科大學機械工學科を卒業し、次いで大學院に入り間もなく機械工學研究の爲め英佛米の諸國に留學すること多年、造詣を積みて歸朝す及び九州帝國大學工科大學敎授等を歷任し、勳功に依り從四位勳三等に敘せられ現に九州帝國大學敎授として令名あり。

夫人信子は故理學博士三浦桓一郎君の長女にして其の間に一男一女あり、現に福岡縣糟屋郡箱崎町に住す。

及川銀太郎君

及川電氣商會主
及電社電機工場主

新興大日本の財界に活躍して逐年名聲を博しつゝある新進實業家及川銀太郎君は岩手縣の人及川幸藏君の長男にして、明治十四年十一月五日を以つて同縣和賀郡二子村に生る。

夙に盛岡中學校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて上京し、明治四十三年早大商科を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて君の慧眼は早くも電氣事業の將來有望なるを洞察し、斯業に經驗を積まんと志し、即ち株式會社鳥一部製作所に入りて恪勤精勵すること數年、此の間電氣に關する總てに精通せしかば、大正七年獨力電氣諸機械器具及び諸材料の製造卸賣業を開始し、爾來奮闘大いに努めしかば業績逐次擧り、斯界の信望と一般需要家の信用月に年に加はり、今や帝都に於ける有數なる電機業者を以つて目さるゝに至れり。

然して更に事業の大擴張と共に市外五反田町に及電社なる名稱の下に廣大なる工場を設け、其の優良なる製品は内地にありては各會社及び工事請負業者を初めとして同業者數百軒に賣出し、尚ほ遠く朝鮮、支那方面へも販路を振展して盛んに輸出し、其の年商高十數萬圓を計上するの盛況を示し、今後の活躍發展は多大なる興味を以つて目せられ、斯くて君が財界に雄飛する又疑なかるべし。

夫人みつ子は東京府立第一高等女學校の卒業にして君との間に大吉郎君及び喜美子等あり、現に東京市芝區島森町一番地に住し電話銀座三七五九番たり。

大倉邦彦君

小田原製紙株式會社大倉洋紙店取締役

君は佐賀縣の人江原貞晴君の二男にして、明治十五年四月九日を以つて生れ、後ち大倉和親君の養嗣子となる。

明治三十九年東亞同文書院商務科を卒業するや、直ちに大文洋行上海支店に入り尋いで大阪支店に轉勤し、現に養父の遺業を享けて大倉家事業を總裁し、前記の外大文洋行、小倉製紙所、東京金網各株式會社の重役として知らる。

君尚ほ深く心を公共的事業に碎き、其の今日までに公共の爲めに貢獻すること甚大なり、夫人を琴柱子と稱す、東京府荏原郡目黒三田五四番地に現住し電話高輪九九二番たり。

大林賢四郎君

株式會社大林組常務取締役
ブランチヤード製作所取締役

君は福島縣の人藤泉榮君の三男にして大林義雄君の義兄に當り、明治十八年十一月を以つて生れ、大正三年四月先代ふさ子の入夫となる。

明治四十四年東京帝國大學工科大學建築科を卒業するや實業界に投じ、現に株式會社大林組常務取締役たる外ブランチヤード製作所取締役として知らる。

夫人ふさ子は大阪府の人大林芳五郎君の令嬢にして其の間に一郎君、芳郎君及び文子、敏子等あり、現に兵庫縣御影六九番地に住す。

大井富太君

佐久鐵道株式會社長
上田蠶種株式會社監査役

君は長野縣の人大井清次郎君の長男にして、明治元年二月を以つて生れ、先代てい子の養嗣子となる。夙に鄉校を卒ふ

るや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨螢雪の功空しからず、明治大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記會社の社長たる外佐久石材、上田蠶種各株式會社の重役として令名あり。

夫人れん子は同縣の人井出和太郎君の長女にして君との間に正樹君、禮三君及びよし子、はな子、きよじ子、きつじ子むめじ子、はる子等あり、現に長野縣南佐久郡中込村に住す。

大倉喜三郎君

日本鋼管株式會社取締役

君は越後新發田町の出身にして、大倉光太郎君の令兄に當り、明治元年六月を以つて生る。明治二十六年東京帝國大學工科大學建築科を卒業す。

然して後ち叔父大倉喜八郎君の經營する大倉組に入りて倫敦支店長となり、歸朝するや札幌麥酒株式會社取締役に擧げられ、後ち日之出生命保險株式會社を創立して同社々長に就任せしが現時は同社及び特許電球株式會社の相談役にして曾つては日本アスファルト工業株式會社取締役たりしことあり。

夫人をフミ子と稱し東京府の人梅浦健吉君の養姉たり、現に東京市外馬込一三四一番地に住す。

大西良輔君

從六位勳四等功五級
大安生命保險株式會社監査役

君は神奈川縣の人大西正生君の四男にして、明治十三年八月を以つて生れ、大正八年十月先代叔父正雄君の養嗣子となる。夙に軍籍に身を投じ累進して海軍少佐に陞進す。

然して豫備役に編入せらるゝや支那に渡り、楊子江河口水先案内會社を經營して功を奏し、現に大安生命保險、東海鋼業、大日本自動車各株式會社監査役として知らる。

曩に日露の役に際し旅順閉塞隊に加はりて功あり、勳四等功四級に叙せらる、尚ほ神奈川縣多額納稅者にして現時直接國稅千七百八十余圓を納むといふ。

夫人さく子は東京府の人鹽濱郡司君の四女たり、現に横濱市南太田九〇四番地に住す。

大巻政治郎君

合名會社三西商會代表者

君は岩手縣の人大巻萬六君の長男にして、明治二十年二月一日を以つて同縣紫波郡日詰町に生る。夙に學に厚く才幹衆に秀で、獨學以つて早くも小學教員檢定試驗に登第し、鄉里にありて教鞭を執りしも、更に進んで仙臺東北學院專門部文科に學び、明治四十三年優秀の成績を以つて同校を卒業す。

斯くて札幌東尋常高等小學校に奉職し地方教育界に盡瘁すること三年有半、後ち感ずるところありて斷然教職を拋ちて臺灣に航し、同地甲科練習所に學ぶこと一ケ年、業成るや直ちに臺灣總督府警部補を拜命し、恪勤すること四ケ年にして

官を辭して實業界に投ず。

然して新高製糖株式會社に入社し、同社書記より累進して庶務課長に任じ、君が天稟の才腕を縱橫に振つて同社發展に貢獻すること甚大なりしが固より大志ある君は永く現職に甘んずるに忍びず、窃に獨立の機運熟するを念じつらん……

偶々大正十二年も將に暮れなんとし、數百里の海洋を隔てゝ遙かに東都を望めば君の心氣や正に慨然、茲に於てか愈々獨立を決し同社を圓滿辭して上京し直ちに三酉商會を開設して電氣器具、機械、製管其他諸機械等の製造販賣を初めとして木材に關する一切の業務及び土木建築請負業を營みて精勵するや業況逐次擧り後ち同商會を合名組織に變更して自ら代表社員に任じ、內外の社務を執掌して活躍大いに努めしかば、斯界の信用頓に加はり、今や復興途上にある君の事業たる益々多事にして多端、其の前途の大成期して俟つべきものあり。

扨て其の趣味を叩けば答へて曰く「事業なり」と又ノタマハク〳〵「書畵骨董を愛好するによりて心氣を更生し、圍碁は即ち無我の神境に入りつゝ而して將來の劃策に資せん」と宜なるかな、その豪放にして闊達なる資性、正に其の人と爲りを知るに足るべし。

夫人とよ子は福島縣の人佐久間道助君の二女にして宮城高等女學校を卒業し、君との間に健二君、矩夫君及び容子、儀子、俶子、京子、舒子等あり、現に東京市外王子町上十條一三四〇番地に住し電話王子五三二番なり。

小川鄉太郎君

法學博士　從五位

京都商業會議所特別議員

君は岡山縣士族村山菊藏君の長男にして、明治九年六月を以つて生れ、後ち小川知章君の養嗣子となる。明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、恩賜の銀時計を下賜せらる。

斯くて直ちに京都帝國大學法科大學講師に聘せられ、尋いで助敎授に進み同三十九年獨逸に留學し、後ち塙伊佛白諸國に轉じ財政經濟學を研究し其の間歐洲各國を歷遊して親しく彼の地の政治經濟の實情を視察し海外に居ること六年、同四十五年歸朝す。

然して京大敎授に進み大正二年法學博士の學位を授けられ、翌年瑞西に於けるカーネギー平和財團主催平和會議に參列し、同六年京都市より選ばれて衆議院議員に當選し、現に京都商業會議所特別議員たり。

夫人を重子と呼び京都府の人大森治郎兵衞君の長女たり、現に京都市西京一條に住し電話西陣九五〇番なり。

小瀨虎君

沖電氣株式會社常務取締役

君は茨城縣士族小瀨輝德君の長男にして、明治五年十月一日を以つて生る。夙に實業界に投じ沖電氣株式會社に入りて格勤精勵せしかば、漸次上長の信任を得

て各種の要職を歷勤し、現に同社常務取締役として令名あり。

夫人をよし子と稱し君との間に輝君、輝次君及び清子、三重子、千鶴子、富子等あり、現に東京府北豐島郡瀧野川町南谷端二〇七一番地に住し電話小石川二四八四番たり。

×

大內英次君

帝國生命保險會社東京支店長

君は福島縣の人大內平兵衞君の二男にして、明治十四年九月十日を以つて同縣安達郡二本松に生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、將來我が刀圭界に名を成さんと志し、即ち醫學專門濟生學舍に學び、斯學の研鑽を積むこと數年、明治三十三年同學舍を卒へて翌年文部省醫師檢定試驗に應ずるや優秀の成績を以つて登第す。

斯くて直ちに東都刀圭界に身を投じ、樫村博士の經營する山龍堂病院に入り實地に就きて研究すること年余、明治三十六年一月同病院を辭す。

然して聘に應じて帝國生命保險株式會社に入社し同社福岡、廣島、仙臺各支店醫務主任及び函館支店醫務主任兼同支店長等を歷勤し、大正七年以來同社東京支店醫務主任たりしが、大正十五年一月東京支店長に擧げられ爾來專心同社經營の衝に當り、今や內外の社務を執掌して其の發展に盡瘁すること甚大、君が前途益々多望なるものあり。

夫人さと子は福島縣の人和田玄說君の二女にして君との間に英夫君、義夫君、悌夫君及び信子、孝子等あり、現に東京市芝區白金今里町七十七番地に住し電話高輪六一一番たり。

奧住相次郎君

八王子絹織株式會社取締役

君は東京府の人奧住儀兵衞君の長男にして明治六年九月十八日を以つて生る。夙に實業界に身を投じ當地に於て織物業を營み、尙ほ傍ら八王子絹織株式會社の重役として知らる。

夫人さと子は東京府の人金子忠右衞門君の長女にして君との間に二男五女ありて忠一君、壽男君及びりん子、みね子、たか子、鶴代子、龜代子等にして因に長女りん子は西川勘太郎君に、二女みね子は小谷田英次君に、三女たか子は秋山申一君に夫々嫁す、現に八王子市平岡町一九番地に住す。

×

荻野豐平君

土木建築請負業

荻野組々長

今や本社を山梨縣甲府市に有し、其の支店出張所を東京及び東北各地に設置し本邦土木建築界に飛躍して聲名あるを我が荻野組代表者荻野豐平君となす。

君は山梨縣の人荻野九十郎君の長男にして、明治二十四年八月二十三日を以つて同縣中巨摩郡藤田村に生る。夙に鄉校を卒ふるや地方財界に身を投じ、將來土木建築界の有望なるに着眼せる君は直ち

に斯界に入りて實地に就き研鑽を積むこと數年、後ち獨力荻野組を興して多數の子分を率ひて活躍大いに努め、君が至誠と不撓の奮闘とを以つて幾多請負事業に何れも完璧を期せしかば、其の信望や頓に擧り、業勢年を追ふて激増し遂に今日の大を成すに至れり。

爾來山梨縣下に於ける斯界の第一人者を以つて目せられ、甲府電力株式會社發電所の工事請負を始めとして、縣立工藝學校、山梨縣師範學校、縣立農林學校等の建築工事を完成し、更に東北地方に其の勢力を波及して、廣瀨水力電氣株式會社發電所を始め幾多會社の發電所工事を竣工して絶大なる賞讃を博せり。

然して今や帝都復興土木建築界に貢献せんと即ち東京出張所を開設し、着々として君が勢力を東都に振展し、我が荻野組の名と共に君の令名や高く、前途愈々多望なるものあり。

君や資性闊達、極めて義俠に富み、其の快刀斷麻的あざやかなる事務執掌振りと、而も君の優秀なる技術とは斯界に等しく知られしところ、尚ほ至誠以つて事業を遂行し、溫情以つて部下を統率するに盖し君の今日の大を成す又故なきにあらざるべし。

夫人みか子は東京府の人青柳安太郎君の二女にして内助の聞え高く、現に本宅を甲府市百石町三〇四番地に有し電話九〇六、七四三番にして、其の別宅を同町二九五番地に有し電話二六一番たり、因に東京事務所を麹町區富士見町四十一番地に有す。

小口卷太君

×

德島蠶種株式會社長
藏本倉庫株式會社長

君は長野縣の人小口善重君の令弟にして、明治十八年五月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に德島蚕種、藏本倉庫各株式會社々長たる外關西銀行、阿波電氣軌道各株式會社の重役にして、且つ縣下多額納稅者として直稅實に一萬三千數百圓を納むるを以つて知らる。

夫人カメノ子は德島縣の人中川新作君の令姉にして君との間に重樹君及びさき子、正枝子、三代子等あり、現に德島縣名東郡加茂名に住す。

奥村久郎君

東神倉庫株式會社常務取締役

我が財界の重鎭奥村久郎君は岐阜縣の人田近與九郎君の二男にして、明治六年三月十四日を以つて生れ、後ち先代春齊君の養嗣子となる。

明治二十七年獨逸協會學校を卒業するや、直ちに三井銀行に入り調査課、祕書課等を歷勤し明治三十三年同行足利支店副支配人に擧げられ、更に同行箱崎倉庫副支配人に任ぜらる。

然して明治四十二年三井の倉庫事業が銀行を離れて別に東神倉庫株式會社の創立を見るや君は同社箱崎、神戸、大阪各支店長を經て、大正八年重役に擧げられ常務取締役として神戸支店に在勤し、同

十年東京本店常務取締役に轉じ、以つて現在に及ぶ、曩に大正運輸株式會社取締役たりしことあり。

趣味として書畫、骨董、謠曲等を愛好す。夫人照子は鹿兒島縣の人有馬亮吉君の令妹にして君との間に義郎君及び光子靜子等あり、現に東京市麹町區富士見町二ノ十七番地に住し電話四谷二二四八番なり。

小熊正尙君

×

安塚銀行取締役
頸城鐵道株式會社取締役

君は新潟縣の人服部正健君の令弟にして、明治十一年七月を以つて生れ、後ち先代善治郎君の養嗣子となる。夙に地方財界に活躍して聲名を博し、現に前記諸會社の重役として名あり。

夫人コマツ子は養父善治郎君の三女にして、君との間に正虎君、正和君、正篤君、正安君及び治子、シヅ子等あり、現に新潟縣東頸城郡安塚に住す。

岡田伊太郎君

衆議院議員
實業家

君は石川縣の人岡田猪平君の二男にして、明治十年十二月を以つて生る。夙に學業を卒ふるや直ちに實業界に投じ、雜穀商を營みて當地實業界に重きをなす。

然して傍ら政界に活躍して俊腕を鳴らし、鄕黨に推されて衆議院議員たること前後二回、現に其の任にありて中央政界に重きをなし、曩に道會議員たりしことあり。

夫人こと子は持田辰之助君の三女にして、君との間に良策君、平五郎君等あり現に北海道札幌市江別町に住す。

太田梅太郎君

土木建築請負業
大金組々長

帝都斯業界に古き歷史を有する大金組は太田梅太郎君の個人經營にして先考金次郎君は夙に埼玉縣より出でゝ東都建築界に活躍して名聲を博せしが、大正十一年不幸病を得て他界し、君即ち其の事業を繼承して今日に至れるものなり。

君は先考太田金次郎君の長男にして、明治二十四年一月十日を以つて東京市小石川區柳町に生る。夙に嚴父の意志を繼ぎて將來建築家たらんと志し普通教育を修むるや、東京高等工業學校附屬徒弟學校建築科に學び、斯學の研鑽を積みて明治四十一年同校を卒業し、直ちに嚴父を援けて斯界に活躍し、嚴父沒後は其の事業を繼ぎて益々發展の域に達せしめ、殊に這般の關東大震火災後の君の活躍振りは實に目醒ましきものあり。

斯くて此の間警視廳都市建築講習會の課程を終了して一層學理と實際とに精通し、今や君の優秀なる技術は斯界に名高く、其の今日までに完璧を期して社會の信望を博したる施工數枚擧に遑あらざるも、就中宮內省其の他諸官廳を初めとして株式會社鈴鹿商店、同倉庫、神田研數學館、神田倶樂部、神田青物業組合事務

所等何れも君の卓越せる技術と熱誠とを以つて完璧を期し、特に鈴鹿商店よりは感謝狀を贈られ、斯くて帝都同業界に於ける君の信望愈々厚く、その前途益々多望なるものなり。

曩に明治四十四年近衞工兵聯隊に入營し、在營中特に成績優良模範兵の廉を以つて幾多の賞狀を授與せられ、從つて君が實社會に出でゝも克く職務多端の折柄公共事業に盡瘁し、現に柳町在鄉軍人分會幹事、柳町組合組長、建築相互研究會相談役等の要職にありて町内に於ける人望厚く、且つ業界にありて其の責任觀念の強きは全く軍隊教育の賜と言はざるべからず、東京市小石川區柳町十四番地に現住し電話小石川二八五五番なり。

小口融四郎君

關東釀造株式會社取締役
大田原銀行監査役

君は栃木縣の人小口融四郎君の長男にして、明治二十八年一月を以つて生れ、大正十一年一月家督を相續すると共に前名一郎を改めて襲名す。

夙に先代の遺志を繼ぎて地方實業界に投じ、活躍大いに努めしかば名聲頓に擧り現に關東釀造、大田原銀行各株式會社の重役として令名あり。

夫人ツネ子は栃木縣の人阿久津强平君の七女たり、現に栃木縣那須郡大田原に住す。

×

小幡鐵介君

內國通運株式會社常務取締役
大北火災海上運送保險會社監査役

現代東西實業界に重望視せられ、殊に我が國通運界の第一人者として名聲嘖々たるを我が小幡鐵介君となす。君は東京府士族小幡友正君の二男にして、明治十二年十一月十六日を以つて生る。

夙に實業界に志し學業を卒ふるや直ちに內國通運株式會社に入り、爾來累進して水戸支店長、門司支店長等の要職を經て大正四年本社營業課長となり、更に進んで同社常務取締役兼營業部長に擧げられ、今や君が縱橫の快腕を振つて社の內外に重きをなす。

君や資性闊達事務を掌握する極めて明快、能く人を率ひるの膽量に富めりといふ。又可とすべきにあらざる哉。

夫人さと子は山梨縣の人淺川完六君の長女にして甲府英和女學校の出身たり、現に東京市麹町區富士見町三ノ一五番地に住し電話青山六一一九番なり。

小熊幸一郎君

百十三銀行頭取
辨天倉庫株式會社長

君は新潟縣の人小熊喜右衞門君の二男にして、慶應二年十月を以つて生れ、後ち先代幸吉君の養嗣子となる。

夙に北海道に渡り獨力以つて海運業及び海産物商を營み、現に合名會社小熊商店代表社員たる外百十三銀行頭取にして且つ辨天倉庫株式會社社長を勤め尚ほ函館製網船具、函館船渠、函館水電各株式

會社の重役として當地財界に重きをなし尚ほ北海道多額納稅者たり。

夫人スカ子は內山タケ子の長女にして君との間に信一郎君、三郎君及びフミ子雪子、ムメ子、セツ子等あり、現に函館市辨天町十七番地に住す。

奥住源藏君

直輸入商KO商會主
合資會社堺精煉所東京支店長

新興日本財界の第一線に活躍して雄雄を決せんとする、新進實業家奥住源藏君は東京府の人奥住濱吉君の長男にして、明治三十一年五月二十一日を以つて東京市外淀橋町柏木八三番地に生る。

夙に錦城商業學校を經て慶應義塾大學に學び、大正十一年優秀の成績を以つて同學理財科を卒業するや直ちに實業界に投じ、株式會社安田銀行に入りて同行本鄉支店詰を命ぜられ、恪勤すること年余後ち大阪堺精煉所に轉勤せり。

斯くて益々君の敏腕を振つて專心同社の發展に盡瘁せしかば上長の信望漸次加はり、大正十三年九月同社東京支店を開設するに及んで、君推されて同支店長の要職に擧げられ、現に內外の社務を執掌する傍ら獨力直輸入商KO商會を設立して何れも其の代表者として經營の衝に當り、君が財界に飛躍する蓋し尋常には非ざるべく、其の新進の學理と天稟の商才とは相俟つて着々として業績を擧げ、前途益々多事にして且つ多望なるが如し。

閑を見ては野球、角力等趣味又廣く、閒を見ては讀書に耽溺するの男性的技に費やし、又讀書に耽溺するを常とすといふ、東京市外淀橋町角筈七二七番地に現住す。

小澤爲作君

伊豆銀行監査役
御厨銀行監査役

君は靜岡縣の人渡邊惠作君の伯父君にして、明治三年十月を以つて生れ、後ち十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し、同三十二年文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官界に奉じ、爾來三重縣參事官、宮崎、島根、愛媛各縣警察部長、愛媛、長野各縣事務官、警視廳官房主事同第一部長兼消防本部長、內務省警保局長、福島、石川、熊本、新潟各縣知事を

太田政弘君

正四位勳二等
前警視總監

君は山形縣士族太田政道君の長男にして、明治三年十月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し、同三十二年文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官界に奉じ、爾來三重縣參事官、宮崎、島根、愛媛各縣警察部長、愛媛、長野各縣事務官、警視廳官房主事同第一部長兼消防本部長、內務省警保局長、福島、石川、熊本、新潟各縣知事を

×

歷任し、大正十三年加藤內閣の成立に際し警視總監に擧げられ、田中政友會內閣の出現により辭す。

夫人タミエ子は秋田縣士族小田部家貞君の令妹にして其の間に政明君、政知君及び千枝子、道子、美枝子、くに子等あり。

太田嘉太郎君

正五位勳三等

大藏省督締管財局理事總務部長

君は山口縣の人太田信太郎君の長男にして、明治十五年四月二日を以つて生る明治四十一年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに官界に投ず。

斯くて大藏省に入り翌年十一月京都稅務監督局經理部長に任ぜられ、翌四十三年九月大藏省專賣局主事兼大藏省書記官に補せられ主計局勤務を命ぜられ、後ち主計局司計課長、倫敦駐在財務官、主計局調查課長、國有財產課長兼大藏書記官等を歷任し以つて現在に及ぶ、尙ほ兼ねて國有財產調查會幹事長たり。

夫人ナカ子は山口縣の人世良源八君の令妹にして君との間に嘉英君及び靜子、妙子、文子、晶子等あり、現に東京市小石川區茗荷谷五六番地に住し電話小石川四〇五六番なり。

尾崎泉之助君

突粟銀行專務取締役

君は兵庫縣の人上杉孫助君の二男にして、明治元年三月を以つて生れ、後ち先代淸左衞門君の養嗣子となる。早くも實業界に雄飛を決せんとの大志を抱き即ち斯界に入りて活躍大いに努め、現に突粟銀行專務取締役として令名あり。

夫人しげ子は養父淸左衞門君の長女にして、君との間に英夫君、癸君、龍君及びひで子等あり、現に兵庫縣突粟郡菅野に住す。

小笠原長幹君

伯爵　正二位勳二等

貴族院議員

當家は鎭守府將軍源經基五代甲斐守義光の裔にして、夫れより三十代を經て忠忱君に至る。其の間中興の祖忠眞君より世々豊前國小倉に居住し封邑十五萬石を食む、忠忱君は戊辰の役に奥州各地に轉戰して永世祿五千石を賜わり、明治十七年伯爵を授けらる。

君は其の長男にして明治十八年三月二日を以つて生れ、同三十年襲爵仰せ付けらる。夙に東京高等師範學校附屬中學校及び學習院に學び、大正二年英國に渡り劍橋大學に學ぶこと三ヶ年にして歸朝す然して宮內省に出仕して式部官たりしが後ちこれを辭し、大正七年貴族院議員に選ばれ同九年陸軍省參事官に任ぜられ同十一年國勢院總裁に親任せらる。尙ほ東京府多額納稅者にして直稅一萬六千五百十余圓を納む。

趣味に繪畫、盆栽、觀劇、旅行等あり

殊に彫刻は素人の域を脫し文部省美術展覽會に屢々入選す。夫人貞子は伯爵阿部正直君の令姉たり、現に東京市牛込區市ケ谷河田町十七番地に住し電話牛込五七七番たり。

小澤齋一君

南海染工株式會社取締役

君は愛知縣の人小澤民右衞門君の五男にして、明治十九年十二月を以つて生る夙に大阪に出でゝ實業界に活躍し、現に南海染工株式會社取締役たり。

夫人靜子は愛知縣の人山田秀之助君の三女にして、君との間に實君及び澄子等あり、現に大阪市北區若松町二十三番地に住す。

小澤宗平君

上州銀行頭取

上信電氣軌道株式會社副社長

君は群馬縣の人小澤宗平君の二男にして、明治十四年八月を以つて生れ前名房次郎を改稱す。早くより地方實業界に身を投じ、幾多銀行會社に關係して君が天稟の才腕を發揮し、斯界に貢獻すること尠少ならず。

然して現時は上州銀行頭取たる外上信電氣軌道株式會社副社長にして、且つ上毛貯蓄銀行常務取締役及び小澤商店、高倉倉庫、上州絹絲紡績各株式會社の重役として令名あり。

尙ほ高崎商業會議所議員にして其他の公共事業に盡瘁して功あり、夫人をよし子と稱し群馬縣の人新井米吉君の長女たり、現に群馬縣高崎市九藏二四番地に住す。

岡信吉君

久原商事株式會社取締役

君は大阪府の人岡素男君の長男にして明治十九年十二月二十二日を以つて生る明治四十二年神戶高等商業學校を卒業するや、更に東京高等商業學校專攻部に入學し、同四十四年同科を卒業す。

斯くて財界に投じ三井物產株式會社に入社し、大正七年久原本店に轉勤し同社大阪支店長となり、同十年久原商事株式會社支配人に擧げられ更に同十四年取締役に推され以つて現在に及ぶ。

夫人せい子は錦田平作郎君の二女にして大阪夕陽ヶ丘高等女學校を卒業す、現に東京府豊多摩郡戶塚諏訪町一〇二番地に住し電話牛込四〇四五番なり。

尾形德兵衞君

土浦農商銀行取締役

茨城縣多額納稅者

君は茨城縣の人尾形德兵衞君の長男にして、明治十四年三月を以つて生れ後ち前名平三郎を改めて襲名す。現に土浦農商銀行、土浦五十銀行各株式會社取締役にして且つ茨城縣多額納稅者たり。

現に茨城縣新治郡土浦に住す。

大倉喜八郎君

男爵　從四位勳一等

君は越後新發田の豪商お目見え客大倉千之助君の三男にして、天保八年九月を以つて生る。年齒十八歲にして江戸に出で商事を見習ふこと數年、遂に獨立して上野に一店舗を開けり。

偶々慶應元年尊王攘夷の論盛にして、內亂の必ず起らん事を察し、業を改めて和泉橋畔に鐵砲店を開きしかば即ち適中して茲に產を成すの基を築き、其の後今日に至る迄引き續き斯業を營み、且つ王政維新後時勢の趨向を察して別に羅紗毛布の類を販賣し、外人を使用して洋服業を兼營す。是れ我が國洋服裁縫業の嚆矢となす。

斯くて明治五年歐米の商工業を視察して歸朝するや直ちに大倉組を興し、支店を倫敦に設置して彼我物產の直輸出入をなす、是れ我が商人にして外國に支店を設け直輸出入をなすの嚆矢たり、然して更に漢堡紐育等に支店を設け同八年我が國政府が朝鮮政府と通商條約を締結するや君は率先して釜山に航し、通商博覽會を開きて我が商品を紹介し、又朝鮮に商取引上の便利缺くるを知るや、澁澤子爵と圖り釜山に金融機關を設置す。是れ今の朝鮮銀行の前身たり。

然して明治十七年再び歐米に航す、時恰も我が粗製革輸出の結果其の聲價を米國市場に失はんとするの際なりしかば、君は慨然として各處に奔走して盛に日本製革の眞價を說明し、百方是が挽回に努め、且つ歸朝後は土木會社を組織して土木建築の業を兼營せり。

斯くて明治三十三年三度外國に航して商工業界を視察し、日露戰役中既に本溪湖の石炭及び鐵鑛採掘の有利なるを知り大資を投じて石炭採鑛及び銑鐵の製造に從事し、我が國商工業界に貢獻すること甚大又一方人材の養成に意を注ぎ東京、大阪、京城に大倉商業學校を設置し、且つ公共慈善事業に財を吝まず、又美術品古書籍を寄附して一般觀覽に供す。

然るに先年老齡職に堪えざるの故を以つて帝國劇場、日本皮革、大倉鑛業、山東鑛業等の各株式會社々長を始め幾多の諸會社重役の地位を辭して實業界を引退せるにも拘らず、最近八十九歲の老體を提げて滿州蒙古を巡遊し、大倉組の內外蒙古水田の情況を視察し、其の傍ら張作霖北京政府官員等を訪ね蒙古水田開墾米穀問題等を議し、國際的交歡協定の實を擧げ對滿對支の外交に資する所尠からず又自己所有森林なる人煙稀なる仙人の境に籠に召されて大行列、さても壯哉

大正四年勳功に依り特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。現に東京市赤坂區葵町三番地に住し電話青山六〇三〇番なり。

×

太田正孝君

經濟學博士　大學講師

報知新聞社取締役代表

君は靜岡縣の人太田萬吉君の三男にして、明治十九年十一月を以つて生る。明治四十五年東京帝國大學法科大學經濟科を卒業し、大正八年報知新聞社に入り、現に同社取締役代表にして、尙ほ傍ら早稻田大學、法政大學等の各講師たり。

大正十三年經濟學博士の學位を授けられ「關稅行政の研究」「社會と新聞」「保稅制度論」「羅馬風呂」等の名著あり。現に東京府荏原郡大森山王二六一六番地に住し電話大森五七八番なり。

小田川全之君

工學博士

古河銀行監査役

君は東京府士族小田川彥一君の長男にして、文久元年二月二十二日を以つて生る。明治十六年東京帝國大學工科大學土木科を卒業し、大正四年工學博士の學位を授與せらる。

夙に古河家に入りて古河鑛業、古河合名、古河銀行各重役たりしが現時は古河銀行監査役たり。曩に前後三回に亘り歐米諸國を視察して歸朝す。

夫人むつ子は東京府の人菊池濯生君の三女にして女子學習院の卒業たり、現に東京市牛込區原町一ノ五七番地に住し電話牛込三八〇〇番なり。

×

小川政修君

醫學博士　從四位勳三等

九州帝國大學醫學部教授

君は石川縣士族先代政成君の長男にして、明治八年九月を以つて生れ前名得藏を改稱す。明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業す。

斯くて教育界に投じ京都帝國大學、九州醫科大學各助教授に任じ、後ち徽菌學研究の爲め獨逸に留學し斯學の研鑽を積みて歸朝し、尋いで九州帝國大學醫科大學教授に任じ以つて現在に及ぶ、大正四年醫學博士の學位を授與せらる。

夫人圭子は愛知縣の人伊藤篤太郎君の令姉にして君との間に政禧君、政恭君、政敏君及び溫子等あり、現に福岡縣福岡市地行西二十一番地に住す。

岡本一平君

畫家　東京朝日新聞社客員

君は東京府の人岡本竹二郎君の長男にして、明治十九年六月十一日を以つて生る。夙に私立商工學校を卒業するや直ちに東京美術學校に學び、優秀の成績を以つて同校を卒業す。

斯くて東京朝日新聞社に入り、現に同社客員として同新聞紙上に漫畫を連載して令名高く、曩に帝展に入選せしこと數回、漫畫漫文家として世人に知られ且つ「へぼ胡瓜」「世界漫遊」「彌次喜多」「どぜう地獄」等の名著あり。

夫人かの子は神奈川縣の人大貫寅吉君の長女にして跡見高等女學校の卒業なり現に東京市赤坂區青山南町三ノ二四番地に住す。

小田切磐太郎君

從四位勳三等

信濃電氣株式會社副社長

君は長野縣の人小田切豐太郎君の長男

にして、明治二年十月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業す。

然して直ちに文官高等試験に登第せしかば職を官界に奉じ、福島、山形各縣事務官、栃木縣書記官、同事務官、山口縣内務部長、山形、沖繩各縣知事を歴任し曩に衆議院議員に當選すること二回に及び令名を中央政界に鳴らす。

夫人もと子は長野縣の人宮崎龜太郎君の二女にして東京女子高等師範學校を卒業し君との間に豊生君、豊文君、豊俊君豊秀君、豊康君、正男君、孝男君及び龍子、和子、敬子等あり、現に長野縣狐池に住す。

×

大隈信常君

侯爵　正四位勳三等

貴族院議員

君は舊肥前平戸の城主伯爵松浦厚君の令弟にして、明治四年八月を以つて生る明治三十二年東京帝國大學政治科を卒業し、更に英國に留學してケンブリッヂ大學に學び政治經濟學を研鑽して歸朝す。

斯くて早稻田大學教授、同中學校長等に擧げられ、多年教育界に盡瘁して重望を擔ひしが、偶々大隈侯の眼識に適ひ、乞はれて同侯爵家の養嗣子となる。

然して大正四年の逐鹿場裡に奮戰して強敵竹越與三郎君を向ふに廻して空前の大激戰を演じ、遂に勝利の旗幟は君により獲得せられ、衆議院議員として中央政界に活躍し、後ち參政官の創設せらるゝや推されて文部省副參政官となり、更に外務省副參政官に轉任せり、斯くて老侯薨去するや後を繼ぎ、後ち襲爵仰せ付けられ貴族院議員に擧げられ以つて現在に及ぶ。

君や資性温厚、人物豪毅にして些々たる細事に拘泥せず、態度悠々迫らざる處眞に華胄界稀に見る貴公子たり、夫人を光子と呼ぶ、現に東京市赤坂區青山南町六ノ一一五番地に住し電話青山三六〇番なり。

小田島五郎君

岩手縣多額納稅者

當家は二百餘年來の舊家にして、祖先は正德年間羽州より轉住せしものなり、君は岩手縣の人小野崎勇平君の令弟にして、明治七年五月を以つて生れ先代佐市君の養嗣子となる。

縣下屈指の多額納稅者として知られ現時直稅四千數百圓を納む、且つ農業畜産水產業等を營み、二戸產馬畜產組合評議員、淨法寺村會議員、同村畜產會長として知らる。

現に岩手縣二戸郡淨法寺村に住す。

岡崎貞伍君

海軍中將

從四位勳二等功四級

君は宮城縣の人岡崎七良太君の三男にして、明治四年九月を以つて生る。明治二十八年海軍機關學校を卒業し、同三十年海軍少尉機關士に任じ、爾來累進して大正十二年海軍中將に陞進す。

其の間英米兩國に出張し日露の役には日進分隊長として出征し、勳功に依り功四級金鵄勳章を賜はる。爾來春日、富士各機關長、吳海軍工廠檢查官、軍令部出仕兼海軍大學校教官、安藝機關長、教育本部部員、海軍艦政本部員、海軍省機關局員、第二第三各艦隊機關長、佐世保鎭守府機關長、教育本部第三部長、舞鶴佐世保各海軍工廠長、海軍機關學校長、海軍軍令部出仕等を歴補す。

夫人あやめ子は前警視總監太田政弘君の令妹たり、東京市本鄉區弓町二ノ四番地に現住し電話小石川三四六五番なり。

小田切良太郎君

從四位勳四等

第三高等學校教授

君は栃木縣の人先代小田切孫平君の長男にして、明治五年九月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學哲學科を卒業するや、直ちに教育界に投じ第四高等學校教授に任じ、現時は第三高等學校教授として知らる。

夫人壽子は栃木縣士族渡部信君の令姉にして、君との間に瑞穗君、香苗君、晃雄君、弘美君及び薫子、紀子、惠美子等あり、現に京都市上京區岡崎入江五〇番地に住す。

小原達明君

八千代生命保險株式會社長

東亞キネマ株式會社長

君は熊本縣の人小原大作君の長男にして、明治七年二月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに實業界に投ず。

斯くて日本勸業銀行に入りて文書課長兼祕書役を經て同行農工課長たりしが、現に八千代生命保險、東亞キネマ、東邦火災保險、帝國火災保險各株式會社々長たる外横濱倉庫株式會社取締役として令名あり。

曾つて日本電氣應用、新潟製紙、內國通運各株式會社の重役たりしことあり。

×

小田吉治君

小田炭礦株式會社取締役

君は秋田縣の人京野新藏君の五男にして、明治十四年六月を以つて生れ後ち先代政太郎君の養嗣子となる。夙に炭礦事業に身を投じ、小田炭礦株式會社の創立を盡策して、其の成立を見るや推されて同社取締役に就任し以つて現在に及ぶ。

夫人をひで子と稱し、茨城縣の人松本常松君の令從妹にして君との間に龜太郎君、粲君等あり、現に福島縣石城郡好間村に住す。

岡崎邦輔君

正四位勲三等
衆議院議員　政友會顧問

我が政界の重鎮岡崎邦輔君は舊和歌山藩士長坂學彌君の二男にして、安政元年三月を以つて生れ後ち岡崎姓を冐す。

夙に米國に留學し又曩に遞信省官房長に任ぜられしが、退官後は古河市兵衞君の顧問として盡瘁し、次いで古河鑛業株式會社理事に擧げられ、且つ京阪電鐵株式會社を長を始めとして中央新聞株式會社取締役、大同電力株式會社取締役たりしことあり。

明治二十四年以來衆議院議員に當選すること十一回、立憲政友會に屬し、大正十三年六月同黨總務となり、同十四年四月高橋是清君の後を襲ふて農林大臣に親任せられ、現に衆議院議員たる外政友會顧問として常に樞機に參じ同黨巍として重んぜらる。

夫人フサ子は大阪府の人林平兵衞君の長女たり、現に東京市芝區高輪北町四八番地に住し電話高輪五五四番たり。

小田政美君

大正鳥取銀行常務取締役
鳥取貯蓄銀行常務取締役

君は鳥取縣の人鹽半四郎君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生れ、明治二十四年先代邦藏君の養嗣子となる。夙に晩成塾攻學館に於て漢籍法律經濟等の學を修め、後ち實業界に志し活躍大いに努め、現に前記の諸職にある外山陽水力電氣、皆生溫泉土地、奨惠銀行、因伯産業各株式會社の重役として知らる。

夫人やゑ子は養父邦藏君の長女にして君との間に勝次君、邦太郎君及び和子等あり、現に鳥取縣本町四番地に住す。

尾崎庄兵衞君

中央生命保險會社專務取締役

君は長崎縣の人尾崎彦四郎君の令弟にして、明治十五年八月二十一日を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに實業界に投す。

然して中央生命保險株式會社に入社して其の外務、庶務、總務各部長、取締役支配人等を歷任し、後ち推されて同社專務取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。

趣味に讀書、乘馬あり、資性溫厚、識博大、今や我が保險界に令名あり、現に東京市牛込區南榎町三三番地に住し電話牛込四七〇三番なり。

×

小川金治君

富士見銀行專務取締役

君は長野縣の人小川金藏君の二男にして、小川平吉君の令兄に當り、慶應三年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に富士見銀行專務取締役たる外朝鮮企業株式會社取締役として令名あり。

夫人まち子は長野縣の人矢島重藏君の二女にして君との間に一郎君、三郎君、四郎君、五郎君及びえい子、たつ子、あき子等あり、現に長野縣諏訪町富士見に住す。

岡田忠彦君

從四位勲三等
衆議院議員

曩に我が東京市高級助役として敏腕を振ひ、今又政界一方の重鎮として令名あるを岡田忠彦君となす。君は岡山縣士族岡田政平君の長男にして、明治十一年三月二十一日を以つて生る。

明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、同年十一月文官高等試驗に應じて首尾よく登第するや直ちに官界に投じ、爾來、靜岡、大分、奈良、山口熊本各縣事務官を經て同四十四年內務書記官に任じ、內務省警保局警務課長、長崎縣事務官、同縣內務部長、東京府內務部長、埼玉縣知事、長野縣知事、熊本縣知事、內務省警保局長等を歷任し、大正十三年岡山縣より推されて衆議院議員に當選し以つて現在に及ぶ。

夫人しづ子は東京府の人秋山有文君の令妹にして其の間に武彦君及びふじ子等あり、現に東京市麹町區永田町二ノ三一番地に住し電話青山三七〇七番なり。

折井莊左衞門君

富久壽屋銀行頭取

君は長野縣の人折井庄司君の四男にして、明治六年六月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して君が敏腕を上下左右に振り廻し、今や富久壽屋銀行頭取として當地金融界の圓滑を計り、地方產業發展に貢獻すること尠少ならず。

夫人のう子は長野縣の人岩波芝吉君の二女にして、其の間に一女ありて美智子と稱す、現に松本市白板町四三三番地に住す。

×

岡田昌吉君

高砂信託株式會社常務取締役

君は東京府士族岡田昌治君の長男にして、明治九年四月二十八日を以つて生る。夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに米國に航して紐育イーストマン、カレッヂに學び研鑽を積みて歸朝す。

斯くて明治三十五年日本興業銀行創立せらるゝや、推されて同行副支配人に任じ後ち同行日本橋支店副支配人を兼任せしが、大正七年同行を辭し高砂信託株式會社設立に際し同社副支配人に擧げられ累進して同社常務取締役に就任し、現に其の外高砂商工銀行、高砂護謨工業、高砂企業、高砂煖房工事、愛國生命保險各株式會社の重役として知らる。

夫人世津子は東京府の人加納春三君の長女にして渡部裁縫女學校を卒業す、現に東京市小石川區駕籠町八二番地に住し電話小石川三五五八番なり。

小倉卯太郎君

獸醫學博士　正四位勲三等
北海道帝國大學教授

君は岐阜縣士族岡野權平君の三男にして、慶應元年八月を以つて生れ、先代忠次郎君の養嗣子となる。明治二十八年帝

十郎に就いて薫陶を受け、明治三十六年五世菊五郎長逝するや六世菊五郎を襲名す、時に年齒漸やく十九歳なりき。

然して當時は專ら歌舞伎座に在りしが間もなく市村座に入りてその座附となり一座の頭目として今日に及ぶ。君の演技今や圓熟し舞踊場に至りては實に天下獨歩にして、又世話物に至りては先代菊五郎に優るとも劣るなき定評あり、更に新作物、新舞踊等何れも妙技を極め比類なしといふ。

顧みるに君の技倆や如何に舊劇壇の名門に生れたる、天與の賜なりと謂ひながら又一面君の不斷の努力與つて大なりと云はざる可からず。「目組の辰五郎」「鼠小僧」「髪結新三」「鏡獅子の彌生」「娘道成寺」「供奴」「棒しばりの太郎冠者」「同志の人の是枝萬助」「生きてる小平次」「生きてる太九郎」等は其の最も好評を博し今や巧緻なる妙技の境に達し新興日本劇壇の華と云ふべし、現に東京府下淀橋町柏木八九六番地に住す。

尾上菊五郎君

俳優

明治劇壇の華たる五世菊五郎君の長男尾上菊五郎君は明治十八年八月を以つて東京市京橋區新富町に生る。本名を寺島幸三、俳名を三朝と號す。年齒僅かに二歳にして本名の幸三を名乘りて千歳座に初舞臺を踏みて好評を博す、其の舞踊は故藤間勘翁に學び、技藝は專ら九代目團

乙骨三郎君

正五位勳四等

東京音樂學校教授

君は舊幕臣乙骨太郎君の三男にして、明治十四年五月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業するや、更に大學院に入りて研鑽を積み同四十一年東京音樂學校教授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人千代子は東京府の人福地金次郎君の長女にして君との間に英一君、俊二君昭三君、達夫君等あり、現に東京市小石川區大塚上町二十九番地に住す。

岡田溫君

帝國農會幹事

衆議院議員

村の氏神、椿神社の權化と尊稱せられ殊に惡戲盛りの村童に迄先生を敬呼せらるゝ帝國農會幹事岡田溫君は明治三年を以つて愛媛縣温泉郡石井村に生る。

夙に東京帝國大學農科大學を卒業する

や直ちに農村の人となり、廿年の永き年月を農村問題に沒頭し、爲めに同村に於ける氏神椿神社の權化と呼稱され、先輩より村童に至るまで先生々々と敬愛せられ村屬に人望ある事實に意想外にして、今や全國農事協會書記、縣農會技師として同村の爲めに盡瘁すること甚大なり。

然して大正十三年の總選擧に際し、村民の輿望を擔つて立候補を宣するや、全村を擧げて「先生の爲めなら」と或は運動資金を據出し、或は一家總出の草鞋脚胖に腰辨當式にて、威風堂々、八臺の自動車を驅つて附近各町村を運動する程なりしと云ふ。

斯くて其の結果は見事當選し、今や日比谷原頭に勇姿を現はす、君の得意や思ふべく、其の農村問題を提げて侃諤の論を吐く、又偉なる哉　東京市牛込區市ヶ谷田町三ノ一九番地に住す。

小野寺直助君

醫學博士　正五位

九州帝國大學醫學部教授

君は岩手縣の人小野寺謙良君の令弟にして、明治十六年五月を以つて生る。明治四十一年十二月福岡醫科大學を卒業するや直ちに同學助手となり、大正二年三月內科學研究の爲め獨墺英各國に留學し同五年二月造詣を深くして歸朝す。

斯くて再び九州帝大に敎鞭を執り現に同大學醫學部敎授として知らる、夫人を操子と稱し大分縣士族林健君の長女たり現に福岡市渡邊通五番地に住す。

乙部融君

三菱銀行常務取締役

君は兵庫縣士族乙部孝君の令兄にして明治七年十月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに實業界に投じ三菱合資會社に入りて漸次重用せられ、同社銀行部副長、理事等を經て神戸支店長に昇任し次いで大阪支店長として船場支店長を兼ね、現に同行常務取締役にして我が財界に令名あり。

夫人マツ子は大阪府の人井上正幸君の三女にして君との間に俊君、勇君及び騰子、愛子等あり、現に東京市外入新井大字新井宿八景坂二三七〇番地に住す。

小野新太郎君

正五位勳六等

奈良女子高等師範學校教授

君は大阪府の人小野文六君の長男にして、明治十五年十一月を以つて生る。明治四十三年京都帝國大學理工科大學數學科を卒業し、明治四十五年奈良女子高等師範學校敎授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人みつ子は京都府の人山下信太郎君の二女にして、君との間に禮一君、好文君及び若菜子等あり、現に奈良市北半田六番地に住す。

岡田良平君

正三位勳一等
貴族院議員

君は舊遠州掛川藩士岡田良一郎君の長男に當り、宮内大臣一木喜德郎君の令兄にして、元治元年五月四日を以つて生る。

明治二十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業するや官界に投じ、第一高等中學校教諭、同校教授、文部省視學官、同參事官、山口高等中學校長、文部書記官、高等教育會議員、文部參與官、文部省實業學務局長、文部總務次官、宮内省御用掛、錦鷄間祇候、京都帝國大學總長文部次官等を歷任し同三十七年貴族院議員に勅選せらる。

斯くて大正十三年加藤内閣成立するや臺閣に列して其の文部大臣に親任せられ同時に文政審議會副總裁、航空評議會會長等を兼任し、田中政友會内閣成立するやこれを辭す。

夫人操子は滋賀縣士族塚本小四郎君の令姉たり、現に東京市小石川區原町一二五番地に住し電話小石川九八五番なり。

岡本清君

輸出入貿易商
地球堂洋額店主

實にや眞理は不變なり、金剛石も磨かざれば……それ玉の光は添はざらん……茲に具さに世の辛酸を嘗めつくし、刻苦勉勵よく學業を修得し、更に財界に活躍しては其の敏腕を縱横に振ひ以つて大成せしを我が岡本清君となす。

君は海瀨重固君の三男にして、明治十七年三月を以つて東京に生る、當家は代々今川義元の臣にして、醫を勤めし名門なりしが維新の變に際して父君落魄して四方に流寓し、君は此の間に人と爲りも天賦英明にして意思又堅固、夙に學を好み大望を抱き年齒漸やく十五歲にして單身東上し、叔父岡本貫一君を訪ねて其の志を陳べしかば叔父大いに感激し、遂に志を入れて國民英學會及び東京商業學校に學ばしむ。

茲に於て固より天稟の顯才に加ふるに凜然たる志氣は孜々として學業に勵み、遂に優秀の成績を以つて卒業し、明治三十六年大倉商業學校の創設なるや、君亦同校に入り在學四ヶ年常に首席を占め敎授間に將來を囑望せられ、明治三十七年同校を卒業するに際し學術優等の故を以つて金牌を受領し、同年叔父岡本貫一君の養嗣子となり其の家籍に入る。

斯くて學成りしかば直ちに實業界に投じ、三井物産會社に入りて其の英才を發揮し將來を囑目せられ、明治三十九年愈々獨立の素志を貫徹すべく奮然起つて書籍業の有望なるに着目して店を神田駿河臺に開始し、誠勵以つて事業の發展に努め更に文化の進運に伴つて將來益々繪畫等の有利なるに想倒し、書籍を廢して專ら歐米名畫の復寫又は輸入等盛に泰西美術の紹介に努めたり。

然して傍ら額椽輸入販賣を行つて外人の好評を博し、漸次業況の盛運を來たしたるも君尚ほ之を以つて滿足せず、大正二年一月歐米視察の途に上り留ること約一ヶ年、蘊蓄を積みて歸朝するや事業を擴張して英獨の數會社と相謀り日本總代理店の特約を結び、尚ほ大正八年歐洲大戰後の事情視察の爲め歐米に航し同九年歸朝し、爾來君の奮闘努力と相俟つて業勢益々加はり以つて今日の地位を占むるに至る、眞に偉大なりと謂ふべし。

現に東京市赤坂區青山南町一ノ二九番地に住し電話青山二三七三番なり。

折井政之丞君

安曇銀行取締役
中央製紙株式會社監査役

君は長野縣の人關恒司君の二男にして明治八年三月を以つて生れ後ち先代邑人君の養嗣子となり、前名今雄を改稱す。

夙に地方實業界に投じて奮闘大いに努め、現に安曇銀行、安曇電氣、大阪石膏信濃鐵道、中央工業各株式會社の取締役たる外中央製紙、溫海炭礦各株式會社監査役たり。

尚ほ長野縣多額納稅者として現時直稅二千五百八十余圓を納め、且つ松本商業會議所副會頭にして、今や地方財界の重鎭として令名あり、現に松本市白板二八二七番地に住す。

小野榮左衞門君

小諸銀行頭取
松本信託株式會社取締役

君は長野縣の人小野榮左衞門君の長男にして、慶應元年十一月を以つて生れ、前名榮三郎を改めて襲名す。早くより地方財界に活躍して君の敏腕を振ひ、斯界に重きをなすに至れり。

現に小諸銀行頭取たる外中信銀行、上田劇場、信濃繭糸倉庫、千代田鐵工、松本信託、小諸商業倉庫、小諸倉庫各株式會社の取締役にして且つ田澤炭礦、上田瓦斯各株式會社監査役として知らる。

夫人よし子は長野縣の人黒澤嘉兵衞君の二女にして君との間に文雄君、利雄君武雄君及びまさ子、豐子等あり、現に長野縣小縣郡縣村に住す。

織田信恒君

子爵　從四位

當家は桓武天皇の御子式部卿葛原親王の孫上總介平高望九世の令孫にして、而して内大臣重盛公の後裔たり。重盛十八世の孫左大臣信長の二男前内大臣信雄君は伊勢國主左中將北畠信雅の後を受け北畠と稱す、天正十年信長明智光秀に弑せらるゝや姓を織田に復す。

爾來世々繼承して十三世先代信敏君に至り羽前國藩主として二萬石を食む、君は其の養嗣子にして故相馬誠胤君の子即ち子爵相馬孟胤君の從兄君に當り、明治二十二年八月を以つて生れ明治三十四年襲爵し前名秀胤を改む。夙に學に厚く學業順を追ふて進み、大正四年京都帝國大學法科大學政治科を卒業し、曾つて日本銀行大阪支店に職を奉ぜしことあり。

夫人るい子は養父信敏君の長女にして學習院女學部を卒業す、現に東京市牛込

君は石川縣の人小栗勇馬君の三男にして、明治元年八月を以つて生る。明治二十二年海軍兵學校を卒業して海軍少尉に任じ、累進して海軍大將に陞進す。

其の間第一潜水隊司令官、韓崎、鈴名音羽、香取各艦長、海軍艦政本部第一部長、英國駐在造船監督官、海軍省軍務局長兼海軍將官會議員、第六艦隊司令長官等を歴任せり。

夫人とみ子は東京府の人樋脇盛苗君の長女にして其の間に孝則君、潜君、英馬君及び新子、正子等あり、現に東京市四谷區仲町三ノ三六番地に住す。

小野虎助君

笠戸島船渠株式會社專務取締役

君は大阪府の人天野久良君の長男にして、明治八年八月を以つて生れ、同三十四年小野清吉君の養嗣子となる。

夙に地方實業界に雄飛して君が天稟の商才を自由に振展し、着々として斯界に頭角を現はし、今や笠戸島船渠株式會社專務取締役として令名あり。現に大阪市港區中口一番地に住す。

×

小野義一君

衆議院議員
前大藏次官

徹宵通飲して談論風發、折あれば直ちに大氣焔に花を咲かす性來の大論客、我が小野義一君は高知縣の人小野義爲君の長男にして、明治九年十月を以つて生る。

明治三十六年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に投じ、爾來大藏省出仕を振出しに大阪神戸各稅關長兼大藏事務官、大藏省理財局長等を歴任し、大正十年歐米各國に出張を仰せ付けられ後ち官を辭して實業界に飛び出す。

斯くて神戸の鈴木商店に落ち付き、而して大正十三年の總選擧に立候補して初陣の功名を立て同年加藤内閣成立するや濱口大藏大臣の下に次官としてその敏腕を振ひしも、政務次官設置せらるゝや辭して野に下り、現に衆議院議員にして憲

區市ヶ谷藥王寺町五十一番地に住す。

乙竹仲太君

正五位勳五等
北海道拓殖銀行取締役

君は東京府士族乙竹岩造君の令弟にして、明治十二年三月を以つて生る。明治三十四年中央大學の前身たる東京法學院を卒業し、後ち辯護士試驗、判檢事登用試驗、文官高等試驗等に登第す。

曩に稅務監督局事務官、松江、長野、鹿兒島、札幌、丸龜各稅務監督局長等を歴任し、現に北海道拓殖銀行取締役にして且つ札幌商業會議所議員たり。

夫人滋子は長野縣の人伊藤隆三郎君の長女にして君との間に虔三君及び篠子、和夏子等あり、現に北海道札幌市北二條西一丁目に住す。

×

小栗孝三郎君

正四位勳一等功五級
退役海軍大將

政會に屬し内外に重きをなす。

夫人壽子は男爵尾崎洵盛君の令妹にして其の間に義盛君及び眞子、禮子等あり現に東京市麻布區三河臺町一三番地に住し電話青山四八〇〇番なり。

折原己一郎君

從三位勳三等
衆議院議員

君は群馬縣の人折原逸太郎君の長男にして、明治二年八月を以つて生る。明治二十九年帝國大學法科大學を卒業するや文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官界に奉じ、爾來、愛媛縣靜岡縣、和歌山縣各參事官、大阪、滋賀福岡各府縣事務官、兵庫縣内務部長、奈良、島根、千葉、兵庫各縣知事を歴任し大正十三年衆議院議員に推さる。

夫人かく子は東京府の人落合芳藏君の令妹にして君との間に一男ありて泉君と稱す、千葉市八〇番地に現住し電話千葉三一七番たり。

岡田朝太郎君

法學博士　正四位勳三等

君は東京府士族岡田平八君の長男にして、明治元年五月を以つて生る。明治十五年東京外國語學校に入り佛語を修め尋いで大學豫備門第一高等中學校を經て同二十一年帝國大學に入り、同二十四年卒業更に大學院に入りて刑法を研究す。

明治二十六年同大學講師として法科大學の講座を擔任し、傍ら各私立法律學校の聘に應じて刑法を講じ、同三十年刑法研究の爲め獨佛に留學を命ぜられ、同三十三年歸朝し同大學教授に任じ法學博士の學位を授けらる。

明治三十九年支那政府の法律顧問として彼の地に赴任す。現行の刑事訴訟律法院編制法違警律等は總て君の起草せる所なり、大正四年歸朝して明治大學教授に任じ傍ら中外印刷工業株式會社取締役社長、安藤銀行相談役等を歴任す。

夫人をのぶ子と呼び東京府士族石渡三榮之助と名乘りて明治座に初舞臺を踏み日向臺町一ノ四九番地に住す。

小野仁三郎君

小野株式會社常務取締役
釣鐘護謨株式會社監査役

君は岡山縣の人先代仁三郎君の二男にして、明治十二年二月を以つて生れ、前名春一郎を改稱す。現に小野株式會社常務取締役たる外釣鐘護謨株式會社監査役として知らる。

夫人貞子は岡山縣の人遠藤益三君の二女にして、君との間に正一君、仁平君及び郁子、房惠子等あり、現に岡山縣淺口船穗村に住す。

×

尾上梅幸君

俳優　帝國劇場專屬

現代舊劇俳優として且つ世話物の名女形として令名あるを尾上梅幸君となす。

君は明治三年十月を以つて名古屋に生れ同十八年五代目菊五郎君の養嗣子となり

同二十四年五月新富座に於て榮三郎と改稱し、同三十六年三月歌舞伎座に入りて六世尾上梅幸を襲名す。

明治四十三年帝國劇場設立せらるや、君聘せられて其の幹部技藝員長に推さる而して榮三郎時代に於ける君は實に藝道の爲めに粉骨の努力を提げて修業に努め養父五代目菊五郎君の嚴格なる指導を受け當時の辛酸萬苦は到底現代青年俳優の夢想だに及ばざる所、其の峻烈なる薫陶には流石の君も俳優たるの至難なるを思ひ中途に是が廢業を思ひ立ちし事一再ならずといふ。

君の性格は頗る規矩整然にして苟くも禮を亂さず、何人に對しても慇懃、叮寧些の傲る風なき床しき人格の所有者として世人に尊稱せらる。「お祭佐七の小糸」「三千歳」「お富」「十六夜」「お岩」等は世話物中の當り藝にして、又尾上家の藝たる「茨木」「一つ家」「土蜘蛛」「戻橋の小百合」等は出色の得意藝たり。

舞踊物に於ける君の技能は既に定評あり其の巧緻の妙技は優に現代劇壇の誇りたるを失はず。東京市麹町區永田町二ノ三〇番地に現住す。

大橋定文君

×

新鹿銀行監査役

君は三重縣の人吉田長作君の長男にして、慶應二年一月を以つて生れ、後ち先代光章君の養嗣子となる。夙に地方實業界に投じ、曩に東京莫大小株式會社長、眞瀬興業、東京商會、小石川製作所、博進社各株式會社重役を歴勤し、現時は株式會社博文館社長たる外博文館印刷所、日本書籍各株式會社の重役たり。

趣味に圍碁、玉突、將棋等あり日本工業クラブ、日本クラブ各會員たり、東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ三〇番地に現住す。

大橋進一君

×

博文館株式會社長
博文館印刷所監査役

今や本邦圖書出版界に錚々の名あるを我が大橋進一君となす。君は東京府の人大橋新太郎君の長男にして、明治十八年七月一日を以つて生る。

夙に赤坂中學を卒業するや直ちに實業界に投じ、曩に東京莫大小株式會社長、眞瀬興業、東京商會、小石川製作所、博進社各株式會社重役を歴勤し、現時は株式會社博文館社長たる外博文館印刷所、日本書籍各株式會社の重役たり。

趣味に圍碁、玉突、將棋等あり日本工業クラブ、日本クラブ各會員たり、東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ三〇番地に現住す。

大沼萬兵衞君

×

村田銀行常務取締役
仙南温泉軌道株式會社取締役

君は宮城縣の人先代萬兵衞君の長男にして、明治七年二月を以つて生る。夙に實業界に活躍せんとの大志を抱き、學業を卒ふるや直ちに斯界に投じて一大飛躍を試みしかば、君の敏腕は能く萬難を突破して遂にその大を成すに至れり。

然して幾多事業會社に關係を有し、現に村田銀行常務取締役たる外仙南温泉軌道株式會社取締役にして、今や當地財界に重きをなす。

夫人まさ子は宮城縣の人齋藤理助君の令妹にして君との間に操一郎君及びみさよ子、みる子等あり、現に宮城縣柴田郡村田に住す。

大倉發身君

×

大倉ローデ株式會社長
日本化學工業株式會社專務取締役

君は舊信州飯田藩士石津金吾君の二男にして、明治七年十一月を以つて生れ、先代大倉みち子の養嗣子となる。夙に大志を抱き鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、明治三十三年東京帝國大學文科大學史學科を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、爾來大倉組、城東電氣、日本電氣黒鉛、日本電氣冶金、大島製鋼所、月島機械、鹿町炭礦木村鑛業、日本耐火煉瓦各株式會社の取締役及び日本自動車、大倉鑛業各株式會社監査役として君が敏腕を振ひしが、現時は前記諸職にある外東邦商會株式會社取締役として知らる。

夫人みつ子は東京府の人宮田藤左衞門君の二女にして其の間に昌君、謹次君及び靜枝子等あり、現に東京市小石川區關口臺町七二番地に住し電話小石川三一五〇番なり。

岡田儀一君

×

第二銀行取締役支配人

君は岐阜縣の人岡田儀六君の二男にして、明治四十四年三月十一日を以つて生る。先代大倉みち子の養嗣子となる。夙に大志を抱き鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、明治三十三年東京帝國大學法科大學を卒業するや同四十三年第二銀行に入り、累進して大正八年副支配人に擧げられ、同十一年取締役兼支配人に推され以つて現在に及ぶ。

夫人てい子は廣島縣の出身にして君との間に任雄君、震君及び富佐子、和子、美江子等あり、横濱市本牧原一一五七番地に現住す。

大島要三君

福島電燈株式會社長
福島人造スレート株式會社長
白棚鐵道株式會社長

君は埼玉縣の人大島庄太郎君の長男にして、安政六年二月を以つて生る。夙に土木建築界に名を成さんと志し、川口組と稱して獨力土木建築請負業を營み、爾來奮闘精勵、君の優秀なる技術を振つて斯界に活躍せしかば漸次社會の信望を博し、而して彼の東北鐵道開通に際し、君は板谷峠トンネルの大工事を請負ひて其の完璧を期し、工事監督仙石貢君に絶大の信用を得て以來嶄然として斯界に頭角を現はすに至れり。

今や斯業の外前記諸會社々長として令名あるのみならず、東京信用銀行、原町商業銀行、福島紡績、川俣電氣、米澤瓦斯、共同生糸荷造、日本大正炭、日本建築紙工、常盤商會、帝國硫黄工業、福島誠臺、櫻組工業各株式會社取締役にして且つ福島商業銀行、第七銀行、鈴木實業

銀行、福島羽二重、阿部商店、大日本炭礦、東京米穀商品取引所、東海生命保險各株式會社監査役として我が財界に重きをなす。

然して君は財界に勢力を有するのみならず縣會及び中央政界に重きをなし、憲政會支部の牛耳を握り、斯くて大正十三年の總選擧に際し多數縣民の輿望を擔つて馬を陣頭に進め、大多數の得票を以つて當選の榮譽を擔ひ、今や中央政界に活躍して令名嘖々たり、尙ほ縣下多額納稅者にして現時直稅六千十余圓を納む。

君は全く親分肌の仁俠に富める士にして、土工より身を起して今は土木に銀行に水力電氣に其の他各種の事業會社に關係して我が國實業界に覇を唱ふ、眞に其の生涯は立志傳中の史實として推賞するに餘りありと謂ふべし。福島市杉妻八番地に現住す。

岡本英太郎君

從三位勳二等
產業組合中央金庫理事長

君は大阪府の人岡本條太郎君の長男にして、明治四年九月二十日を以つて生る明治三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて官界に投じ農商務省に入りて林務官に任ぜられ、爾來山林局監督局各事務官兼書記官、農商務省書記官兼日本大博覽會事務官、製鐵所理事、農商務省山林局長、同省商工局長兼戰事保險局長、同省商務局長、同省農務局長、同次官兼特許局長官等を歷任す。

曩にジユネーブに於て開催されたる第三回國際勞働會議に帝國政府側代表委員として出席す、現に產業組合中央金庫理事長たる外協調會評議員、中央報德會理事、產業組合中央會顧問、南洋協會、度量衡協會各評議員たり。

趣味に謠曲、乘馬ありて何れも堪能なるが如し。

夫人敏子は栃木縣士族渡部邁三君の三女にして君との間に博君、千秋君及び千嘉子等あり、現に東京府荏原郡入新井町新井宿一六一三番地に住し電話高輪一〇三一番たり。

×

大泉林之丞君

宮城縣多額納稅者

君は宮城縣士族齋藤林兵衞君の令弟にして、明治九年十二月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して斯界に聲名を馳せ、現に宮城縣多額納稅者として直稅二千四百八十余圓を納む。現に仙臺市東五番町二番地に住し電話二一四番たり。

小寺謙吉君

陸軍騎兵中尉　從七位勳四等
實業家　衆議院議員

君は兵庫縣士族小寺泰次郎君の長男にして、明治十年四月を以つて生る。夙に神戸高等商業學校を卒業するや米國に航し、エールコロンビヤ、ジヨンスホプキンス兩大學に入りて研鑽を積み、後ち獨墺瑞各國に學びドクトル、オブ、フイロソフイーの學位を得て歸朝す。

斯くて神戸市會議員、神戸商業會議所特別議員等に推され、且つ明治四十一年以來衆議院議員に當選すること前後五回現に其の任にありて中央政界に重きをなし令名斯界に嘖々たり。

尙ほ兵庫縣下屈指の大富豪にして、多額納稅實に六萬六千余圓を納め、曩に京都大學の奬學資金として一萬七千圓を寄附し、且つ大枚五十万圓を投じて兵庫縣下に三田中學校を創設する等君が社會公共事業に盡瘁すること甚大、今や天下の大富豪であり、憲政會の中心人物である君の聲名や無類、其の意志强固なる半面に燃ゆるが如き情熱の所有者である君は一見舊知の感を覺えしむ。

夫人貞子は子爵中牟田武信君の叔母君たり、現に本邸を神戸市中山手通五ノ三番地に有し、別宅を東京市赤坂區青山南町六ノ六十八番地に有し電話青山一三〇〇番たり。

×

折田有彥君

從五位勳六等
朝香宮附宮內事務官

君は前貴族院議員折田彥市君の三男にして、明治十六年十二月十日を以つて生る。夙に帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に投じ、京都府相樂郡長等を勤め、現に朝香宮附宮內事務官たり。

夫人澤子は岡山縣の人佐分利隆君の長女にして君との間に行彥君及び匡子等あり、現に東京市芝區高輪南町朝香宮官舍內に住す。

岡崎久次郎君

帝國蓄電池株式會社長
大日本自轉車株式會社長

我が財界の重鎭勳四等岡崎久次郎君は東京府の人岡崎安之助君の長男にして、明治七年一月十四日を以つて生る。明治二十八年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、日米商店を創立して貿易商を營み、傍ら衆議院議員に當選する事前後二回に及び、桂公爵と共に憲政會創立者の一人たり。

曾つて東京セルロイド、京濱運河、秋田木工各株式會社々長たる外相模鐵道、北海道興業、ヤマブロック建材、日本絹紬、大德汽船、東北拓殖、北陸水電各株式會社の重役及び東京商業會議所議員たりしことあり、尙ほ其の間に數次歐米諸國を漫遊す。

現時は前記諸要職にある外株式會社日米商店社長にして且つ東海鋼業、樺太工業各株式會社取締役及び樺太汽船、揖斐川電氣各株式會社監査役たり。夫人ふさ子は神奈川縣の人守安瀧三郎君の長女にして、橫濱フエリス高等女學校の出身たり、現に東京市麻布區白金今里町七七番地に住し電話高輪一四一〇番なり。

大沼彦吉君

村田銀行取締役
仙南温泉軌道株式會社取締役

君は宮城縣の人大沼彦助君の長男にして、明治二年五月を以つて生る。早くも財界に雄飛せんとの大望を抱き、即ち入りて活躍、現に村田銀行、仙南温泉軌道各株式會社の重役として知らる。

夫人をとみ子と稱し宮城縣の人渡邊源之助君の長女にして君との間に彦次郎君幸三郎君、幸吉君及びよし子、みね子、まつ子、つね子等あり、現に宮城縣柴田郡村田に住す。

×

荻野元太郎君

古河電氣工業株式會社常務取締役
日清汽船株式會社取締役

君は岡山縣士族石川光輝君の長男にして、明治七年二月二十五日を以つて生れ明治二十二年三月荻野春光君の養嗣子となる。明治三十六年早稻田大學政治經濟科を卒業するや同年直ちに支那各地を視察見學して歸朝す。

斯くて實業界に投じ、古河合名會社上海支店創設せらるゝや君聘せられて同支店長に推され、後ち大阪支店長に轉勤し大正四年社命に依り英國に航し翌年歸朝し、爾來本社營業副部長兼營業課長として活躍するに至る。

然して大正六年十二月古河商事株式會社常務取締役に就任し、後ち古河電氣工業株式會社常務取締役に推され、現に其の傍ら日清汽船、中華電氣製作所各株式會社の重役にして、且つ、東京スタンダード靴株式會社相談役として我が財界に令名あり。

尙ほ社團法人日本放送協會理事、日華實業協會幹事等を勤め且つ永樂倶樂部、交詢社、日本工業倶樂部各會員たり。夫人を佳すと稱し君との間に晴一君、輝三君及び靜子、光子、和子等あり、東京市牛込區矢來町八番地に現住し電話牛込九四六番たり。

大西行禮君

高松百十四銀行取締役
香川縣多額納稅者

君は香川縣士族大西唯一君の長男にして、明治三年九月を以つて生る。明治二十六年明治法律學校を卒業するや、直ちに地方實業界に活躍し、現に高松百十四銀行取締役にして、且つ香川縣多額納稅者として知らる。

夫人タツ子は廣島縣の人橋本吉兵衛君の令妹にして、君との間に虎之介君、禎夫君、修吉君及び萬壽子、ノブ子等あり現に香川縣木田氷上村に住す。

大熊喜邦君

從四位勳四等
工學博士

君は舊幕臣大熊喜知君の長男にして、明治十年一月十三日を以つて生る。夙に第一高等學校を經て明治三十六年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、更に大學院に入りて建築學を專攻す。

斯くて明治三十八年東大講師を囑託し同年滿洲に於ける建築物調査の爲め出張仰せ付けられ、同四十年大藏省臨時建築部技師に任じ同二年大藏省技師に轉じ、同七年臨時議院建築技師に任じ工營部調査課長兼工務課長に補せられ同八年五月工學博士の學位を授與せらる。

曩に東京衞生試驗所、樞密院囑託講師となり、東京帝國大學工學部建築科主任講師を兼ねしが、現時は營繕管財局技師工務課長たり。趣味に文藝、寫眞、讀書刀劍等あり。

夫人てい子は京都府の人岡田起作君の二女にして女子英學塾の出身たり、現に東京市麹町區下六番町四番地に住し電話四谷六三一三番なり。

×

小川平吉君

正四位勳二等
鐵道大臣

君は長野縣の人小川金藏君の三男にして、明治二年十二月を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業して後ち辯護士を開業す。

曩に東亞同文會幹事長に推され、且つ朝鮮協會及び南洋協會を設立して理事に擧げられ、衆議院議員に當選すること前後八回、立憲政友會の幹部として中央政界に重きをなし、尙ほ國勢院總裁に任ぜられ、大正十四年二月司法大臣に親任せしも、憲政會内閣の出現によつて失脚し更に昭和二年四月田中政友會内閣成るや再び臺閣に列して其の鐵道大臣に親任せられ以つて現在に及ぶ。

君は詩を能くし射山と號して斯道の達人なりと。夫人せき子は野中熊彦君の令妹にして熊本高等女學校の出身たり、現に東京市四谷區仲町二ノ一二番地に住し電話四谷三一二〇番たり。

大島富士太郎君

男爵　正四位勳三等
貴族院議員

當家は先代圭介君より顯はる、圭介君は夙に江川太郎左衞門に兵學を學び、更に佛人に就いて洋式訓練を受け、步兵練兵論、築城典型なる二著を刊行せり、是れ我邦活版書の濫觴となす。

然して戊辰の役には榎本武揚と共に函館五稜廓に據り曉名を馳せ、歸順の後ち獄舍にあること二ケ年、赦されて官途に就き、爾來元老院議官、特命全權公使、樞密顧問官等を歷任し、明治三十五年華族に列し男爵を授けらる。

君は圭介君の長男にして、慶應元年十二月を以つて生れ、明治四十四年襲爵仰せ付けらる。明治二十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し、翌年外交官及び領事官試驗に登第し、後ち臺灣總督府民政局參事官兼臺北支廳同監督祕書官、總領事、外務書記官、外務省參事官、特命全權公使等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人ヨシ子は東京府士族齋藤力君の令姉にして君との間に圭二君、蘭三郎君、豐彥君及びアヤ子、ユリ子、スミ子等あり、現に東京市麻布區三河臺町二五番地

に住し電話青山五八三五番たり。

大石郁太郎君

楯岡銀行取締役

君は山形縣の人大石喜兵衞君の三男にして、明治七年四月を以つて生る。曩に北郡製糸株式會社取締役たりしが現時は楯岡銀行取締役たり。

夫人キヤ子は山形縣の人大石久助君の令姪にして、君との間に喜一郎君、廣太君、儀三郎君及びツナ子、とし子、フミ子、ヒデ子等あり、現に山形縣北村山郡楯岡に住す。

×

大谷彬亮君

醫學博士　慶大講師
濟生會病院長

本邦醫學界に新進の名あるのみならず又刀圭界に盡瘁して錚々の名あるを我が大谷博士となす。君は明治十三年六月十三日を以つて生れ、後ち大谷周庵君の養嗣子となる。

明治三十九年京都帝國大學醫科大學を優秀の成績を以つて卒業するや、間もなく北里研究所に入りて臨床科部長たりしが、後ち辭して濟生會病院に入り、今や同院々長として斯界に貢献するのみならず、慶應義塾大學醫學部講師として君の薀蓄を傾注し、幾多學徒の薫陶に盡瘁して令名あり。

夫人ゆう子は養父周庵君の三女にして君との間に亮一君、恭次君、育夫君、幸夫君及びすみ子、きぬ子、とも子、まち子、あい子、秀子等あり、現に東京市赤坂區青山南町五ノ四五番地に住し電話青山一八九九番たり。

乙宗源次郎君

國際セルロイド工業株式會社取締役
乙宗商店取締役

君は大阪府の人先代とく子の長男にして、明治十九年五月を以つて生る。夙に關西實業界に投じ現に前記の諸職にあり夫人キヌ子は大阪府の人笹山梅造君の二女にして君との間に尚三君及び妙子、佐智子等あり、現に大阪市南區順慶通三ノ一〇番地に住し電話長船場四二五番たり。

×

大森辰三郎君

山久常盤運送店主

君は茨城縣の人佐川兵七郎君の三男にして、明治十三年九月五日を以つて生れ同三十年九月先代熊吉君の養嗣子となる夙に普通教育を卒ふるや更に村塾に學び和漢の學を研鑽し後ち實業界に投ず。

斯くて運輸界の將來有望なるに着眼せる君は直ちに松原運送株式會社に入社して斯業の經驗を積み、明治三十八年志を立てゝ上京し、丸炭運送店に入りて恪勤精勵せしかば、同店の業運頓に擧り顧客の信用又激増し、君の聲名斯界に嘖々たるに至れり。

斯くて大正三年十月同店を買收して山久常盤運輸店と改稱し、愈々君の獨特なる經營方針の下に異常の大飛躍を試み、

百折屈せず、千挫撓ます前進又前進せしかば遂に今日の大を成すに至り、而も最近高莊なるコンクリート建事務所を新設して事業益々盛大に、今や東都斯界の白眉を以つて目さるゝに至りしは、全く君の至誠至純業務に精勵せる賜物にして、又半面夫人なみ子の内助の効偉大なりと謂ふべし、東京府下南千住地方橋場一三〇番地に現住し電話淺草八四一番たり。

大石大君

愛媛鐵道株式會社長
國東鐵道株式會社取締役

君は高知縣の人大石芳太郎君の三男にして、明治十年一月を以つて生る。夙に明治大學商科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に愛媛鐵道株式會社々長たる外國東鐵道株式會社取締役たり、尚ほ高知縣郡部より推されし代議士たり。

大熊仁三郎君

日出土地株式會社長
日本ゴム株式會社專務取締役

君は東京府の人大熊政次郎君の二男にして、明治十二年十一月を以つて生る。夙に中學校を卒業するや更に高等學校に進まんとせしも、不幸、病を得て學事を廢して實業界に投ず。

斯くて明治三十五年七月創めて日本ゴム合資會社出資社員として會計監督の任に當り、同三十三年組織を株式會社に變更するや、君推されて同社監査役に擧げられ、更に會計を監督し後ち同社取締役となり、專ら經營の衝に當れり。

爾來十有餘年の久しき間、拮据勉勵、同社の爲め盡瘁せしかば、内外の信用頓に擧り事業愈々隆盛を加ふるに至り、今や同社專務取締役たる外日出土地株式會社々長として知らる。

夫人誠子は東京府の人高木義範君の長女にして其の間に隆三君、義治君、貞邦君、政崇君、寛君、榮藏君及び美知子等あり、現に東京市淺草區橋場町一七五番地に住し電話淺草二二六二四番なり。

大谷仁兵衞君

帝國地方行政學會社長
京都府多額納稅者

君は滋賀縣の人栗田長五郎君の三男にして、慶應元年八月を以つて生れ、明治二十六年十二月先代仁兵衞君の養嗣子となる。

夙に實業界に投じ出版及び印刷業に精勵して漸次斯界に頭角を現はし、今や株式會社帝國地方行政學會社長たる外同會印刷所社長にして、且つ京都府多額納稅者として直稅二萬六百二十余圓を納め本邦財界に重きをなす。

夫人よね子は養父仁兵衞君の二女にして君との間に保君、康三君及びたね子、しげ子等あり、現に東京市芝區高輪南町三〇番地に住し電話高輪二〇一番たり。

×

太田信治郎君

萬信材木店專務取締役
衆議院議員

當家は元北面の武士にして聖德太子に仕へ太田姓を賜はる、後ち代々三河國に住し嚴父重吉君は夙に尊王の大義を唱へ維新の際國事に奔走し功あり。

君は其の長男にして明治六年二月を以つて生れ、父祖の業を繼ぎて材木商を營み傍ら社會公共の事業に力を致し、明治三十八年本所若宮町に無料宿泊所を創設して自ら其の所長に任じ、大いに世人の爲めに盡すところあり、是れ即ち本邦に於ける無料宿泊所の嚆矢たり。

現時は株式會社萬信材木店專務取締役にして傍ら東京製材組合長、國有財産調査委員等に擧げられ、曩に輿望を擔つて深川區會議員、東京市會議員、衆議院議員等に選出せられ、現に衆議院議員にして憲政會に屬し中央政界に令名あり。

夫人登代子は東京府の人水野忠義君の令姉にして君との間に悦之助君及び美須子等あり、現に東京市深川區久永町五番地に住し電話墨田二三七七番なり。

荻野澄敏君

鄙是製紙株式會社監査役
株式會社つばめや商店取締役

君は京都府士族山添澄時君の令弟にして、明治二年八月を以つて生れ、先代ゆき子の入夫となる。夙に普通教育を卒ふるや大志を抱き笈を負ふて上京し、切磋琢磨、明治三十年專修大學理財科を卒業す。

斯くて歸鄉して直ちに京都財界に投じ君の溫蓄と敏腕とを振つて活躍せしかば漸次斯界に覇を唱へ、現に郡是製糸、つばめや各株式會社の重役たり。

夫人ゆき子は養父喜代助君の長女にして君との間に欣太郎君、忠治君、圭三郎君、和助君及び文枝子、綺子、順子、八重子等あり、現に京都府何鹿郡綾部に住す。

大橋常三郎君

正五位勲三等功五級
陸軍憲兵少將

君は島根縣士族大橋只三郎君の養嗣子にして、明治九年十二月十八日を以つて生る。夙に陸軍士官學校を卒業し、明治三十二年陸軍砲兵少尉に任じ累進して同四十二年一月憲兵大尉に陞進す。

然して大正九年京城憲兵分隊長、同十年青島憲兵隊長、同十一年憲兵司令部附同十二年小倉憲兵隊長等を歷任し、大正十三年一月東京憲兵隊長に任ぜられ、大正十五年三月陸軍憲兵少將に陞進し、愈々前途を囑望せられたりしが感ずる所ありて官を辭し、今や讀書、乘馬、圍碁、盆栽等の趣味に悠々たり。

夫人西子は東京府士族北田正董君の三女にして君との間に武夫君、正男君、達郎君、和助君及び文枝子、綺子、順子、八重子等あり、現に東京市小石川區音羽町に住す。

帝都復興之現勢

本邦製糖界の權威

營業課目　人造石、鐵筋混凝土
化粧タイル張、煉瓦積
一般建築左官工事請負

土木建築請負　大塚工業所
大塚爲治
東京府下西巢鴨町池袋一九一九番地
出張所　東京府荏原郡碑文谷一三四四番地
砂利石材販賣部　東上線下板橋驛際大塚商店

明治製糖株式會社
取締役社長　相馬半治
專務取締役　有嶋健助
常務取締役　安田昌

大日本製糖株式會社
取締役社長　藤山雷太
常務取締役　伊吹震

弓家善四郎
弓家愼吾
東京市神田區同朋町二十一番地
電話下谷三五三五番

大石繁吉君

正四位勳二等
海軍々醫中將

君は京都府の人大石仙藏君の長男にして、明治二年一月を以つて生る。夙に海軍少軍醫に任じ累進して海軍中將に陞る。曩に豫備役に編入せられ、其の間第一艦隊軍醫長、吳海軍病院長兼鎭守府軍醫長、橫須賀鎭守府軍醫長等を歷任す。

夫人すて子は兵庫縣士族里見義紀君の二女にして君との間に新一君、重義君、四郎君及び純子、照子等あり、現に京都南桑田稗田野に住す。

岡澤慶三郎君

從四位勳三等功四級　陸軍中將
東西通信社長

君は茨城縣の人小更市三郎君の令孫にして、慶應三年十二月を以つて生れ後ち岡澤氏の養嗣子となる。明治二十二年陸軍士官學校を卒業し、後ち更に陸軍大學に入りて同校を卒業す。

然して明治二十二年陸軍步兵少尉に任官し大正七年陸軍中將に陞進す。其の間參謀本部部員、臺灣總督府陸軍幕僚參謀步兵第三十二同第五十三各聯隊長、步兵第十一近衛步兵第二各旅團長等を歷補せり。

斯くて退官後經濟學を專攻して實業界に投じ、現に帝國火災保險株式會社評議員、富國徵兵保險相互株式會社顧問、東西通信社々長として知らる。

夫人千枝子は茨城縣の人野口倉藏君の令妹たり、現に東京市外大久保百人町二四〇番地に住す。

小貫慶治君

東亞興業株式會社取締役支配人

君は秋田縣士族齋藤實光君の三男にして、明治元年二月十一日を以つて生れ、後ち同二十年小貫賴德君の養嗣子となる幼にして穎悟群童の比にあらず、夙に鄕校を卒ふるや靑雲の志を抱いて東上し、研鑽琢磨、明治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業して實業界に投す。

斯くて橫濱正金銀行に入りて精勵よく事務を快裁し、其の技倆を發揮せしかば機才忽ちにして上長の認むる處となり、明治三十九年七月拔擢せられて大連支店支配人に擧げらる。

然して彼の地に赴き業務の發展に盡瘁すること七ヶ年、轉じて天津支店支配人となり居ること五ヶ年、大正五年七月北京支店支配人に推され、此處に居ること五ヶ年、大正十年二月歸朝し本店詰となり調査課長に榮轉せしが、大正十年九月辭して東亞興業株式會社取締役支配人に就任し以つて現在に及ぶ。讀書を愛好し演藝に趣味深しといふ。

夫人をカネ子と稱し君との間に軟慶君章君及び英子、イク子等あり、現に東京市牛込區矢來町三番地に住し電話牛込二九一〇番なり。

大橋與市君

大橋銀行頭取
株式會社大橋農場社長

君は岐阜縣の人臼井仙六君の令弟にして、慶應二年六月を以つて生れ、先代三郎助君の養嗣子となる。明治三十年獨力大橋銀行を創立し君は其の頭取として內外の社務を執掌し、傍ら朝鮮全羅北道に大橋農場を開設し、大正十一年株式組織に變更して同社々長に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人つね子は岐阜縣の人後藤吉太郎君の令妹にして君との間に三郎君、四郎君及び靜子等あり、現に大垣市廓に住す。

小倉房藏君

正八位　陸軍二等主計
千住吾妻汽船株式會社長

君は埼玉縣の人柴崎宗十郎君の三男にして、明治十六年十一月九日を以つて生れ後ち小倉常吉君の養嗣子となる。明治四十一年早稻田大學商科を卒業し、同四十三年六月渡英して倫敦大學經濟科に入學し同四十五年七月歸朝す。

然して直ちに實業界に投じ小倉製油所支配人となり、大正十一年十月渡米してメキシコの斯業視察を了へ、翌十二年六月歸朝す。曩に日本光機工業、秋田鑛業各株式會社監査役たりしが現時は吾妻汽船株式會社々長たり。

夫人スミ子は實業家團琢磨君の三女にして學習院女學部の出身たり、東京市芝區白金三光町一一〇番地に現住す。

大島正德君

文學博士　從五位
東京市學務局長

君は神奈川縣の人大島正義君の長男にして、明治十三年十一月十一日を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、後ち大學院に入りて斯學を專攻せり。

曩に帝國大學文學部助教授、中央大學豫科講師たりしが現時は前揭の外內外教育評論社主幹たり。著書としては「經驗派哲學」「思索の人生」「新思想の批判と主張」等の名著ありてよく新聞雜誌に其の溫健なる思想を吐露することあり。

夫人をなを子と呼び山梨縣の人中澤德兵衛君の長女にして山梨縣甲府英和女學校の出身なり。現に東京市本鄉區駒込千駄木町五二番地に住し電話小石川四六七番たり。

×

大河內輝耕君

子爵　正四位勳四等
貴族院議員

當家は源經基五代馬場賴政の裔大河內信綱君の二男信興君の後なり、信興君は封邑を分與せられ別に一家を爲す、代々上州高崎に居城し封邑八萬二千石を食む夫れより十世を經て輝聲君に至る。

君は輝聲君の三男にして、明治十三年十一月十八日を以つて生れ同十七年子爵を授けらる。夙に學習院を經て東京帝國大學法科大學に學び、明治三十八年同科を卒業す。

斯くて直ちに大藏省に出仕し、大藏省書記官に任ぜられ主計課長たりしが、同四十三年五月更に專賣局主事兼大藏書記官に任ぜられ、尋いで歐米に差遣せられ後ち大藏省參事官を兼ね專賣局參事に任じ更に東京地方專賣局長に陞進す。貴族院議員に互選せらるゝこと二回、以つて現在に及ぶ。

趣味として讀書、旅行、運動等あり、夫人國子は公爵德川慶光君の令妹たり、現に東京府豐多摩郡代々幡町代々木中山谷二八四番地に住し電話四谷五三七番たり。

×

大西源太郎君

大西銀行取締役

君は大阪府の人高橋猪三郎君の令兄にして、明治十一年八月を以つて生れ、同三十五年先代ふさ子の入夫養子となる。

夙に金融界にありて大いに地方產業發達に貢獻し、現に大西銀行取締役たり、夫人セイ子は大阪府の人山野兵七君の三女にして、君との間に日出男君、吉之助君、福三郎君、棟四郎君及び順子、芳子、夏子、雛子、節子等あり。

現に神奈川縣橫濱市北仲通二ノ三七番地に住す。

大久保潛龍君

ドクトル　齒科醫學士
東京女子齒科醫學專門學校長

君は新潟縣の人故大久保貞齋君の長男にして、明治四年八月三日を以つて生る明治二十八年米國に留學しアイオワ州立齒科大學を卒業し、後ち英國に渡り倫敦大學に於て研鑽を究め、更に獨逸に渡りミュンヘン大學伯林大學等に學びドクトルの稱號を得て歸朝す。

然して獨力開業して一般患者の施療に從事する傍ら、日本齒科醫學專門學校敎授たりしが、明治四十二年五月東京女子齒科醫學校を創設して君が卓越せる識見を傾倒し、大正十一年七月東京女子齒科醫學專門學校に昇格し、今や校門を潛る學徒數千名に達するの盛況にあり。

夫人縫子は東京府士族鈴木知言君の三女にして日本女子大學附屬高等女學校を卒業し其の間に一夫君及び忍子、正枝子、澄枝子、紀子等あり、現に東京市神田區小川町七〇番地に住し電話大手三三五〇番たり。

×

大橋淸吉君

鳥山產業銀行頭取
酒主釀造株式會社常務取締役

當家は數百年來栃木縣那須郡境村に土着せる豪農にして、先代淸吉君に至り醬油釀造業を始め、大橋家今日の基礎を固めたり。

君は先代淸吉君の長男にして、明治八年四月を以つて生れ後ち前名鐵三郎を改めて襲名す。曩に大田原電氣株式會社取締役たりしが現時は前記の外下毛貯蓄銀行、黑羽商業銀行、鳥山銀行、野州新聞鹽原電車各株式會社の重役として地方財

界に令名あり。

尚ほ縣下多額納稅者にして現時直稅一千七百八十余圓を納む、夫人イネ子は茨城縣の人西田市左衞門君の長女たり、栃木縣那須郡境村に住す。

岡　實君

正四位勳一等
法學博士

君は奈良縣の人岡義妙君の長男にして明治六年九月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

然して後ち內務屬に任じ更に農商務省參事官に轉じ、同四十三年工務局長に陞進し、後ち官制改革に際し商工局長に擧げらる。曩に臨時產業調查局の設置せらるゝや其の第三第四部長となり、大正七年四月法學博士の學位を授けらる。

大正七年十一月巴里平和會議經濟事項政府委員として、且つ同八年十月米國華府に於て開催せられたる國際勞働會議政府委員として列席し、同九年二月臨時產業調查會委員を仰せ付けられ、現時は海軍經理學校、中央大學、明治大學、法政大學各講師にして且つ大阪每日、東京日々新聞社等の各顧問たり。

夫人を政子と呼び佐々木勇三郎君の長女たり、現に東京市芝區白金三光町二七六番地に住し電話高輪五五四五番なり。

大河內千代太郎　君

二本松銀行專務取締役

君は福島縣の人大河內伊介君の長男にして、明治十七年十二月を以つて生る。

夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、切瑳琢磨螢雪の功空しからず、明治四十二年早稻田大學政治經濟科を卒業す。

斯くて地方實業界に投じ、君の溫藉と敏腕とを以つて斯界に活躍せしかば令名頓に擧り、現に二本松銀行專務取締役として知らる。

夫人ハツ子は福島縣の人阿部傳吉君の長女にして福島高等女學校を卒業し君との間に守一君、駸一君、鷹君、源君及びのぶ子、多紀子等あり、現に福島市安達二本松に住す。

大島義脩　君

從三位勳二等
東京帝室博物館總長

君は東京府の人盧田源五郎君の四男にして、明治四年八月一日を以つて生れ、後ち故從三位勳一等大島貞敏君の養嗣子となる。夙に長崎中學校より第三高等學校を經て東京帝國大學文學部哲學科を卒業す。

爾來第四高等學校敎授、文部省視學官東京音樂學校長等を歷任し、日淸日露の兩役に出征して步兵中尉となる、然して東京音樂學校長辭任後第八高等學校長に任じ、後ち女子學習院長に轉じ現時は帝室博物館總長たり。

趣味に音樂及び美術あり、東京市麻布區廣尾町五八番地に現住す。

緒方勝一　君

正五位勳二等功四級
陸軍中將　陸軍科學研究所長

君は佐賀縣士族緒方二郎君の三男にして、明治八年一月を以つて生る。明治二十九年陸軍士官學校を卒業し、同三十年陸軍砲兵少尉に任官し、同三十四年軍事研究の爲め佛國に差遣せられ、大正十四年五月陸軍中將に陞進す。

其の間陸軍士官學校敎官、陸軍技術審查部審查官、重砲兵第二聯隊附、陸軍技術本部第一部長、陸軍重砲兵學校長、陸軍砲工學校長等を歷任し、現に陸軍科學研究所長たる外陸軍技術會議々員たり。

曩に大正四年渡歐し佛國軍に參加して從軍せしことあり。

夫人しげの子は東京府士族日比翁助君の長女にして君との間に太郎君あり、現に東京市牛込區若松町七十七番地に住し電話牛込二三四九番たり。

大河內又太郎　君

日下溫泉土地會社取締役
帝國炭酸瓦斯會社監查役

君は和歌山縣の人大河內萬吉君の長男にして、明治十四年七月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに實業界に投じ現に前記の外橫綱ゴム株式會社取締役たり併するや其の常任監查役に推さる。

現に前記會社常務取締役たる外千歲海上火災保險、泰昌銀行各株式會社の重役たり。夫人をチマ子と稱す、現に東京府荏原郡下目黑坂下耕地一三四番に住し電話高輪二〇二番なり。

小川貞一　君

帝國倉庫運輸會社常務取締役

君は長崎縣士族小川貞政君の長男にして、明治三十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して北濱銀行に入りて其の支配人となり、後ち十五銀行に轉じ副支配人たりしが更に丁酉銀行に轉じ同行常務取締役に擧げられ、川崎、丁酉、浪花各銀行合併するや其の常任監查役に推さる。

現に前記會社常務取締役たる外千歲海上火災保險、泰昌銀行各株式會社の重役たり。夫人をチマ子と稱す、現に東京府荏原郡下目黑坂下耕地一三四番に住し電話高輪二〇二番なり。

大口喜六　君

勳四等　大藏政務次官
衆議院議員

君は愛知縣の人大口喜六君の長男にして、明治三年五月を以つて生る。夙に東京英語學校、東京藥學校、東京帝國大學醫科大學等に學び其の造詣淺からず。

現に藥劑師にして、曾つて豐橋町長、同市長、日本藥劑師代議員會議長等に擧げられ、明治四十年以來衆議院議員として中央政界に鳴らし、昭和二年四月田中立憲政友會內閣成るや大藏政務次官に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

現に東京市小石川區指ヶ谷町七番地に住し電話小石川二〇七二番たり。

若槻禮次郎君

從三位勳一等　前內閣總理大臣
貴族院議員

君は島根縣士族奥村讓君の令弟にして慶應二年二月を以つて生れ、後ち先代敬君の養嗣子となる。明治二十五年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業するや直ちに官界に投ず。

爾來、愛媛縣收稅長、大藏書記官兼參事官、同主稅官、同主稅局長、大藏次官兼行政裁判所評定官、釀造試驗所長兼臨時國債整理局長、錦鷄間祇侯等を歷任し後ち貴族院議員に勅選せらる。

然して大正元年には桂內閣に、同三年には大隈內閣に何れも入閣して共に大藏大臣に親任し、大正十三年加藤內閣成るや三度臺閣に列して其の內務大臣に親任し、偶々大正十五年一月二十八日議會開會中不幸病を得て加藤首相他界するや、君勅命を奉じて後繼內閣を組織し、昭和二年四月財界不振に伴ふ臺銀救濟問題を中心として一陣の旋風吹き卷くるや、憲政會內閣の運命脆くも挫折し、今や野にありて同總裁、立憲民政黨の幹部として國政に盡瘁すること甚大なり。

夫人トク子は養父敬君の長女にして、君との間に有格君及び繁子等あり、現に東京市本鄉區駒込上富士前町一二九番地に住し電話小石川七〇〇〇番なり。

和田國次郎君

林學博士　正四位勳二等
宮中顧問官

君は福岡縣の人和田廉之助君の叔父君にして、慶應二年四月を以つて生る。明治二十一年東京農林學校林學科を卒業するや、東京農林學校教授、東京帝國大學農科大學助教授等を歷任して學徒の薰陶に盡瘁せり。

斯くて大林區署技師に任じ、更に林務官、農商務技師兼山林局森林監查官、御料局技師、同理事、木曾支廳長、帝室林野局技師等を歷任し、大正八年林學博士の學位を受け以つて現在に及ぶ。

曩に林業視察の目的を以つて歐洲各地に出張を命ぜられしことあり、夫人をちか子と稱し其の間に國男君、茂男君、武男君、鐵郎君及び富美枝子等あり、現に東京市芝區白金猿町六十七番地に住し電話高輪一〇一四番たり。

和田德兵衛君

和田商事株式會社取締役

大阪に於ける債券賣買業者として令名あるを我が和田德兵衛君となす、君は大阪府の人和田德右衛門君の長男にして、安政三年七月五日を以つて生れ、後ち前名政次郎を改稱す。夙に實業界に志し和田德商店と稱して債券賣買業を營みて斯界に知られ、尙ほ前記會社の取締役たり

夫人志計子は大阪府の人鹿海文助君の令妹にして君との間に德藏君、德治君、正明君、正君及び德子、悅子等あり、現に大阪市西區土佐堀二ノ八番地に住し電話土佐堀二八六八番なり。

渡邊又治郎君

正五位勳三等功五級　藥劑監
藥學博士　陸軍衞生材料廠長

君は宮城縣の人三品喜次君の二男にして、明治三年八月三日を以つて宮城縣亘理郡逢隈村に生れ、同五年渡邊竹松君の絕家を再興す。夙に第二高等學校を經て同三十三年東京帝國大學醫科大學藥學部を卒業し、同年十二月二等藥劑官に任ぜられ、同三十九年現職のまゝ大學院に入りて專攻す。

爾來、累進して大正七年十二月一等藥劑正に任ぜられ、此の間衞生材料廠員、東京衞戍病院附、第一師團軍醫部員、陸軍々醫學校敎官等を歷補し、大正十二年八月藥劑監に任ぜられ、現に衞生材料廠長たる外陸軍省醫務局御用掛、陸軍々醫學校御用掛等の諸職にあり。

尙ほ日露戰役には一等藥劑監として出征し、功に依り功五級金瑪勳章を賜ひ大正三四年の役には青島に出征して偉勳を立て、同年藥學博士の學位を授けらる。

趣味に旅行、讀書等あり、夫人すつ子は宮城縣の人渡邊英三郎君の二女にして其の間に敏雄君、久雄君、健三君及びキミ子、チヨ子等あり、現に東京市牛込區拂方町一二番地に住し電話牛込一五二〇番なり。

×

渡邊滿太郎君

正四位勳一等功四級
在鄕陸軍中將

君は東京府士族渡邊蜜君の長男にして慶應三年十二月を以つて生る。明治二十一年陸軍士官學校を卒業するや砲兵少尉に任官し、累進して大正七年陸軍中將に陞進す。

其の間變謀本部附、陸軍砲工學校敎官、參謀本部附、陸軍省兵器局長、陸軍砲工學校長等を歷任す。

夫人須磨子は東京府士族山德信義君の長女にして君との間に誠君、弘君、厚君及び芳枝子等あり、現に東京市外高田雜司ケ谷九四八番地に住し電話小石川三一九五番たり。

和田德次郎君

醫學博士　正五位勳四等
東北帝國大學敎授

君は和歌山縣の人龜井與平次君の二男にして、明治十二年十一月を以つて生れ後ち先代秀子の養嗣子となる。明治四十一年東京帝國大學醫科大學を卒業す。

斯くて直ちに東京帝國大學醫科大學助手となり、後ち仙臺醫學專門學校敎授、東北帝國大學醫科大學敎授等を歷任し、大正七年英米佛獨に留學し、大正九年七月論文を提出して醫學博士の學位を授與せられ同十年歸朝し以つて現在に及ぶ。

夫人かね子は和歌山縣の人和田正造君の二女にして、君との間に三女あり、現に仙臺市同大學部內に住す。

和田英作君

從四位勳四等　洋畫家
東京美術學校敎授

本邦畫壇に洋畫家の泰斗として、今や錚々の名聲を擅にするを我が和田英作君となす。君は鹿兒島縣士族和田秀豐君の長男にして、明治七年十二月を以つて同縣に生る。

顧みるに、彼の城山は、歷史的に我が大西鄕の名と共に不朽に三州を色彩り、幽邃にして絕佳なる大自然は、今は舊火山の櫻島を前に控え、遙かに本邦の南端に存在して不斷の香を吐く、斯くて三州の天地は朝に野に幾多の人材を輩出す。宜なる哉、我が洋畫家和田英作君も等しく其の天惠豐かなる四圍の大自然に育まれて早くも將來藝術家たるの純血は全身に溢れ、頴才又群童に秀ず。

斯くて長ずるに及んで、大野義康、原田直二郎等に洋畫を學び、久保田米僊に邦畫を敎はり、且つ大眞道場に黑田清輝久米桂一郎兩師に就きて精勵し、後ち東京美術學校西洋畫科に入りて研鑽を積み同校を卒ふるや同校助敎授に任じ、明治三十四年佛國に航して斯界の研究をなし同三十六年同校敎授に聘せられ爾來、學徒の薰陶に盡瘁する傍ら東京美術院會員にして今や本邦斯界に令名高し。

現に東京市麻布區笄町八番地に住し電話青山六四八七番たり。

渡邊亨君

萬歲生命保險會社取締役
大陽製帽株式會社監査役

當家は世々千葉縣安房郡保田町に住して農を業とせる舊家渡邊氏の分家なり、君は渡邊紋右衞門君の長男にして、慶應三年九月を以つて生る。

明治十九年東京專門學校法律科を卒業するや日報社に入り、後ち東京株式取引所書記支配人を經て理事に陞進し、明治三十九年辭して支那營口水道電氣會社を設立して同社專務取締役に擧げられ、而して鬼怒川水力電氣株式會社の設立を見るや入りて同社常務取締役に任じ、現時は前記の外鬼怒川水力電氣、ボルネオ護謨各株式會社の重役として令名あり。

夫人こう子は千葉縣の人鈴木利兵衞君の養妹にして、君との間に嵩若及び愛子梅子、富士子、さつき子、營子等あり、現に東京府荏原郡馬込狢窪三七六九番地に住す。

×

若井源左衞門君

兵庫縣多額納稅者
酒造業

君は兵庫縣の人卜部八兵衞君の五男にして、明治二年五月を以つて生れ、明治十三年十月先代源左衞門君の養嗣子となり前名餘八を改稱して襲名す。

夙に先代よりの酒造業を踏襲して益々盛大ならしめ、牡丹正宗の銘柄を以つて市場に販出し、社會民衆に愛用せられつゝあるは實に同家吟醸に係り、尙ほ兵庫縣多額納稅者として直稅六千三百八十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人あい子は養父源左衛門君の長女たり、兵庫縣武庫郡西灘村味泥に現住す。

渡部信君

正五位勳三等　宮內事務官兼參事官
宮內大臣官房文書課長

君は野州壬生藩士渡邊邁君の二男にして、明治十七年八月を以つて生る。先代邁君は維新後會計檢査院に職を奉じ、後ち二荒山神社及び三島神社宮司を掌り功勞尠少ならざりき。

君即ち由緒ある家柄に人と爲り、夙に學業順を追ふて進み、明治四十一年東京帝國大學法科大學佛法科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに官界に投じ、爾來、遞信省書記官、東京帝國大學法科大學講師、宮內省式部官兼內務省參事官等を歷任し、現に宮內事務官大臣官房文書課長にして兼ねて同參事官、式部職式部官たる外宮內官考查委員會、宮內省恩給審查會各委員たり。

夫人ノブ子は東京府の人加藤利久藏君の令妹たり、現に東京市本鄉區駒込上富士前町一二五番地に住し電話小石川七四五六番たり。

若杉種三郎君

長崎海運株式會社取締役

君は佐賀縣の人中山惣太郎君の二男にして、明治二年四月を以つて生れ、後ち若杉家に入りて其の家督を相續す。

夙に實業界に雄飛せんとの大志を抱き即ち入りて活躍大いに努め、現に長崎海運株式會社取締役として地方財界に重きをなす。

夫人サト子は長崎縣の人若杉米太郎君の養妹にして、君との間に種雄君、秀雄三君及び靜子等あり、長崎市櫻馬場町八十一番地に現住し電話八〇二番たり。

渡邊雄男君

森永相互株式會社專務取締役
玉川製氷株式會社監査役

君は長野縣士族禰津繁人君の二男にして、明治元年八月二十二日を以つて生れ同二十九年七月入りて渡邊家を相續す。

夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し研鑽琢磨螢雪の功空しからず、東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや敎育界に投じ、名古屋、大津、馬關各商業學校敎諭に任じ、君が博學を傾注して斯界に貢獻すること甚大なりき。

然して後ち敎鞭を擲つて實業界に走り甲武鐵道株式會社に入社して同社會計、倉庫、運輸各課長を歷勤し、後ち同社が國有に歸するに及び、北海道鐵道管理局に職を奉じて同營業課長たりしが、更に北海銀行に轉じて同行東京支店長に擧げられ、君が敏腕を縱橫に振つて同行發展に盡瘁せり。

現時は森永相互株式會社專務取締役として內外の社務を執掌するのみならず、玉川製氷、東京煉瓦各株式會社の重役として東都財界に令名あり。夫人をたい子と稱し君との間に禎君、祐君、勝君及びシヅ子等あり、現に東京府荏原郡入新井

町新井宿山王二六三九番地に住す。

和田惣八君

尼ケ崎商事株式會社取締役
大阪琺瑯株式會社取締役

君は大阪府の人先代惣八君の長男にして、慶應元年八月を以つて生る。夙に關西實業界に投じ、現に大阪琺瑯、尼ケ崎商事各株式會社の取締役として知らる。

夫人きく子は和歌山縣の人吉田吉兵衛君の令妹にして、君との間に惣治郎君、福三郎君及び富子等あり、現に大阪市南區順慶町二ノ六十一番地に住し電話船場三四三七番たり。

×

渡邊良助君

東京開成館專務取締役
日本印刷株式會社取締役

文化の源泉たる書籍出版界の功勞者渡邊良助君は、茨城縣の人渡邊竹三郎君の令弟にして、明治十年十一月六日を以つて同縣下妻町に生る。

夙に鄉校を卒ふるや大志を抱いて東都に上り、出版界に身を投じて熱誠事業に當り、幾多の經驗を積みて其の實際に精通し獨立の機運熟するや、獨力明治三十七年開成館を創立し、專ら中等敎科書の出版販賣に力を注ぎ、爾來、斯業を一貫し常に研究的態度を以つて其の發展と斬新改良とに鋭意黽勉、全力を傾注せしかば漸次發展の域に進み、遂に斯界に於ける一勢力をなし、各種中等敎科書の大部分を出版するに至れり。

茲に於てか事業の大擴張を期して株式組織に變更し、自ら專務取締役代表者として愈々事務の刷新、能率の增進、組織の改善、社內の改善等を斷行し、今や斯界の重鎭を以つて目さるゝと共に、君の盛名嘖々たるものあり。

尙ほ傍ら日本印刷株式會社取締役、株式會社美濃部製本所相談役等を兼ね、且つ大日本中等敎科書協會副會長として令名を擅にす、趣味として撞球に造詣深く又古今東西の書を繙きて事業發展の資となし或は修養となす、以つて其の人と爲りを知るべきなり、現に東京市小石川區小日向臺町二ノ一九番地に住し電話小石川三〇五番たり。

×

渡邊八三郎君

新湊銀行頭取
神澤銀行取締役

君は富山縣の人渡邊八三郎君の長男にして、明治元年十月を以つて生れ後ち前名を改めて襲名す。夙に鄉校を卒ふるや直ちに當地財界に投じ、君が天稟の才幹を發揮して其の敏腕を縱橫に振ひ、現に新湊銀行頭取たる外神澤銀行、新湊商業富山灣太敷漁業各株式會社の重役として知らる。

夫人きよ子は富山縣の人笹谷彥八君の令妹にして、君との間に純太郎君、龜雄君、勝巳君及び德子等あり、現に富山縣射水郡新湊町に住す。

若尾璋八君

東京電燈株式會社長
衆議院議員

君は山梨縣の人元代議士廣瀬久政君の令弟にして、現代議士廣瀬爲久君の令兄若尾音造君、同金造君、同鐵之助君等の養兄君に當り、明治六年七月二十七日を以つて生れ、同二十九年富豪若尾民造君の養嗣子となる。

夙に中央大學の前身たる東京法學院を卒業するや、養父を援けて若尾銀行支配人となり、經營宜しきを得て遂に今日の盛運を見るに至りぬ、現に東京電燈株式會社々長たる外箱根土地、大同電力、揖斐川電氣、京濱電力、ボルネオ殖産、水戸瓦斯、日本化學工業各株式會社の重役にして我が國財界に令名あり。

然して大正六年以來衆議院議員に當選すること前後三回、現に政友會總務委員にして中央政界に重きをなす。

夫人きよの子は若尾謹之助君の令姉たり、現に東京市芝區三田町一ノ三四番地に住し電話高輪一七九〇番たり。

渡邊亮平君

神奈川縣多額納稅者

君は靜岡縣の人齋藤佐七君の二男にして、明治十一年六月を以つて生れ、後ち先代忠右衛門君の養嗣子となる。夙に志を我が國造船界に抱き、斯界に投じて實地に就きて研鑽すること久しく、現に造船業を營みて斯界に令名高し。

尚ほ神奈川縣多額納稅者にして直稅五千五百二十余圓を納む、夫人をソメ子と稱し君との間に一男四女あり、現に横濱市外神奈川渡邊三一八一番地に住す。

渡邊滿太郎君

正五位勳四等　獸醫監
第一師團獸醫部長

君は廣島縣の人渡邊邊物三郎君の三男にして、明治十二年七月十三日を以つて廣島縣安佐郡三入村に生る。夙に廣島縣立第一中學校を卒ふるや笈を負ふて東上し切瑳琢磨螢雪の功空しからず、明治三十七年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業するや、更に斯學の蘊蓄を極むべく大學院に入りて研鑽せり。

斯くて第一師團騎兵聯隊に職を奉じ、爾來、遼東守備軍獸醫部長、關東總督府獸醫部長、近衞輕重兵大隊附、陸軍獸醫學校教官、近衞步兵聯隊附、第十七師團獸醫部長等を歷補し、而して大正十五年三月第一師團獸醫部長に榮轉し、以つて現在に及ぶ。

曩に明治三十七八年日露兩國の開戰勃發するや、君は第一軍兵站部附、旅順軍馬補充部附等として從軍し、滿洲の野に轉戰して幾多の戰功を立つ、資性磊落、社交に厚く、趣味として圍碁に堪能なるが如し。

夫人きよ子は京都府の人山崎惠純君の二女にして、君との間に健二君及び順子、京子、華子等あり、現に東京府下平塚町小山五二一番地に住す。

若尾義角君

富士撚糸工業株式會社取締役

君は山梨縣の人岡源八君の令弟にして明治八年二月を以つて生れ後ち先代保重郎君の養嗣子となる。夙に地方實業界に活躍して雄を競ひ、現に富士撚糸工業株式會社取締役として知らる。

夫人をうめ子と稱し實業家若尾謹之助君の叔母君にして、君との間に靜太郎君眞之助君及び富貴子、雪野子、光代子、愛子等あり、現に甲府市春日町四番地に住す。

×

渡邊勝三郎君

東京乘合自動車株式會社長
武藏電鐵株式會社專務取締役
東京瓦斯株式會社長

本邦實業界の曉星として令名東西に嘖々たるを我が渡邊勝三郎君となす。君は東京府の人渡邊治右衛門君の令弟にして同六藏君の令兄に當り、明治六年十月を以つて生る。

夙に實業界に活躍して君の優れたる識見と、稀代の敏腕とを以つて斯界に飛躍せしかば漸次頭角を現はし、今や押しも押されもせぬ財界の巨頭を以つて目せられ、令名天下に喧傳せらる。

現に前記の外渡邊邊商事、上毛モスリン眞砂商會、朝鮮殖産貿易、邦樂座各株式會社々長にして、且つあかぢ貯蓄銀行、大船田園都市、朝鮮產業各株式會社常務取締役及び東京電燈、渡邊保全、大正製氷、日本曹達、立山電力、磐城炭礦等其他十數會社の重役たり。

夫人よし子は東京府の人鈴木吉五郎君の長女にして君との間に初男君、次男君及び靜尾子、伊都尾子等あり、現に東京市芝區西久保城山町一番地に住し電話青山六八四〇番たり。

×

和田歲夫君

由比銀行取締役
岩淵銀行取締役

君は靜岡縣の人和田源作君の長男にして、明治十一年十一月を以つて生る。夙に地方財界に投じ現に由比銀行、岩淵銀行各株式會社取締役たり。

夫人をつや子と稱し君との間に顯太郎君、連二君、盛夫君、昌君及び澄子、龍子等あり、靜岡縣庵原郡由比に現住す。

鷲尾勇平君

日清紡績株式會社取締役
兼同社龜戸工場長

君は新潟縣の人鷲尾甚平君の長男にして、明治十六年十二月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治四十一年東京帝國大學工科大學機械工學科を優秀の成績を以つて卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、聘に應じて日清紡績株式會社に入社し、爾來、同社の發展に盡瘁すること甚大、其の間同社高岡工場長等を歷勤し、現に同社取締役兼龜戸工場長として知らる。

夫人をたき子と呼び、新潟縣の人伊藤仁太郎君の令妹にして、君との間に貞平

君、忠平君、平三郎君、龍平君、俊平君尙平君及び雪子、花子、八重子等あり、現に東京市本鄕區駒込神明町三二〇番地に住し電話小石川四四六八番なり。

和田龜治君

正四位勳二等功四級
陸軍中將　第一師團長

君は大分縣の人和田壽七君の長男にして、明治三年十一月を以つて生る。夙に陸軍士官學校に學び、同二十八年五月步兵少尉に任官し、累進して陸軍中將に陞進す。

其の間陸軍々務局課員、陸軍省副官、步兵第三聯隊附、麻布聯隊區司令官、陸軍大學校兵學敎官兼幹事、參謀本部第三部長、陸軍大學校長等を歷任し、以つて現在に及ぶ。

夫人照子は東京府の人古下督太郎君の令妹にして其の間に二男あり、現に東京市麻布區三河臺二四番地に住し電話青山五八〇九番たり。

×

若目田利助君

正五位勳五等
日本電話工業會社專務取締役

君は栃木縣の人若目田晋三郎君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。

明治三十五年東京帝國大學工科大學を卒業し、更に電話事業研究の爲め英米に留學し造詣を深くして歸朝す。

斯くて後ち通信局工務課長、大阪郵便局電話課長、遞信技師等を歷任し、後ち實業界に身を投じ、現に日本電話工業株式會社專務取締役たり。

夫人タニ子は栃木縣の人崎尾新五郎君の三女にして、其の間に利夫君及び充子春子等あり、大阪府東成郡住吉村に現住し電話天下茶屋二四四番たり。

×

渡邊友次郎君

實業家
大友味噌釀造所主

京都釀造界に古き歷史を有し、其の優秀なる製品と其の生産量の多きと、社會の信用絕大とを以つて令名あるを我が大友味噌釀造所となす。

然して同所經營者渡邊友次郎君は千葉縣の人渡邊仁兵衛君の二男にして、明治十四年九月十一日を以つて千葉縣南葛飾郡松戸町に生る。當家は父祖傳來の味噌釀造販賣業を營みて斯界に重きをなせし家柄にして、君亦斯業を踏襲して初め芝區土手跡町に釀造所を設け、大いに君が敏腕を振つて其の發展に盡瘁せり。

斯くて業勢年を追ふて順調を辿り、社會の信望益々厚く、從つて其の製造高增大するに連れて愈々釀造所の狹隘を告げしかば、大正九年四月現在の場所に八百數十坪の大釀造所を建設し、然して舊釀造所を店舗となし、更に一大飛躍を試みしかば社會の信望激增と共に我が大友味噌の聲價は東西に喧傳せられ、今や生產年額實に二百萬貫の多きに達し、斯界の白眉を以つて目さるゝに至る、是れ全く君の至誠以つて奮闘精勵の結果たらずんばあるべからず、又偉なる哉

夫人ふく子は千葉縣の人渡邊與之助君の二女にして、君の今日の大を成すに內助の力與つて大なるを忘るべからず、現に東京市芝區芝浦二ノ三番地に住し電話高輪三四〇二番たり。

×

渡邊孫一郎君

理學博士　正五位勳四等
東京商科大學敎授

君は栃木縣の人渡邊藤太君の長男にして、明治十八年九月を以つて生る。明治四十一年東京帝國大學理科大學數學科を卒業し、明治四十四年第八高等學校敎授に任ぜらる。

爾來第一高等學校敎授、東京商科大學豫科敎授、東京商科大學敎授等を歷任し以つて現在に及ぶ、先是大正八年理學博士の學位を授與せらる。

夫人政子は東京府の人伊藤英夫君の二女にして君との間に研一君、隆二君、洋三君、芳郎君及び靜子等あり、現に東京市外戶塚源兵衛町一四〇番地に住し電話牛込五八〇九番たり。

渡邊錠太郎君

從四位勳二等功五級
陸軍中將　第七師團長

君は愛知縣の人和田武右衛門君の長男にして、明治七年四月を以つて生れ、同二十五年先代庄兵衛君の養嗣子となる。

明治二十九年十一月陸軍士官學校を卒業し、陸軍步兵少尉に任官し累進して大正十四年五月陸軍中將に陞る。

其の間獨逸大使館附武官補佐官、參謀本部部員兼元帥副官、步兵第三聯隊附、和蘭公使館附武官、參謀本部課長、步兵第二十九旅團長、參謀本部第四部長、作戰資材整備會議會員、陸軍大學校兵學敎官、陸軍大學校長等を歷任し、大正十年三月第七師團長に榮轉し以つて現在に及ぶ。

夫人すず子は愛知縣の人野田九一郎君の長女にして、其の間に誠一君、恭二君及び長女政子等あり。

若林彌一郎君

工學博士
三菱合資會社査業課顧問

君は若林彌兵衛君の三男にして、明治七年八月十五日を以つて金澤市に生る。

明治三十一年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業す。

然して、直ちに身を實業界に投じ、聘に應じて三菱合資會社に入社し、明治三十一年より同四十五年まで同社荒川鑛山に勤務せしが、大正元年同社吉岡鑛山長に轉じ、同五年更に同社東洋課に轉勤し後ち參事に擧げられ同七年三菱製鐵、翌年三菱鑛業各株式會社に歷勤し、以つて現在に及ぶ、大正十一年工學博士の學位を授けらる。

夫人高子は石川縣の人畝村與兵衛君の三女にして、君との間に一男ありて武夫君と稱す、現に東京市外雜司ヶ谷一一一八番地に住し電話牛込二一七六番たり。

渡邊幸平君

百十三銀行頭取
金森商船株式會社長

君は靜岡縣の人古郡彦三郎君の三男にして、明治九年五月を以つて生れ、後ち先代渡邊幸平君の養嗣子となる。夙に北海道に渡り彼の地實業界に投じ、着々として其の地歩を築き上げ、斯界に重きをなすに至れり。

現に金森商船株式會社々長及び百十三銀行頭取たる外北海商船、石狩製鐵所、大東燐寸、北海道鐵道、大東海上保險各株式會社の重役にして、且つ函館商業會議所議員たり。

夫人カネ子は養父幸平君の二女にして君との間に金一郎君、勝次郎君、恒三郎君及び孝子、喜子、淑子等あり、函館市元町に現住し電話一四八番たり。

渡邊文七君

橫濱土地株式會社會長
橫濱撚糸織物株式會社會長

君は山梨縣の人小林米太郎君の令弟にして、明治四年八月を以つて生れ、同十三年七月先代文七君の養嗣子となり前名金太郎を改稱す。

夙に橫濱に出でゝ蚕糸貿易業を營み、着々として斯界に重きをなし、現時は前記會社に會長たる外橫濱生命保險、橫濱火災海上保險各株式會社の重役にして、且つ縣下多額納稅者として直稅二千六百三十余圓を納め橫濱財界の重鎭たり。

尚ほ橫濱商業會議所常議員、都市計畫地方委員にして且つ橫濱取引所相談役、橫濱蠶糸貿易商同業組合聯合會長たり。

夫人タネ子は山梨縣の人原潛君の長女にして、君との間に文三郎君、信藏君、廣四郎君及びいと子、しづ子等あり、現に橫濱市辨天通二ノ三八番地に住し電話長一六二番たり。

渡邊熊四郎君

第一印刷株式會社取締役
函館水電株式會社監査役

君は北海道の人林松右衛門君の二男にして、慶應元年十二月を以つて生れ、後ち先代熊四郎君の養嗣子となり前名源太郎を改稱す。

夙に地方實業界に活躍し、現に第一印刷株式會社取締役及び函館水電株式會社監査役として知らる。

夫人ヒデ子は養父熊四郎君の長女にして、君との間に熊藏君、源三郎君、競君、音次郎君及び道子、文子、ともる子、貞子、雪子等あり、現に北海道函館市末廣町一〇四番地に住し電話一四七番たり。

渡邊壽君

正四位勳二等功四級
陸軍中將　第十九師團長

君は岐阜縣の人渡邊時哉君の四男にして、明治七年十一月を以つて生る。明治二十八年陸軍士官學校を卒業し、更に同三十五年陸軍大學校を卒業し、同二十八年歩兵少尉に任官し大正十三年陸軍中將に陞進す。

其の間參謀本部部員、滿洲軍總司令部參謀、佛國大使館附武官補佐官、陸軍歩兵學校研究部主事、同教官、技術審査部議員、陸軍歩兵學校教育部長兼研究部々員、近衞歩兵第一聯隊長、參謀本部附平和條約實施委員、佛國在勤帝國大使館附武官、國際聯盟陸海空軍問題常設諮問委員會に於ける帝國代表者隨員、歩兵第二十三旅團長陸軍歩兵學校長、教育總監部本部長、陸軍將校生徒試驗常置委員長等の要職を歴補し、大正十五年七月第十九師團長に補せられ以つて現在に及ぶ。

夫人タカ子は故陸軍中將木村有恒君の二女にして、其の間に武男君、羽雄君及び初子、重子、博子等あり。

渡邊幸造君

金田興業銀行專務取締役
曾我殖産株式會社監査役

君は神奈川縣の人渡邊歌次郎君の長男にして、明治十五年四月を以つて生る。夙に地方財界に投じ、現に金田興業銀行專務取締役たる外曾我殖産、丸共運送各株式會社の重役たり。

尚ほ傍ら地方産業發展に盡瘁することは甚大、現に山田村耕地整理組合長を勤め當地方財界に重きをなす。

夫人テフ子は神奈川縣の人中野仁右衞門君の二男にして、君との間に涼作君、千里君及び道子、信子、春子、美穗子等あり、神奈川縣足柄上山田村に現住す。

若山庄造君

資産家

君は京都府の人若山庄造君の長男にして、明治四年八月を以つて生れ、前名政太郎を改稱す。昔ながらの資産家として知らる。

現に京都市下京區七條驛前に住し電話一五〇三番たり。

×

渡邊利二郎君

渡邊同族株式會社副社長
橫濱社會館長

橫濱實業界に於ける重鎭として勢力相伯仲して世に三幅對の稱あるを渡邊、平沼、若尾三家となす。然して其の一勢力として今や京濱實業界に令名ある渡邊利二郎君は、明治二十年七月十一日を以つて生れ令兄逝去に依り父家を相續す。

君は天資英明學に厚く、夙に學業順を追ふて進み、大正三年東京帝國大學經濟學科を卒業し、更に斯學研究の爲め米國に航し、北米合衆國各地の社會經濟事情を研究視察し、大正五年五月歸朝す。

然して直ちに實業界に投じ、嚴父を補けて敏腕を揮ひ、現に前記の要職にある傍ら渡邊銀行、東海鉛管各株式會社の重役たり。

尚ほ神奈川縣會議員に擧げられ、現に

其の職にありて縣政に參與し、更に同縣參事會員、橫濱商業會議所議員にして又都市計劃橫濱地方委員會委員、橫濱聯合青年修養團副團長等君が公共的事業に盡瘁すること甚大なり。

趣味廣く旅行、釣魚、西洋音樂、將棋等其の最もなるものなり、夫人壽子は伯爵廣澤金次郎君の長女たり、現に東京市外北品川宿三一二番地に住し電話高輪一三六番なり。

×

渡邊政一郎君

野州銀行頭取
那須電氣株式會社取締役

君は栃木縣の人渡邊政一君の三男にして、明治元年三月を以つて生れ前名兼治を改稱す。夙に地方財界に投じて君の敏腕を振ひ、現に野州銀行頭取たる外那須電氣、黒羽陶器各株式會社取締役として斯界に重きをなす。

夫人をキン子と稱し栃木縣の人益子佐平君の長女にして君との間に貞一君、清君、金六君及びマサ子等あり、現に栃木縣那須郡西郷村に住す。

×

渡邊勝三郎君

從三位勳三等
東洋拓殖株式會社總裁

君は岡山縣の人渡邊德一郎君の三男にして、明治五年一月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官界に奉じ奈良、廣島各縣參事官より福島、和歌山各縣書記官、香川、京都各府縣事務官、德島、新潟、長崎、各縣知事、內務省地方局長等を歷任し、大正十年の夏地方行政視察の爲め歐米に出張を命ぜられ、歸朝後橫濱市長に擧げられ橫濱商業會議所特別議員たりしが、大正十四年四月東洋拓殖株式會社總裁に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人ミサヲ子は靜岡縣の人松本三郎君の長女にして、其の間に正夫君、二郎君、和夫君、志郎君、敬五君及び淑子、富美子等あり、東京府豐多摩郡下落合五五二番地に現住し電話牛込一七四八番なり。

和田高彦君

大地主

當家は高祖父和田作太夫君備後より大阪に移住してより十三代を經て先代高英君に至る。君は其の長男にして、明治十三年三月を以つて生る。夙に慶應義塾理財科を卒業す。

現に大阪市東區清堀町二十九番地に住し電話南一八三八番なり。

×

渡邊福三郎君

渡邊銀行頭取
渡邊同族株式會社長

我が實業界の巨星從六位勳四等渡邊福三郎君は、東京府の人渡邊治右衞門君の二男にして、安政二年一月十八日を以つて生る。

當家は九代に亘れる素封家にして、東

都屈指の豪商として知らる。夙に橫濱港の將來大いに囑目すべきを達觀し商舖を橫濱に新設し、石福商店と稱して海產貿易商を營みしかば、業運年と共に隆盛に赴き開業以來數年ならずして、橫濱貿易商中嶄然頭角を現はすに至る。

君亦事業に專念たる傍ら國家國益の事に意を注ぎ、曾つて第一期神奈川縣會議員に選ばれて政客たること十二ヶ年、明治二十年政府が國防の資を民間富豪に求むるや君率先して巨額の海防費を獻納し特旨を以つて從六位に叙し金製苗綬褒章を賜はり、同二十三年貴族院議員に擧げらる。

大正二年家運の振展、事業の擴張に伴ひ、石福商店の組織を變更して渡邊同族株式會社となし、經營施設の上に一大刷新を加へしかば愈々本邦實業界に勢力を張り、事業益々發展し全國樞要地に支店を設置し、製品の精良を以つて特色となし、其の販路年と共に擴まり、業績大いに擧り、今や前記の要職にある傍ら東洋モスリン、東京灣埋立各株式會社の重役にして、且つ日本特殊鋼合資會社相談役其の他の事業に關與して聲名あり。

尙ほ橫濱商業會議所議員の公職にありて實業界に貢獻すること甚大、京濱實業界に於ける君の信望と其の勢力とは絕大夫人たま子は群馬縣の人大河原太七君の二女たり、現に橫濱市元濱町一ノ一番地に住し電話三六一番なり。

×

渡邊伊太郎君

吉田銀行監査役

君は石川縣の人渡邊與平君の長男にして、明治十一年十一月を以つて生る。夙に地方金融界に活躍して產業發展に貢獻すること甚大、現に吉田銀行監査役たり夫人加男利子は富山縣の人端嘉平君の二女にして、君との間に六男二女あり、現に石川縣河北郡英田村に住す。

渡邊襄君

正五位勳四等
中央度量衡檢定所技師

君は彼の一ノ關中學校長として令名ありし、故理學士渡邊讓君の長男にして、明治十四年八月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學理科大學を卒業す。

斯くて職を官途に奉じ、海軍大學校教官に補せられ、尋いで海軍々醫學校教官を兼ね、明治四十五年海軍技師を兼ね水路部に出仕し、大正三年海軍技師に任ぜられ同時に海軍敎授を兼ね、同四年英國に出張し、同八年農商務技師兼海軍技師に任ぜられ、後ち商工省工務局技師を經て、現に前記の外海軍技師兼海軍水路部々員たり。

夫人スミ子は工學博士金子恭輔君の令妹にして、御茶ノ水高等女學校を卒業し君との間に二男二女ありて巖君、洋君及び千鶴子、萬龜子等あり、現に東京市小石川區茗荷谷五三番地に住し電話小石川六〇〇三番たり。

鷲尾德之助君

六十九銀行專務取締役
長岡商業銀行監査役

君は新潟縣の人鷲尾庄八君の長男にして、明治十二年四月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して勢力を張り、現に六十九銀行專務取締役たる外長岡商業銀行、長岡貯蓄銀行、長岡拓殖、長岡商事鮮滿開拓各株式會社の重役たり。

夫人キン子は新潟縣の人駒形宇太郎君の長女にして、君との間に英一君、英治君、三郎君等あり、現に新潟縣長岡市表五ノ町に住す。

×

渡邊爲藏君

民友社主幹
國民新聞社理事

君は熊本縣の人渡邊順藏君の三男にして、文久三年七月五日を以つて熊本縣阿蘇郡小峯町に生る。明治三十一年六月民友社を創設し、圖書出版印刷發賣等を營み國民新聞社と相呼應し相提携して終始奮闘を以つて一貫し、孜々としてこれ怠らざりしかば遂に今日の大を見るに至る。

曩に國民新聞社に入りて操觚界の人となり、後ち德富蘇峰氏に其の才量を認められ、遂に拔擢せられて同社理事に就任し以つて今日に及ぶ。園藝、旅行を愛好すといふ。

夫人リウ子は東京府の人若林三右衞門君の長女たり、東京市赤坂區新坂町一六番地に現住し電話青山二七六二番なり。

渡邊吉右衞門君

川越渡邊銀行專務取締役
埼玉縣多額納稅者

君は神奈川縣の人野村源左衞門君の四男にして、明治二年六月を以つて生れ、後ち先代うら子の養嗣子となる。早くより實業界に雄飛せんと志し、即ち入りて活躍大いに努め、現に川越渡邊銀行專務取締役たり。

尙ほ縣下多額納稅者の一人にして現時直稅八千二百四十余圓を納め、同縣下財界に重きをなす、現に埼玉縣川越町川越に住す。

×

和田忠治君

正七位勳六等
和田工務所長

君は東京府士族和田盛英君の二男にして、明治八年十二月二十日を以つて京都市上京區寺町通りに生る。夙に第三高等學校を經て、明治三十一年帝國大學工學部土木工學科を卒業す。

斯くて山形縣に職を奉じ、爾來、秋田縣技師、函館區技師、陸軍技師等を歷任し明治四十年橫濱市技師となり勤續すること十年、大正四年官を辭して獨力和田工務所を開設し上下水道及び土木工事調査設計監督の事務に從事して異數の才量を發揮し、斯界に貢獻すること甚大なり

夫人とよ子は京都府の人矢島鉤之助君の長女にして京都府立第一高等女學校の出身たり、現に東京市芝區三田通新町七番地に住し電話高輪二一九〇番なり。

和田傳太郎君

沼津銀行取締役
沼津瓦斯株式會社取締役

君は靜岡縣の人和田傳太郎君の長男にして、明治十一年十月を以つて生れ前名貢實を改稱す。夙に實業界に活躍し曩に御殿場銀行、靜岡縣農工銀行各取締役たりしことあり。

然して現時は沼津銀行、沼津瓦斯、日東製麥倉庫、藤澤製麥倉庫、靜岡瓦斯、東海自動車、駿豆肥料、富士毛織、不二商會各株式會社の重役として地方財界に重きをなす。尙ほ縣下多額納稅者たり。

夫人せつ子は靜岡縣の人本間春城君の令妹にして君との間に元君、捷雄君、長雄君、金剛君、三千雄君等あり、現に靜岡縣沼津市に住す。

×

若麻積安治君

東邦證券株式會社取締役
東邦電力株式會社理事

君は長野縣の人若麻積海穩君の四男にして、明治六年三月十一日を以つて生る明治二十九年東京高等工業學校機械科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して三井工業部新町紡績所に入り其の工務主任として明治三十六年迄勤續し四十一年郡山絹糸紡績工場長に任じ、大正三年郡山電氣株式會社取締役支配人に擧げられ、同五年轉じて名古屋電燈株式會社調査課長となり、更に大正十一年東邦電力株式會社調査課長に就任し、尋いで同社調査部次長理事に擧げられ現に其の傍ら東邦證券株式會社取締役たり。

夫人はな子は長野縣士族田原秀人君の令妹にして君との間に一男一女あり、現に東京府豊多摩郡落合下落合三六七番地に住し電話牛込二二五三番なり。

脇清五郎君

志筑銀行取締役

君は兵庫縣の人坂東藤作君の二男にして、明治九年一月を以つて生れ、明治二十八年先代常平君の養嗣子となる。現に志筑銀行取締役として地方金融界に重きをなす。

夫人きさ子は養父常平君の長女にして君との間に讓次君、謙一君、邦雄君及びちゑ子、とめ子等あり、現に兵庫縣津名郡志筑に住す。

×

若宮貞夫君

從三位勳二等
衆議院議員

君は東京府の人若宮正海君の三男にして、明治八年一月を以つて生れ、先代正音君の養嗣子となる。明治三十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、遞信省に入りて管船局に勤務し、同四十一年海事局長兼地方海員審判所長に任ぜられ、爾來、北海道遞信局長、北部遞信局長、管船局長兼高等海員審判所長、戰時管船局長等を歷任し、大正十一年遞信次官に翌年航空局長官に任ぜられしが後ち官を辭す。

然して兵庫縣郡部より推されて馬を陣頭に進むるや、幾多闘士を一蹴して遂に當選の榮譽を擔ひ、今や中央政界にありて重きをなし、令名内外に嘖々たり。

夫人とと子は福井縣の人大和田莊太郎君の長女にして、君との間に甲太郎君、乙二郎君及び糸子、文子、章子、正子、切子等あり、現に東京市赤坂區表町四ノ一番地に住し電話青山三〇〇番たり。

若尾幾太郎君

若尾銀行頭取
衆議院議員

當家は甲斐源氏の一族にして、武田氏滅亡の後農家となり、曾つては名主役を勤めたる舊家なり。君は先代幾造君の長男にして生糸王と知られたる若尾逸平君の令姪に當り、明治十七年三月を以つて産す。

夙に横濱商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、父祖の業を繼ぎて蚕糸貿易商を營み、現に傍ら若尾銀行頭取にして且つ帝國ホテル、三ツ引商事、横濱桟橋倉庫各株式會社の重役たり。

尚ほ横濱取引所取引員にして、且つ川崎社會館長、神奈川縣蠶糸調査委員たり大正十三年横濱市より選ばれて衆議院議員に當選して中央政界に活躍し、尚ほ神奈川縣多額納税者として直税實に壹萬四千三百五十余圓を納む。

現に横濱市本町四ノ六三番地に住し電話五六番たり。

×

渡邊忠壽君

從五位勲四等
株式會社北辰會專務取締役

君は愛媛縣士族渡邊賢治君の二男にして、明治十年八月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學法科大學を卒業するや、同年直ちに文官高等試驗に登第して其の俊才を謳はる。

然して職を官界に奉じ、司法官試補判事、埼玉縣屬兼警部、内務屬、京都府葛野郡長、群馬縣警察部長、農商務書記官兼同省參事官、福岡縣警察部長、群馬、兵庫、神奈川各縣内務部長等を歴任す。

斯くて、後ち官界を辭して實業界に投じ、現に株式會社北辰會事務取締役として知らる。夫人サダ子は愛媛縣の人平野德五郎君の長女にして、松山高等女學校の出身たり、現に東京市外世田ヶ谷上二〇八番地に住す。

×

鷲尾清太郎君

兵庫縣多額納税者

君は兵庫縣の人先代萬介君の長男にして、明治十七年二月を以つて生る。夙に酒造業を營み現に縣下多額納税者として直税四千十余圓を納むる故に知らる。

夫人とる子は兵庫縣の人三木拙二君の令妹にして、君との間に東太郎君、二三雄君、享之助君及び美喜子、敏子、三重子等あり、兵庫縣武庫郡今津に現住す。

和田直兵衞君

大和屋經營者
東京府多額納税者

君は和田德重君の長男にして、明治十三年二月を以つて生れ、後ち前名兼吉を改稱す。明治三十六年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、家業たる疊表花莚綠布和傘問屋業に從事し、大和屋と稱して東都に令名あり。

尚ほ東京府多額納税者にして現時直税四千四百十余圓を納む、書畫、骨董を愛好するが如し、夫人をアイ子と稱し君との間に吉藏君、秀藏君、光藏君、龜藏君覺藏君等あり、東京市日本橋區堀江町一ノ一番地に現住し電話浪花九六番たり。

渡邊藤吉君

渡邊鐵工所常務取締役
福岡縣多額納税者

君は福岡縣の人渡邊藤吉君の四男にして、明治十二年二月を以つて生れ後ち前名愛次郎を改稱す。夙に福岡財界に投じて其の敏腕を振ひ、現に株式會社渡邊鐵工所常務取締役たる外日本工業原料株式會社取締役たり。

尚ほ縣下多額納税者の一人にして直税五千七百五十余圓を納め、且つ博多商業會議所議員たり、夫人をタカ子と呼ぶ、現に福岡市上西町十六番地に住す。

渡邊修君

大阪電球株式會社長
宇和水電株式會社長

正六位勲三等渡邊修君は愛媛縣の人渡邊宇平太君の二男にして、安政六年十二月十日を以つて生る。明治十四年慶應義塾を卒業するや直ちに職を官界に奉す。

爾來、農商務省御用掛、外務省參事官副領事、特許局審判官、遞信省書記官、參事官兼臨時臺灣電信建設部事務官、長崎及び札幌一等郵便局長、愛媛、香川各縣書記官等を歴任し、次いで佐世保市長に擧げられ後ち辭して實業界に投ず。

曩に横濱取引所理事長、南豫製紙、京都電氣鐵道各株式會社監査役及び大阪電燈株式會社常務取締役たりしが、現時は前記諸會社の社長たる外第一火災海上、朝鮮鐵道、日本瓦斯、佐世保鐵道、大阪三品取引所、朝日海陸運輸、東京電氣各株式會社の重役として令名あり。

曾つて北米合衆國を視察漫遊し、且つ衆議院議員たりしこと七回に及べり。趣味に圍碁、劇書等あり、現に東京市麹町區平河町六ノ二〇番地に住し電話四谷二四二四番なり。

×

脇本米司君

從五位勲五等
鴻池組專務取締役

君は奈良縣の人脇本傳次郎君の長男にして、明治元年八月を以つて生る。明治二十三年早稲田大學商科を卒業するや、直ちに實業界に投じ、現に株式會社鴻池組專務取締役として知らる。

夫人をカネ子と稱し、奈良縣の人松岡

君にして其の間に幾太郎君、仁君及び鶴子、美子等あり、現に横濱市本町四ノ六三番地に住し電話長本局一八番なり。

渡邊龍夫君

尾張銀行取締役
大同電力株式會社取締役

君は愛知縣士族渡邊永豊君の長男にして、明治元年二月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に尾張銀行、大同電力、東海興業、東築土地、名古屋土地、名古屋證券交換所各株式會社の重役として知らる。

現に名古屋市東區平田町二十七番地に住し電話本局二〇五〇番たり。

渡邊治右衞門君

渡邊銀行頭取
旭日生命保險株式會社長

君は東京府の人渡邊邊治右衞門君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生る。明治二十六年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、同三十一年大學院に入りて專攻す。

斯くて中央大學及び東洋大學各講師、帝國圖書館司書長、第二第五各高等學校教授、東京市日比谷圖書館主事、東京市

當家は東都に於ける屈指の素封家にして今や三井、岩崎、安田等と併稱せられ然して其の一門を大株主として興せる旭日生命保險株式會社は創立日猶ほ淺しと雖も漸次斯界に重きをなし、君は同社々長たる外東京渡邊銀行頭取にして且つ渡邊保全、渡邊倉庫、東京灣汽船各株式會社の重役として我が財界に令名あり。

現に東京市小石川區關口臺町二九番地に住し電話牛込八九一番なり。

渡邊又次郎君

從四位勳三等
水戸高等學校長

君は舊武州川越藩士渡邊銈太郎君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生る明治二十六年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、同三十一年大學院に入りて專攻す。

斯くて中央大學及び東洋大學各講師、帝國圖書館司書長、第二第五各高等學校教授、東京市日比谷圖書館主事、東京市

主事、東北帝國大學農科大學豫科敎授、北海道帝國大學附屬大學豫科敎授、同主事等を歷任し、後ち、水戸高等學校々長に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人たつ子は東京府士族瀧川新君の長女にして、君との間に泉君、贊君及びタマ子等あり。

綿貫助次郎君

株式會社土地商會專務取締役
荏原土地株式會社專務取締役

君は東京府の人梅岡平七君の叔父君にして、慶應三年九月を以つて生れ、後ち先代知道君の養嗣子となる。夙に實業界に投じて君が敏腕を縱橫に振ひ、現に荏原土地、土地商會各株式會社專務取締役たる外銅鐵商を營み斯界に重きをなす。

夫人ゐい子は東京府の人吉田庄助君の令妹にして君との間に要之助君、武之助君、育之助君及び光子、半子、和鹿子等あり、現に東京市日本橋區小舟町二ノ九番地に住す。

鷲野米太郎君

從七位　實業家
衆議院議員

君は高知縣の人楠歩三郎君の長男にして、明治十六年七月を以つて生れ、先代繁馬君の養嗣子となる。大正四年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業す。

爾來、京都市高級助役、同市市長代理等を歷任し、後ち實業界に入りて北大阪電氣鐵道株式會社專務取締役及び京阪土地株式會社取締役等を歷勤し、現時は旭日生命保險、大平洋海上火災保險各株式會社の專務取締役にして且つ神戸信託株式會社取締役たり。

曩に鄕黨多數の輿望を擔つて逐鹿場裡に白馬を進めて奮戰大いに努め、遂に勝利の榮冠を擔ひ、今や中央政界に知らるゝに至れり。

現に京都市上京區岡崎南御所二八番地に住し電話上二八四〇番なり。

渡邊仁君

從六位
工學士　建築士

當家は先代正四位勳二等工學博士渡邊渡君より顯はる。同君は幼名を龍太郎と云ひ、安政四年長崎縣に生れ、明治十二年東京帝國大學の前身たる大學南校を卒業するや直ちに同校助敎授に任じ、後ち獨逸及び米國に航して各地鑛山及び工場を視察し明治十八年歸朝す。

然して工科大學敎授に任せられ轉じて農商務技師に任じ、同二十年佐渡鑛山技師となり更に同二十二年宮內省御料局技師に任じ、御料局佐渡支廳長、農商務省鑛山局長等を經て同三十二年歐米に差遣せられ、歸朝後東京帝國大學工科大學々長に任せらる。曩に佐渡在勤中同志と共に佐渡鑛山學校を設立し其の校長となり採鑛冶金機械建築等の諸學を講じ靑年子弟を養成せり。

君は其の長男にして、明治二十年二月十六日を以つて生る。夙に學習院を經て

明治四十五年東京帝國大學工科大學建築科を卒業するや直ちに鐵道院に入り、大正六年遞信省に轉じ大正九年官を辭して建築事務所を開設し、建築設計監督の事務に從事し、大正十三年斯業界視察の爲め各國に歷遊す。

夫人ツル子は東京女子高等師範學校附屬高等女學校の出身たり。現に東京市本鄉區駒込林町三四番地に住し電話小石川一三六四番なり。

鷲尾健治君

正五位勳四等
山口高等商業學校長

君は新潟縣の人鷲尾政直君の三男にして、明治十三年一月を以つて生る。明治三十七年京都帝國大學法科を卒業するや直ちに山口高等商業學校教授に任じ、累進して同校長に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人正子は京都府士族河瀨克廣君の二女にして、君との間に洋治君、浩治君及び直子等あり。

若尾謹之助君

若尾銀行頭取
若尾保全株式會社長

當家の先代は甲斐源氏の一族にして後ち歸農して先々代逸平君に至る。逸平君は實に奮鬪の勝利者として令名高く、才機縱橫、精力絕倫、初め雜貨商を營み更に甲府に呉服店を開きしが、萬延元年橫濱に赴き生絲棉花の貿易に從事し、更に幾多の銀行會社に關係して當家の基礎を建つるに至れり。

然して先代民造君は細田氏より入りて祖父の遺業を繼承し、且つ甲府市政其の他公共事業に盡瘁して從五位勳四等に叙せられ功績顯著なるものなり。

君は其の二男にして明治十五年十月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに實業界に雄飛し、現に若尾銀行頭取たる外若尾保全株式會社々長にして且つ山梨縣多額納稅者として直稅實に三萬一千六百八十余圓を納め伯父幾造君、養兄璋八君、音造君等と共に我が財界に令名高し。

現に甲府市山田町一三番地に住す。

和田秋之助君

東京渡邊銀行取締役支配人
あかぢ貯蓄銀行取締役

君は和田金次郎君の四男にして、明治二十二年二月十六日を以つて生る。大正三年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、あかぢ貯蓄銀行に入り日掛貯金課長、支配人等を經て同行取締役に擧げられ、尙ほ東京渡邊銀行營業部長を經て、取締役支配人に推され以つて現在に及ぶ。

夫人保子は東京府の人永田萬喜太郎君の長女にして双葉高等女學校を卒業す、現に東京市麻布區宮村町三四番地に住し電話青山一七五一番たり。

渡邊嘉一君

勳五等　工學博士
實業家

當家は代々德川家旗本能藝家に仕へ先々代宗輔君嗣子なく因て忰三君を養ひて嗣となす。忰三君は浦賀奉行の與力を勤めたる朝夷權十郎君の三男たり。維新の際榎本武揚等と五陵廓に據り歸順後政府に仕へ、累進して海軍少將に陞り從四位勳三等に叙せらる。

君は長野縣の人宇治橋八十太郎君の令弟にして安政五年二月を以つて生れ、明治十六年六月先代忰三君の養嗣子となる明治十六年工部大學を卒業し、後ち工部技師を拜命せしが同十七年職を辭して英國に航しグラスゴー大學に學びC&B. SCの學位を得て卒業す。

然して「サア、ジョンフワウラー」及び「サア、ベンジャミン、ベーカー」各工務所技術見習生となり、尋いで同所技師に任じ世界第一の鐵橋たるフォースブリッヂの工事を督し且つ同國在留中閑を見て佛獨蘭白等の工業狀態を視察し同二十一年歸朝す。

斯くて日本土木株式會社の技術長を囑せられ、同二十五年參宮鐵道株式會社技師長となり、後ち同會社長兼技師長に同三十年北越鐵道株式會社專務取締役兼技師長に擧げられ、同三十二年工學博士の學位を受け後ち成田鐵道、東京電氣鐵道、京阪電氣鐵道、關西瓦斯福島木材各株式會社取締役たりしが、現時は日本トロール、東洋電機製造、伊那電氣鐵道、京王電氣軌道、內外興業、大日本鹽業、武藏電氣鐵道、大同電力各株式會社の重役として令名あり。曾つて帝國鐵道協會々長、東京石川島造船所社長たりし事あり、東京市赤坂區表町三ノ一三番地に現住し電話青山五七一〇番なり。

若松吉二君

實業家
鹿兒島縣多額納稅者

君は鹿兒島縣の人若松吉左衛門君の長男にして安政元年九月を以つて生る。現に鹿兒島勸儉銀行、九州木材各株式會社の重役にして當地實業界の重鎭たり。

曩に鹿兒島商業會議所議員、同市會議員、米穀組合會長たりし事あり、尙ほ縣下多額納稅者にして現時直接國稅一萬八千二百七十余圓を納むといふ。

夫人ユイ子は鹿兒島縣の人海江田準一郎君の叔母君たり、鹿兒島縣築に住す。

若林與左衛門君

灘商業銀行取締役

君は兵庫縣の人若林與左衛門君の長男にして、明治八年一月十五日を以つて生る。夙に實業界に入りて活躍大いに努め現に灘商業銀行取締役たる外帝國酒造株式會社の監査役として令名あり。

夫人をちゑ子と呼び兵庫縣の人嘉納治兵衛君の養妹にして其の間に昌之助君、光夫君、威夫君及び幸子、靜江子、節子馨子等あり、現に兵庫縣武庫郡西鄉町に住す。

渡邊章君

男爵　從二位勳二等功二級
陸軍中將

君は山口縣の人村上久司君の二男にして、嘉永四年二月を以つて生れ先代與右衛門君の養嗣子となる。明治四年陸軍少尉に任じ同三十九年陸軍中將に陞る。

其の間第一軍副官、歩兵第十八留守、歩兵第二十一各聯隊長、近衛歩兵第二、混成第五、歩兵第十九各旅團長、第三、第八各師團長等を歷補し、明治四十年日露戰役の勳功に依り功二級金瑩勳章を賜はり、特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

夫人トミ子は福岡縣士族志田馬二君の二女たり、廣島縣上流川二八番地に住す

和合英太郎君

日東製氷株式會社長

君は東京府士族和合善男君の長男にして、明治二年八月十五日を以つて廣島市上平町に生る。夙に廣島中學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

現時は日東製氷株式會社々長たる外平製氷、日銚製氷、豆東製氷、明石製氷、南海製氷、田邊製氷、多度津製氷、鹽釜製氷。關西製氷各株式會社の重役にして今や我が財界は勿論製氷界の重鎭として名聲高く、事業に終始するを以つて其の生命となし、又育英の事に意を注ぐ等近代稀に見る篤志家にして曩に大井町々會議員たりしことあり。

夫人くに子は井澤吉五郎君の四女にして横濱女學校を卒業す。現に東京府荏原郡大井町三六三二番地に住し電話大森三一九番なり。

渡邊行太郎君

從六位勳五等
日本銘釘會社專務取締役

君は和歌山縣の人渡邊綱五郎君の令弟にして、明治十四年二月十三日を以つて生れ、明治三十三年事業の功に依り勳五等に叙し瑞寶章を授けらる。

明治三十八年東京帝國大學工科大學造船科を卒業するや官界に走り遞信省技師となり、同四十年十月鐵道院技師に轉じ大正四年一月再び遞信省技師となり更に同五年三月帝國海事協會主事に任じ同六年八月より笠戸造船所の創立に從事し同七年十月同所庶務課長となる。

然して大正七年七月大島製鋼所營業課長たりしが、同九年九月浦賀船渠株式會社に入りて調査課長、總務課長兼調査課長同支配人事務取扱等を經て支配人に擧げられ、現に日本銘釘株式會社專務取締役として知らる。

夫人好子は岐阜縣士族水谷貞治君の長女にして君との間に行男君、力君等あり現に東京府荏原郡大崎上大崎中九四四四番地に住し電話高輪二九六八番なり。

和田喜左衞門君

青森商業會議所副會頭

君は青森縣の人名倉今次郎君の三男にして、明治元年十月を以つて生れ先代喜作君の養嗣子となり前名作太郎を改稱す夙に實業界に身を投じ、現に青森商業會議所副會頭兼會計課長として知らる。

夫人マサ子は養父喜作君の長女にして君との間に喜太郎君、喜藏君、喜三郎君、喜四郎君及びハツ子、きさ子、チヨ子等あり、現に青森市安方町に住す。

渡邊直次郎君

御池鑛業株式會社專務取締役
日本雷彈製造株式會社取締役

君は東京府の人渡邊喜兵衞君の二男にして、明治十一年十月を以つて生る。夙に東都財界に投じて活躍大いに努め、現に御池鑛業株式會社專務取締役たる外日本雷彈製造株式會社取締役たり。

夫人をとく子と稱し君との間に二女ありて知惠子、ひさ枝子と呼ぶ、現に東京市日本橋區鐵砲町十五番地に住し電話大手一九五一番たり。

和田豐種君

醫學博士
大阪醫科大學教授

君は大阪府の人和田元治君の二男にして、明治十三年八月一日を以つて生る。明治三十二年大阪醫學校を卒業するや、直ちに教職に就きて大阪府立醫學校教諭同高等醫學校教諭等を歷任し、現に從五位陸軍二等軍醫にして、大阪醫科大學教授として令名あり。

夫人をひさ子と呼び京都府の人佐々木甚藏君の二女にして君との間に二男二女あり、大阪市北區南森町一七五番地に現住し電話東五一一二番なり。

和仁貞吉君

法學博士　正四位勳二等
東京控訴院長

君は東京府士族和仁元利君の三男にして、明治三年五月十二日を以つて生れ、後ち令兄元英君の家督を相續す。夙に第一高等學校を經て明治二十七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す。

然して同年司法官試補となり爾來、浦和地方裁判所判事、東京地方裁判所部長東京控訴院部長、大審院判事、京都地方裁判所長、大阪地方裁判所長等を歷補す斯くて大正七年歐米各國に出張を命ぜられ、歸朝するや長崎控訴院檢事長に任じ同年四月法學博士の學位を授けらる。更に同十二年大阪控訴院長、東京控訴院檢事長等を經て現在に及ぶ。

夫人ツキ子は秋田縣士族原田種德君の長女にして福岡高等女學校を卒業し、君との間に壯造君、勇造君、孝三君及びキク子、久子等あり、現に東京府荏原郡目黑三田五〇番地に住し電話高輪七七八〇番なり。

渡邊龍次郎君

青島鹽業株式會社長
九州板紙會社常務取締役

君は福岡縣の人渡邊與三郎君の二男にして、明治元年十月を以つて生れ、先代

新兵衞君の養嗣子となる。現に紙商を營む傍ら青島鹽業株式會社々長にして、且つ九州板紙株式會社常務取締役及び博多製紙、東洋製氷、日本電氣冶金、九州電化工業、九州洋紙各株式會社取締役として地方財界に知らる。

夫人ミネ子は福岡縣の人光安藤次郎君の長女にして其の間にタネ子、クニ子、士紀子等あり、福岡市上西町に住す。

脇田勇君

脇田銀行頭取
馬來護謨公司社長

君は舊金澤藩士脇田祐順君の長男にして、明治九年九月二十五日を以つて生る。明治三十一年中央大學を卒業するや、京釜鐵道株式會社に入りて其の文書課長調査課長等を歷任し、日露の役には滿洲の野に轉戰し、勳六等に叙せらる。

曾つて宮城貯蓄銀行の破綻に際し澁澤子之が救濟に當るや、子を助けて能く其の整理を完うし、又東京榮銀行の創立に當り專務取締役に擧げられ、尋いで頭取となり大正十一年長岡銀行と合併せらるゝや入りて同行の重役となる。

其の間歐米を漫遊し歸朝後脇田洋行を設立し、現に前記の外海外貿易に從事し尙ほ伴商店、東京遊園地、明治勸業各株式會社の重役として令名あり、曩に東京商業會議所議員たりしことあり。

趣味に謠曲、圍碁、觀劇、讀書等あり夫人金子は福島縣士族日下儀助君の三女たり、現に東京市赤坂區青山高樹町一七番地に住し電話青山一五二番なり。

×

渡邊俊雄君

工學博士　正四位勳三等
京都帝國大學工學部教授

君は福岡縣の人渡邊村男君の令弟にして、明治十年六月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學工科大學を卒業し、更に明治三十五年採鑛冶金學研究の爲め歐米に留學す。

然して歸朝後は鑛山監督官、京都帝國大學理工科大學助教授、仙臺高等工業學校長等を歷任し、現に正四位勳三等にして京都帝國大學工學部教授たり。

夫人タミ子は岩手縣士族新渡戸宗助君の三女にして其の間に晴人君、英造君、彌生君及びミトリ子等あり、現に京都市上京區北白川町に住す。

×

渡邊善十郎君

丸水渡邊商會社長
東京府多額納稅者

君は東京府の人渡邊平吉君の長男にして、明治十六年二月を以つて生る。夙に東都實業界に活躍して聲名を馳せ、現に前記の外渡邊保全合資會社代表社員にして、且つ第三銀行監査役たり。

夫人るい子は東京府の人西村覺藏君の四女にして、君との間に善次郎君、善三郎君、善四郎君、善五郎君及び芳子、德子、福子等あり、東京市日本橋區兜町三番地に現住す。

和光米房君

辯護士　特許辨理士
東京辯護士會副會長

君は山梨縣の人和光藤一郎君の長男にして、明治十六年一月二日を以つて生る夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切瑳琢磨、明治四十三年優秀の成績を以つて明治大學法科を卒業し、更に法律學の蘊奧を極むべく日本大學高等研究科に入りて斯學の研鑽を積み、造詣を深くして同研究科を卒業す。

斯くて、大正四年辯護士登用試驗に應じたりしかば首尾よく登第し、後ち法律事務所を開設して、爾來、誠實以つて一般法律事務を掌理せしかば、君の蘊蓄と其の敏腕とは忽ちにして社會の信望を博し、今や東都法曹界に於ける權威者として斯界に重きをなすに至れり。

君や資性謹直の士、人に接する極めて懇切なり、而も其の一度事務に從事するや細心周密釐毫の疑をも尙ほ是を闡明せずんば止まず。別して其の博大なる識見や世人周知の事に屬し、苟も、法律に關するもの一として精通せざるはなく、加ふるに、臨機應變の處置を執る又明快なるが如し。

趣味多樣なる中にも宗教哲學書類を愛讀し、演劇を愛好し、又心靜かに圍碁相對して次代を畫策し、更に義太夫をウナッテハ豪氣果斷の氣を養ふ、以つて其の人と爲りを知るべきなり。

夫人をよしの子と稱し、君との間に勇精君及び淸子あり、現に東京市神田區錦町三ノ二五番地に住し電話神田一〇四六番たり。

×

和田嘉衞君

東洋酸素株式會社長
日本光學工業株式會社取締役

君は東京府の人和田義章君の長男にして、明治元年八月を以つて生る。夙に東都財界に活躍して君の敏腕を振ひ、現に前記の要職にある外尙ほ株式會社東京計器製作所社長として知らる。

曾つては操觚界にありて東京實業雜誌を刊行し、斯界に稗益せしことあり、夫人を馨香子と稱し、君との間に三男四女あり、現に東京市麻布區永坂町六九番地に住し電話青山一三六九番たり。

若旅喜一郎君

小泉銀行頭取
上州鐵道株式會社常務取締役

君は群馬縣の人若旅九八郎君の長男にして、明治十三年十月を以つて生る。夙に地方實業界に雄飛して名聲を博せり。現に前記の要職にある外九州石炭鑛業大谷原農藝、群馬縣農工銀行、上毛貯蓄銀行、上毛モスリン、阪東鐵道、前橋織物各株式會社の重役として知らる。

夫人しま子は群馬縣の人新島語三郎君の長女にして君との間に三男一女あり、現に群馬縣邑樂郡小泉に住す。

川村竹治君

從四位勳二等
貴族院議員

君は秋田縣士族川村俊治君の長男にして、明治四年七月十七日を以つて生る。明治三十年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に投ず。

爾來、遞信書記官、東京郵便電信學校教授、多度津、長崎各郵便電信局長、横濱、大阪各郵便局長、内務書記官、同參事官、臺灣總督府内務局長、和歌山、香川、青森各縣知事、内務省警保局長等を歴任して其の貢献すること甚大なり。

曩に羅馬に開催せられたる第六回萬國郵便會議に帝國代表委員として參列し、且つ英佛獨各國に差遣せられ、然して原内閣の成立を見るや床次内務大臣の下に其の内務次官を勤め、大正十一年故早川千吉郎君の後を享けて、南滿洲鐵道株式會社總裁仰せ付けられ、現時は貴族院議員として議政府に列し、國政に參與する外政友本黨顧問たり。

趣味廣く、諸曲に堪能にして且つゴルフ、乘馬、撞球等の技に長ずといふ。夫人フミ子は川村女學院創立者にして我が國女流教育家として令名あり、現に東京府北豐島郡高田一六四二番地に住し電話牛込一一五番たり。

河津暹君

法學博士　正四位勳二等
東京帝國大學經濟學部教授兼同部長

君は東京府の人河田祐之君の長男にして、明治八年一月を以つて生れ、先代祐賢君の選定相續者となる。明治三十二年東京帝國大學を卒業し、進んで大學院に學び、更に經濟學研究の爲め英獨兩國に留學し造詣を深くして歸朝す。

爾來、京都帝國大學法科大學助教授、同教授等を歴任し以つて現在に及ぶ。明治四十五年歐米各國に出張を命ぜられ後ち法學博士の學位を授與せられ、今や本邦經濟學界の泰斗として令名あり。

夫人を英芝子と呼び男爵神田乃武君の長女にして其の間に四男四女あり、現に東京府下中野桃園三三三五番地に住し電話四谷三六〇〇番たり。

片岡直輝君

阪神電氣鐵道株式會社長
貴族院議員

君は高知縣の人片岡孫五郎君の長男にして、安政三年七月十八日を以つて生る曾つては海軍主計大尉及び大阪府書記官等を歴任せしが後ち實業界に投ず。

現に從五位勳四等にして阪神電氣鐵道南海鐵道各株式會社々長たる外東洋木材防腐、猪苗代水力電氣、大阪織物各株式會社重役にして、曾つて境瓦斯株式會社々長及び大阪株式取引所理事たりし外西郷海軍大臣に隨行して歐米各國へ派遣せられ、且つ大正九年貴族院議員に勅選せられ以つて現在に及ぶ。

現に兵庫縣川邊郡長尾村に住し電話寶塚一二四番たり。

加藤正治君

法學博士　正四位勳二等

東京帝國大學法學部教授

君は長野縣の人平林行雄君の令弟にして、明治四年三月を以つて同縣東筑摩郡上川手村に生れ、後ち元日本郵船副社長たりし加藤長義君の養嗣子となる。

夙に才幹衆に秀で、學業順を追ふて進み東京帝國大學法科大學を卒業するや、更に幾何もなく獨逸に留學して專心國際法及び船舶法の研鑽を積み、造詣頗る深くして歸朝す。

斯くて、直ちに東京帝國大學助教授に任ぜられ、間もなく法學博士の學位を授與せられ、同時に同學教授に昇進し以つて現在に及ぶ。

夫人を須美子と呼び、其の間に四男三女あり、現に東京市麹町區元園町一丁目二番地に住し電話四谷五二三八番なり。

片山謹一郎君

株式會社九州製作所社長

君は靜岡縣の人片山龍庵君の三男にして、醫學博士片山國嘉君の令弟に當り明治元年六月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學工科大學電氣化學科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

爾來、古河鑛業所銀山及び炭礦の電力事業に從事し、後ち製鐵所技師となり、其の間歐米を漫遊し曩に株式會社東ボタン製作所の監査役たりしが、現時は九州製作所代表者たる外日邦鑛業、西彼電氣各株式會社の取締役にして、尚ほ東海鋼業株式會社取締役兼技師長たり。

夫人をトモ子と呼び其の間に國光君、國雄君あり、現に小倉市米町に住す。

河井彌八君

正四位勳三等

內大臣秘書官長

君は靜岡縣の人河井重藏君の長男にして、明治十年十月二十四日を以つて同縣小笠郡南郷村に生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、第一高等學校を經て明治三十七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、直ちに高等文官試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官途に奉じ文部屬に任せられ、明治四十年佐賀縣事務官に轉じ、同年貴族院書記官に任じ、委員課長、書記官長等を歷任し、大正十五年七月內大臣秘書官長に榮轉し以つて現在に及ぶ。

夫人要子は靜岡縣の人鈴木二平君の二女にして靜岡縣立高等女學校の出身たり現に東京市麹町區紀尾井町三番地官舍內に住し電話四谷三〇五三番たり。

×

川崎卓吉君

正四位勳二等　前內務次官

貴族院議員

君は廣島縣の人川崎修三君の二男にして、明治四年一月を以つて生る。幼にして穎悟學業順を追ふ進み、明治三十六年東京帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業し、更に大學院に入りて斯學を專攻せり。

斯くて業成るや職を官途に奉じ、福井縣並に石川縣の各事務官より石川縣內務部長に進み、轉じて警視廳警務部長に任じ、更に福島縣知事に陞り、後ち臺灣總督府民政部警察部長に轉じ同內務局長、同警察官及び同獄官練習所長等を歷任し後ち貴族院議員に勅選せらる。

然して後ち官を辭して名古屋市長に就任し、市政に參與して其の發展に盡瘁すること甚大、偶々加藤內閣成立するや擧げられて內務省警保局長に榮轉し、更に若槻內閣の成立を見るや其の內務次官に擧げられ、昭和二年四月若槻內閣の運命盡きて田中政友會內閣擡頭するや潔よく辭して野に下る。

夫人をこふ子と呼び君との間に太郎君及び清子、文子、愛子、鈴子、英子等あり、現に東京市小石川區駕籠町二一四番地に住し電話小石川二一〇〇番たり。

加來惟義君

日出生鐵道株式會社長

正七位加來惟義君は大分縣の人加來勝太郎君の長男にして、明治十七年一月二十五日を以つて生る。明治四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、大正二年日本勸業銀行に入りて同行理事に任じ、大正十三年九月北海道拓殖銀行取締役頭取に擧げられ以つて現在に及ぶ、曩に農商務省大博覽會事務官たりしことあり。

趣味に乘馬、園碁ありて何れも堪能なるが如し、夫人さだ子は養父厚寬君の長女にして、福井縣立高等女學校を卒業し君との間に武君、旬君、勇君、正三郎君及び芳子等あり、現に東京市麻布區本村町一四三番地に住し電話高輪五五四三番たり。

加賀覺次郎君

住友銀行取締役

君は東京府の人加賀忠七君の長男にして、明治八年一月七日を以つて生る。明治十一年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に

身を投ず。

爾來、住友銀行中之島、京都各支店支配人代理檢査役補、營業部副長、横濱支店、住友製銅賣店各支配人、神戸支店支配人等を歷任し、曾つては外國爲替事務研究の爲め歐米に出張を命ぜられ、現に住友銀行取締役として知らる。

夫人をつる子と呼び、君との間に高明君、英朗君、清男君及び夙子、惠子等あり、現に神戸市山本通り五ノ六〇番地に住し電話本局一六〇二番なり。

×

片山正夫君

理學博士　正四位勳三等

東京帝國大學理學部教授

君は岡山縣の人片山恒夫君の令弟にして、明治十年九月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學理科大學を卒業し、後ち大學院に入り更に電氣化學工業學研究の爲め、米國及び獨逸に留學し造詣を深くして歸朝す。

爾來、東京高等工業學校教授、東北帝國大學理科大學教授兼東京高等工業學校教授、東北帝國大學教授等を歷任し、以つて現在に及ぶ。

夫人を知可子と呼び、前日本銀行の出納局長たりし鈴木知雄君の長女にして君との間に信夫君及び秀子、文子、道子等あり、現に東京市小石川區原町一二六番地に住し電話小石川五二三七番たり。

金井四郎君

正六位勳六等

東久邇宮附宮內事務官

君は靜岡縣の人鹽野忠次郎君の長男にして、慶應二年十二月五日を以つて生れ、後ち叔父金井壽平君の養嗣子となる。夙に郷校を卒ふるや靑雲の志を抱いて上京し、研鑽琢磨、明治四十一年東京帝國大學文科大學東洋史科を卒業す。

斯くて、明治四十三年宮內省宗秩寮屬を拜命し、大正五年東久邇宮附宮內事務官に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人千代子は長野縣士族森松多君の二女にして日本女學校を卒業し、君との間に之文君、之忠君、之信君及び行子等あり、現に東京市芝區西久保城山町十一番地に住し電話靑山六九四八番たり。

勝本勘三郎君

法學博士

辯護士　特許辨理士

君は大阪府の人鹽野忠次郎君の長男にして、慶應二年十二月五日を以つて生れ後ち分家して勝本姓に改稱す。

明治二十六年東京帝國大學法科大學を卒業するや、檢事に任ぜられ、明治三十二年刑法及び刑事訴訟法研究の爲め獨逸に留學し研鑽を積みて歸朝す。

曩に京都帝國大學法科大學教授たりしが現時は辯護士事務所を開設し一般法律事務を取扱ひ京都法曹界に知らる。

夫人をたつ子と稱し、君との間に五男あり、現に京都市上京區白川町仕伏に住し電話上京四六番たり。

加藤政之助君

衆議院議員

君は埼玉縣の人加藤唯右衞門君の長男にして、安政元年七月を以つて生る。夙に郷校を出づるや笈を負ふて上京し慶應義塾に學ぶ。

曩に北海新聞主幹、大阪新報主幹、報知新聞記者、出羽石油株式會社々長に擧げられ又大藏省參政官に任ぜられ、且つ埼玉縣會議員、同議長等に推され衆議院議員に當選すること前後十一回、曩に明治二十三年歐米を巡遊す。

夫人やす子は大阪府の人山口孝七君の二女にして其の間に五男五女あり、現に東京府北豐島郡上練馬成增兎月園に住し電話白子三四番たり。

香山剛毅君

正五位勳二等　陸軍主計監

第一師團經理部長

君は宮城縣伊具郡枝野村の出身にして明治七年一月二十八日を以つて生る。夙に軍籍に投じ、明治三十年陸軍歩兵少尉に任官し、累進して大正十二年主計監に陞進す。

其の間、西伯利亞派遣師團經理部長、陸軍糧秣本廠長、關東軍經理部長、第四師團經理部長等を歷任し、大正十五年三月第一師團經理部長に榮轉し以つて現在に及ぶ。

夫人をてる子と稱し君との間に英毅君及びます子等あり、現に東京市赤坂區靑山北町三ノ六八番地に住し電話靑山三〇八番たり。

片山正雄君

從四位勳四等

九州帝國大學文學部教授

君は山口縣の人片山敦男君の二男にして、明治十二年八月二十五日を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業するや、更に獨逸に留學し蘊蓄を極めて歸朝す。

斯くて第二高等學校教授、第三高等學校教授等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人をはる子と稱し、山口縣の人東保雄君の長女にして君との間に博君及びふみ子、みよ子、しづ子等あり。

川崎寬美君

男爵　正四位勳四等

當家は先代從三位勳一等男爵祐名君より家名を擧ぐ。祐名君は陸軍會計監督長に陞り、勳功に依り特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の長男にして、文久三年八月八日を以つて生れ明治三十九年襲爵仰せ付けらる。明治十四年外務省御用掛、同十七年より二十五年迄英佛兩國公使館外務書記官として勤續し、明治二十九年山縣全權大使に隨行して露國皇帝戴冠式に參列の歸途歐米各國を歷遊し、歸朝後外務省記錄課長會計課長等を歷任す。

明治三十年官を辭して實業界に投じ、日本銀行に入りて同行國庫課長となり、同三十二年臺灣銀行創立に際して理事に

同三十六年京釜鐵道常務理事となり、同四十二年金網工業に志し芝區田町に川崎工場を起して特許金網製造機、川崎式金網蛇籠、川崎式混凝土鐵網等の機械製造金網製造業に從事し以つて現在に及ぶ。

趣味に園藝、書畫、骨董あり、夫人フヂ子は舊佐賀藩士東京府士族園田弘君の長女にして君との間に寛君及び菊枝子等あり、東京府荏原郡上大崎三六番地に現住し電話高輪九九七番たり。

川部爽介君

東京市麹町區長
中央大學々員會評議員

君は舊天童藩士川部磐君の三男にして明治六年六月二十六日を以つて生る。明治二十七年山形縣師範學校を卒業するや直ちに同縣藏增小學校訓導を拜命し、地方教育界に盡瘁すること二ケ年、然りと雖も、固より小職に甘んずる器にあらざる君は斷然教職を捨て青雲の志を抱いて上京し、中央大學の前身たる東京法學院に學び、切瑳琢磨、明治三十二年優秀の成績を以つて卒業す。

斯くて東京市京橋區役所に職を奉じ、同書記を拜命して戸籍掛長、稅務掛長等を歷勤し、更に大正元年八月深川區書記長に擧げらる。偶々同年九月未曾有の大震火災に遭遇するや、君は能く職責を完うし、危險を冒して戸籍簿、土地臺帳等の重要書類を保管し以つて區民の便益を計り名聲頓に擧る。

然して大正十四年八月轉じて麹町區長に任じ、今や復興途上にある同區政に參畫して其の敏腕を縱橫に振ふ、君が同區の爲め貢獻すること期して待つべく、尙ほ傍ら中央大學々員會評議員として母校の發展に盡瘁すること又甚大なり。

趣味に音樂、和歌等あり、又妙なりと夫人こう子との間に一男ありて守一君と呼ぶ。現に東京府荏原郡駒澤町新町四六七番地に住す。

片岡眞喜君

熊本銀行取締役
肥後農工銀行監査役

君は熊本縣の人岡本定親君の二男にして、明治四年八月十五日を以つて生れ、後ち先代武虎君の養嗣子となる。夙に實業界に投じて活躍大いに努め、現に熊本銀行取締役及び肥後農工銀行監査役たる外帝國セメント株式會社取締役として地方財界に重きをなす。

夫人まさる子との間に五男四女あり、熊本縣安蘇郡山西村に現住す。

川崎軍治君

從四位勳四等
臺灣銀行理事

君は佐賀縣の人川崎濱兵衛君の二男にして、明治十二年十月十六日を以つて生れ、後ち先代甚三郎君の養嗣子となる。明治三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、同年文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、稅務監督局事務官、稅關事務官、同監稅官、秋田稅務局長、丸龜稅務監督局長、門司、大阪各稅關長等を歷任し、現に臺灣銀行理事たり。

夫人イチ子は佐賀縣の人瀨頭新作君の二女にして熊本高等女學校を經て日本女子大學を卒業す。現に東京市麹町區下二番町六〇番地に住し電話四谷二三六二番たり。

×

勝田銀次郎君

實業家
兵庫縣多額納稅者

君は愛媛縣の人勝田銀次郎君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。明治二十七年東京青山英和學校高等科を卒業するや、直ちに地方實業界に投ず。

然して大正六年以來神戸市會議員、同市參事會員、學務委員、市內鐵道改良調査委員等に擧げられ、現に海事委員會委員、臨時財政經濟調査會臨時委員、勝田汽船、勝田埋築、朝日海上保險等諸會社の監査役並に國際汽船株式會社監査役及び大洋海運株式會社相談役等を勤め神戸財界に重きをなす。

夫人よし子は京都府の人山崎幸次郎君の令妹たり、現に神戸市仲町二七番地に住し電話長三宮五一三番なり。

川部孫四郎君

株式會社日本製鋼所常務取締役

君は山口縣の人加藤八郎右衛門君の四男にして、明治十三年七月十五日を以つて神奈川縣橫濱市に生る。

夙に實業界に身を投じ、鶴屋と稱して專ら米穀醬油商を營み、尙ほ橫濱有數の資産家として知らる。現に米穀醬油商を營む傍ら神奈川銀行頭取として敏腕を振ふのみならず、石城炭礦株式會社取締役にして、今や財界一方の重鎭として令名あり。

夫人をわか子と稱し君との間に三男三女あり、現に橫濱市靑木町一二〇番地に住し電話本局四八二番たり。

務取締役に就任し以つて現在に及ぶ。

夫人初子は東京府の人橫濱正金銀行常任監査役として我が財界に重きをなす松尾吉士君の長女たり、現に東京市牛込區船河原町十三番地に住し電話牛込二〇八六番たり。

×

加藤八郎右衛門君

神奈川銀行頭取

君は神奈川縣の人加藤八郎右衛門君の四男にして、明治十三年七月十五日を以つて神奈川縣橫濱市に生る。

夙に實業界に身を投じ、鶴屋と稱して專ら米穀醬油商を營み、尙ほ橫濱有數の資産家として知らる。現に米穀醬油商を營む傍ら神奈川銀行頭取として敏腕を振ふのみならず、石城炭礦株式會社取締役にして、今や財界一方の重鎭として令名あり。

夫人をわか子と稱し君との間に三男三女あり、現に橫濱市靑木町一二〇番地に住し電話本局四八二番たり。

川崎清男君

安田保善社會社部長
日本紙器製造株式會社專務取締役

君は富山縣の人川崎清君の長男にして明治十六年一月十六日を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切磋琢磨螢雪の功空しからず、明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、安田銀行に入りて其の薀蓄を傾倒し、實務に恪勤精勵せしかば忽ちにして社内外の聲望を蒐め、明治四十三年安田保善社を代表して岡山二十二銀行詰となり、同四十五年拔擢せられて同行玉島支店長に任じ、同行の發展に盡瘁せしかば行運愈々擧り其の貢獻すること甚大なりき。

然して大正二年更に保善社より日本製銅硫酸肥料株式會社詰を命ぜられ、大正四年同社が安田製肥所と改稱せらるゝに及び、君推されて其の支配人に擧げられ更に大正七年中國肥料株式會社に轉じ同社取締役に任じ、同年各社が大日本人造肥料株式會社に合併せらるゝや、君は保善社より中國鐵道株式會社詰を命せられ同社取締役兼支配人に推さる。

斯くて、大正十一年日本紙器製造株式會社常務取締役に擧轉し、後ち同社に專務制を併置するや君擧げられて同社專務取締役に任じ、現に其の傍ら安田保善社會社部長として内外多事、今や我が大安田係諸會社に幾多人材集中せる中に君の器才や一異彩を放つ、又前途多望なりと謂ふべきなり。

夫人をツヤ子と稱し君との間に直清君及び律子、敏子等あり、現に東京市赤坂區青山南町三ノ一五番地に住し電話青山二三六四番たり。

加島安治郎君

攝陽銀行頭取
四國生糸株式會社長

君は兵庫縣の人加島安兵衞君の三男にして、明治十三年を以つて生る。現に前記の諸職にある外各種事業會社の重役にして、即ち極東硝子工業、沖繩炭礦、城南土地、北濱信託、攝津紡織、信越水電泉尾土地、日本商事信託、浪速ビルデイング、四ツ橋建物、日本絹絨機、炭礦商船、城東土地、日本家禽土地、八島商店亞鉛電解、北大阪土地、攝津土地、日本絹布、大阪アルカリ、花屋敷土地、綱島土地、阪北土地、日本製紙、東邦炭礦、勝光山窯業、大阪電機製造、東印度貿易山陽炭礦、垂水住宅土地各株式會社の取締役たり。

尙ほ中外商工、日本商工、浪速織物、臺灣紡織、浪速土地、大正製酒、大日本除虫粉各株式會社監査役にして阪神實業界の重鎭を以つて目せらる。

夫人エイ子との間に一男ありて昌一君と呼ぶ、現に大阪市東區北濱町二ノ七四番地に住し電話長本局二〇五七番なり。

川島一郎君

正六位勳六等
東京市日本橋區長

君は群馬縣の人川島清一君の長男にして、明治十六年十一月九日を以つて同縣碓氷郡板鼻町に生る。夙に前橋中學校を卒ふるや笈を負ふて上京し、第一高等學校を經て明治四十五年優秀の成績を以つて東京帝國大學政治科を卒業し、更に大正二年十一月文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、大正三年二月神奈川縣屬を振り出しに爾來、同縣都筑郡長、同橘樹郡長、北海道理事官、長野縣理事官、山梨縣警察部長等を歷任し、大正十四年推されて東京市日本橋區長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

趣味として劍道、刀劍鑑賞あり、夫人を操子と呼び東京府の人阿部順道君の長女たり、現に東京府豐多摩郡東中野一六四九番地に住す。

加藤仙太郎君

福田銀行頭取

君は愛知縣の人加藤仙之助君の長男にして、明治二年九月を以つて生る。夙に明治法律學校に學び後ち郡會議員、縣會議員等に擧げられ、君が郡政縣政に貢獻すること尠少ならず。

現時は福田銀行頭取たる外下之一色電車軌道株式會社代表者たり。夫人しき子との間に仙一郎君、仙壽君及び三重子、いつ子、富美子、美子等あり、現に愛知縣海部郡南陽村に住す。

川村正平君

文士（花菱）
劇作家

我が國新興文壇の一異彩川村正平君は號を花菱と稱す、時は明治十七年二月十一日、場所は東京市牛込區筑土前町にして、安政四年一月を以つて生れ、後ち我が文人花菱君は天地の惠み豐かにその時その場所に生る。夙に天稟の赴くがまゝに身を文筆に委ね、早くも才量群を拔き、斯くて早稻田大學英文科を卒業するや、君の天才は愈々文藝界に遺憾なく發揮せらるゝに至れり。

然して主に脚本に力を致し、花菱脚本集の世人に愛讀せられ激賞せらるゝのみならず、彼の歷史的に邦家の義人たり、俠人として童兒に至るまで知れ亘る國定忠次や或はカルメンの脚本が一度劇壇に出づるや、世は擧つて熱狂し今や此等の名の不朽なると共に作者我が文壇の花川村花菱君の名は天下に普ねく、永遠に輝やきわたるとぞ目出度けれ。

君や年齒春秋に富めり其の前途の飛躍又はかり難し、今や東京府豐多摩郡幡ヶ谷の新居にありて心靜かに筆を執る、蓋し其の大成期して待つべし。

加藤杢右衞門君

瀨戸電氣鐵道株式會社長

君は愛知縣の人加藤久三郎君の令弟にして、安政四年一月を以つて生れ、後ち先代杢兵衞君の養嗣子となる。曾つて瀨

榮合資會社代表社員、瀨戸金融株式會社專務取締役及び大日本鹽業、臺灣鹽業各株式會社の重役たりしが現時は瀨戸電氣鐵道株式會社々長たる外瀨戸薪炭運輸、名古屋銀行、明治銀行各株式會社取締役として知らる。

現に愛知縣東春日井郡瀨戸町に住す。

河合三郎君

醫學士
河合小兒科病院長

東都刀圭界に其の名も高く、新進の學理と周到なる診療とを以つて、滿都の信望絕大なるを我が河合三郎君となす。

君は日本海上吹き來る靈氣を豐かに吸ひつゝ、明治十八年十二月二十四日を以つて福井市に生る。然して幼より東京に成育し、長ずるに及んで才幹群を拔き、學業順を追ふて進み、大正六年優秀の成績を以つて東京帝國大學醫科大學を卒業し、更に大學院に入りて病理學及び小兒科學を專攻し斯學の蘊を奧極む。

斯くて大正三年東京市四谷區荒木町に河合病院を開設し、至誠以つて一般患者に接し、君の經倫を實地に應用して、能く難病をも驅逐せしかば、社會の信望年と共に加はり、然して現在の場所に廣大なる病院を改築して移り、且つ十數名の名醫と看護婦とを置きて日夜精勵、遂に今日の盛大を見るに至り、今や來り乞ふ者常に門前市をなし、正に東都有數の小兒科病院を以つて目さるゝに至る。

君は尙ほ繁忙なる中にも常に研究に餘念なく、或は著書として、或は雜誌に其の新進の學理と經驗とを發表するに怠らず、君が斯界に貢獻する蓋し尠少ならざるべし。

現に東京市四谷區新宿一ノ十二番地に住し電話四谷三〇一三番たり。

加藤宗太郎君

名古屋商業會議所議員
築地電軌株式會社取締役

君は愛知縣の人加藤宗吉君の長男にして、明治十五年四月を以つて生る。當家は代々酒造業を營み大里屋と稱して知らる。君又祖先の遺業を繼承して益々盛大ならしめ、傍ら名古屋商業會議所議員及び築地電軌株式會社の取締役たり。

現に名古屋市西區伊倉町四ノ八番地に住し電話本局六八〇番なり。

×

片山勝藏君

正八位　陸軍步兵少尉
片山建築設計事務所長

新興大日本の產みし一異彩として、今や、帝都復興事業に貢獻して錚々の名あるを我が片山勝藏君となす、君は東京市日本橋區の產にして、明治二十六年二月を以つて生れ、後ち片山政五郎君の養嗣子となる。

夙に早稻田中學校を經て同大學に學び研鑽琢磨、大正四年優秀の成績を以つて同學理工科建築科を卒業するや直ちに實業界に志し、聘に應じて淸水組に入社し同社設計部に精勤すること數年、君が多

年の蘊蓄を傾注して同社の發展に盡瘁すること甚大なりしが、後ち同社を辭して早稻田大學助敎授に任じ、幾多學徒の薰陶に專念たりしも再び實業界に走り、獨力以つて建築設計事務所を開設し、今や帝都復興建築界の第一線に立ちて、其の博大なる學識と優秀なる技術とを傾倒して斯界に貢獻すること甚大、前途愈々多望なるが如し。

曩に一年志願兵として軍務に服し、退營するや陸軍步兵少尉に陞進し正八位に敍せらる。君や天資穎悟、溫厚篤實の紳士として內外の信望厚く、事務多端なる身を以つて能く公共事業に盡瘁し、神田區駿河臺及び日本橋區濱町等の區劃整理委員等を勤む。

現に事務所を神田區駿河臺東紅梅町二番地に有し、電話神田三四〇七番にして日本橋區濱町二ノ十二番地に現住し電話浪花七〇四〇番たり。

加藤豐治郎君

醫學博士　從四位勳三等
東北帝國大學醫學部敎授

君は三重縣の人藤田宗八君の三男にして、明治十五年七月を以つて生れ、後ち加藤家の養嗣子となる。

明治四十年東京帝國大學醫科大學を卒業し、更に大學院に入り尙ほ進んで內科學研究の爲め獨佛英に留學を命ぜられ歸朝後は仙臺醫學專門學校、東北帝國大學醫科大學兼同大學醫科專門部敎授等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人みる子との間に尙長君及びしづ子すみ子、あき子等あり、現に仙臺市北四番町に住す。

×

香山明君

明華女子齒科醫學專門學校長
明華女子齒科醫學校長

君は東京府の人香山敎平君の三男にして、明治十六年七月三日を以つて生る。曩に大阪醫科大學の前身たる大阪府立高等醫學校を卒業し、更に京都帝國大學に入りて解剖學組織學を專攻せり。

斯くて、日本醫學專門學校敎授に任じ東京齒科醫學專門學校講師を兼任し、其の博大なる蘊蓄を傾注して幾多學徒の薰陶に盡瘁し、後ち明華女子齒科醫學專門學校及び明華女子齒科醫學校を創設して兩校々長に任じ、今や本邦女子齒科醫學界に貢獻すること甚大なり。

夫人を厚惠子と稱す、現に東京市本鄕區元町二ノ六十三番地に住し電話小石川二八二八番たり。

川部利吉君

株式會社川部商會社長
東亞護謨株式會社長
東京美術俱樂部社長

我が國財界の重鎭にして、且つ美術骨董界の老熟として斯界に錚々の名あるを我が川部利吉君となす。君は福井縣の人川部甚平君の二男にして、安政二年三月十九日を以つて生る。

夙に大志を抱いて東上し、其の美術骨董に關する天禀の鑑識力に豐めるより、先づ斯界に名を成さんと志し直ちに東都斯界に活躍せしかば、果せる哉君の卓越せる識見は早くも社會の信望を博し、今や斯業を目的とする株式會社川部商會社長たる外株式會社東京美術倶樂部社長兼專務取締役にして、且つ株式會社日本美術倶樂部監査役たり。

然して、尚ほ一般財界に關係深く現に東亞護謨株式會社々長として令名あり、曩に東都美術商會取締役たりしことあり現に東京市日本橋區新右衛門町六番地に住し電話大手二八一番たり。

加藤亨君

醫學博士　正五位勲三等
大阪醫科大學教授

君は大阪府士族加藤謙藏君の長男にして、明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し、後ち大阪府立高等醫學校教諭を經て大阪府立醫科大學教授兼同病院耳鼻咽喉科醫長として現在に及ぶ。

明治四十三年醫學教育視察研究の爲め獨逸に差遣せらる。

夫人はるよ子との間に嘉彦君及び美代子、すゑ子、清子等あり、現に大阪市東區高麗橋二ノ五二番地に住し電話長本局三四五〇番たり。

×

勝又春一君

土木建築電氣請負業
岳南組々長

本社を東京府豐多摩郡大久保町東大久保九番地に有し、其の出張所を東京府荏原郡矢口村、新潟縣中魚沼郡下舟渡村、山形市縣廳東門前、靜岡縣駿東郡沼津及び同縣御殿場町等に有し、今や帝都復興の途上にある土木建築電氣界に活躍して其の名聲を馳せ、官民を論ぜず多方面に其の勢力と地歩とを占めつゝある、岳南組經營者勝又春一君は明治二十五年三月二十一日を以つて靜岡縣駿東郡御殿場町新橋二〇二三番地に生る。

明治四十年御殿場農業學校を卒ふるや大志を抱いて東上し、早稻田工手學校に入りて大正三年七月優秀の成績を以つて卒業し、直ちに山梨縣林業技手として赴任し居ること數年、固より小職に甘んずる器にあらざる君は、敢然起つて身を實業界に投ず。

斯くて大正八年獨力土木建築電氣請負業を開始し、君が天禀の才能と絶倫なる精力とを傾倒し爾來、諸官廳諸會社の請負に君の敏腕を振ひ、殊に東京電燈株式會社水力工事に對し、其の卓越せる識見と技術とを以つて完璧を期せしかば斯業界に於ける君の信望頓に擧り、今や新進實業家として衆望の標的となり、業運益々發展の歩調を迎るに至る。

君や年齒未だ春秋に富み、加ふるに其の熱誠と不撓の奮闘とは相俟つて愈々斯界に覇を競ふ又偶然にはあらざるべし、夫人禮子は三重縣の人佐藤元次郎君の長女たり、現に東京市外東大久保町九番地に住し電話四谷一〇四二番たり。

加藤德雄君

日清製粉株式會社商務部長

新日本財界に活躍して、新進實業家の名あるを我が加藤德雄君となす。君は先代加藤甚藏君の二男にして、明治二十四年一月十四日を以つて生る。

夙に學に厚く、東京府立第四中學校を經て、明治四十四年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、日清製粉株式會社に入りて恪勤精勵、後ち北米各地に出張を命ぜられ斯業に關する實況を具さに視察見學して歸朝す。

斯くて、君の博學に加ふるに優れたる商才とは着々として事業の上に現はれ、上長の信任愈々厚く、今や內外に重きをなし前途多望多端たり。

夫人友子は栃木縣の人松本貞吉君の長女にして宇都宮高等女學校の出身たり、現に東京市小石川區西江戸川町一二番地に住し電話小石川三一八八番たり。

神山傳兵衛君

內外木材商
竹屋神山商店主

君は東京府の人神山壽平君の長男にして、明治二十一年十一月十六日を以つて東京府下千住中組一六六番地に生る。

當家は遠く二百五十余年以來帝都に於ける老舗にして、代々木材商を營みて斯界に令名ある家柄にして、君亦祖業を繼ぎて、精勵し、今や內國木材は勿論遠く海外より木材を輸入し、東都同業界の白眉を以つて目せらる。

君尚ほ事業の傍ら地方自治及び公共事業に盡瘁し、現に一町九ケ村々會議員を初めとして千住町會議員、千住材木同業組合副組長、經濟臨時出張立會委員、衛生委員等として知らる。

夫人とみ子は埼玉縣の人元縣會議員美田又三郎君の長女にして、君との間に傳衛君、時男君及び節子、章子、俊子、泰子等あり、現に東京府下千住中組一六六番地に住し電話淺草三六六番たり。

柏木勘八郎君

福岡縣多額納稅者
宇島鐵道株式會社常務取締役

君は山口縣士族福原彦七君の二男にして、同榮太郎君の令弟に當り、慶應二年十月を以つて生れ後ち先代勘八郎君の養嗣子となる。

現に宇島鐵道株式會社常務取締役たる外本島材木株式會社取締役、桝谷商會株式會社監査役たり、尚ほ福岡縣多額納稅者にして直稅五千百八十余圓を納む。

夫人マサ子は東京府士族櫻井信四郎君の令姉にして其の間に鎌三君、昌之助君二郎君及び陸子等あり、現に福岡市行橋に住す。

×

加瀨庄治郎君

實業家
千葉縣多額納稅者

加瀨家は當地方に於ける舊家にして、遠く寛政年間醬油釀造業を始め、三代目の庄次郎君に至り正上印醬油を釀造して

好評を博す。君は先代庄次郎君の長男にして丁度五代目に當り、明治十年二月を以つて生る。

夙に千葉中學校を卒ふるや直ちに實業界に投じ、家業を繼ぎて益々盛大ならしめ、現に千葉縣多額納稅者として直稅三千七十余圓を納め當地財界に知らる。

趣味に銃獵、謠曲、撞球等あり、夫人ふき子は千葉縣の人加瀨直三郎君の二女にして君との間に晴郎君及び貴美子等あり、現に千葉縣香取佐原に住し電話佐原二五番なり。

×

川井源八君

三菱電機株式會社常務取締役參事
三菱商事株式會社取締役

我が財界の重鎭川井源八君は福島縣若松市馬場上町の出身にして、明治七年一月九日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、切瑳琢磨、學事に精勵し其の蘊蓄を積みしかば直ちに東都財界に投ず。

斯くて三菱合資會社に入りて恪勤精勵君の敏腕を縱橫に振つて同社の發展に盡瘁すること甚大、漸次陞進して重要の位置に腰を下ろし、現に三菱電機株式會社常務取締役參事として內外の社務を執掌する傍ら三菱商事株式會社の重役として知らる。

夫人を竹子と稱し、君との間に保君、治君、寬君、清君及び美波子、幸子、晴江子等あり、現に東京府豐多摩郡代々幡町幡ヶ谷十番地に住し電話四谷六一二番たり。

×

加藤慶次郎君

北海道多額納稅者
函館商業會議所議員

君は北海道の人太田幸吉君の令弟にして、明治元年七月を以つて生れ、後ち先代慶次郎君の養嗣子となる。夙に地方實業界に活躍して令名を馳せ、現に北海道多額納稅者にして且つ函館商業會議所議員たり。

函館市地藏町に住し電話四九一番たり

加藤謹之助君

岡谷合資會社東京支店長

我が國鐵業界の重鎭として、斯界に鋒々の名あるを我が岡谷合資會社となす。

同社の歷史は遠く三百年以前の寬永年間に遡り、始めて名古屋市に於いて一金物商に其の端を發せしものなり。

爾來、星霜茲に三百十余年、其の堅實なる營業方針は隆々として斯界に覇を唱へ、今や牢乎として拔くべからざる一大勢力を示し、其の實力實に數千萬圓を評價せられる、然して本社を名古屋市中區鐵砲町に有し、大阪に同社鐵部、貿易部、機械部を置き、更に東京の鐵部、金物部と東西相呼應して堂々の陣容を張り、其の尨大なる各倉庫には常にストックの山をなし、正に其の隆盛なる營業を察知するに難からざるべし。

帝都の東西に位し、京橋湊町河岸に宙天の雄姿を現はすビルデイングこそ即ち

我が岡谷合資會社東京支店にして、相隣接する同社倉庫の豐藏する鐵及び金物類は今や帝都復興事業に絕大なる力となつて搬出せられ、斯くて同社の名は永遠に不朽ならんとす。

抑々斯くの如き大勢力と、斯くの如き繁盛とを以つて東京支店の前途は愈々多事、而して同社內外の社務を執掌して萬遺漏なからしむる雄者は誰あらう、これぞ新進實業家として前途を囑望せられ、同社東京支店を双肩に擔つて尙ほ悠然たる我が加藤謹之助君その人にして、君は明治十四年八月十三日を以つて名古屋市中區南伊勢町三丁目に生る。嚴父の時代より同社樞要の位置にあり、君亦早くより同社に精勤し、大正七年三月東京鐵部開設せらるゝや、拔擢せられて同部長に任じ、爾來、今日に至るまで君の豐富なる經倫と、商器と加ふるに其の崇高なる人格とを以つて恪勤精勵せしかば社運、旭日昇天の勢を以つて發展し、今や東都業界に覇を唱ふ。蓋し君の力與つて大なりと謂はざるべからず。

君年齒未だ春秋に富む、其の前途や多事にして多端、而して性來寡言にして機を見るに敏なる君ノタマハク「勇士は言拙なしと雖も、其の行や敏、其の道義や厚く斯くて萬事に周密ならんことを欲す」是れ君の信條にして、部下を督するに此の言の如く、且つ溫情を以つてす、宜なる哉、同社の今日ある、又宜なる哉、社內の統一一糸だも亂れざる……サテ偉なる哉

趣味を叩けば曰く、園碁によりて心靜かに經濟戰畧を企劃し、謠曲をウナツテ皓然の慨を養ふとか、その禮に厚くして活淡たる資性や眞に敬すべし、東京市芝區榮町十七番地に住し電話青山五七九七番たり。

×

加賀正太郎君

加賀土地株式會社常務取締役
大阪府多額納稅者

君は大阪府の人加賀市太郎君の長男にして、明治二十年一月を以つて生る。明治四十四年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投ず。

現に加賀土地株式會社常務取締役たる外日印通商株式會社取締役にして、且つ大阪府多額納稅者として直稅五千五百四十三圓を納む。

夫人千代子は大阪府の人豐田治助君の令姉たり、現に大阪市東區高麗橋町二ノ五三番地に住し電話本局七四五番たり。

神谷卓男君

東邦電力株式會社取締役
九州電氣鐵道株式會社監査役

其の昔、官界にありては樞機に參畫して、隨所に其の才幹を發揮し、一度實業界に投ずるや、異數の敏腕を振つて斯界に貢獻すること甚大なるを從六位神谷卓雄君となす。

君は京都府士族神谷廣生君の長男にして、明治三年十二月を以つて生る。明治

二十五年京都同志社大學を卒業するや、更に米國に航し、彼の地の大學に研鑽すること數年、造詣を深くして歸朝するや職を官途に奉じ、兩來、韓國財部官、道書記官、朝鮮總督府事務官、平安北道內務部長、名古屋市高級助役等を歷任し、後ち實業界に投ず。

現時は東邦電力株式會社取締役たる外九州電氣、長良川電化、稻澤電燈各株式會社の重役として我が財界に令名あり。夫人を三枝子と稱す、現に東京府豊多摩郡下落合一三二八番地不動園に住し電話牛込二五九五番たり。

加藤由太郎君

實業家

君は愛知縣の人加藤春太郎君の令兄にして、慶應元年二月四日を以つて生る。夙に東都財界に活躍して君が異數の敏腕を鳴らし、曩に合資會社鮮米商會代表社員、共同精米株式會社監査役たりしが現時は獨力にて廻米問屋を營み、斯界に重きをなす。

夫人かな子は東京府の人原文三郎君の長女たり、現に東京府荏原郡中澁谷宇田川一三六番地に住し電話青山一四〇三番たり。

×

加藤與五郎君

理學博士　從四位勳四等
東京高等工業學校教授

君は愛知縣の人加藤惣吉君の長男にして、明治五年七月を以つて生る。明治三十六年京都帝國大學理工科大學化學科を卒業し、更に物理化學研究の爲め自費を以つて米國に留學し、造詣を深くして歸朝す。

斯くて歸朝するや、直ちに東京高等工業學校教授を拜命し以つて現在に及ぶ、曩に理學博士の學位を授與せられ、又英獨洪各國及び南洋諸島に出張を命ぜられしことあり。

夫人をトラ子と稱し福島縣士族菊池善三郎君の二女たり、現に東京市外平塚町戸越一二二〇番地に住し電話高輪五八七七番たり。

×

加藤英一君

加藤貿易株式會社專務取締役
第一信託株式會社取締役

君は神奈川縣の人加藤八郎右衞門君の令弟にして、明治十九年五月を以つて生る。明治三十九年早稻田大學を卒業するや更に米國に航しサウスカリホルニヤ大學に學び同學の課程を卒へて歸朝す。

斯くて直ちに實業界に投じ、現に前記の外横濱棧橋倉庫株式會社の重役たり。夫人は米國の人グエンドリン、アンナ、ウイツサム子と稱しバサデナガールスハイスクールの出身たり、横濱市青木町一二〇番地に現住し電話六三〇二番たり。

金光庸夫君

大正生命保險株式會社專務取締役
衆議院議員

君は大分縣の人金光芳藏君の二男にし

帝都復興之現勢

東京市日本橋區箱崎町四ノ一番地
尾張土管商會　神谷福松
電話茅場町八二四番
土木建築請負業　淺井富三郎
東京市本所區相生町四ノ一十番地
電話本所二七七三番

高五五、一五八、四〇七合計九六九、〇五七、六七七　**利益金勘定**當期純益金六、一〇五、七六五前期繰越金二、九一〇、二六五合計一〇、〇一六、〇三一　之ヲ處分スルコト次ノ如シ法定準備金一、〇〇〇、〇〇〇役員賞與金一五〇、〇〇〇行員恩給基金三五〇、〇〇〇株主配當金(年壹割)四、六二七、五〇〇後期繰越金三、八七八、五三一。

富士印刷株式會社……**設立**大正九年六月　**總株數**一萬四千株　**資本金**七十萬圓　**拂込金額**十七萬五千圓　**長**佐藤義亮　**專**佐々木俊一　**締**前島震太郎　竹尾藤之助　**監**中根駒十郎　妹尾亮吉　**貸借對照表**　昭和二年五月　**資產**拂込未濟資本金五二五、〇〇〇建物四〇、一〇〇機械器具九六、一三九設備費一三、六三二活字四八、七四六什器備品七、三二七保證金二四〇振替貯金二八二假拂金七、五四〇未收入金四、七〇九半製品勘定三、二一五銀行預金三七、二五六現金二一八合計七八四、四〇九　**負債**資本金七〇〇、〇〇〇借入金一〇、〇〇〇未拂配當金四六七　諸積立金三一、六〇〇　前期繰越金四、八〇九當期益金三七、五三二合計七八四、四〇九　**損益計算書**總收入金一九五、三五七總支出金一五七、八二四資產償却一一、〇〇〇差引當期純益金二六、五三二前期繰越金四、八〇九合計三一、三四二　**利益金處分**法定積立金一、五〇〇別途積立金二、五〇〇役員賞與金三、〇〇〇配當金(年一割一分)一九、二五〇後期繰越金五、〇九二。

株式會社東洋工業社……**貸借對照表**昭和二年五月　**負債**株金五〇〇、〇〇〇諸積立金九六、一四四仕入先勘定一九五、八一三割引手形七五二、五五六仕拂手形五五三、〇〇〇外國爲替手形五〇、二一一假受金勘定二七、八三六預リ金勘定一、八〇六預リ保證金三一三、五〇三當期利益金二五、〇六八前期繰越金三、四一五合計二、五一九、三五七　**資產**未拂込株金一二五、〇〇〇得意先勘定九九、八一七商品勘定二五〇、三三六　受取手形八〇五、二二五器具及什器二七、九四三假拂金勘定四九、一一三有價證券二、五二五預ヶ保證金一七一、八一四　銀行預金及金銀有高九八七、五八一合計二、五一九、三五七。

鐘淵紡績株式會社……**設立**明治二十年五月　**總株數**百二十萬株　**資本金**六千萬圓　**拂込金額**二千八百五十九萬五千七百三十十圓　**株式價格**最高三百二十三圓最低二百四十五圓　**長**武藤山治　**副**長尾良吉　**常**山口八左右橋瓜捨三郎　**締**藤正純　前山久吉　福原八郎　名取和作　城戸季吉　**監**平賀敏　野崎廣太　清岡邦之助　室田義文　**貸借對照表**昭和二年七月　**負債**株金六〇、〇〇〇、〇〇〇　諸積立金三一、九三八一九一配當未濟割賦金一二五、三九七未拂金及買掛金八、八四二、九四六諸預リ金一二、一三六、八一七鐘紡同志會預金二四、五一二鐘紡共濟組合預リ金一、一七五、

東京市京橋區南傳馬町三第一相互館二階
土木建築設計施行工事請負
安達長松事務所
電話京橋四三一六番
自宅　東京市本鄕區根津宮永町三五番地
電話下谷六〇〇九番

て、明治十年三月を以つて生る。夙に學に厚く、鄉校を卒ふるや直ちに笈を負ふて東上し、法律經濟學を修め、明治三十年稅務吏となり、爾來、各地の稅務署に轉勤し後ち長崎稅關吏となり、幾許もなく累進して福岡縣下の稅務署長に任じ、更に熊本稅務監督局に轉ず。

然して明治四十一年感ずる處ありて實業界に投じ、神戸鈴木商店に入りて君の敏腕を振ひ、同年十一月太陽生命保險株式會社取締役に擧げられ、翌年一月支配人を兼ねて專任支配人となる。

然るに君が素志は獨立事業にありしかば、遂に京阪地方の有力家を勸說して大正二年五月大正生命保險株式會社を創立し、自ら其の專務取締役に就任し爾來、嶄新の經營振りと活潑なる營業方針とは先輩諸會社と相對立して隆々發展し、斯界に名聲を博するに至れり。

君尙ほ多方面の事業に關係し、現に日本敎育生命保險、新日本火災海上保險各株式會社專務取締役たる外王子電氣軌道、南武鐵道各株式會社取締役にして且つ合同油脂グリセリン、クロード式窒素工業各株式會社監査役たり。

君亦政界に志し、衆議院議員たること二回、現に中央政界に知られ今後の飛躍更に刮目すべきものあり。夫人をとし子と呼び其の間に義郎君、亨君、庸房君、邦夫君及び英子、淳子、澄子等あり、現に東京市麴町區有樂町二ノ七番地に住し電話大手二七八〇番四八二三番なり。

書上文左衞門君

正八位　在鄉陸軍三等主計
大東織布株式會社長

君は群馬縣の人書上文左衞門君の長男にして、明治二十四年五月を以つて生れ前名史郎を改稱す。現に大東織布株式會社々長たる外株式會社書上商店社長にして、且つ日本絹撚、高田毛織、桐生機械各株式會社の重役たり。

夫人マツ子は東京府の人森宗作君の長女にして、君との間に芳郎君、文爾君及び幸子あり、桐生市相生町に現住す。

神戸久誠君

醫學博士

君は山梨縣の人廣瀨久光君の九男にして、明治十八年六月九日を以つて山梨縣南都留郡東桂村に生れ、後ち神戸擧一君に其の人材を認められて、養嗣子となる。

夙に第四高等學校を經て大正二年東京帝國大學醫科大學を卒業し、更に獨逸に留學すること一ケ年にして英米佛伊瑞各國を歷遊し、大正十二年五月造詣を深くして歸朝するや、東京帝國大學醫學部敎授兼附屬病院勤務となり、後ち醫學博士の學位を授けらる。

夫人松枝子は養父擧一君の長女にして東京府立第二高等女學校を卒業し君との間に光一君、誠二君及び幾代子、文江子、佐久良子、うらよ子等あり、現に東京府荏原郡下大崎七七番地に住す。

神谷忠雄君

日本貿易株式會社長
熱帶殖産株式會社副社長

君は東京府士族神谷一二君の三男にして、明治十三年十二月を以つて生る。夙に海外に學び特に南洋を視察見學して歸朝し、曩に東洋移民株式會社支配人たりしことあり。

然して現時は前記の外日本油脂工業、日本絹紬、東洋罐詰、高砂商事、東洋電氣、海外興業、東神火災保險、九州石炭鑛業、ホワイトシテー、東京動産火災保險、中華取引市場各株式會社の重役として知らる。

夫人しん子は愛知縣士族岩井精一君の長女にして、君との間に鎭男君、輝男君及び久子、彰子等あり、現に東京市赤坂區青山七丁目一番地に住す。

×

柿原徳一君

倉敷紡績株式會社常務取締役

君は宮崎縣士族柿原宗太君の長男にして、明治十四年三月を以つて生る。明治四十年京都帝國大學法科大學經濟科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に倉敷紡績株式會社常務取締役たり。

夫人龜野子は京都府士族野路井芳正君の二女にして、君との間に宗弘君及び信子等あり、現に大阪府天王寺勝山通二丁目に住し電話南四五〇六番たり。

各務幸一郎君

九州炭礦汽船株式會社長
日本絹紬株式會社長

君は東京府の人各務省三君の長男にして、文久元年十月二十四日を以つて生る。夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校の又其の前身たる、即ち商法講習所を出づるや直ちに實業界に投す。

然して君の才腕は早くも財界に一異彩を放ち、着々として斯界に勢力を張り、今や九州炭礦汽船株式會社及び日本絹紬株式會社等に社長たる外東京商業貿易、山陽電氣各株式會社の重役にして且つ東洋タイプライター株式會社相談役たり。

夫人ちま子は東京府士族飯田巽君の長女なり、東京市麹町區富士見町二ノ四七番地に住し電話四谷二二五五番たり。

神谷太一郎君

寺山粉碎工業會社監査役
東京府多額納稅者

君は東京府士族神谷定四郎君の長男にして、明治三年三月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に寺山粉碎工業株式會社監査役たる外八百市運送店取締役にして尚ほ東京府多額納稅者として直稅五千二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人たね子は愛知縣の人都築圭藏君の長女にして、君との間に肇君、進君、誠君及びたま子、せつ子、みさを子等あり現に東京市京橋區本八丁堀四ノ七番地に住し電話銀座五〇九五番たり。

片岡直溫君

正四位勳二等
衆議院議員

君は高知縣士族片岡孫五郎君の二男にして、安政六年九月十八日を以つて生る夙に私塾に於て英漢の學を學び、更に高知陶冶學校を卒業し、教育界に盡瘁すること多年、後ち內務省に出仕して滋賀縣警察部長に任ぜられ、同二十五年高知縣より選ばれて衆議院議員となる。

爾來、當選すること七回、憲政會領袖として政界に重きをなし、大正十三年內務政務次官に同十四年商工大臣に任ぜらる同年九月十六日勳三等に叙し瑞寶章を授けらる。

尚ほ阪神電氣鐵道、關西鐵道、參宮鐵道、日本生命、日本海陸保險各株式會社々長たる外日本興業、有馬鐵道、日本郵船各株式會社相談役、都ホテル株式會社取締役にして且つ伏見商業會議所特別議員に擧げられしことあり。

夫人祝子は高知縣士族松原友住君の二女たり、現に東京市牛込區早稻田南町四六番地に住し電話牛込二九六八番たり。

加藤惣松君

宮城縣多額納稅者

君は宮城縣の人加藤平進君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。夙に地方實業界に投じ、現に近江屋と稱し呉服太物商を營み、尚ほ縣下多額納稅者にして直稅七千九百四十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人たきの子は宮城縣の人大庭彦一郎君の二女にして、君との間に惣兵衛君、三郎君及びはつね子、はるの子等あり、現に仙臺市名掛四十六番地に住し電話五三番たり。

×

加藤武男君

三菱銀行常務取締役
日本電氣株式會社取締役

君は栃木縣の人加藤昇一郎君の長男にして、明治十年六月五日を以つて生る。明治三十四年慶應義塾大學經濟學部を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して、三菱合資會社に入りて同社神戸支店副長、同社銀行部大阪支店長等を歷任し、後ち外國に航すること二ヶ年、彼の地の經濟狀態を具さに視察見學して歸朝し、現に三菱銀行常務取締役たる外日本電氣、三菱倉庫各株式會社の重役として令名あり。

夫人なみ子は三井銀行員池田成彬君の令妹にして、日本女子大學を卒業し、君との間に武彥君、次郎君及び英子、君子章子等あり、東京市牛込區市ヶ谷河田町九番地に住し電話牛込二八六番たり。

加藤專藏君

京都證券株式會社取締役
京都府多額納稅者

君は滋賀縣の人清水貞助君の令兄にして、明治十五年八月を以つて生れ、後ち加藤重顯君の養嗣子となり、前名仙藏を改稱す。

夙に京都株式界に活躍し、現に京都證券信託株式會社取締役にして、且つ京都府多額納稅者にして、直稅四千百九十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ふみ子は養父重顯君の長女にして君との間に重德君及び靜子、綯子、千代子等あり、現に京都市下京區堺町三條下ルに住し電話中七四七番たり。

龜井玆常君

伯爵　從三位勳四等
宮內省式部職式部官

當家は宇多源氏佐々木源三秀義の五男にして、隱岐守義清六世の孫龜井武藏守玆矩の後なり。數世の孫政矩石見國津和野に移り、其れより十一代玆明君に至る玆明君は明治二十四年先代從二位玆監君の勳功に依り伯爵を授けらる。

君は其の長男にして明治十七年四月を以つて生れ同二十九年家督を相續し襲爵仰せ付けらる。夙に東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、直ちに歐米各國に遊び同四十五年歸朝するや式部官に任ぜられ主猟官を兼ね、後ち東宮侍從に任ぜられ大正十年二月　聖上東宮におはせし時海外御巡遊の供奉仰せ付けられ親しく側近に侍し、同年九月歸朝して現在に及ぶ。

夫人久子は伯爵上杉憲章君の令妹にして女子學習院の出身なり、現に東京市小石川區丸山町八番地に住し電話小石川三九六番なり。

蛸澤備君

仙人製鐵株式會社專務取締役
四國水力電氣會社監査役

君は長崎縣士族蛸澤宇右衞門君の長男にして、明治三年三月二十三日を以つて生る。明治二十五年法政大學法科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて仙人製鐵所に入りて恪勤精勵せしかば漸次上長の信任厚く、遂に推されて同社專務取締役に就任し、其の傍ら大正十二年には富士水電株式會社の取締役を兼ねしが、大正十三年三引商事株式會社に轉じて同社經理部長に就任し以つて現在に及ぶ。

社交に厚く鐵道協會、電氣俱樂部各會員にして、趣味に讀書あり、夫人をさと子と稱し東京府士族中田市兵衞君の四女たり、現に東京市麻布區富士見町一四番地に住し電話高輪七〇八番たり。

貝島榮四郎君

貝島鑛業株式會社長
福岡縣多額納稅者

君は福岡縣の人貝島太助君の二男にして、明治十一年一月を以つて生れ後ち貝島六太郎君の養嗣子となる。夙に福岡財界に投じ、現に貝島鑛業株式會社々長たる外貝島商業株式會社監査役にして、尙ほ貝島合名會社代表社員たり。

尙ほ縣下多額納稅者として、現時直接國稅一千七百九十余圓を納むるを以つて知らる。夫人イソノ子は養父貝島六太郎君の長女たり、現に福岡縣鞍手郡香井田に住す。

川上俊彦君

從四位勳二等
北樺太鑛業株式會社顧問

君は新潟縣士族川上泉太郎君の長男にして、文久元年十二月二十九日を以つて生る。明治十七年東京外國語學校を卒業し、同十九年十月領事館書記生、公使館書記生となり、同二十九年公使館二等通譯官に任じ、更に公使館一等通譯官貿易事務官、公使館二等書記官等を歷勤し、同四十年九月總領事として哈爾賓に駐在同四十五年三月莫斯科總領事となり、大正二年官を辭す。

然して、後ち南滿洲鐵道株式會社理事總務部交涉局長等を歷任し、尙ほ曩にポーランド特命全權公使たりし外日本側代表として勞農露西亞ヨッフェ氏と折衝せしことあり。

趣味として書畫、骨董を愛好し、詩歌に堪能なるが如し、夫人をトキハ子と稱し君との間に俊秀君、俊雄君、俊三君及び華子、清子、千代子等あり、現に東京市牛込區原町一ノ五四番地に住し電話牛込三二六五番たり。

川島幸十郎君

土佐倉庫株式會社取締役
高知縣多額納稅者

君は高知縣の人川島幸十郎君の長男にして、明治九年八月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍し、現に酒造業を營む傍ら土佐倉庫株式會社の重役にして、且つ縣下多額納稅者として現時直稅六千八百八十余圓を納む。現に高知市本町筋に住す。

川崎克君

正五位勳三等
衆議院議員

君は三重縣の人川崎スヘ子の長男にして、明治十三年十二月を以つて三重縣河山郡上野町に於て生る。明治三十四年日本大學法科を卒業し、更に外國語學校に入りて佛語を研修す。

斯くて東京市役所に入りて吏員たりしが、後ち朝鮮元山民團長に推され、更に日本新聞記者、元山時事新報主幹兼主事等を歷任し、曩に三重縣郡部より推されて衆議院議員に當選する事四回、現に憲政會內部に重きをなし、然して大正十三年八月加藤內閣の成立以來若槻內閣の時に至るまで遞信參與官を勤め省內切つての財政通を以つて知られしが、昭和二年四月若槻內閣倒れて田中政友會內閣成立するやこれを辭す。

夫人ヤス子は愛媛縣の人佐久間信義君の二女にして君との間に勉君、秀二君あり、現に東京府荏原郡大崎白金猿町九四番地に住し電話高輪八八〇番なり。

神谷健夫君

正五位勳四等　判事
大審院判事

君は山形縣の人神谷直麻君の長男にして、明治十年三月を以つて生る。明治三十六年京都帝國大學法科大學を卒業する

や職を官途に奉ず。

斯くて司法官試補となり、爾來、京都地方兼區裁判所判事、京都、大阪、東京各地方裁判所部長を歴任し、大正十年四月東京控訴院部長に任じ、後ち大審院判事に轉じ以つて現在に及ぶ。

夫人ハナ子は山形縣の人鈴木六次郎君の四女にして、君との間に恒夫君、亮君及び俊子、叡子、淑子等あり、現に東京府北豊島郡瀧野川町西ヶ原七一番地に住し電話小石川三九〇〇番たり。

河路寅三君

實業家

君は滋賀縣の人河路重平君の養弟にして、明治二十二年十二月二十九日を以つて滋賀縣に生る。夙に滋賀縣立商業學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して後ち北海道土地株式會社を經營して其の衝に當り、大正六年實業視察の爲め渡米し、滯留すること二ヶ年にして歸朝するや、入りて日本麻絲株式會社專務取締役に任ぜられ、其の後ち同社が帝國製麻株式會社と合併さるゝに及んで同社取締役となり以つて今日に至る。尚ほ日本紙器製造、北海道土地各株式會社取締役たり。

夫人千代子は滋賀縣の人大塚吉平君の四女にして京都府立第一高等女學校を卒業す、現に東京府荏原郡入新井町新井宿二一四三番地に住し電話大森四一四番なり。

門野錬八郎君

東神倉庫株式會社常務取締役
大正運輸株式會社監査役

君は三重縣士族門野英成君の長男にして、明治元年八月十一日を以つて生る。明治二十二年慶應義塾大學を卒業するや直ちに第三高等學校教授に任ず。

然して明治三十二年京都帝國大學理工科大學助教授に任じ、後ち機械工學研究の爲め英佛兩國に留學を命ぜられ、同三十八年同大學教授に進み、翌年工學博士の學位を授けられ、大正三年工科大學教授に任じ、歐米各國に差遣せられ後ち工學部長に補せられ以つて現在に及ぶ。

夫人昌子は東京府士族宮田重固君の三女にして、君との間に一男四女あり、現に京都市上京區岡崎南御所四〇番地に住し電話上三六八七番たり。

金子登君

工學博士　從三位勳二等
京都帝國大學教授

君は愛媛縣士族金子源義君の長男にして、明治三年十一月を以つて生る。明治二十七年京都帝國大學工科大學を卒業するや直ちに第三高等學校教授に任ず。

然して明治三十二年京都帝國大學理工科大學助教授に任じ、後ち機械工學研究の爲め英佛兩國に留學を命ぜられ、同三十八年同大學教授に進み、翌年工學博士の學位を授けられ、大正三年工科大學教授に任じ、歐米各國に差遣せられ後ち工學部長に補せられ以つて現在に及ぶ。

夫人昌子は東京府士族宮田重固君の三女にして、君との間に一男四女あり、現に京都市上京區岡崎南御所四〇番地に住し電話上三六八七番たり。

河村清兵衞君

三重合同電氣株式會社取締役
三重共同電力株式會社取締役

君は三重縣の人河村清六君の長男にして、明治四年十二月を以つて生れ前名之助を改稱す。夙に地方實業界に投じ、現に三重合同電氣、三重共同電力、伊勢紡績各株式會社の重役として知らる。

夫人せい子は三重縣の人小川宗一君の二女にして、君との間に清之助君、清三君、清祐君及び幾子、孝子、常子、好子等あり、現に三重縣宇治山田市宮後七八番地に住す。

×

樺山資英君

正五位勳四等
貴族院議員

君は舊鹿兒島藩士樺山資雄君の長男にして、明治元年十一月十九日を以つて生る。夙に第一高等學校を卒業するや米國に遊び、コロンビヤ大學に學び、次いでエール大學法學部に轉じ、同學部を卒業してバチエラー、オブ、ローの稱號を得更に進んで大學院に學びマスター、オブローの學位を受け、次いで論文を提出して法學博士の學位を受け、同二十八年目出度く歸朝す。

斯くて陸軍省に出仕して軍務に參じ、功に依り勳六等に叙せらる、爾來、内閣總理大臣祕書官、文部大臣祕書官等を歴任す。

然して、後ち職を辭して東洋火災保險株式會社の創立に參畫し、同社の成立と共に擧げられて同社長に任じ、後ち南滿洲鐵道株式會社に入りて理事となり、大正十二年九月第二次山本内閣の成立を見るや内閣書記官長に任ぜられ、同十三年一月辭し同年貴族院議員に勅選せられ以つて現在に及ぶ。

趣味に園藝、野外運動、讀書、美術、等あり、夫人を球磨子と呼び子爵高崎武養君の女にして華族女學校の出身たり、現に東京市四谷區大番町二八番地に住し電話四谷三四七〇番たり。

×

川村貞次郎君

三井物産株式會社常務取締役

君は三重縣の人川村七左衛門君の長男にして明治三年十一月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治二十四年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ、三井物産株式會社に入社して恪勤精勵せしかば累進して漸次樞機に參畫し、同社船舶部長兼造船部長等を歴勤し、遂に拔擢せられて同社常務取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人かく子は愛知縣の人伊藤喜助君の二女にして、君との間に一女ありて可染子と呼ぶ、東京市麻布區三河臺町二十九番地に住し電話青山三九七六番たり。

金森德次郎君

正五位勳三等
内閣法制局參事官

君は愛知縣の人金森新七君の二男にし

て、明治十九年三月を以つて生る。明治四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し恩賜の銀時計を拜受し、且つ在學中早くも文官高等試驗に登第して其の俊才を謳はる。

斯くて業成るや職を官途に奉じ大藏省に出仕し、後ち內閣法制局參事官に轉じ現に同省第一部長たり。尙ほ行政裁判所評定官、高等試驗委員を兼ね、且つ中央大學、日本大學等の講師たり。

趣味として古今碑文の研究をなし、繪畫、俳句等のたしなみあり、夫人佐喜子は東京府士族櫻井純一君の四女にして君との間に久雄君及びキミ子等あり、現に東京市本鄕區森川町一番地に住し電話小石川六七四番たり。

×

河內卯兵衛君

株式會社博多工作所社長
筑前參宮軌道會社取締役

君は福岡縣の人先代卯兵衛君の長男にして、明治九年三月を以つて生れ前名德太郎を改稱す。夙に地方實業界に活躍し現に株式會社博多工作所社長たる外筑前參宮軌道、東軌道、博多灣築港各株式會社の重役たり。

尙ほ縣下多額納稅者として現時直稅四千三百二十余圓を納め、當地財界に重きをなす、現に福岡市行ノ町四十二番地に住す。

香川景之君

正五位勳四等
山階宮附宮內事務官

君は東京府士族香川景恒君の長男にして、元治元年六月九日を以つて生る。大正十三年五月八日前名秀五郎を景之に改む。

夙に經史國典を修め、明治十年山階宮雇出仕を命ぜられ、同十六年家從申付けられ、同二十年菊麿王殿下獨逸留學に隨行仰せ付けられ、同二十七年歸朝し銀盃を下賜せらる。

然して明治二十八年山階宮家從に任ぜられ、同三十一年家扶に進み同三十七年家令に陞り、更に同年菊麿王殿下韓國皇帝陛下卽位祝典御參列の爲め差遣せらるや、其の隨行を命せられ同年十二月同殿下清國御出張に隨行す、現に宮內事務官にして山階宮附たり。

夫人龜子は京都府の人岩崎伊三郎君の三女にして其の間に景松君、景楠君、景棟君及び樹子、勝子等あり、現に東京市麴町區富士見町五ノ一番地山階宮邸內に住し電話九段二八五三番なり。

河西豐太郎君

桂川電氣興業株式會社取締役
山梨貯蓄銀行監査役

君は山梨縣の人先代兵一郎君の二男にして、明治七年二月を以つて生る。現に前記の諸職にありて地方財界に名あり。

夫人せき子は山梨縣の人矢崎源左衞門君の長女にして、君との間に俊夫君、兵助君及び時子、淺江子、末子等あり、現に山梨縣中巨摩郡三恵村に住す。

笠井愛次郎君

工學博士　勳五等
利根川電力株式會社長

君は東京府の人笠井大五郎君の二男にして、安政四年六月十六日を以つて生る明治十五年東京帝國大學工科大學を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して翌年德島縣下南海四縣國道貫通の工事を擔當して功を奏し、又海軍鎭守府を佐世保及び吳に創設するに當り君は選ばれて其の工事を擔當し、更に九州鐵道株式會社に聘せられて其の創立事務を處理し、後ち日本土木株式會社に入りて同社大阪支店長に任ず。

然して明治二十五年獨力染工場を小石川に設けて染物業に從事し、同年朝鮮を經てシベリヤを視察し、歸朝後自らセメント會社を創立し、同年護謨製造法を發明し、又同三十年三月鐵道學校を創立し其の校長となり翌年鐵道協會を設立して理事に任じ、斯くて大正四年二月工學博士の學位を授けらる。

大正十年三月北鮮興業鐵道株式會社を創立して同社取締役代表者に任じ、尙ほ日本畜產、揖斐川電力、養老鐵道、多摩鐵道、東海電化工業、揖斐川電化工業、內外化學製品、中國水力電氣、北海道電力各株式會社の重役を兼ね、今や、我が財界の巨星として知らる。

夫人むめの子は德島縣の人妹尾熊次郎君の三女にして東京女子高等師範學校附屬高等女學校の出身たり、現に東京市小石川區茗荷谷町八〇番地に住し電話小石川一九〇番なり。

×

河合忠次郎君

日本機械精工株式會社取締役
京都府多額納稅者

君は京都府の人河合彌兵衞君の三男にして、慶應三年五月を以つて生る。夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに地方實業界に投じ、現に日本機械精工、壽製作所、相互運輸倉庫各株式會社の重役にして、且つ京都府多額納稅者として直稅四千八十余圓を納む。

夫人美津子は京都府の人宮本龜助君の長女にして君との間に千代子、やゑ子、ます江子、加代子等あり、現に京都市下京區烏丸通四條上ルに住し電話中六八番たり。

×

川上熊吉君

臺南製糖株式會社常務取締役
株式會社阿部幸商店監査役

君は先代幾多郎君の長男にして、元治元年十二月を以つて靜岡縣島田町に生る明治十八年慶應義塾大學を卒業す。

然して靜岡英學校敎頭に任じ、次いで朝鮮新聞、報知新聞等に筆を執り、且つ岐阜日日新聞社に入りて主筆となり、同二十九年三井銀行に入りて四日市、和歌山、桑名等の各支店長を歷勤し、同四十年同行を辭す。

斯くて鈴木梅四郎君等と協力して臺南製糖株式會社を創立し、其の常務取締役

に擧げられ又大正十年安部幸商店を創立せらるゝや、入りて同社監査役に任じ、以つて現在に及ぶ。曾つて臺南森林工業監査役たりし事あり。

夫人かね子は愛知縣士族内藤等君の二女にして東京女子高等師範學校附屬高等女學校の卒業なり、現に東京市麹町區平河町五ノ一四番地に住し電話四谷五二〇六番なり。

川田敬三君

日本銀行理事

君は東京府士族故男爵岡野敬次郎君の令弟にして、明治四年四月二十七日を以つて生れ、先代直利君の養嗣子となる。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業す。

曩に日本銀行檢査役兼主事、同文書局長等を歴任し以つて現在に及ぶ。東京市赤坂區青山南町五ノ三三番地に住し電話青山四四五番たり。

鎌田榮吉君

正四位勳二等
貴族院議員

君は和歌山藩士鎌田鍬藏君の六男にして、安政四年八月を以つて生る。夙に藩黌に學び和歌山自習學校を經て、明治七年慶應義塾第二等に入り在學一年にして業を卒へて敎育界に投ず。

然して明治四年鹿兒島造士館敎諭となりしが、後ち辭して慶應義塾に敎鞭を取り同十九年内務省御用掛仰せ付けられ縣治局に勤務し、後ち大分中學校同師範學校各校長を經て明治二十二年三度母校に敎鞭を執る。

斯くて明治二十七年和歌山縣より選ばれて衆議院議員となり、後ち慶應義塾の用務を帶びて朝鮮及び歐米に航し、歸朝後同塾の塾長となり同三十三年高等敎育會議員に擧げられ、次いで敎育調査會委員に擧げられ同三十九年貴族院議員に勅選せられ以つて現在に及ぶ、尚ほ交詢社理事長にして、曩に加藤友三郎内閣成るや臺閣に列し文部大臣に親任せらる。

現に東京府荏原郡目黒町下目黒五五五番地に住し電話高輪四六番たり。

各務鎌吉君

東京海上火災保險會社專務取締役
三菱海上火災保險會社取締役

君は東京府の人各務幸一郎君の令弟にして、明治元年十二月を以つて生る。夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに東都實業界に投ず。

斯くて君の蓄蓄を傾注して幾多事業會社に關與し、現に東京海上火災保險株式會社專務取締役たる外三菱海上火災保險東京報知機、明治火災保險、東京サルヴエージ各株式會社の重役として知らる。

夫人繁尾子は東京府士族藤岡正信君の令妹にして君との間に一女ありて光子と稱す、東京市小石川區大塚窪町二番地に住し電話小石川九六四番たり。

神谷宇之松君

大阪府多額納稅者

君は奈良縣の人仲善太郎君の二男にして、後ち先代新太郎君の養嗣子となり、現に大阪府多額納稅者たり。

現に大阪市西區北堀江三番町二十七番地に住し電話新町八二二番たり。

川合芳三郎君

（玉堂）

畫家　正五位
東京美術學校敎授

君は岐阜縣の人川合勘七君の長男にして、明治六年十一月十四日を以つて生れ號を玉堂と稱す。

幼より畫を好み京都に遊び望月玉泉、幸野楳嶺等の家塾大成義會に學び、刻苦精勵大いに勵みしかば技漸やく擧り、明治二十九年上京して畫界の泰斗橋本雅邦翁の門に入り、狩野派の畫風を修め遂に大家の域に達し嶄然として一家をなすに至り、その縦横無涯の筆致と深厚典雅なる作風とは竹内栖鳳と並び稱せらるゝに至る。而して文展第一回以來の審査員にして、我が國畫壇の權威たり。

現に東京美術學校敎授にして且つ帝室技藝員、帝國美術院會員たり、和歌、俳句に堪能なるが如し。

夫人とみ子は岐阜縣の人大羽彌兵衞君の令妹にして君との間に眞一君、修二君及び國子等あり、現に東京市牛込區若宮町二九番地に住し電話牛込三四四〇番なり。

河合庄九郎君

八木銀行常務取締役
奈良縣多額納稅者

君は大阪府の人河合庄次郎君の長男にして、明治三年六月を以つて生れ後ち先代莊九郎君の養嗣子となり前名元治郎を改稱す。

夙に地方實業界に投じ、現に八木銀行常務取締役にして、且つ縣下多額納稅者として直稅一千六百七十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人龜枝子との間に庄司君、庄之進君及び惠以子、誠子、ふみ子等あり、奈良縣高市郡八木に住す。

神田鐳藏君

神田銀行頭取
朝日信託株式會社長

君は愛知縣の人神田清三郎君の長男にして、明治五年八月を以つて生る。當家は代々愛知縣下に於ける釀造業者として知られ、君又其の後を享けしが後ち志しを東都實業界に抱いて上京せり。

斯くて、明治三十三年公債賣買業を手始めに都下の實業界に入りて着々地歩を占め、明治四十五年金融界視察の目的を以つて歐洲諸國を巡遊し得るところ甚大爾來、國際金融機關運用に關して其の貢獻すること尠少ならず。

現に神田銀行頭取たる外紅葉屋商會、朝日信託各株式會社々長にして且つ東華生命保險株式會社監査役として我が財界

に知らる、號を錦谷と稱し詩歌、書畫等に趣味を有し造詣淺からずといふ。

夫人さは子は和歌山縣の人清水景吉君の令姉にして日本女子大學を卒業し君との間に俊二君、清君、軍治君等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷砂土原一ノ二番地に住し電話牛込八〇三番たり。

龜井武夫君

實業家

君は長野縣の人片桐定十郎君の四男にして、明治二十五年三月九日を以つて生れ、後ち東京府の人龜井唯二郎君の養嗣子となる。

夙に長野縣立飯田中學校を卒ふるや、明治大學に學び、同學商科を卒業し後ち米國に遊ぶこと六ヶ年、彼の地の經濟狀態及び養父よりの事業たる旗及び旗布に關する研究視察を終へて歸朝し、大いに斯業の發展に盡瘁せしかば業運頓に擧り今や同業界の新人として知らる。

夫人ヒサ子は養父唯二郎君の長女にして、三輪田高等女學校の出身たり、現に東京市日本橋區樽正町一四番地に住し電話大手二一二番三四二一番なり。

川村鉄太郎君

伯爵　從三位勳四等

貴族院議員

當家は先代正二位勳一等川村純義君より家名顯はる。純義君は舊鹿兒島藩士にして、夙に國事に奔走して功あり、明治二年兵部大丞に同年兵學頭に同八年海軍中將同十一年參議兼海軍卿に任じ、同十七年特旨を以つて華族に列し伯爵を授けらる。

斯くて、明治十八年宮中顧問官同二十一年樞密顧問官に任ぜられ　明治天皇の御信任厚く、皇孫迪宮淳宮兩殿下御訓養の大任を拜し、至誠奉公以つて大任を完うし功績勘からず。

君は其の長男にして、明治二年五月を以つて生れ同三十七年襲爵仰せ付けらるゝや同年參議兼海軍卿に任じ、同十七年特旨を以つて華族に列し伯爵を授けらる。夙に慶應義塾に學び、後ち英國に留學してケンブリッヂ大學に入り、造詣を深くして歸朝し、曩に東洋火災海上再保險、東海生命保險、京濱運河各株式會社の重役たりしが、現時は貴族院議員にして、尚ほ東明火災海上保險、帝國蓄電池、旭紡織各株式會社の重役たり。

夫人安子は男爵大久保光野君の養妹にして、君との間に二男七女あり、現に東京市赤坂區新坂町六十六番地に住し電話青山六〇八五番たり。

川崎八右衞門君

實業家

君は茨城縣の人先代川崎八右衞門君の三男にして、慶應二年四月五日を以つて生れ後ち前名金三郎を改めて襲名す。夙に日本銀行に入り後ち米國に航して專ら銀行業務の研究に從事すること六年、斯界の造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝するや父隱退の後を享けて川崎銀行頭取となり、且つ川崎貯蓄銀行を經營して孜々業務の擴張に從ひ以つて今日の大を致し、財界一方の雄として盛名高し、其の他川崎定徳合資會社代表社員、日華生命保險株式會社相談役たり。

夫人幸子は男爵鄕誠之助君の令妹たり現に東京市麻布區鳥居坂二番地に住し電話青山六二〇三番なり。

樺山愛輔君

伯爵　從三位

貴族院議員

當家は先代資紀君より顯はる、資紀君は舊鹿兒島藩士にして維新の際奥羽に轉戰して功あり、明治二年陸軍少佐に任じ同六年征臺の役に從ひ中佐に陞り同十年西南の役には熊本に籠城し、功を以つて勳三等に叙し同十四年陸軍少將となり、同十七年海軍少將に轉じ同年華族に列し子爵を授けられ、翌年陸軍中將に進み日清の役には海軍軍令部長として黄海に大捷し、出征中陸軍大將に昇り凱旋後伯爵に陞爵す。

君は其の長男にして慶應元年九月十日を以つて生れ、大正十一年二月襲爵仰せ付けらる。夙に英國に留學し滯留すること十餘年、薀蓄を積みて歸朝するや直ちに實業界に投ず。

曩に日英水力電氣株式會社々長及び蓬萊生命保險相互會社取締役等を歷任し、現に日本製鋼所社長、泰昌銀行頭取たる外千歳海上火災保險、千代田火災保險、三光紡績、函館船渠各株式會社の重役として我が國實業界に令名あり。

大正十四年七月貴族院議員に當選し以つて現在に及ぶ、趣味にゴルフ、撞球、謠曲、乘馬等あり、夫人を常子と呼び伯爵川村鐵太郎君の令妹にして華族女學校の出身たり。東京市麹町區永田町一ノ一八番地に現住し電話銀座六〇四七番なり

海江田幸吉君

子爵　從四位勳五等

侍從兼式部官

當家は先代信義君より家名を擧ぐ。信義君は舊鹿兒島藩士有村家の出にして、勤王の志士日下部伊三治君の養嗣子となり海江田姓を創む、維新の大業に參畫して殊功あり、後ち奈良縣知事、元老院議官等を歷任し、明治二十年歐米各國を巡遊して歸朝し、同年五月特旨を以つて華族に列し子爵を授けられ後ち貴族院議員樞密院顧問官に任ず。

君は其の三男にして、明治十三年七月を以つて生れ、同四十二年襲爵仰せ付けらる。明治四十一年京都帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに官界に投じ宮内省に出仕し以つて現在に及ぶ。

夫人きめ子は東京府士族成瀬隆藏君の長女にして君との間に一郎君及び惠美子華子、淳子等あり、現に東京市外下目黒五ノ六號に住し電話高輪二三五五番たり

門野重九郎君

實業家

君は三重縣士族門野幾之進君の令弟にして、慶應三年九月九日を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學工科大學土木

て令名あり。

然して現時は福井電力株式會社常務取締役として現井電力株式會社常務取締役として内外の社務を執掌し、同社今日の盛大を致す蓋し君の力與つて大なりと謂はざるべからず。夫人をみる子と稱し福井縣の人安野甚之助君の二女たり、現に福井縣吉田郡東藤島に住す。

加納友之介君

東海銀行頭取

君は茨城縣士族立川與君の令弟にして明治五年五月を以つて生れ同二十六年九月先代甚三郎君の養嗣子となる。明治二十九年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に投ず。

然して衆議院書記官兼農商務參事官に任ぜられ、後ち退官して實業界に走り、爾來、住友銀行東京支店支配人、同取締役兼本店支配人、同常務取締役等を歷任し、後ち東海銀行頭取に轉じ、以つて現在に及ぶ、曾つて大阪北港株式會社重役たりしことあり。

夫人をたま子と呼び養父甚三郎君の令姪にして君との間に百里君、武君あり、現に東京市芝區高輪南町四四番地に住し電話高輪六二九番たり。

×

金子喜代太君

淺野セメント株式會社常務取締役
淺野同族株式會社理事

君は高知縣の出身にして、明治十六年三月を以つて生る。大正四年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて斯界に異數の敏腕を振ひ、現に前記の外淺野物産、淺野超高級セメント地下工業、日本ヒューム、富士製鋼、淺野石材、日之出汽船、鶴見木工、神奈川コークス、信越木材、伏見製紙、東北淺野製材、淺野小倉製鋼所、關東水力電氣日本銑鐵、内外石油各株式會社の重役にして我が財界の重鎭として令名あり。

夫人千鶴子は故穗積博士の長女にして君との間に誠君、直君、正君及び愛子等

科を卒業し更に歐米に留學す。

斯くて造詣を深くして歸朝するや直ちに大倉組に入り、現に同社副頭取として同組の内外に重きをなすのみならず、日本化學工業、東亞興業、上信硫黃、日本加里工業、帝國鑄物、日本澱粉、日韓雲母、東京毛織、日本自動車、宇和水力電氣、郡川電氣各株式會社の重役として我が財界に令名高し。

夫人りよ子は男爵目賀田種太郎君の長女にして女子學習院を卒業し、君との間に正二君あり、東京市赤坂區新坂町三〇番地に現住し電話青山五四一〇番なり。

河合甚三郎君

福井電力株式會社常務取締役

君は福井縣の人河合甚三郎君の長男にして、明治六年五月を以つて生れ、後ち家督を相續すると共に前名徹を改稱す。夙に實業界に活躍して君の敏腕を振ひしかば着々として斯界に地歩を占め、今や押しも押されもせぬ當地財界の重鎭としあり、現に東京府下品川町北品川三八七番地に住し電話高輪一六八一番なり。

金谷範三君

正四位勳二等功四級
陸軍中將　參謀本部次長

君は大分縣の人金谷立基君の二男にして、明治六年四月を以つて生る。夙に軍籍に投じ明治二十七年陸軍步兵少尉に任官し、累進して陸軍中將に陞る。

其の間陸軍大學校兵學教官、墺國獨國各大使館附武官、參謀本部々員、陸軍砲工學校教官、步兵第五十七聯隊長、參謀本部課長兼陸軍々令部參謀、支那駐屯軍司令官、參謀本部第一部長、防務會議幹事、第十八師團長等を歷補し、大正十四年五月參謀本部次長に就任し陸軍大學校長を兼ねしが、昭和二年四月兼任を免じ以つて現在に及ぶ。曾つて軍事研究の目的を以つて獨逸に駐在し且つ支那に出張を命せられしことあり。

夫人をスミ子と稱し山口縣の人田邊輿

壯君の令妹にして君との間に誠一郎君、正雄君、經夫君及び貞子、清子、靜子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山二五六番たり。

加藤豐太郎君

資產家

當家は村内第一流の資產家にして、同時に村内に於ける加藤姓の總本家たり。代々御頭役を勤めし家柄にして、君は青年時代より數十年間當村の名譽職に選ばれ、村治の爲めに盡瘁するところ尠なからざりしかば郡長より其の功勞を賞する爲め銀盃一組を下賜せらる。

曾つて東京製粉株式會社相談役、高田銀行取締役等を勤め、且つ公共事業に力を致し、現に日本赤十字社特別社員たり現に東京府北豐島郡上練馬に住す。

加藤林三郎君

愛知縣多額納稅者

君は愛知縣の人加藤利三郎君の長男にして、明治五年二月を以つて生れ後ち前名金次郎を改稱す。夙に當地財界に雄飛し、現に斯界に重きをなし且つ縣下多額納稅者として知らる。

夫人つき子は三重縣の人中島忠平君の長女たり、現に名古屋市中區東田二ノ一〇〇番地に住し電話一四〇一番たり。

河野正義君

勳四等　衆議院議員
大日本國民中學會主事

君は茨城縣の人河野清次君の二男にして、明治十二年七月十二日を以つて生る幼より學を好み學才衆に秀で、神童とまで謳はれしが如何んせん、君の家庭の都合上中等學校に進む事能はず、爲に獨習に依りて其の課程を修得せんと決心し、八方適當の自習機關を求めども更になく茲に於て哉、奮然起つて教育機關の社會的缺陷を補わんとするには通信教授の一大機關設置の必要なるを痛感し、即ち明治三十三年上京し、大日本國民中學會の

まさ子は東京府士族濱田善次郎君の長女にして、東京府豐多摩郡中野町西町に住し電話中野一三番なり。

川村數郎君

丸三蠶糸株式會社常務取締役
朝鮮煙草株式會社取締役

君は東京府士族井部銑太郎君の長男にして、明治三年三月五日を以つて生れ、後ち先代應心君の養嗣子となる。先代應心君は舊幕臣にして雨谷と號し南宗畫家として知られし人なり。

君は夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ、日本鐵會社會計課、岩谷商會等を歴勤し、同三十七年煙草製造官營と共に專賣局事務官補に任じ、正七位に叙せられ、又日露戰役には功に依り勳六等に陞叙せらる。

其の後東京煙草株式會社に入り爾來、同社滿洲總販賣所長兼天津支店長、本店支配人、同社取締役等を歴任せしが、大正十年辭して獨力東京毛布株式會社を創立し、現に同社專務取締役たる外東洋葉煙草株式會社重役たり、曩に商況視察の爲め滿韓地方を歴遊せしこと數回なり。

川村桃吾君

正七位勳六等
東京毛布株式會社取締役

君は東京府士族井部銑太郎君の長男にして、明治三年三月五日を以つて生れ、後ち先代應心君の養嗣子となる。先代應心君は舊幕臣にして雨谷と號し南宗畫家として知られし人なり。

君は夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ、日本鐵會社會計課、岩谷商會等を歴勤し、同三十七年煙草製造官營と共に專賣局事務官補に任じ、正七位に叙せられ、又日露戰役には功に依り勳六等に陞叙せらる。

其の後東京煙草株式會社に入り爾來、同社滿洲總販賣所長兼天津支店長、本店支配人、同社取締役等を歴任せしが、大正十年辭して獨力東京毛布株式會社を創立し、現に同社專務取締役たる外東洋葉煙草株式會社重役たり、曩に商況視察の爲め滿韓地方を歴遊せしこと數回なり。

創立を企畫するに至れり。

斯くて東奔西走幾多の障害を踏破し、不撓不屈の精神と奮闘努力とに依り、遂に明治三十五年尾崎行雄氏を會長に戴き自ら主事として其の創設を見るに至る。

然して當初は僅かに五百名内外に過ぎざりし會員も年と共に激増し、今や、實に數十萬人の多きに達し、我が國斯界の覇者を以つて目さるゝに至りしは一に君の努力の賜にして、社會を稗益すること甚大なりといふべく、而して功に依り紺綬褒章を授與せらる。

曩に茨城縣郡部より推されて衆議院議員に當選する事前後二回に及び、大正十三年の總選擧には水戸市長山崎猛君と相對陣して鹿を野に追ふや、見事其の强敵を破つて大多數の得票を以つて當選し、現に衆議院議員にして茨城縣憲政會支部長として縣下政界の牛耳を握り、曩には日獨戰爭の功に依り勳四等に叙せらる。

社交廣く交詢社、永樂倶樂部等の各會員にして、趣味に園藝、讀書あり、夫人

夫人梅子は東京府の人岩谷松平君の二女にして東京女學館を卒業し君との間に眞吾君及び蓮子、珠子、淑子、匡子等あり、現に東京市牛込區東五軒町四三番地に住し電話牛込二二三八番なり。

勝正憲君

從四位勳三等
東京市助役

君は福岡縣士族勝平八郎君の長男にして、明治十二年五月二十一日を以つて生る。明治三十八年京都帝國大學法科大學を卒業するや職を官界に奉ず。

斯くて大藏省に出仕し、爾來、仙臺稅務監督局長、大藏書記官兼參事官、東京稅務監督局長等を歴任し、大正十二年海外駐在財務官に任ぜられ米國に在勤せしが、同十三年十月歸朝するや再び東京稅務監督局長に任ぜられ、大正十五年東京市助役に轉じ以つて現在に及ぶ。

夫人サダ子は福岡縣の人飛工守人君の三女にして君との間に正信君、正孝君、正智君及び登美子、文子等あり、現に東京府荏原郡大井町鹿島谷三一五八番地に住し電話高輪一〇三六番なり。

加藤勝太郎君

愛知セメント株式會社取締役
愛知縣多額納稅者

君は愛知縣の人加藤周三郎君の長男にして、明治十八年八月を以つて生る。夙に名古屋商業學校を卒業し、更に歐米諸國の先進國に遊び彼の地經濟界を具さに視察見學して歸朝す。

斯くて直ちに地方實業界に投じ、現に前記の外野上機械工業、東郊住宅、尾陽土地經營各株式會社の重役として令名あり。現に名古屋市中區南桑名町五ノ四番地に住し電話本局四三九〇番たり。

河井浩君

東京石灰株式會社長

當家は舊長門萩藩士毛利家の家臣なり君は先代惣太君の長男にして、明治六年八月七日を以つて生る。明治二十九年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて鈴木商店に入りしが後ち三井物産株式會社、品川毛織、大井分工場長等を經て東京製紙株式會社取締役、横濱電線株式會社取締役兼支配人及び同社常務取締役、宮島耐火煉瓦株式會社社々長等を歴勤し、大正十三年東京石灰株式會社を創立して其の社長に任じ以つて今日に及ぶ。

趣味に園藝、圍碁等あり、又植物の研究に熱心にして登山を好むといふ。現に東京府荏原郡入新井町新井宿一七五一番地に住し電話大森七〇五番たり。

川上常郎君

正四位勳三等
東洋土木株式會社長

君は愛知縣の人川上與吉君の三男にして、明治五年七月十日を以つて生る。夙に東京專門學校邦語法律科を卒業するや

直ちに大藏省に入り在勤中文官高等試驗に登第す。

爾來二十餘年間官界に遊泳し、朝鮮總督府平安北道長官を最後として實業界に投じ、東洋拓殖株式會社理事、京城商業會議所特別議員、東洋畜産興業株式會社監査役等を歴任し、現時は前記會社の社長たる外地方行政學會副社長、朝鮮電氣興業株式會社監査役として知らる。

夫人かめ子は愛媛縣の人森川喜四郎君の長女にして松山高等女學校を卒業し、君との間に伊都子、溫子等あり、現に東京市小石川區戸崎町六四番地に住し電話小石川二七七四番なり。

加藤兼次郎君

資産家
愛知縣多額納稅者

君は愛知縣の人加藤嘉明君の二男にして、明治四年四月を以つて生れ先代嘉兵衞君の養嗣子となる。縣下屈指の資産家にして且つ多額納稅者として知らる。

現に名古屋市中區古澤町五ノ二十一番地に住し電話南一〇三三番たり。

河合佐兵衞君

東郷ハガネ發賣元
河合商店社長

君は羽毛田金兵衞君の二男にして、明治四年九月を以つて生る。幼名を忠吉と呼び年甫めて十二才にして河合商店に入り、忠實精勵能く先代佐兵衞君に仕へたるを以つて其の信任頗る厚く遂に懇請せられて河合家の養嗣子となる。

明治三十四年先代佐兵衞君隱居するや君即ち家督を相續し佐兵衞を襲名す、而して日露戰役後東郷提督の偉勳を欽仰して其の名を籍りて東郷ハガネと稱し、精良なる鋼材を市場に搬出して聲名を博し、今や數千の特約店と千余の代理店を有し斯界の最大權威たり。

君資性實直にして溫厚、而も奮鬪努力の人にして先代佐兵衞君の時代には未だ資力乏しく營業思はしからざりしも、君の時代に至り業務に精勵せし結果は遂に今日の盛大を致せしも、不幸や、彼の大震災に遭遇し店舗又烏有に歸したり。然りと雖も忽ちにして舊に復し業務亦舊に倍するに至り、我が東郷ハガネの名と共に河合商店の名天下に普ねし。

尙ほ傍ら東京亞鉛、東京鐵道各株式會社の重役たり、夫人を菊子と稱す、現に東京市本郷區湯島町四ノ八番地に住し電話小石川四〇三二番なり。

加地利夫君

三井物産株式會社監査役
大正海上火災保險會社監査役

君は山形縣士族高橋元次君の四男にして、明治三年十月を以つて生れ後ち先代藤兵衞君の養嗣子となる。明治二十六年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ現に前記の諸職にあり。

夫人屋壽子との間に二男一女あり、東京市芝區白金三光町三七二番地に現住す

龜山忠之助君

正六位勳五等
東京市小石川區長

君は栃木縣の人龜山常太郎君の長男にして、明治九年一月六日を以つて同縣安蘇郡野上村に生る。夙に學に厚く鄉里の中學校を卒ふるや、明治三十二年裁判所書記登用試驗に登第せしかば直ちに職を官途に奉じ、裁判所書記見習として長野縣區裁判所詰を命ぜらる。

斯くて同裁判所書記補、栃木縣區裁判所書記等を經て明治三十六年九月東京府屬に任じ、知事官房勤務を命ぜられ其の間文官普通懲戒委員會書記、文官普通試驗委員、官報々告主任、小學校教員恩給審査員等を命ぜられ、更に内務部庶務課に轉勤し、明治四十一年五月北海道廳屬を拜命し、同土木部、長官々房等を歴勤せり。

然して、明治四十四年十一月栃木縣屬として内務部勤務を命ぜられ、大正元年十二月拔擢せられて同縣河内郡長に擧げられ更に同五年五月同縣下都賀郡長に轉じ、同七年五月高知縣屬より同縣土佐郡長に榮轉し、後ち岩手縣西磐井郡長、同膽澤郡長、青森縣北津輕郡長等を歴任し大正十四年八月東京市牛込區長に推され昭和二年三月東京市小石川區長に轉じ以つて現在に及ぶ。

君や學博大にして經驗に富み、其の行政的手腕に秀でたる事は世人周知の事に屬す、必ずや我が東京市政に盡瘁する又甚大ならん。夫人をモト子と稱し東京府の人山本次郎吉君の長女にして君との間に忠直君、忠孝君及び敏子等あり、現に東京市麻布區北日ヶ窪町四十四番地に住し電話青山七七八八番たり。

神足淺三郎君

明石實業銀行頭取
兵庫縣多額納稅者

君は兵庫縣の人神足長次郎君の二男にして、文久元年四月を以つて生る。現に明石實業銀行頭取たる外明石帆布株式會社取締役にして、且つ縣下多額納稅者として知らる。夫人ひさ子は兵庫縣の人伊藤傳四郎君の令妹たり。現に兵庫縣明石林崎に住す。

河田源三君

正七位　工學士
服部時計店取締役

君は埼玉縣の人河田鐵三郎君の二男にして、明治二十三年七月十四日を以つて生る。夙に第一高等學校を經て大正四年東京帝國大學工科大學機械科を卒業す。

然して職を官途に奉じ、遞信省管船局に勤務し、大正六年商船學校教授を兼ねたりしが、大正十年辭して服部時計店取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。

曩に大正六年の交商業視察の爲め支那及び馬尼剌を巡遊し造詣を深くして歸朝す。夫人貞子は東京府の人服部金太郎君の七女にして君との間に二男あり。現に東京市牛込區仲町三七番地に住し電話牛込三二四五番たり。

高杉晉君

大日本麥酒株式會社常務取締役

君は岡山縣の人高杉幸之助君の令弟にして、明治元年十月を以つて生る。夙に大志を抱いて東上し專心法制經濟學の研鑽を積み、後ち實業界に入り明治卅一年故後藤伯の知遇を得て品川馬車鐵道株式會社に入社して同社支配人に擧げられ、翌年大日本麥酒株式會社に入りて內外の社務を執掌し、同卅九年同社が朝日、札幌兩麥酒株式會社と合同するや、君拔擢せられて同社營業部長に就任し商務課長を兼任し累進して常務取締役に擧げられ現に其の要職にありて我が財界一方の重鎭として令名高し。

夫人たき子は靜岡縣士族小河作郎君の令妹にして君との間に長男茂君、二男榮君、三男實君及び長女須磨子、二女芳子三女登美子等あり、現に東京市麻布區本村町一一六番地に住し電話高輪五五二三番なり。

建部遯吾君

文學博士　從三位勳三等

衆議院議員

君は新潟縣の人建部貞夫君の五男にして、明治四年三月を以つて生る。當家は日本武尊の王子稻依別王より出でたる名門なりと傳へられ世々舊新發田藩領の大庄屋として百餘村を管轄せり。

君は鄕校に學ぶの外更に父に從ひて國學を修め、小學教育に從ふこと三年明治二十三年東京物理學校を經て、同二十九年東京帝國大學文科大學を卒業し、尋いで大學院に入りて研鑽琢磨、明治三十一年官命を帶びて渡歐し在留すること三年にして歸朝す。

後ち東京帝國大學文科大學教授に任ぜられ社會學講座を擔任し、同三十五年文學博士の學位を授けられ同四十二年再び歐米に遊ぶ、現に萬國社會學學士院正員政治學社會學士院會員、伊太利社會學士院名譽會員等に擧げられ尙ほ新潟縣郡部選出の衆議院議員たり。

夫人はつ子は新潟縣の人高原武之助君の三女にして君との間に一君、仁彥君、和義君、貞幹君及び文子、三重子、君子等あり、現に新潟縣中蒲原郡橫越村に住す。

田中清文君

勳四等　實業家

貴族院議員

君は富山縣の人有川甚造君の二男にして、明治五年十月を以つて生れ明治二十三年先代清三君の養子となる。明治三十六年中央大學を卒業するや直ちに身を實業界に投じ、現に中越鐵工所、飛州木材能登鐵道、加越鐵道各株式會社の重役にして尙ほ富山縣多額納稅者として直接國稅五千八百三十余圓を納め地方財界の重鎭たり。

夫人ミネ子は富山縣の人高堂三郎君の長女たり、富山縣東礪波福野に現住す。

高山壽太郎君

大澤銀行副頭取

君は兵庫縣の人和田甚之助君の長男にして、明治三年六月を以つて生れ、先代勘兵衞君の養嗣子となる。現に大澤銀行副頭取として知らる。

夫人をこと子と呼び其の間に熙君、一三君、醇一君、俊次君等あり、現に兵庫縣有馬郡大澤村に住す。

×

俵　孫一君

正四位勳二等

衆議院議員

君は島根縣の人俵祐信君の四男にして俵國一君の令兄同三九郎君の叔父君に當り明治二年五月を以つて生る。明治廿八年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや職を官界に奉じ統監府參與官、韓國學部次官に任ぜられ爾來朝鮮總督府臨時土地調査局副總裁、三重、宮城各縣知事北海道廳長官、拓殖事務局長等を歷補し大正十三年の總選擧に際し島根縣郡部より推されて衆議院議員に當選し憲政會内閣成るや鐵道省政務次官、内務政務次官等を歷任せり。

夫人まつ子は東京府士族三村彌平君の令姉にして君との間に精一君、祐君、隆次君、宏君、正道君、七郎君及び淑子、德子等あり、現に東京市赤坂區新坂町六番地に住し電話青山六四九〇番なり。

高島仲右衛門君

内外物産株式會社長

君は福井縣の人高島仲左衛門君の長男にして、明治六年三月を以つて生る。代々當地方に於ける豪農として知られ、且つ同縣多額納稅者たり。

現に前記會社々長たる外福井紡績、福井銑鐵各株式會社の取締役として地方財界に令名高し、夫人ヒサ子との間に三男二女ありて正君、外一君、龍雄君及び房野子、まさ子と呼ぶ、現に福井縣丹生郡立待村に住す。

田中文藏君

三井物産會社取締役兼文書課長兼人事課長

遼東汽船株式會社取締役

君は東京府の人田中熊吉君の長男にして、明治七年七月二日を以つて生る。明治二十四年中央大學法科を卒業するや直ちに實業界に投じ、明治二十八年三井物産株式會社に入社して君が才量を縱橫に發揮せしかば、早くも上長の認むるところとなり、同三十年秘書課長に擧げられ翌年更に庶務課長に轉じて事務を握掌するに至る。

然して明治三十八年同社調査課長に轉勤し、大正十年拔擢せられて同社取締役に任じ兼ねて文書課長兼人事課長の要職に就任し以つて現在に及ぶ。尚ほ傍ら遼東汽船株式會社取締役にして今や新進實業家として令名あり。

趣味多樣なる中にも讀書は君の生活の一面をなし、能く内外の書籍をあさるといふ、尚ほ社交に長じ現に中大實業同窓會、中大學友會々員にして且つ中大學員會評議員たり。

夫人良子は山口縣士族勝津莊太郎君の二女にして君との間に守文君、武文君及び富美子、惠美子、喜美子等あり、現に東京市外下澁谷羽根澤二百番地に住し電話青山二八三一番なり。

×

武内作平君

正四位勳四等

衆議院議員

君は愛媛縣士族武内清治君の長男にして、慶應三年十月を以つて生る。夙に關西學院、法政、日本、早稻田各大學に學び後ち辯護士を開業し、曩に大阪よ府り推されて衆議院議員に當選すること前後六回憲政會に屬し大阪支部長として同部憲政會の牛耳を握り、憲政會内閣の出現に依つて海軍政務次官、大藏政務次官等を歷任して知らる。

夫人よし子は大阪府の人中田儀兵衞君の二女にして君との間に長男新作君あり現に大阪府北區北濱町三ノ一二番地に住し電話本局四三〇番なり。

×

田内三吉君

從三位勳二等

澄宮御養育掛長

退役陸軍少將

君は舊高知藩士田内銘吾君の二男にして、安政二年二月を以つて生る。夙に陸軍に志し陸軍士官學校に學び、明治十二年工兵少尉に任じ後參謀本部に入り陸地測量部課員、海防局員となり、爾來臨時砲臺建築部事務官、工兵會議事務官、同審査官、同議員、砲工學校教官等を歷任し、曾つて官命を帶びて印度に航し又歐洲各國を視察す。

明治三十一年東宮武官となり累進して陸軍少將に陞り、同時に豫備役に編入せられ宮中顧問官兼東宮侍從仰せ付けられ後轉じて閑院宮附別當に任じ、同四年現職のまゝ澄宮崇仁親王殿下の御養育掛長に榮任し、現に澄宮御養育掛長たる外閑院宮附別當兼宮中顧問官、式部官等の重職にあり。

君資性恪謹にして出でては國家の干城となり入りては雲上の側近に奉仕す、以つて君が人格の高潔風格の典雅なるを知るに足るべし、讀書に趣味深く詩歌、謠曲にも極めて堪能なりといふ。

夫人艮子は舊高知藩士藤井守馬君の長女にして其の間に一男三女ありて五郎君及び多鶴子、久子、美代子と呼ぶ、現に東京市芝區伊皿子町に住す。

×

巽　孝之丞君

橫濱正金銀行取締役

君は和歌山縣士族吉川定之進君の長男にして、衆議院議員中村啓次郎君の令兄に當り、元治元年十二月二十九日を以つて生れ明治十七年十二月先代巽音吉君の養子となる。夙に慶應義塾に學び同校を卒業するや、直ちに身を實業界に投じ橫濱正金銀行に入り、同行倫敦支店支配人に就任し、大正七年四月同行取締役に擧げられ傍ら日佛銀行取締役たり。

夫人をシゲ子と呼び熊本縣の人辻父君の令姉にして君との間に龍樹君、希平君豊彦君及びまさ子、いさ子、ゆき子、ハナ子等あり、現に東京府北多摩郡府中村馬場先八八六四番地に住す。

田口忠藏君

中井銀行常務取締役

君は大分縣の人阿坂喩君の令弟にして元治元年十二月を以つて生れ、後ち岡山縣士族田口寛君の養嗣子となる。

夙に實業界に身を投じ、曩に日本通商銀行に入り累進して同行營業部長たりしが、後ち同行が中井銀行に合併せらるゝや、中井銀行に轉じて同行支配人に就任し能く同行發展に盡瘁せしかば、遂に推されて同行常務取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。

趣味多様にして就中謠曲に堪能なるが如し、夫人をよし子と呼び其の間に武雄君、健介君、成彦君、恭介君、敬介君及びあき子、きよ子等あり、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川一八五番たり。

田中國重君

正四位勲二等功三級
陸軍中將

君は鹿兒島縣士族田中國高君の長男にして、明治二年十二月を以つて生る。夙に陸軍大學校を卒業し同二十七年陸軍騎兵少尉に任じ、大正十一年陸軍中將に進せり。

其の間軍馬補充部本部々員、騎兵實施學校教官、騎兵第十六聯隊長、參謀本部々員、騎兵第十五旅團長、第十五師團長、近衛師團長等を歷任し、大正十五年七月臺灣軍司令官に補せられ現在に至る。

瀧澤民君

氏家銀行頭取

君は栃木縣の人瀧澤武七君の長男にして、明治十八年三月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に前記銀行の頭取たる外矢板銀行、下野造林、日光製紙各株式會社の取締役にして且つ八十一銀行、鹿沼銀行、下野綿布各株式會社監査役として地方財界の一勢力たり。

夫人をため子と呼び君との間に喜平治君及びつい子、多智子、たね子等あり、現に栃木縣鹽谷郡氏家町に住す。

龍江義信君

海外興業株式會社專務取締役
海南產業株式會社取締役

君は福井縣の人龍江惟信君の長男にして、明治七年三月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學人類科を卒業するや志を海外發展に抱き、直ちに濠洲に航しニウヂニヤにありて彼の地を視察研究すること八ケ年、歸朝するや間もなく日露兩國の戰亂勃發せしかば君從軍して滿洲の野に轉戰して戰功ありき。

然して後ち滿洲に渡り滯留四ケ年、此

の間本願寺關東別院主任たりしが、偶々東洋拓殖株式會社の設立を見るや君入りて同社朝鮮支社に赴任し、在勤九ケ年同社の爲め盡瘁すること甚大、而して大正六年海外興業株式會社の設立せらるゝに及び同社專務取締役に推擧せられ、現に其の職にある傍ら東印度起業、海南產業各株式會社の重役として令名あり。

夫人清子は東京府の人五十嵐千代治君の二女にして君との間に義知君、義明君等あり、現に東京府下馬込村三八二七番地に住し電話高輪三三六八番なり。

高山永三郎君

佐久商業銀行頭取
東亞黑鉛株式會社長

君は長野縣の人高山重三郎君の長男にして、慶應三年十月を以つて生る。北佐久郡會議長、縣會議員等に擧げられ且つ前記銀行の頭取たる外東亞黑鉛株式會社々長にして佐久鐵道、日本桃養、河東鐵道各株式會社の重役として知らる。

夫人よし子との間に三男三女ありて鄕三君、三郎君、裕君及びよし子、つぎ子、敏子等なり、現に長野縣北佐久郡小沼村に住す。

田中長太郎君

日新染布會社常務取締役

君は東京府の人田中重藏君の長男にして、明治二十二年二月を以つて東京府八王子市に生る。夙に染色業に志し東京府立染織學校を經て、東京高等工業學校染色科に學び、明治四十一年同校を卒業するや、直ちに日新染布合資會社に入りて同社技師に就任す。

偶々歐洲大戰勃發するや獨逸との國交斷絶し、爲めに獨逸を以つて規範とせし我國の染色業は愈々其の獨立發達を促がされ、茲に於て君の學識と多年の經驗とは遺憾なく發揮せられ遂いに同社をして今日の大を成すに至らしめたり。

然して大正六年六月從來の合資會社を變更して株式會社成るや擧げられて同社常務取締役の要職に就任し以つて今日に及べり。

夫人はる子は宮城縣の人菅原源太郎君の長女たり、現に東京市下谷區上野櫻木町四九番地に住し電話下谷三〇七一番なり。

竹内友治郎君

從四位勲三等　陸軍政務次官
衆議院議員

君は山梨縣の人竹内厚君の叔父君にして、明治五年十月を以つて生る。明治卅一年文官高等試驗に合格し、後ち遞信省通信事務官、一等郵便局長、樺太廳第二部長、同拓殖部長、東部遞信局長、東京遞信局長、朝鮮總督府通信局長、臺灣總督府警務局長等を歷任し、農商務次官たりしが大正十二年十二月官界を辭し、大正十三年五月衆議院議員に當選し以つて現在に及ぶ。

夫人きく子は山梨縣の人菊島生宣君の長女にして其の間に猛太郎君、乙彦君、

丙吉君、丁君及びとら子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷仲町四一番地に住し電話牛込四九〇三番なり。

×

竹友安治郎君

東海生命保險會社取締役支配人

君は兵庫縣の人饗庭榮次郎君の令兄にして慶應三年九月を以つて生れ、後ち先代由兵衞君の養嗣子となる。夙に實業界に投じ大阪百三十銀行安治川支店長、廣島瓦斯株式會社支配人等を經て、現に東海生命保險相互株式會社取締役兼支配人として知らる。

夫人棣代子は廣島縣の人園尾清平君の五女にして君との間に長男虎雄君あり、大學文科を經て米國コロンビヤ大學英文學科を卒業し、マスター、オブ、アーツの學位を得て歸朝するや、東京高等師範學校教授に任じ現に新進教育家として知らる。東京市外下澁谷一一六三番地に住し電話青山六六七五番二九五三番なり。

高島七郎右衞門君

越前瓦斯株式會社長
福井銀行取締役

君は福井縣の人高島七郎右衞門君の長男にして、明治二年十月を以つて生れ前名多作を改めて襲名す。夙に實業界に投じ現に前記の要職にある外越前電氣株式會社取締役にして且つ福井縣農工銀行、福井紡績各株式會社監査役たり。

夫人クワ子との間に勝也君あり、現に福井縣丹生郡立待村に住す。

竹内悌三郎君

安田銀行常務取締役

君は北海道の人深瀨嘉右衞門君の三男にして明治八年十月一日を以つて生れ、明治十七年四月先代幸輔君の養嗣子となる。夙に鄕校を卒ふるや直ちに實業界に入り、肥後銀行營業部長たりしが後ち轉じて安田銀行支配人、安田貯蓄銀行監査役等を歷勤し現に安田銀行常務取締役として聲名あり。

夫人をトシ子と呼び、秋田縣の人七條平六君の二女にして君との間に幸策君、悌三君、節郎君、重正君及び信子、サト子等あり、現に東京府下北豐島郡巢鴨上駒込傳中裏二八の一三號に住し電話小石川二五八一番なり。

×

田中六藏君

同文館株式會社長

君は東京府士族田中定輝君の四男にして、明治四年四月二十三日を以つて生る明治二十八年博文館に入り大正二年營業部長に昇進せしが、後ち合資會社博愛堂業務執行社員となり、同社が株式會社東京商會と改稱せらるゝに及び其の支配人に擧げられ藥品部長を兼任し、後ち之を辭して大正九年同文館を引受け同館代表取締役社長として今日に至る。

夫人マサ子との間に定道君、嘉道君、紳六君、忠德君、孝平君等あり、現に東京市淺草區瓦町二八番地に住し電話淺草四〇九九番なり。

田島庄太郎君

明治運送株式會社專務取締役

君は群馬縣の人田島達策君の長男にして、明治十八年九月二十二日を以つて生る。明治三十七年中央商業學校を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに實業界に投じ、大正五年明治運送株式會社營業部長として入社し、同八年取締役に同十三年專務取締役に榮進し現に其の職にある傍ら國際運送、三鱗石炭、三鱗運送、東京電力各株式會社の重役として知らる。

夫人セン子は群馬縣の人天田長三郎君の二女にして、高崎高等女學校を卒業し君との間に長男震君、二男濟君及び長女淑子、二女閑子、三女和子等あり、東京市牛込區市ヶ谷仲之町三八番地に現住し電話牛込二七三六番たり。

×

高見榮治君

國包銀行專務取締役

君は兵庫縣の人宮長義隆君の四男にして、明治五年三月を以つて生れ後ち先代佐兵衞君の養子となる。夙に實業界に志し現に國包銀行專務取締役たる外龍野電氣鐵道、五成社各株式會社の監査役として神戸實業界に知らる。

夫人せき子との間に榮君、與君及び泰子、すゞ子、隆子等あり、現に兵庫縣印南郡上莊村に住す。

田邊至君

畫家

東京美術學校教授

本邦畫壇の明星として且つ斯學界の新進として令名高き田邊至君は、神奈川縣士族田邊新之助君の二男にして京大教授文學博士田邊元君の令弟に當り、明治十九年十二月二十一日を以つて東京市神田區猿樂町に生る。夙に藝術的天才に富み東京府立第四中學校を經て東京美術學校に學び、明治四十二年優秀の成績を以つて同校を卒業するや、更に斯學研究の爲め外國に航し、英、佛、獨、伊、西各國を歷遊し造詣を深くして歸朝す。現に東京美術學校教授として新進の聞え高く、尙ほ帝國美術院展覽會委員にして、且つ學理を研鑽する傍ら槐樹社同人として其の神妙なる靈筆を振ひ帝展、文展等に出品して斯界に令名を謳はれ、前途益々多望なり。

夫人操子は靜岡縣士族田澤雄太郎君の長女にして、東京府立第二高等女學校を卒業し內助の聞え高く、夫君の藝術的天才を援けて余ありといふ、東京府下田端百番地に現住す。

高木重兵衞君

高木銀行頭取

君は京都府の人高木重兵衞君の長男にして明治五年十一月を以つて生る。現に高木銀行頭取たる外京都府農工銀行、福知山製糸各株式會社の監査役たり。

夫人をむめ子と呼び君との間に重一君尙二君及び千代子、きよ子、春野子等あり、現に京都府天田郡福知山町に住す。

大東安太郎君

勳七等功七級　大東組社長
大日本林業株式會社取締役

君は奈良縣の人大東喜次郎君の三男にして、明治十三年三月十五日を以つて奈良市南半田東町に生る。明治二十九年神戸中學校を優秀の成績を以つて卒業するや、建築界に雄飛せんと志し京都帝國大學工科大學建築科に入りて專心斯學の研鑽を積み、後ち一年志願兵として入隊したま〳〵日露の役勃發するや、從軍して野戰築城の大任を帶びて目醒ましき働きをなし、其の偉功に依り勳七等に敘し功七級金瑩勳章を賜はる。

然して日露兩國の和なり凱旋して無事歸國するや、再び初心を貫徹すべく土木建築界に雄飛し、獨力以つて大東組を開設し爾來東西に奔走して大小幾多の建築を完成し、其の熱誠と努力と敏腕とは相俟つて着々斯界に確固たる地歩を占め、今や帝都復興途上にありて君が奮起を喚發するの季に當り、益々自重自愛以つて將來の大成を期して可なりである。

尙ほ傍ら天滿紡績株式會社顧問技師たる外大日本林業株式會社取締役として知られ撞球謠曲等に趣味深く、又旅行を愛好するといふ。

夫人を靜子と呼び岡山高等女學校の卒業にして其の間に一男二女あり正一君及び美津子、奈美子と呼ぶ、現に本店を大阪市西區北堀江町に有し、支店を東京市日本橋區檜物町一番地に有し電話大手三三八〇番なり。

×

太宰文藏君

太宰銀行頭取

君は福島縣の人太宰文藏君の長男にして、明治九年七月を以つて生る。現に前記銀行の頭取たる外大東ビルブローカー銀行、第百七貯蓄銀行各取締役、日本保證信託社長、信達軌道、奥川水力電氣各株式會社取締役にして且つ岡山水力電氣監査役たり。

夫人照代子は同縣の人安藤茂兵衞君の二女にして其の間に二女あり、現に福島縣伊達郡保原町に住す。

×

田口鏡次郎君

日本美術學院主幹
中央美術社主幹

我が出版界に令名嘖々たる田口鏡次郎君は秋田縣仙北郡豊岡村の產にして、明治八年一月十八日を以つて生る。夙に東京外國語學校に學び同校佛語科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに細沼株式會社に入りて同社の改革經營の任に當り、一意專心其の發展に盡瘁せしかば遂に推されて同社取締役の要職に就き、愈々君が才量を發揚して同社の爲め貢献すること尠少ならざりき。

雖然固より大望ある君は幾許もなく之を辭し、獨力以つて日本美術學院及中央美術社の開設を企て、自ら其の主幹となりて之が經營の衝に當り、雜誌「中央美術」を初め「美術辭典」外幾多の著書を發行し、斯界に信望を博し其の前途愈々多望なるものあり。

夫人をアキノ子と呼び其の間に啓次郎君、省吾君等あり、現に東京府北豊島郡長崎村一八三二番地に住し電話小石川三八七九番なり。

×

田中良三君

勳八等　尙美堂本店主
東京圖案印刷株式會社取締役

君は東京府の人橋本沼作君の二男にして、明治七年一月十六日を以つて京都市下京區に生る。夙に美術出版界に志し、初めて東京辻本美術工藝社の前身たる辻本尙書堂京都本店に入り、後ち同大阪支店を經て東京支店に轉じ恪勤精勵實に十有三年、同店の爲め盡瘁すること甚大なりき。

偶々朋治三十年獨立の機運熟するや、東京市京橋區に尙美堂を開設し、大正八年現營業所に轉じ、宏壯なる洋風建築に改造し業運益々隆昌に向ひしも、不幸過般の大震火災に遭遇して烏有に歸せしも君の志氣却つて擧り直ちに復興建築を完成し、業勢月に年に加はり、今や東都業界の白眉を以つて目さるゝに至れり。

顧みるに其の創業當時は專ら繪書、額書、掛軸類の出版を營みしが、たま〳〵「世界十偉人」の額書を出版するや、其の圖題の清新と印刷の鮮麗とは忽ちにして社會の好評を博し、同店發展の基礎を造る上に於て最も記念すべき一大刊行物たるを失はざりきといふ。

然して私製繪葉書出版例の實施と共に之が出版を開始し、且つ遠く支那印度方面へ額書の輸出を試みて成功し、更に販路の大擴張を企圖し山水花鳥動物等の繪書を輸出して年商高七八十萬圓に達せしめ其の他美術人物風景、陸海軍向等多方面に渉つて出版發賣をなし以つて今日に及べり。

君や資性溫厚篤實にして加ふるに慈愛と仁俠に富み、其の品性の高潔なる世人の等しく畏敬するところ、其の勳等ある は日清、日露の兩役に從軍し殊に日露の役に旅順攻圍戰に參加して奮戰大いに努め、遂いに名譽の負傷をせし程の戰功を立てゝ賜はりたるものにして、以つて其の人と爲りを知るべきなり、現に東京市小石川區水道端町一ノ三六番地に住し電話小石川一二七七番たり。

×

田原吉二郎君

長崎製紙會社常務取締役

君は長崎縣の人田原忠吉君の長男にして、明治十六年九月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ、現に長崎製紙株式會社常務取締役たり。

夫人サヨ子は山口縣の人內村正君の令妹にして其の間に博君、三郎君及び房子好子等あり、現に長崎市浪平町に住す。

田中德次郎君

九州電燈鐵道會社取締役
九州產業鐵道會社取締役

君は愛知縣の人田中嘉七君の二男にして、明治九年五月を以つて生る。現に前

記の要職にある傍ら日本電氣裝飾及筑紫電氣軌道、諏訪炭礦、枝光鐵工所各株式會社取締役にして且つ遷化工業、唐津築港、九州化學工業、大正電球、福松商會九州電氣製鋼、大阪製粉、坂南家畜各株式會社監査役として知らる。

夫人たか子は同縣の人高橋彦次郎君の長女にして其の間に三男あり、現に福岡市地行西町に住す。

田口重一君

中央證券株式會社監査役

君は東京府の人中西仲五君の令兄にして明治五年八月二十三日を以つて生れ、後ち田口太七君の養子となる。夙に慶應義塾大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に東京株式取引所一般取引員たる外中央證券株式會社監査役にして、曩に津屋崎電燈、帝國瓦斯、帝國電燈各株式會社の監査役及び千代田電氣合資會社無限責任社員たりしことあり。

夫人トミ子は田口太七君の長女にして横濱高等女學校を卒業し君との間に太一郎君、眞二君、一雄君、義一君、五郎君及びシゲ子等あり、現に東京市赤坂區靈南坂町一五番地に住し電話青山一四五〇番なり。

×

瀧村竹男君

日本羊毛紡績株式會社長

君は東京府の人瀧村小太郎君の長男にして、慶應三年十二月を以つて生る。明治二十三年帝國大學工科大學を卒業し、間もなく紡績業視察の爲め歐米を漫遊すること三回に及び、曾つて大阪紡績株式會社工部長、帝國大學及び大阪高等工業學校の各講師囑託たりしことあり。

現時は前記會社の社長たる外羊毛紡績株式會社の取締役たり、夫人ゆき子は東京府の人石井重賢君の長女にして其の間に一男三女あり、大阪市北區中之島六ノ一一八番地に現住し電話土佐堀一四一五番なり。

高木謙君

畫家

新興日本畫壇に灼々たる名聲を博しつゝある君は號を溪畝と稱し、舊幕臣小山正路君の四男にして明治十年一月十四日を以つて生れ、後ち高木和平君の養嗣子となる。

夙に畫書を能くし早くも群童に秀でゝ俊才の稱あり、長ずるに及んで愈々其の天稟の才を發揮し、後ち本邦畫壇の巨星荒木寬畝畫伯の門に入りて專心研鑽を積みしかば、忽ちにして其の才幹群を拔き帝展、文展等に出品して社會の賞讃を博すること一再ならず、今や令名斯界に嘖々たるものあり。

君や年齒未だ春秋に富めり、其の前途又多事にして多望、宜しく自重自愛以つて將來の大成を期して可なりである、夫人けい子は愛知縣の人高木清次郎君の長女たり、現に東京市牛込區二十騎町二三番地に住し電話牛込二二二一番なり。

高木武君

實業家

前日本製粉會社專務取締役

君は東京府の人高木幸二郎君の二男にして、明治六年八月を以つて生る。夙に實業界に雄飛せんと志し、東奔西走大いに努めしかば君の信望と其の俊腕とは漸次斯界に認容せられ曩に日本製粉、東洋製粉各株式會社專務取締役として活躍し我が財界に貢獻すること甚大なり。

夫人鶴江子は兵庫縣の人佃仁兵衞君の二女にして君との間に道彥君、章君、民夫君及び貞子、宣子等あり、現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷裏新九〇二番地に住し電話四谷一〇五六番たり。

×

田崎愼治君

神戸高等商業學校敎授

君は長崎縣の人田崎周三郎君の令弟にして明治五年三月を以つて生る。明治三十四年東京高等商業學校專攻科を卒業し尙ほ英國バーミングハム大學を卒業せり後ち商業學研究の爲め英國及獨逸に留學す、曩に長崎高等商業學校の敎授たりし事あり。

夫人シゲ子は福岡縣の人室原重福君の長女にして其の間に愼一郎君、幸次君、三郎君、四郎君等あり、現に神戸市宮本通七ノ七番地に住す。

高橋隆一君

出雲電機株式會社長

君は島根縣の人高橋守衞君の長男にして、明治八年十月を以つて生る。明治三十七年以來三等郵便局長に任じ、島根地方森林會議員たること三回、同山林會、明治神宮奉贊會支部等の評議員、日本赤十字社支部商議員、今市稅務署營業稅審査員、同相續稅審査員に推さるゝこと二回、また島根縣產業調査會委員に擧げられしことあり。

現に島根縣農工銀行、簸川銀行、同米券倉庫、簸上鐵道、松江製紙、關西電氣化學、東亞蠶糸各株式會社取締役にして且つ島根縣信用組合聯合會監事たり。

夫人フユ子との間に長男寬恭君及び長女絹子、二女本子、三女朋子等あり、現に島根縣簸川郡稗原村に住す。

武井茂君

三樂商會主

國學院大學評議員

君は京都府士族武井祥二郎君の二男にして、明治九年一月十八日を以つて生る夙に學に厚く鄕校を卒ふるや靑雲の志を抱いて東上し、研鑽琢磨、明治二十九年國學院大學を卒業し翌年日本大學法制經濟科を卒へ、更に同三十五年法政大學專攻科を卒業し、其の造詣すること蓋し淺しとせず。

然して東京高等師範學校助敎授に任ぜられ、君が多年の蘊蓄を傾注して幾多學徒の勳陶に盡瘁し、後ち敎職を擲ちて鐵道院事務官に任じたりしも感ずるところありて、斷然官界を辭して實業界に走り獨力三樂商會を開設して以つて經營の衝

に當り、鐵道材料機械等の販賣に努め傍ら電氣工事を引き請け孜々として努めしかば遂に今日の大をなすに至る。

君や天資穎明に加ふるに性闊達社交に通じ、現に帝國鐵道協會、電氣協會各會員にして且つ母校國學院大學評議員を勤め尚ほ法政大學校友會幹事、機械金物商組合幹事たり。

夫人輝子は山形縣の人伊勢善太郎君の三女にして山形縣立高等女學校の卒業たり、東京市芝區愛宕下町四ノ八番地に住し電話高輪五三一八番五八二〇番なり。

高崎三重郎君

勳四等　茨城縣多額納稅者

君は茨城縣の人高崎新藏君の長男にして、明治十年九月を以つて生る。當家は當地方に於ける名望家として知られ、茨城縣多額納稅者にして且つ茨城縣農工銀行株式會社監査役たり。

夫人いさ子との間に敬章君、正之介君光久君、遲君、勉君及びトク子、みわ子富美子、貴代子等あり、現に茨城縣行方郡麻生町に住す。

田中一策君

大日本信託會社常務取締役

君は山形縣の人田中豐君の長男にして明治十五年十二月二十一日を以つて生る。明治四十年京都帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに身を實業界に投じ株式會社明治商業銀行に入りて芝支店長、神田支店長等を歷任し、大正七年大日本信託株式會社發起人として創立に參與し、同社の設立を見るや常務取締役に就任し以つて今日に至る。

夫人いよ子は山形縣の人尾原儀助君の長女にして山形高等女學校の卒業たり、現に東京府豐多摩郡戸塚源兵衞町七〇番地に住し電話牛込三四〇一番なり。

瀧川儀作君

東洋燐寸株式會社長

君は奈良縣の人梶尾磯松君の令弟にして、明治七年十二月を以つて生れ後ち兵庫縣の人瀧川辨三君の養子となる。夙に大阪高等商業學校を卒業し、曩に神戸商業會議所會頭、眞燧合資會社長、青島燐寸株式會社取締役、南洋護謨拓殖、中外貿易各株式會社の監査役たりしが、現時は東洋燐寸株式會社々長及び日本燐寸聯合會々長たり。

夫人をとよ子と云ひ養父辨三君の長女にして其の間に清一君、勝二君及び美津子、壽滿子、信子等あり、現に神戸市須磨町に住し、事務所は神戸市下山手通六ノ一七番地にして電話本局九五番なり。

竹内維彦君

工學博士

久原鑛業株式會社專務取締役

君は愛媛縣の人横田維翰君の二男にして、明治七年三月を以つて生れ、先代景房君の養嗣子となる。明治三十二年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや、直ちに實業界に身を投じ曩に藤田組に入り小坂鑛山技師兼精鑛部長となり、更に久原鑛業株式會社に入りて同社調査部長に就任し、曾つて歐米を視察せしことあり。

現に前記の要職にある外山陽鐵道、日本汽船各株式會社取締役にして且つ久原商事、合同肥料各株式會社の監査役として知らる。

夫人よし子は山口縣の人長屋正君の令妹にして君との間に常彥君、敏雄君及び章子、芳子、薫子等あり、現に東京市麹町區内幸町一ノ三番地に住し電話銀座八一六番なり。

田邊爲三郎君

日清汽船株式會社監査役

君は岡山縣の人田邊新三君の三男にして、明治元年十二月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外金町製瓦、日本煉瓦各株式會社の監査役にして曾つて代議士たりしことあり。

夫人チカ子との間に綾夫君、敏夫君及び祥子、幸子、紘子、稻子等あり、現に東京市四谷區須賀町二番地に住し電話四谷七四四番なり。

高田悦三君

實業家

君は東京府の人高田安太郎君の四男にして、明治十八年四月を以つて生る。夙に株式界に雄飛し金高商店と稱して有價證券賣買業を營み、東京株式取引所一般取引員として斯界に活躍する傍ら東洋撚糸工業株式會社監査役として知らる。

夫人たけ子は東京府の人相澤繁藏君の二女にして君との間に增太郎君、繁夫君等あり、現に店舗を東京市日本橋區坂本町一八番地に有し、東京市牛込區市ヶ谷富久町百番地に現住す。

武内常太郎君

實業家

前大日本麥酒株式會社常務取締役

君は愛媛縣の人武内嘉十郎君の長男にして、文久三年十一月十二日を以つて生る。夙に獨逸協會學校に學び同校を卒ふるや直ちに官界に職を奉じ内閣法制局に勤務せしが、明治三十年官を辭して實業界に投じ三井銀行に入り翌年大阪麥酒株式會社に聘せられて同社事務長として活躍すること多年、明治三十九年同社が大日本麥酒と合併せられしかば君選ばれて同社大阪支店長の要職に就任し、後ち同社監査役に擧げられ更に常務取締役に拔擢せられ、君が同社の發展に盡瘁すること蓋し甚大なりき。

然して大正十五年六月不幸病を得て職を辭し、現に閑靜なる澁谷の自邸にありて風月を友として、書畫、骨董、圍碁、謠曲等の趣味に耽り悠々自適たり。

夫人ぢう子との間に一男四女ありて莊一郎君及び政子、壽子、房子、寬子と呼ぶ、現に東京市外下澁谷四五〇番地に住し電話青山六三三七番たり。

高木馨君

明治火災保險會社取締役兼支配人

君は岐阜縣の人高木賢次郎君の三男にして、明治十四年七月を以つて生る。明治三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや直ちに實業界に走り、明治火災保險株式會社に入社して恪勤精勵すること多年、現に同社取締役兼支配人の要職にあり。

夫人千賀子は岐阜縣士族野村壽君の令妹たり、現に東京市本鄉區上富士前九二番地に現住し電話小石川五一四三番なり

瀧田清兵衞君

新榮銀行頭取

君は兵庫縣の人瀧田清兵衞君の長男にして明治十二年五月を以つて生る。現に新榮銀行頭取たる外豐岡銀行及び豐岡電氣株式會社、兩丹電氣株式會社の各取締役たり。

夫人加壽子は兵庫縣の人柴原甚十郎君の長女にして現に兵庫縣豐岡町に住し電話九番なり。

瀧脇宏光君

子爵　從五位勳六等

貴族院議員

當家は新田義重の裔親忠の三男成清の後なり、代々松平姓を名乘りしも明治四年瀧脇と改稱せしは最初瀧脇の城主たりしを以つてなり、それより十數世を經て先代信鑑君に至る。

君は樞密顧問官男爵工學博士古市公威君の四男にして、明治二十一年十二月十三日を以つて生れ、大正十二年襲爵仰せ付けらる。大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに鐵道院經理課に入り同七年十月鐵道院副參事鐵道院總裁秘書官に任じ、大正九年五月官制改正せらるゝに及び鐵道大臣秘書官に任命ぜられ、一時總理大臣秘書官を兼ねたりしが現時は貴族院議員たり。

夫人久子は東京府士族田口義三郎君の二女にして東京女學館を卒業す、現に東京市牛込區矢來町八番地に住し電話牛込五一一番なり。

×

竹内兼吉君

名古屋商業會議所議員

君は愛知縣の人貝谷兵三郎君の二男にして、明治元年七月を以つて生れ、先代理三郎君の養嗣子となる。曩に愛知縣會議員、名古屋市會議員たりし事ありしが現時は愛知農商銀行、名古屋木材各株式會社取締役及び愛知セメント株式會社監査役たり。

現に愛知縣名古屋市南區熱田白鳥町一番地に住し電話本局一四九八番なり。

田附源兵衞君

實業家

君は滋賀縣の人田附源兵衞君の長男にして、明治二十年十一月を以つて生れ前名鑑三を改稱す。

夙に綿布商を營み大いに家業に盡瘁して今日に及べり。大阪市東區備後町三ノ

三番地に現住し電話本局二五五五番なり

谷口守雄君

日本蓄電池會社取締役會長

日本耐酸窯業會社專務取締役

君は東京府士族谷口四郎兵衞君の長男にして、明治七年七月十六日を以つて生る。夙に早稻田大學の前身たる東京專門學校を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに身を實業界に投じ、君が才量を發揮して縱橫の敏腕を振ひ我が財界に貢獻すること尠少ならず。

現に前記諸會社の要職にある外ボルネオ殖產株式會社常務取締役にして且つ山陽水力電氣、旭電氣、東洋車輛、岩手採炭、東京瓦斯各株式會社の重役及び東洋電機製造株式會社囑託、帝國鐵道協會理事、帝國瓦斯協會常務理事等にして其の聲名嘖々たり。

夫人を安子と呼び東京府の人小長谷憲孝君の令妹たり、東京市四谷區永住町二番地に現住し電話四谷四六〇二番なり。

高木陸郎君

中日實業會社副總裁

東亞通商株式會社長

君は新潟縣士族高木眞木彥君の令弟にして、舊福井藩士高木惟矩君の四男として、明治十三年十月十九日を以つて生る。夙に東京商工中學校を卒業するや三井物產會社に入り、明治卅二年同社第一期支那留學生に選ばれて彼の地に渡り、たまゝ〳〵北淸事變に際會し陸軍通譯官として從軍し、事變了りて再び三井物產會社上海及漢口各支店を歷勤す。

明治四十三年漢陽鐵廠、大冶鐵鑛、萍鄉炭礦等の合併して漢冶萍煉鐵廠有限公司となるや日東商務代表者に擧げられ、大正二年同公司の日本代理店として東亞通商株式會社の設立を見るや推されて同社々長に就任し、且つ大正十一年十一月以來選ばれて日支合辨中日實業株式會社日本側代表たる副總裁に就任し、尙ほ南滿鑛業株式會社々長たる外中華電氣製作所、東洋炭礦、大正電氣各株式會社に關係し我が財界の重鎭として知らる。

夫人民子は京都府士族野一色松君の二女にして君との間に惟常君、惟次郎君、三郎君、四郎君及び淑子等あり、現に東京市芝區高輪南町二八番地に住し電話高輪八三二番なり。

×

武井常助君

製糸業兼糸繭商

山梨縣多額納稅者

君は山梨縣の人笹本政兵衞君の長男にして、明治二年八月を以つて生れ、後ち先代常助君の養子となり前名保兵衞を改稱す。曩に山梨瓦斯株式會社の取締役たりしが現時は漸進銀行の取締役たり。

夫人をひで子と呼び同縣の人伊藤彥七君の令妹にして其の間に四男四女あり、現に山梨縣甲府市穴山町に住す。

田附竹治郎君

旭陶器株式會社代表者

君は滋賀縣の人田附太郎兵衞君の令弟

にして、明治九年一月を以つて生れ、後ち田附敏次郎君の養嗣子となる。夙に實業界に投じ現に丸今綿布株式會社取締役及び前記會社の重役たり。

夫人ゆき子との間に左一君、領二君、收三君及び安子等あり、現に大阪市東區南大工町二ノ四〇番地に住す。

竹岡陽一君

東邦電力株式會社常務取締役
大宰府軌道株式會社專務取締役

君は大分縣の人竹岡吉太郎君の令弟にして、明治九年八月を以つて生る。明治三十五年早稻田大學の前身たる東京專門學校を卒業するや、直ちに九州電燈鐵道株式會社に入り、同四十二年福博電氣軌道株式會社に轉じて其の庶務課長、會計課長等を歷任す。

然して大正十一年七月同社が東邦電力株式會社に合併せらるゝや、同社常務取締役兼經理部長に擧げられ尙ほ傍ら大宰府軌道株式會社專務取締役にして、我が財界の重鎭たるを失はざるべし。

現に東京府豐多摩郡落合村下落合四二一番地に住し電話牛込五一三三番なり。

高橋德衛君

臺南製糖會社常務取締役
臺灣森林工業會社取締役

君は高橋秀右君の二男にして明治十二年十二月十二日を以つて生れ、後ち祖父高橋新右衛門君の養嗣子となる。明治三十一年慶應義塾を卒業するや直ちに中央新聞社に入り、漸次昇進して同社編輯長たりしが後ち轉じて日本新聞社の編輯長に就任せり。

然して後ち千代田瓦斯株式會社に入社し同四十二年同社長秘書役を經て同社營業部次長に進み、大正二年臺南製糖株式會社の設立を見るや、同社東京事務所主事、取締役等を歷任し同十二年常務取締役に擧げられ以つて現在に及ぶ。

君は尙ほ傍ら臺灣森林工業株式會社取締役として敏腕を振ひ、我が財界に令名あり、讀書及び旅行に趣味を有すといふ。

現に東京市赤坂區青山南町二ノ三六番地に住し電話青山五五九番なり。

田川武雄君

下里商店取締役

君は長崎縣士族田川寅三君の長男にして、明治十六年一月を以つて生る。現に株式會社下里商店取締役たり。

夫人ヒサ子は長崎縣の人櫻井宗民君の長女にして、君との間に武彥君及び三千子等あり、現に兵庫縣武庫郡西灘村に住す。

田中逸太郎君

池田工業株式會社專務取締役

君は廣島縣の人田中清之助君の長男にして、明治十年一月二十日を以つて生る夙に土木建築及び機械販賣業の有望なるに着眼し斯界の研鑽を積むこと多年、大正八年三月池田工業株式會社を設立して同社專務取締役に就任せり。

然して財界の明星池田永吉氏と共に同社の經營發展に努めしかば、社運月に年に隆昌に赴き社會の信望愈々厚く、今や帝都復興途上に活躍して令名斯界に高く前途益々多望を加ふる又君の力與つて大なりと謂ふべし。

夫人をはるへ子と呼び其の間に一男一女ありて清君、ヨシ子と呼ぶ、現に東京府荏原郡入新井新井宿一三二九番地に住す。

田中文七君

小池海事株式會社長

君は大阪府の人廣谷儀兵衞君の四男にして明治十六年八月を以つて生れ先代文七君の養嗣子となる。現に小池海事株式會社代表者會社長たる外田中文商店株式會社代表者糸崎造船、大阪鐵業各株式會社の取締役にして且つオゾーン化學工業、中西木材工業大阪刷子製造各株式會社の監査役たり。

現に大阪市西區北境川町一四四番地に

田宮嘉右衛門君

實業家

君は愛媛縣の人田宮伊平君の令弟にして明治八年八月を以つて生る。現に神戸製鋼所、播磨採礦、備後船渠、東城製鐵各株式會社の取締役及山陽製鐵、脇濱魚類定市場、日沙商會、攝陽信託各株式會社の監査役たり。

夫人かね子は兵庫縣の人井上タキ子の令妹にして其の間に六男二女あり、現に神戸市下山手通四ノ一四番地に住し電話三ノ宮二八五八番なり。

谷林德太郎君

正五位勳二等功五級
陸軍主計總監

君は東京府の人谷林榮藏君の長男にして、明治三年九月を以つて生る。明治三十年陸軍三等軍吏に任ぜられ、大正十五年三月陸軍主計總監に陞進す。

此の間陸軍東京經理部長、朝鮮軍司令部經理部長等を經て關東軍經理部長に補せられ以つて現在に至る。

夫人テル子は東京府士族水野信敬君の二女にして、君との間に正敏君、勝君、英男君、四郎君等あり。

田中德次郎君

東邦電力株式會社常務取締役

君は愛知縣の人田中嘉七君の二男にして、明治九年五月を以つて生る。夙に慶應義塾大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、九州電氣株式會社の大合同畫策に參與し、而して九州電燈鐵道株式會社の成立を見るや擧げられて同社常務取締役として敏腕を振ひぬ。

現に東邦電力株式會社常務取締役たる外白山水力、岐阜電力、九州鐵道、東邦蓄積、桃源殖產各株式會社の重役にして傍ら東京商業會議所議員たり。

夫人たか子は愛知縣の人高橋彥次郎君の長女にして君との間に長男精一君、二

男安喜二君、三男德三君、四男常司君あり、現に東京府荏原郡大井町一二四三番地に住し電話高輪二二四九番なり。

瀧鼻慶吾君

玉川水道會社常務取締役

我が財界の重鎮瀧鼻慶吾君は三重縣一志郡川合村の產にして、明治八年二月十二日を以つて生る。夙に身を實業界に投じ曾つて東京瓦斯電氣工業株式會社監査役となし俊腕を振ひ、同社の爲め盡瘁すること甚大なりき。

然して大正七年栗原幸藏氏等と相謀り資本金五百萬圓を以つて玉川水道株式會社を創立し、其の設立を見るや同社常務取締役に就任し、稀代の敏腕を振ひしかば同社の發展着々として日月を追ひ、今や帝都に於ける我が玉川水道株式會社の地歩と名聲とは世人周知の事にして、君が奮闘の與つて大なるものあり。

夫人をヒナ子と稱す、現に東京府豊多摩郡西大久保二二〇番地に住し電話四谷一〇九九番なり。

竹村利三郎君

大日本特許肥料會社監査役

君は長野縣の人竹村利兵衛君の長男にして、明治四年二月二十一日を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに第三十銀行に入り、累進して小樽支店長の要職に就任し、後ち同行が第一銀行と合併するに及んで本店監査役に擧げられ、更に大阪支店副支配人、四日市支店支配人、熊本支店支配人等を歷任し、現に外國爲替手形賣買金融業を營み傍ら前記會社の重役として知らる。

夫人クラ子は廣島縣士族金子ユウ子の令妹にして、大阪女子師範學校を卒業し君との間に禎夫君、猛君、規君等あり、東京毎日新聞社長、早稻田大學講師、極東石油、美術館各株式會社取締役を經て南進公司、日本タイプライター、東京貯藏食品、筑豊炭礦各株式會社取締役及び帝國通信社々長等を歷任せり。

大正四年以來衆議院議員に當選すること四回に及び、我が國政界に活躍して令名を馳せ、憲政會內閣成立するや遞信政務次官に任ぜらる。

夫人こま子は養父源七君の二女にして從五位勳五等東京音樂學校教授にして女流教育家として知らる、東京市淺草區東三筋町一三番地に現住し電話淺草四七七〇番なり。

×

田口百三君

實業家

君は岐阜縣の人勝野吉兵衛君の四男にして、明治元年七月を以つて生れ先代仙助君の養子となり前名百藏を改稱す。現に岡崎商業會議所副會頭、興東公司株式會社代表者、大平洋紡績株式會社取締役及び三龍社の代表者たり。

夫人千代子は長野縣の人熊ヶ谷平七郎君の三女にして其の間に四男一女あり、現に岡崎市上六名町に住す。

×

賴母木桂吉君

勳三等　衆議院議員

君は大阪府の人富田又一郎君の長男にして慶應三年十月を以つて生れ、先代源七君の養子となる。夙に高等中學校を卒業するや後ち報知新聞記者同營業部長、東京毎日新聞社長、早稻田大學講師、極東石油、美術館各株式會社取締役を經て南進公司、日本タイプライター、東京貯藏食品、筑豊炭礦各株式會社取締役及び

×

田口源七郎君

實業家

君は岐阜縣の人田口源衞門君の二男にして、明治十五年五月を以つて生る。現に飛彈產業銀行、飛彈電化工業各株式會社の監査役たり。

夫人よし子は岐阜縣の人田川留次郎君の長女にして其の間に源太郎君及び俊子光子、文子、綾子等あり、現に岐阜縣吉城國府村に住す。

高木道之助君

北山索道株式會社代表者

君は三重縣の人高木宗吉君の四男にして、明治四年九月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外尾鷲電氣、三國木材各株式會社取締役たり。

夫人まみ子との間に二男一女ありて克已君、勇君及び敦子と呼ぶ、現に三重縣牟婁郡尾鷲町に住す。

武田秀雄君

從四位勳三等功五級　在鄉海軍中將

三菱造船、製鐵各會社會長

君は高知縣士族武田左衞士君の長男にして、文久二年十一月を以つて生る。明治十六年海軍機關學校を卒業し、更に佛國に留學して歸朝するや海軍少機關士に任ぜられ、大正二年海軍中將に陞進す。

其の間海軍省艦政本部出仕、海軍煉炭製造所長兼朝鮮平壤鑛業所長、海軍省教育本部第三部長、海軍機關學校長等を歷補し、曩に佛國に駐在せしことあり、後ち官を辭し現に前記各株式會社取締役會長たる外三菱內燃機、日本光學工業各株式會社取締役たり。

現に東京市小石川區駕籠町二五四番地に住し電話小石川六九〇番なり。

武村貞一郎君

三井物產株式會社常務取締役

東洋綿花株式會社取締役

君は東京府の人武村繁一郎君の長男にして、明治六年五月四日を以つて生を。明治二十六年東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業するや直ちに大阪商業學校講師に聘せられ、後ち三井物產株式會社に入りて獨逸ハンブルグに出張し、歸朝するや神戸支店長、本社機械部長、大阪支店長等を歷任し、大正七年六月同社常務取締役に累進して現在に至る。

尙ほ大正十二年歐米に航し、彼の地の經濟狀況をつぶさに視察研究し、我が實業界に貢獻すること甚大なり。

夫人かつ子は兵庫縣士族水越成章君の

三女にして神戸高等女學校を卒業し君との間に誠一郎君、貞二郎君、繁三郎君、四郎君及び君子、富美子、さだ子等あり現に東京市麹町區隼町三番地に住し電話四谷四六二〇番なり。

田村榮一君

辯護士　法學士
日本活動寫眞株式會社庶務課長

君は青森縣の出身にして明治二十三年二月三日を以つて青森市に生る。夙に青森縣立中學校を卒ふるや、直ちに第二高等學校に入學し、同校を經て東京帝國大學に進み大正五年優秀の成績を以つて同法科大學獨法科を卒業す。

然して後ち實業界に投じ、藤田合名會社に入社して同社經營の諸會社に關係し同社の爲め盡瘁すること甚大、曾つて同じく藤田經營なる藤田農牧場理事たりしが、現時は同社の經營に係る日本活動寫眞株式會社庶務課長にして傍ら辯護士として東都法曹界に令名あり。

夫人きみ子は青森縣の人小山忠次郎君の長女にして、城崎高等女學校の卒業たり、現に東京市外上戸塚九四五番地に住し電話牛込四五二九番たり。

×

竹越與三郎君

從四位勳三等
貴族院議員

君は新潟縣の人清野仙三郎君の二男にして慶應元年十月を以つて生れ、明治十六年先代藤平君の養子となる。夙に同人社に入り後ち慶應義塾に轉じ時事新報、大阪公論、國民新聞記者及び雜誌世界之日本社の主筆たりしが明治三十一年文部省勅任參事官祕書官に任ぜられ、同三十五年鄉里新潟縣より衆議院議員に推され同三十二年歐洲を視察し、同三十九年佛國に渡航して栗野公使を援けて日佛協商の成立に盡力せり。

君が衆議院議員に當選すること前後五回、後ち宮內省に入りて臨時帝室編修局御用掛仰せ付けらる、現に上院議員にして臨時帝室編修官長たり、三叉と號し著書頗る多く、就中二千五百年史、南國記日本經濟史等其の著名なるものなり。

夫人竹代子は岡山縣士族中村與麿君の令姉にして君との間に虎之助君、熊三郎君、龍五郎君、鵠四郎君及び北見子等あり、現に東京府豐多摩郡野方村字粟島三三三番地に住す。

谷道耕太郎君

日本海運會社專務取締役

君は東京府の人谷道英橘君の長男にして、明治十一年十二月十七日を以つて生る。明治三十年慶應義塾高等科を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、回漕業を營み曩に日本海運株式會社常務取締役、合資會社谷道商店の出資社員たりしが、現時は日本海運株式會社專務取締役として令名あり。

夫人きぬ子は神奈川縣の人長島長也君の二女たり、現に東京市牛込區拂方町五番地に住し電話牛込一七九二番なり。

田村久八君

熊本縣多額納稅者

君は熊本縣の人田村仙次郎君の二男にして明治十年十一月を以つて生る。現に九州製茶、熊本軌道、御船鐵道各株式會社の取締役にして且つ九州製紙、綠川電力各株式會社監査役たり。

夫人を竹子と呼び其の間に四男二女あり、現に熊本市迎町に住す。

高木益太郎君

辯護士　勳四等
衆議院議員

君は東京府の人高木益喜君の長男にして、明治二年一月を以つて生る。明治廿年東京法學院を卒業後判檢事及辯護士試驗に合格し辯護士を開業せり。

東京市より推されて代議士たること前後五回、現に其の要職にある外橫濱倉庫尾西鐵道、遠州電氣鐵道、木曾川物產、益文社印刷製本所、東華生命保險、尾張屋銀行各株式會社の重役たり。

夫人こふ子は三重縣の人岡崎正也君の令妹にして一ツ橋高等女學校を卒業し其の間に菊太郎君、菊松君、正巳君、四郎君及び喜代子、ゑつ子、とく子等あり、現に東京市芝區三田功運町三一番地に住し電話高輪二四六四番なり。

田中元七君

千日前土地建物株式會社長

君は德島縣の人田中胡四郎君の令弟にして明治八年十月を以つて生る。現に大阪千日前土地建物株式會社代表者にして尙ほ城東土地株式會社の取締役たり。

夫人つる子は大阪府の人柳生重次郎君の三女たり、現に大阪市南區九郎右衞門町二三番地に住す。

高橋錬逸君

三菱商事會社常務取締役

君は長野縣士族小木曾卸治君の二男にして、明治八年五月三日を以つて長野縣に產し後ち高橋繁太郎君の養子となる。

明治二十七年東京高等商業學校を卒業するや直ちに三菱銀行に入り、次いで三菱倉庫株式會社に轉じて其の副支配人及び三菱製革章造紙廠長等を經て三菱商事株式會社常務取締役に就任せり。

現に東京市麹町區隼町六番地に住し電話四谷二二五九番なり。

高橋是福君

日本酸素株式會社專務取締役
大日本自轉車株式會社取締役

君は大藏大臣高橋是清君の二男にして子爵高橋是賢君の令弟に當り、明治十四年六月を以つて生る。夙に橫濱商業學校を卒業するや、米國に渡航して彼の地の實業界を視察見學して歸朝す。

然して三井物產株式會社に入社せしも大正七年之を辭して日本酸素株式會社を創立し、現に同社專務取締役として縱橫の敏腕を振ふ傍ら大日本自轉車株式會社取締役として我が財界に令名嘖々たり。

夫人たみ子は東京府の人守安瀧次郎君

の令姉にして君との間に祐一君、貞二君及び恭子、福子、元子、立子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷仲之町二二番地に住し電話牛込四五二八番なり。

×

高橋是賢君

子爵　正五位

日本醸業株式會社長

君は大藏大臣高橋是清君の長男にして同是福君の令兄に當り、明治十年三月十四日を以つて生れ、大正十四年四月嚴父の隱居に依り家督を相續し襲爵仰せ付けらる。夙に學習院高等科を卒業後白耳義大學に入り、同校を卒業するや白耳義國皇帝陛下の特旨を以つてオフヰシエーレオボール第二世勳章を授けらる。

然して歸朝後は實業界に投じ帝國紡織機械、東京織布、大森機械製作所各株式會社の重役たりしが現時は前記會社の社長たる外臺灣生藥株式會社々長にして、且つ鹽水港製糖、日本精工、大和醸造、富士屋ホテル、南昌洋行、櫻護謨各株式會社の重役として知らる。

夫人愛子は伯爵黒木爲禎君の二女にして學習院女學部を卒業し君との間に賢一君、豐二君、康三君及び照子、艶子、多惠子等あり、現に東京市麻布區笄町一〇九番地に住し電話青山六六八〇番なり。

田中新之助君

信陽銀行頭取

君は長野縣の人田中新藏君の長男にして明治八年一月を以つて生る。現に長野縣多額納稅者にして且つ信陽銀行の頭取たる外北信鐵道、信濃電氣、廣野炭礦各株式會社取締役たり。

夫人とよ子は同縣の人小林藤吉君の長女にして其の間に新一郎君、次郎君等あり、現に長野縣上高井郡須坂町に住す。

武澤兼三君

株式會社山叶商會取締役

君は東京府の人武澤金平君の長男にして、明治十五年十二月八日を以つて生る。夙に大手町商工中學校を卒業するや直ちに財界に投じ、明治三十九年福島商會に入り累進して現に同商會重役たる外前記會社の重役として我が株式界に名聲あり。尚ほ東京府多額納稅者にして直接國稅四千九百三十余圓を納むといふ。

夫人をなる子と呼び東京府の人小島龜吉君の長女にして君との間に一男ありて一夫君と呼ぶ、現に東京市牛込區仲町一三番地に住し電話牛込一四六九番なり。

田中清藏君

東洋運輸株式會社長

君は大阪府の人田中清七君の三男にして明治九年三月を以つて生る。現に東洋製藥貿易株式會社及び東洋運輸株式會社の各代表者にして尚ほ東洋化學工業、東洋倉庫各株式會社の取締役たり。

夫人ツルエ子は同府の人辻田庫之助君の令妹にして其の間に五男一女あり、現に大阪市東區道修町二ノ三四番地に住し電話土佐堀一一七一番なり。

田中新一郎君

實業家

君は京都府の人田中兵七君の二男にして明治十八年一月を以つて生る。夙に慶應義塾理財科を卒業せり、現に關西カーボン、京城工業各株式會社の取締役にして且つ京都電氣鐵道及び日東製鋼各株式會社の監査役たり。

夫人富惠子は岐阜縣の人大橋莊八君の四男にして其の間に新太郎君及び俊子、道子等あり、現に京都市上京區河原通廣小路上ルに住し電話上二八八五番なり。

×

立原任君

工學博士　從七位

君は秋田縣士族立原甚藏君の長男にして、明治六年十一月一日を以つて生る。夙に第一高等學校を經て同二十八年東京帝國大學理科大學を卒業し、同年より同三十年迄第二高等學校教授たりしが、後ち米國ゼネラル會社に入り電氣工學を研究し、獨瑞佛英各國を歷遊して電氣工業の狀態を視察研究して歸朝す。

然して明治三十九年神戸三菱造船所に入りて其の技師となり、大正五年同所副所長に擧げられ、大正六年日本電池株式會社取締役となり同十年歐洲戰後の電氣事業視察の爲め歐米を歷遊し、大正十一年二月電氣協會常務理事に擧げられ現に其の他三菱電氣、日本電池各株式會社の重役として知らる、東京府豐多摩郡中野九一七番地に現住し電話中野一七番なり。

×

高橋是清君

從三位勳一等

衆議院議員

君は舊仙臺藩士故高橋是忠君の長男にして、安政元年七月を以つて生る。慶應年間藩命を奉じて横濱に出で、英學を修め更に米國に留學せしも、維新の騒擾に際し學資の給與を絶たれ具さに辛苦を嘗めたるは世人の知る處なり。

歸朝後開成學校に入り後大學少教授に任じ尋いで文部省十等出仕に任じ、爾來大阪英語學校長、農商務省調査課長、東京農林學校長等を歷任し明治二十三年祕露銀山事件に全權委員として派遣せられ折衝能く努めて功あり、同二十五年日本銀行に入り建築事務主任となり、漸次昇進して同行副總裁、横濱正金銀行頭取等を經て日本銀行總裁に推さる。

大正二年山本内閣成るや入りて大藏大臣に親任し、原内閣の時再び藏相に任じ原首相の横死後總理大臣に任じ立憲政友會總裁に推さる、先是日露の役に財務官

田中源兵衞君

實業家

君は滋賀縣の人田中源助君の長男にして慶應三年四月を以つて生る。現に近江貯蓄銀行專務取締役たる外大津瓦斯株式會社監査役たり。

夫人とめ子は同縣の人清水善輔君の令姪に當り兩人の間に二男三女を有す、現に滋賀縣大津市裏形町に住す。

として歐米諸國に差遣せられ、平和克復後外債處分に功ありて男爵を授けられ大正九年日獨戰役の功により子爵に陞り、次いで貴族院議員に勅選せらる。

然して大正十三年の總選擧に方り家督を長男是賢君に讓り、分家して一平民となり盛岡市より立候補を宣して首尾よく當選し、加藤內閣に列して農商務大臣に任ぜられ次いで農林大臣に任じ商工大臣を兼ね、同十四年政友會總裁を田中男に讓り身は官を辭して野に下り、昭和二年四月田中政友會內閣成るや再び臺閣に列して其の大藏大臣に親任し、たま〳〵財界騷擾し我が銀行業の取付危機に直面して善處し、モラトリアムの發布に盡力して天晴男を擧げ得たり。

東京市赤坂區表町三ノ一〇番地に現住し電話青山八〇〇番なり。

×

田中芳雄君

工學博士　正五位勳四等

君は埼玉縣の人田中萬君の長男にして明治十四年三月を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學工科大學を卒業するや後ち米國に留學し、歸朝後東京帝國大學教授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人晴子は東京府士族宮本恒平君の令妹にして其の間に一男二女あり、現に東京市本鄉區西片町一〇番地に住し電話小石川四六六二番なり。

×

立花小一郎君

男爵　從二位勳一等功三級

豫備陸軍大將　貴族院議員

君は福岡縣士族立花碩君の長男にして文久元年二月十日を以つて生る。夙に身を軍籍に投じ明治十六年步兵少尉に任じ同二十年陸軍大學に入學し、明治二十二年十二月同校を卒業す。彼の日淸の役には第一軍參謀として戰功あり、功五級金鵄勳章を賜り、同廿八年塊國に留學し同卅二年歸朝し翌卅三年の北淸事件には福島少將に從ひて北淸聯合軍總指揮官司令部補佐となる。

明治卅七八年日露の役には第四軍參謀副長及び大本營附陸軍參謀となり、軍功に依り勳三等に叙し功三級金鵄勳章を賜ひ、同卅八年特命全權大使隨員として米國に差遣せられ續いで米國大使館附武官及び陸軍省副官等を歷任し、明治四十二年陸軍步兵第三十旅團長に、大正三年四月朝鮮駐劄憲兵隊司令官に補せられ朝鮮總督府警務總長を兼ね、大正三年八月陸軍中將に陞り第十九師團長に補し、同七年七月第四師團長に轉任し、大正九年陸軍大將に親任し關東司令官に任ぜらる。

次いで大正十一年浦鹽派遣軍司令官に補せられ、功に依り華族に列し男爵を賜ふ、後ち退いて閑地に在りしが大正十四年七月貴族院議員に勅選し曩きに推されて福岡市長となり現在に至る。

夫人かん子は前東京市長伊澤多喜男君の令妹たり、現に東京府豐多摩郡代々幡町代々木三〇八番地に住し電話四谷一五〇七番なり。

田中要太郎君

資產家

君は京都府の人田中安三郎君の長男にして、明治三年十一月を以つて生る。當家は京都府の資產家として令名あり。

夫人サキ子は京都府の人若山庄造君の長女にして君との間に要夫君、安二君、正巳君等あり、現に京都市下京區泉涌寺門前町に住す。

×

大道良太君

從四位勳三等

君は滋賀縣稀代の大地主大道誠二君の長男にして、明治十二年七月を以つて生る。明治卅六年京都帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業す。大學在學時代に早くも文官高等試驗に登第し、卒業するや直ちに官界に投じ、爾來內務大臣祕書官兼內務省參事官、遞信大臣祕書官兼同省參事官、帝國鐵道廳參事官、鐵道院參事兼總裁祕書官等を歷任す。

然して明治四十三年歐米各國へ差遣せられ又瑞西に於ける萬國鐵道會議に參列仰せ付けられ歸朝後鐵道院理事となり九州、神戶、東京各鐵道局長を歷任して後ち一時閑地にありしが、大正十三年九月東京市電氣局長に擧げられ現時は官を辭して野にあり。

夫人庄子は高知縣士族堀地彌太郎君の令妹たり、現に東京市牛込區原町一丁目五五番地に住し電話牛込二〇番なり。

丹澤善利君

神根織布株式會社長

日闌貿易株式會社專務取締役

君は東京府の人丹澤善利君の二男にして、明治二十四年二月を以つて生れ前名豐春を改めて襲名す。其の初め甲州郡內町に於て生盛藥館と稱して藥種商を開き現に前記の要職にある外生盛藥劑株式會社々長及び華南貿易株式會社專務取締役東京羅紗株式會社常務取締役を始めとして松竹キネマ、日盛洋行、石井造船所各株式會社監査役にして且つ東京砂糖貿易南洋貿易信用、日佛製糖、聯合馬來ゴム各株式會社締締役たり。

現に東京市麴町區一番町七番地に住す

田村憲造君

醫學博士　從七位

東京帝國大學教授

君は明治二十二年二月十八日を以つて愛知縣二川町に生る。夙に鄉校を卒ふるや直ちに上京し獨逸協會學校、第一高等學校等を經て大正三年東京帝國大學醫科大學を卒業す。

然して更に大學院に入り青山胤道博士指導の下に專ら內科學の研鑽を積み、更に大正四年より林春雄博士に就いて藥物學の研究に從事し、大正八年歐米に留學を命せられ、大いに學理の研究を積み同十年歸朝し、醫學博士の學位を授けられ同年東京帝國大學醫科大學助敎授に任じ藥物學第一講座分擔を命ぜられ、大正十三年同敎授に昇任し今日に至る。

君は常に客觀的なる自然科學の研究に

沒頭せる所爲か、反對に主觀的な藝術的方面に趣味廣く、常に斯界に關する讀書に樂しむといふ、現に東京市外大森伊勢ヶ原に住す。

×

武智直道君

臺灣製糖會社常務取締役
南國產業會社常務取締役

君は千葉縣の人林正道君の三男にして明治三年四月を以つて生れ後ち武智家の養嗣子となる。夙に慶應義塾を卒業するや更に布哇ホノルルレオアフ大學に學び曾つて東京駐劄布哇公使館書記官及び横濱駐在布哇領事館事務の囑託となり領事の職務に從事し、且つ臺灣製糖株式會社及び巴里石油株式會社の重役たりしことあり。

現に前記の要職にある外東京信託株式會社取締役にして尚ほ小田原紡織、日本徴兵保險各株式會社の監査役、北海道水產株式會社相談役たり。

夫人きく子は東京府の人西村貞七君の長女にして華族女學校を卒業し、君との間に勝君及び長女百合子等あり、現に東京市麻布區市兵衛町二ノ一三番地に住し電話青山六四一一番なり。

×

田中長次郎君

實業家

君は福井縣の人田中長次郎君の長男にして、明治四年四月を以つて生れ前名政治郎を改稱す。現に二十五銀行及び小濱銀行、若狹電燈、雲濱蠶糸、若狹化學工業各株式會社の取締役たり。

夫人マツ子は同縣の人岡崎久治君の四女たり、現に福井縣遠敷郡小濱町に住し電話六二番なり

×

田村忠太郎君

松延株式會社長

君は福岡縣の人渡邊勇吉君の二男にして明治十三年一月を以つて生れ後ち田中家の入夫となる。現に九州製肥株式會社の取締役たる外松延株式會社の代表者にして且つ肥料商をも營めり。

夫人ノブ子は同縣の人田中常吉君の長女にして其の間に保次君、光次君、已好君及びマサ子、ヒサエ子等あり、現に福岡縣八女郡福島町に住し電話六二番なり

×

田中次郎君

正四位勳三等
日本石油會社專務取締役

君は舊肥前小城藩士副島萬九郎君の二男にして、明治六年十月を以つて生れ先代義達君の養子となる。明治三十一年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや直ちに文官高等試驗に合格し、後ち官界に入りて通信事務官、東京郵便局監理課長兼外國課長、京城郵便局長、遞信局長等を歷任し同三十年伊國羅馬府に開催の萬國會議及獨逸伯林に於ける無線電信第一回萬國會議に參列す。

然して曾つて南北支那及び中清地方を視察し、且つ上海海底線架設問題を解決して功ありしのみならず、我が國電信取扱の基を開き日獨開戰の際には通信計畫の樞機に與る等幾多の勳功ありしが後ち實業界に投じ、以つて現在に及ぶ。

夫人サダヨ子との間に義次君及び已代子等あり、現に東京市外大崎町上大崎長者丸二七〇番地に住し電話高輪六〇〇番なり。

×

田中義一君

男爵　正三位勳一等功三級
豫備陸軍大將　內閣總理大臣

君は山口縣士族田中信友君の三男にして、文久二年六月二十二日を以つて生る夙に陸軍教導團、陸軍士官學校、陸軍大學校等を卒業し、大正十年陸軍大將に陞進す。

其の間第一師團副官、同參謀、大本營陸軍參謀、滿洲軍參謀、陸軍省軍務局軍事課長、同軍務局長、第二旅團長、參謀次長、陸軍大臣等を歷任し、大正十四年依願豫備役となる。

曩に日淸の役後戰功により功五級金鵄勳章を賜ひ、日露戰役後勳三等に叙せられ、陸軍大臣たること二回、尙ほ軍需評議會々長、軍事參議官、帝國在鄉軍人會副會長、帝都復興審議會委員たりしが退役後は立憲政友會總裁に推され、昭和二年若槻內閣總理大臣に親任せらる。

夫人をステ子と稱す、現に東京市赤坂區青山北町四ノ六五番地に住し電話青山六七五番たり。

多木粂次郎君

勳四等　衆議院議員
山陽農具株式會社長
多木製肥所取締役

君は又深く心を社會公共の爲めに碎き曾つて兵庫縣會議員、兵庫縣參事會員、同名譽參事會員等の要職を歷任し、且つ日本人造肥料聯合會幹事、肥料研究會員帝國產林會評議員等の公職にありしが現時は兵庫縣選出衆議院議員として、議政府に列し、國政に參與して功績尠少ならざるべし。

君又地方啓蒙開發、敎育振興に盡瘁すること甚大、曩に九州、四國、中國各地產業振興の一助として莫大なる寄附をなし、尙ほ兵庫縣農會及び全國農會に對しても進んで寄附を申込み、其の今日までに投じたる金額實に二百數十萬圓の多額に達する程にて、以つて君の人と爲りを知るべく、斯くて君の國家に貢獻するの功勞顯著なるの故を以つて勳四等を賜はり肥料取締役たる外山陽農具株式會社々長にして、且つ播陽銀行、別府輕便鐵道、太平洋海上保險、阪神住宅土地各株式會社の重役として我が國實業界の巨星を以つて目さる。

る、然して現時は朝鮮全羅北道に廣大なる土地を所有し、田畑六百町歩、山林一萬五千町歩に達し、今や盛んに開墾及び農事に精勵し年齒老境にありと雖も其の意氣を壯、又偉なる哉

×

竹村弟二君

實業家

君は東京府の人竹村慶也君の二男にして、明治十一年七月を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學工科大學機械科を卒業するや、直ちに野戰鐵道經理部に勤務し、後ち實業界に入りて活躍大いに努め、君の敏腕を縱橫に振つて斯界に名聲を馳せ、曩に日本製粉株式會社常務取締役たりしことあり、又曾つて米國に航し彼の地經濟界を視察見學して歸朝す。

夫人ちせ子は群馬縣士族南條新六君の五女にして東京女子高等師範學校附屬高等女學校を卒業し君との間に裕君、民三君及び登代子、晴枝子等あり、現に東京市小石川區林町六八番地に住し電話小石川二七六七番たり。

武田常三郎君

播州物産株式會社長
伊藤鐵工所監査役

君は兵庫縣の人武田政七君の長男にして、明治十三年七月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に播州物産、東洋工業原料各株式會社取締役にして且つ大阪製紙原料、伊藤鐵工所各株式會社監査役として關西實業界に令名あり。

夫人くに子は同縣の人大西榮次郎君の長女にして其の間に晴夫君、雅雄君及び榮子、文子等あり、現に兵庫縣加古郡加古川町に住す。

×

田村瑞穗君

正五位勳四等
東京市本所區長

君は高知縣の出身にして、明治二十一年二月二十一日を以つて同縣高岡郡尾川村に生る。夙に醫學に志し明治三十一年六月醫術開業試驗に登第す。

斯くて、傳染病研究所助手、血清藥院技手等を歷任し、明治三十五年香港に於けるペスト狀況視察を囑託して彼の地に渡り、後ち香港ペスト豫病技術員に備聘せらる。

然して、明治三十五年十一月德島縣警察醫に任じ、翌年同縣技師を拜命して警察部衛生課長たりしが、同三十八年四月大分縣技師に轉じ、同四十年群馬縣技師に任じ、更に大正四年傳染病研究所技師たりしが、大正十年十二月東京市役所に入りて同衛生施設調査嘱託より同技師に進み、而して衛生課長、掃除監督長、保健局衛生課調査掛長等を歷勤す。

斯くて、大正十五年十二月遂に抜擢せられて東京市本所區長に擧げられ、昭和二年一月東京市方面參事員を兼任し以つて現在に及ぶ。現に東京市外駒澤町上馬込七三六番地に住し電話世田ヶ谷二六一番たり。

帝都復興之現勢

土木建築請負業

槍田鐵太郎
東京市芝區二本榎西町三番地
電話高輪一九一一番

宮川新平
東京市芝區濱松町二ノ一七番地

山口組

東京市下谷區北稻荷町四十六番地

東京乘合自動車株式會社

取締役社長　渡邊六郎
專務取締役　堀內良平
常務取締役　安東倜二郎
常務取締役　杉本直寛

土木建築電氣請負業

岳南組

本店　東京府下東大久保九番地　電話四谷一〇四二番
出張所　東京府荏原郡矢口村小林二六〇　電話蒲田二三二番
全　山形市縣廳東門前　電話山形四一三番
全　新潟縣中魚沼郡下舟渡村
全　靜岡縣駿東郡沼津市市道通下八三五
靜岡縣駿東郡御殿場町新橋二〇三二

橫山大觀君

日本畫家
日本美術院長

君は本名を橫山秀麿と云ひ東京府の人酒井捨彥君の長男にして明治元年八月を以つて生れ、先代クラ子の養子となりて其の家督を相續す。夙に東京中學校英語科を經て同二十六年東京美術學校日本畫科を卒業し後橋本雅邦師に就きて研鑽するところありしが後伊勢神圖の委囑を受けて京都及奈良に於ける社寺寶物の寫生に從事する事二ケ年、此の間古代名匠の苦心に成れる幾多の妙蹟に接し各時代各方面に亘りて其の秘奥を研究自得し大いに造詣する所ありき。

明治二十九年京都美術學校教授に任ぜられ大いに後輩の指導に力め其の傍ら益々其の研究を積み同三十年東京美術學校の聘に應じて上京し同校教授となりしが在職一ケ年にして是を辭し、岡倉覺三君下村觀山君等と相謀りて日本美術院を創設し君は遠く都塵を忌避して常陸五の浦に住居を持ち、專心鋭意日本畫の研究に沒頭す。君の畫は眞に筆致遒頽一點一線悉く生氣を帶びざるはなく、淡彩粗扶なるもよく其の妙趣を表はし神韻渺茫の感を深からしめずんば置かざるなり。

現時日本美術院を經營し同院同人にして曩に印度に航して東洋美術の起原眞髓を探究し又歐米各國を巡遊視察して彼我美術の比較研究をなし支那に渡航しては同國名匠の妙蹟を尋ねて益々其の畫嚢を豐富ならしめ實に本邦日本畫壇の重鎭として斯界に謳はるゝに至る。

夫人靜子は京都府の人關谷善一郎君の令妹なり、現に東京市下谷區茅町二ノ十九番地に住し電話淺草六三六五番なり。

×

吉岡鄕甫君

從四位勳三等
浦和高等學校長

君は山口縣の人吉岡武一君の長男にして明治九年一月を以つて生れ同四十四年家督を相續す。明治三十二年東京帝國大學文科大學國文科を卒業して爾來教育界に盡瘁し其の間第二高等學校教授、文部省圖書審査官、同視學官兼東京音樂學校教授、第四高等學校長等を經て現時浦和高等學校長たり。

夫人サヱ子は山口縣士族大隈行一君の令妹にして君との間に長女さと子あり。現に埼玉縣北足立浦和に住す。

×

米井信夫君

株式會社米井商店社長
明治護謨製造所社長

君は東京府の人米井源治郎君の長男にして明治二十八年八月を以つて生る。先代源治郎君は岡山縣苫田郡高倉村の豪農米井芳太郎君の令弟にして、夙に慶應義塾を卒業して實業界に身を投じ初め明治屋の手代となり後獨立して米井商店を經營し更に明治四十四年明治屋を株式組織